SDGs 活動報告書

2024 年度

－ 目 次－

- 全体計画 001
- 教務部門 076
- 研究推進部門 078
- 社会貢献部門 276
- 広報部門 377
- 環境部門 420
- 国際共生社会研究センター（重点研究）部門 422
- D&I 推進部門 425

東洋大学 SDGs 推進センター

活動計画タイトル（キーワード）

SDGs 推進プロジェクトの展開と SDGs 活動の学校法人全体への展開

① 活動計画の概要

2021 年度に制定した SDGs 行動憲章、2022 年度に発足した SDGs 推進センターの下で開始された各取り組みを継続するとともに、教学中期計画に基づき さらなる 活性化・高度化を図ることを目指し、以下の計画を実施する。

【中期計画に基づく計画】

計画① 学内の SDGs 活動の充実に向けた環境整備

計画② SDGs の目標を軸とした、教育・研究活動に資する先生方の異分野マッチング

計画③ SDGs 留学生アンバサダーの支援

【センターが自立的に実施する計画】

計画④ ２つの推進プロジェクトの活動支援

計画⑤ SDGs アンバサダーの育成と活性化

計画⑥ 参加型イベント Toyo SDGs Weeks の充実

計画⑦ THE Impact Ranking へのエントリーとスコア向上（継続）

② 数値的な目標の達成状況と得られた成果

計画① 学内の SDGs 活動の充実に向けた環境整備

・東洋大学 SDGs 推進センターシンポジウム

2024 年 10 月 19 日（土）に、東洋大学 SDGs 推進センターシンポジウム「スポーツと SDGs－ パリ大会の事例から今わたしたちにできること」を開催した。シンポジウムでは、本学学長・SDGs 推進センター長による挨拶に続き、本学オリンピックアスリート（総合情報学研究科・鏡 優翔氏）による特別講演や、パラ水泳日本代表で福祉社会デザイン学部社会福祉学科 2 年の田中映伍氏の活動報告、健康スポーツ科学部の取り組み紹介、さらに SDGs アンバサダーによるパラスポーツ体験会の報告が行われ、スポーツを通じて持続可能な社会づくりに貢献するための具体的な事例や課題が共有された。

活動報告後のパネルディスカッションには、これまでに登壇したアスリート・教員・学生だけでなく、株式会社進研アドの柴田聡子氏も加わり、サステイナブルな大会運営を目指すパリ大会の事例を踏まえながら、スポーツと SDGs のさらなる可能性について議論を深めた。また、質疑応答を通じて、参加者から寄せられた質問や意見も取り上げられ、本学全体でスポーツと SDGs を結びつける機運が一層高まる機会となった。なお、シンポジウム開催を周知した Web ページのアクセス状況と映像の再生状況は以下の通りである。

1.Web ページへのアクセス状況<アクセス解析結果>

10/19~12/6　PV 数 1,978 件（昨年 1,008 件）、10/22 当日（内数）　PV 数 982 件（昨年 398 件）

2.映像の再生状況＜You tube 視聴回数＞

10/19~12/6　視聴回数 426 回（昨年 242 回）、10/19 当日（内数）　視聴回数 398 回（昨年 98 回）

3.視聴者アンケート数

10/19 当日　75 件（昨年 7 件）

・関彰商事株式会社と SDGs 達成に向けた連携協力に関する協定を締結

2024 年 7 月 12 日、関彰商事株式会社（茨城県筑西市・つくば市／代表取締役社長・関正樹）と SDGs 達成に向けた連携協力に関する協定を締結した。これは、ゴールボール日本代表として活躍し同社に所属する東洋大学卒業生の山口凌河氏を介して両者が協力関係を深めてきた経緯に基づくもので、今後は学生へのインターンシップ受け入れをはじめとする D&I（ダイバーシティ＆インクルージョン）関連活動や、本学が持つ研究・専門知見の企業活動への活用など、多方面での相乗効果が期待される。今後は連携を強化しながら、地域社会における持続可能な発展や学生の実践的な学びの場の創出をめざす取り組みを一層進めていく。

・埼玉 ALLY 大学ネットワークへの加入

性の多様性を尊重し、全ての学生・教職員が安心して学び・働ける環境づくりを推進するため、2024 年 10 月 31 日に発足した「埼玉 ALLY 大学ネットワーク」に加入。本ネットワークは、埼玉県内にキャンパスを有する大学および短期大学が連携し、性的マイノリティ（LGBT 等）を理解・支援する“ALLY（アライ）”の意識を広げることを目的としており、本学を含む 12 大学が参加している。多様性を尊重する風土をさらに深化させるため、このネットワークを通じた他大学との情報共有や協力関係の構築を重視し、今後は、県内の大学・短期大学の取り組みや課題の調査、埼玉県との連携強化など、さまざまな形でネットワーク全体の活動に貢献する予定である。

計画② SDGs の目標を軸とした、教育・研究活動に資する先生方の異分野マッチング

当初は、情報集約フォームや取材活動、シラバス、研究計画等を通じて収集した SDGs 関連情報を活用し、教育・研究活動における異分野コラボレーションのマッチング支援制度を試験運用する予定だった。しかしながら、本学の重点研究推進プログラムにおいて、文理融合型の学際的プロジェクトチームによる研究が活発に行われていることを受け、より効果的な連携体制を構築するため、計画を再検討中である。現在、SDGs 推進センター内の研究部門（いのち総合研究機構）において、重点研究への取り組みをさらに強化し、幅広い領域との協働を促す仕組みづくりを精力的に進めている。

計画③ SDGs 留学生アンバサダーの支援

SDGs 留学生アンバサダーの計画実現に向けた情報提供を行うとともに、国際教育・国際貢献部門（国際教育センター）の連携による活動の場、社会貢献部門（エクステンション課）と連携した日本人アンバサダーとの交流・協働の機会を創出している。2024 年度は、4 月 3 日に 2 名、9 月 18 日に 3 名の留学生アンバサダー認定式を行い、アンバサダーの紹介等、出席者同士が自由に意見交換を行うセッションが設けられた。短時間ながら、参加者間で多文化的な視点や SDGs 実践における課題・アイデアが活発に共有され、学生間の連携や学内の協力体制の強化につながる有意義な場となった。

計画④ 2 つの推進プロジェクトの活動支援

・ダイバーシティ＆インクルージョン推進プロジェクト

Toyo-MeW プロジェクト（生理用品の無償提供用のディスペンサーの開発・設置）の実証実験を経て、2024 年度より、全キャンパスでの展開をしている。（詳細は、国際社会共生センターの報告を参照）

なお、D&I 推進プロジェクトについて、職場環境調査、リケジョ支援に取り組んできたが、職場環境調査については重点研究に、リケジョ支援については理系 4 学部合同による学長施策に採択され、それぞれの実施主体で取組を発展させていくため、これらの検討・企画を担った SDGs 推進センター内での D&I 推進プロジェクトは発展的解消をした。

・カーボンニュートラル推進プロジェクト

カーボンニュートラル推進プロジェクトについては、総合大学の強みを生かし、さまざまな分野における教育、研究、そして社会貢献活動を通して、カーボンニュートラルな社会の実現に先導的な役割を果たすことを軸として、「教育」・「研究」・「社会貢献」「キャンパス」の取組を順次 HP 上で公開している。

計画⑤ 「SDGs アンバサダーの育成と活性化」

2021 年度に制定された「学校法人東洋大学 SDGs 行動憲章」に基づき、「東洋大学 SDGs アンバサダー（以下、SDGs アンバサダー)」が組織され、認定者数は、2021 年度 49 名、2022 年度 78 名、2023 年度 91 名、そして 2024 年度には 93 名へと順調に増加している。このプログラムは、在学中に SDGs に関するアクションを展開したい学生の受け皿となっており、2024 年度には、これまでの活動に加えて「学外への発信」を目標に掲げ、学生たちは SNS（Instagram）を利用して活動紹介や企画の案内を積極的に行った結果、アンバサダーの活動が学外の方々に認知され、外部団体との新たな活動のきっかけとなっている。（※各活動の詳細は社会貢献部門の報告を参照）

計画⑥ 「参加型イベント Toyo SDGs Weeks の充実」

・大学での Toyo SDGs Weeks の継続開催と企画の多様性の拡充

シンポジウムや研修プログラムなど SDGs 関連イベントを積極的に開催し、SDGs への関心を高める集中期間とする「Toyo SDGs Weeks」を 2024 年度も継続実施した。2024 年度は 10 月 14 日から 11 月 10 日の 4 週間を開催期間とし、24 企画（昨年 33 企画）を実施し、延べ 3,020 名（昨年 4,190 名）の参加を得ることができた。映画の試写会や SDGs アンバサダーによる企画など多様な企画が実施され、各企画の関連する SDG についても、SDGs の全ての目標に関連した企画が開催されている（各企画の詳細は添付 3-1 を参照）

—2021 年度実績：26 企画の実施・延べ 2,775 名の参加
—2022 年度実績：35 企画の実施・延べ 3,960 名の参加
—2023 年度実績：33 企画の実施・延べ 4,190 名の参加
—2024 年度実績：24 企画の実施・延べ 3,020 名の参加

企画数、参加人数ともに前年よりも減少しているため、2025 年度については継続・拡充するとともに、学校法人全体での取り組みへの発展を目指し附属高校・中学校においても SDGs イベントを実施する日程を設定していただけるよう、各学校長と調整を進めていきたい。

計画⑦ 「THE Impact Ranking へのエントリーとスコア向上（継続)」

2024 年 6 月に公表された THE「Impact Ranking 2024」の結果（本学は世界 601-800 位、国内 30 位。詳細は別紙 1-4 を参照）を受け、学内の各 SDG への取り組み状況、国内他大学のエントリーや得点状況を分析し、より高得点を狙えるエントリー先として「Impact Ranking2025」においては下記の 6 項目を選定した。

・SDG２：飢餓をゼロに
・SDG６：安全な水とトイレを世界中に
・SDG10：人や国の不平等をなくそう【新規エントリー】
・SDG12：つくる責任つかう責任
・SDG13：気候変動に具体的な対策を【新規エントリー】
・SDG16：平和と公正をすべての人に
・SDG17：パートナーシップで目標を達成しよう

管財課（環境部門)、研究推進課（研究推進部門)、広報課（広報部門）等の協力により、エビデンスの収集および学外への公開作業を行い、2024 年 11 月 10 日にエントリー作業を完了した。結果は 2025 年 6 月に公表予定である。

③ 2024 年度活動内容		添付資料(※)
4 ｜ 6 月	◇実施内容名 ・2024 年度東洋大学 SDGs アンバサダー（団体）の認定 ・2024 年度東洋大学 SDGs アンバサダー（新規）の認定 ・THE「Impact Ranking2024」結果発表 ・SDGs 留学生アンバサダー認定式（4 月入学）	 添付 1-1 添付 1-2 添付 1-3 添付 1-4
7 ｜ 9 月	・2023 年度一般研究報告における SDGs 関連研究（集計報告） ・関彰商事株式会社と SDGs 達成に向けた連携協力に関する協定を締結 ・SDGs 留学生アンバサダー認定式（9 月入学）	添付 2-1 添付 2-2 添付 2-3
10 ｜ 12 月	・埼玉 ALLY 大学ネットワークに入会 ・2024 年度 SDGs Weeks 開催 ・文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会 ・東洋大学 SDGs 推進センターシンポジウム開催 ・THE「Impact Raking 2025」エントリー	添付 3-1 添付 3-2 添付 3-3 添付 3-4 添付 3-5
1 ｜ 3 月	・2025 年度東洋大学 SDGs アンバサダー（個人、団体）の認定（2024 年度からの更新者） ・東京都「情報発信プラットフォーム」への情報掲載 ・SDGs グッズ作成	添付 4-1 添付 4-2 添付 4-3

※活動実績となる成果物や資料（チラシ・ポスター・報告書 等）がございましたら、併せてご提出ください。
その際、表中の添付資料欄に番号等の記載をお願いします。

添付1-1

2024年4月10日
SDGs推進委員会［協議4］

2024年度東洋大学SDGsアンバサダー（団体）の認定について

東洋大学SDGs推進委員会
委員長　金子 律子

社会貢献センター長より、下記概要の通り、2024年度東洋大学SDGsアンバサダー（団体）の推薦をいただきました。
「東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項」に基づき、本委員会での議を経て、適任と認められる者を小職より学長へ推薦いたします。

記

1．社会貢献センター推薦日　：　2024年4月5日

2．推薦団体数　：　3団体

No.	団体名称
1	Smile F Laos
2	学ボラ川越（山古志部門）
3	ボードゲーム地域交流団体 ぼどのわ

3．各団体概要　：　別紙の通り

4．認定期間　　：　2024年4月1日　～　2025年3月31日

5．添付資料
- 2024年度「東洋大学 SDGs アンバサダー（団体）」認定団体
- 東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項

以　上

2024年度「東洋大学 SDGs アンバサダー（団体）」名簿

NO.	団体名	参加学生数	関連するSDGs	代表者学籍番号	代表者
1	Smile F Laos	13	1.貧困をなくそう 4.質の高い教育をみんなに 10.人や国の不平等をなくそう 12.つくる責任　つかう責任		
	活動概要	【活動する目的】 ①フェアトレードに対する認知度の向上、フェアトレード商品の普及 ②コーヒー販売から得た収益をもとに現地への調査に向けた活動準備 【活動内容】 ①の目的を達成するために、自分たちでラオスのフェアトレードコーヒーをフェアトレードのルートを通じて輸入し、自分たちで梱包作業・製品化を行い、学校内の販売会や外部へのイベントにて販売を行う。 ②の目的を達成するために、ただ製品を販売するだけではなくリーフレットや展示品などを用いて自分たちの活動を宣伝し集客を行う。また積極的に校内でのイベントや外部のイベントなどに参加し、他の活動をなさっている方から刺激を受け、自分たちの活動の糧にする。			
2	学ボラ川越（山古志部門）	167 (運営は2名)	11.住み続けられるまちづくりを		
	活動概要	【活動目的】 ・中越地震へ追悼の意を示し、今までの学ボラと山古志との歩みを知るだけでなく、地域の活性化に向けて村の人々と協力する。また長年続く山古志とのつながりを再確認し、学ボラとして活動することへの責任感をもたせる ・幼い子供達と一緒に遊び、企画をするNPO団体と協力して一緒に活動することで、学生ボランティアの楽しさや影響力を再確認し、今後も地域に自分がなにができるかを考えるきっかけを作る ・地震で実際に被害のあった北陸地方等を訪れ、ボランティアとして果たせる役割を再認識してもらう 【活動内容】 ・山古志地区にて夏に地域の活性化に向けて「祭りやイベント」を企画・運営を行い、10月の「追悼式」に向けて関係性を深め、追悼式実施の手伝いをする。 ・文京区内の公園でNPO法人協力し、「プレーパーク」（自然の中で遊ぶをモットーにした企画）というイベントのお手伝いとして、自然を利用した遊具や昔ながらの道具で子供たちと公園で遊ぶ。 ・能登地方をはじめとする地震で実際に被害のあった地域を訪れ、ボランティアを行い、地域活性化の手伝いをする。			
3	ボードゲーム地域交流団体　ぼどのわ	4	4.質の高い教育をみんなに 11.住み続けられるまちづくりを		
	活動概要	【活動目的】 ・ボードゲームを使用した居場所づくりを行うことで、主に子どもを中心とした学校や家庭以外の安心できる第３のコミュニティと、他の人との新たなつながりを作ること。 ・子どもをはじめとする参加者の思考の柔軟性や発想力の促進。 【活動内容】 ・赤羽台付近のお子さんを対象にボランティア支援室【赤羽台】、あるいは区内の施設にて既存の団体と協力して実施。 ・集まった人々と共にボードゲームを通して交流し、その人達にとっての新たなコミュニティ、及びつながりを作る。			

東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項（令和３年10月６日要項第155号）

最終改正:令和3年10月6日要項第155号

改正内容:令和3年10月6日要項第155号[令和3年10月6日]

〇東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項

令和3年10月6日要項第155号

東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項

（趣旨）

第１条　この要項は、東洋大学SDGs推進委員会規程（令和3年7月1日規程第147号）に基づき、東洋大学（以下「本学」という。）のSDGs活動の一層の活性化、充実及び発展を図るために、学校法人東洋大学SDGs行動憲章に賛同し推進する本学の学生個人又は学生団体に対して東洋大学SDGsアンバサダーの称号を付与する制度（以下「アンバサダー制度」という。）に関して必要な事項を定める。

（称号の付与）

第２条　東洋大学SDGsアンバサダー（以下「アンバサダー」という。）の称号を希望する本学の学生個人又は学生団体の代表は、社会貢献センター長が別に定める所定の手続により申請する。

２　前項の規定による申請を受けた社会貢献センター長は、ボランティア支援室運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、適任と認められる場合は、東洋大学SDGs推進委員会委員長（以下「委員長」という。）に推薦をする。

３　委員長は、東洋大学SDGs推進委員会（以下「推進委員会」という。）の議を経て、適任と認められる場合、学長に推薦をする。

４　学長は、委員長の推薦に基づき、アンバサダーの称号を付与する。

（活動内容）

第３条　アンバサダーは、本学の諸規則等を遵守し、次の各号のいずれかに該当する活動を行う。

（1）本学のSDGs活動への参画

（2）本学のSDGs活動の普及推進のための情報発信

（3）その他学長が必要と認めた活動

（称号の有効期間）

第４条　アンバサダーの称号の有効期間は、当該年度限りとする。ただし、アンバサダーが有効期間の更新を希望する場合は、所定の手続を経て更新することができる。

２　アンバサダー有効期間の更新手続については、第2条第1項から第4項までの規定を準用する。

（活動費補助）

第５条　本学は、アンバサダーとしての活動に必要な経費について、その一部を補助することができる。

（活動報告）

第６条　アンバサダーは、年間の活動報告を社会貢献センター長にしなければならない。

２　社会貢献センター長は、アンバサダーの活動状況について、運営委員会及び推進委員会に報告しなければならない。

（その他）

第７条　この要項に定めるもののほか、アンバサダー制度に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て推進委員会に報告し学長が決定する。

（事務の所管）

第８条　アンバサダー制度に関する事務の所管は、エクステンション部エクステンション課とする。

（改正）

第９条　この要項の改正は、学長が運営委員会及び推進委員会の意見を聴いて行う。

附　則

この要項は、2021年10月6日から施行する。

添付1-2

2024年度「SDGsアンバサダー(個人)」新規登録者名簿

NO.	4. 学部(研究科)・学科(専攻)	5. 学年	6. 所属キャンパス	7. 東洋大学SDGsアンバサダーに申し込む理由(動機)を教えてください。
1	福祉社会デザイン学部社会福祉学科	2年	赤羽台キャンパス	昨年SDGsアンバサダーとして活動させていただいたことによって得られた経験や知識が多く、私自身も成長することができ、また多くの人と関わる機会も増え視野が広くなったため、参加させていただきたいと思いました。
2	法学部第2部法律学科	2年	白山キャンパス	女性問題に興味があり、個人で行動を起こそうと考えましたが、1人だとどうにもならないこともあり、このアンバサダーを知りSDGsの活動に参加したいと考えました。
3	国際学部国際地域学科地域総合専攻	1年	白山キャンパス	先輩に勧められたし将来の目標に繋げれる
4	国際学部国際地域学科地域総合専攻	3年	白山キャンパス	2023年度に行われた甘楽町地域おこし協力隊インターンに参加した際、東洋大学SDGsアンバサダーをされてる方にご紹介いただき、今後地域活動をしていく中で、サポート制度や一緒に問題解決取り組む仲間がいると私自身も安心して活動することができると思い、応募させていただきました。
5	福祉社会デザイン学部社会福祉学科	2年	赤羽台キャンパス	去年やっており、時間の関係で辞退したが、先輩との会話からやる気が芽生えたから。
6	社会学部第2部社会学科	2年	白山キャンパス	まちづくりに興味があり、 この1年間での経験を生かして運営・企画を 行いたいから。
7	文学部国際文化コミュニケーション学科	2年	白山キャンパス	SDGs実践講座に参加し、SDGsアンバサダーに入りたいと思ったから。既に大学内でSDGs関連のプロジェクトに取り組んでいるから。既に学外で取り組んでいる活動を学内でも行いたいから。まだまだ学内で行いたい取り組みがあるから。
8	国際学部国際地域学科	2年	白山キャンパス	私はこの春にDiversity Voyageに参加しました。その時に同じメンバーの中にアンバサダーの方がいて「是非入ってみないか」と誘われたからです。また私は国際地域学科に所属していてまちづくりや防災についての授業を履修して興味があったからです。
9	社会学部国際社会学科	2年	白山キャンパス	元々SDGsに興味があり、継続的に経験と挑戦ができるプログラムだと聞いたので、参加したいと思いました。
10	生命科学部　応用生物科学科	3年	朝霞(板倉)キャンパス	SGDsに焦点を当て、ジェンダーに関する目標への意識を高めることは現代社会で非常に重要であると思っていて、特にジェンダーに関する事柄その重要性を具体的に理解することが求められる時代であると私は思います。例えば、ジェンダーに基づく不平等は経済的成長を妨げる要因であり、女性の経済的地位の弱さが教育や健康へのアクセスを制限し、貧困の連鎖をもたらす可能性があり政治やリーダーシップにおいても、ジェンダーの平等が重要であり女性がトップポジションに就ける機会や資源が不足していることからも多くの問題が生じていると言える。したがってジェンダーに対する偏見や差別をなくすことは社会全体の発展に必要であると考えられる(この例は例であるのでジェンダー問題は女性だけではなく男性にもある)。また何故ジェンダー問題に深く考えているのかというと私の友達が性別上男性なのですが男性を好きになったという友達がいてその友達の相談に何回か乗った事があり今までの自身の考え方が凝り固まって居たんだなと考えさされられました。身近でこの様にジェンダー問題を知った時から自分自身の中で個人や社会全体がこの問題について取り組まなければいけないと思いました。またそれはSGDsだからと他人に押し付けるのでは無く人と人ですから完全に理解することは難しいので少しでもこの様な問題に社会の中の個人が応援する気持ちの様なものを持ってくれる日を作りたいと思い応募しました。
11	福祉社会デザイン学部 社会福祉学科	1年	赤羽台キャンパス	高校時代に小・中学生の学習支援ボランティアや障害を持つ人のサポートをする活動に参加しており、高校生の時はボランティア活動に参加する立場だったけれど、大学では企画・運営をしてみたいと考えたから。また、能登半島地震の募金活動や使わなくなった洋服の回収など過去に先輩方が行った活動にも非常に強い興味を持ったから
12	社会学部国際社会学科	3年	白山キャンパス	SDGsについてより深く理解したいと感じたため。
13	社会福祉研究科社会福祉専攻	大学院	赤羽台キャンパス	ボランティア活動に参加したいです。
14	社会福祉研究科社会福祉専攻	大学院	赤羽台キャンパス	私の研究は子どもの貧困に関することです
15	国際学部国際地域学科	4年	白山キャンパス	SDGsアンバサダーに申し込む理由は、私が国際学部国際地域学科の学生として、SDGsに関する課題に関心が高いからです。自分の卒業論文のテーマも再生可能なエネルギーに焦点を当てています。再生可能なエネルギーの潜在能力を最大限に引き出し、世界各国に発信することで、持続可能な未来に向けた取り組みに貢献したいと考えています。また、自ら留学生の立場を取り入れ、国際的な視点からSDGsの推進に努めたいと思っています。
16	経済学部総合政策学科	1年	白山キャンパス	これから先すべての人々がより良い生活を送れるようにするために自分も何かできないかと考えていて、そのためには自分自身が今世界にとって何が必要なのかをしっかりと理解する必要があると感じたから。
17	生命科学部生命科学科	1年	朝霞(板倉)キャンパス	SDGsに興味を持っており、高校時には地球環境ユースサミットへの参加を通して日本だけでなく世界の人とSDGs実現に向けて議論したり、アイデアを出し合ったりしてきました。大学でもそのような活動ができればと思いSDGsアンバサダーに申し込ませていただきました。
18	生命科学部生物資源学科	1年	朝霞(板倉)キャンパス	自分の将来やりたいことが、極限環境微生物を利用したSDGsに貢献できる研究者になることであり、実際の問題解決に向けて挑戦し、知識を蓄え経験を積んでいきたいからです。
19	文学部教育学科人間発達専攻	1年	白山キャンパス	高校の授業でSDGsについて、学び興味を持ち何か行動に起こせないかと考えていたが、なかなか起こせなかったのでこの機会に活動したいと思ったため。
20	文学部教育学科人間発達専攻	1年	白山キャンパス	高校時代からSDGsについて総合学習の時間に研究したりレポートを発表したりした。その延長で大学でもSDGsへの活動に参加し、知見を深めることによって現代における社会問題や環境問題への解決策や自分なりの見解を見い出したいと思ったから。
21	社会学部社会学科	4年	白山キャンパス	気候変動に関心があるため
22	福祉社会デザイン学部社会福祉学科	1年	赤羽台キャンパス	ボランティア活動をしてみたかったから
23	福祉社会デザイン学部社会福祉学科	1年	赤羽台キャンパス	ボランティアを積極的に参加したいと思っていたから
24	文学部日本文学文化学科	3年	白山キャンパス	以前からボランティア活動や、社会問題に関心がありつつも、具体的な活動などに一歩踏み出すことが出来ずにいました。 東京都のホームページを見たり、一般のボランティア募集サイトを見たりはしていましたが、実態が分からないものや、日程が合わないものが多く、二の足を踏んでいた矢先に、東洋大学アプリからアンバサダーの募集を見て、「これだ」と思いました。 それまで存在や活動内容を知らなかったのですが、昨年度の活動内容を見て、とても良いと感じました。特に、ユニークな名前が目を引く「おにぎりアクション」の仕組みがどうなっているのかという部分に興味を持ちました。自分がアンバサダーとして携わる側に立って、社会を良くする1つの歯車になると共に、社会問題やその対策に関して詳しくなっていきたいと感じたため、申し込みました。
25	健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科	1年	赤羽台キャンパス	中学、高校でSDGSでの学習をしていて、その経験を行動として移していきたいと思ってから。企画運営をやってみたかったから。 SDGsは2030年までの目標なので、今しかできないことだから。
26	経営学部経営学科	1年	白山キャンパス	説明会に参加して、興味を持ったため。
27	社会学部社会学科	2年	白山キャンパス	知り合いの方の活動の話を聞き、活動内容に興味を持ったから。
28	健康スポーツ科学部・健康スポーツ科学科	1年	赤羽台キャンパス	中学生のころに地元の小学校の運動会のボランティアをしたことがあり、自分の行動1つで誰かの笑顔が見られるということがすごく印象に残っていたから。
29	社会学部社会学科	2年	白山キャンパス	現在関心のあるテーマがジェンダー・多様性などであることから元々sdgsに関心を持っていました。様々なところでsdgsに力を入れている東洋大学のsdgsアンバサダーとして、私も活躍してみたいと考えた為申し込ませて頂きました。
30	社会学部メディアコミュニケーション学科	3年	白山キャンパス	東洋大学SDGsアンバサダーの方が大学で活動しているのを見て、私も参加したいと考えたからです。

NO.	4. 学部(研究科)・学科(専攻)	5. 学年	6. 所属キャンパス	7. 東洋大学SDGsアンバサダーに申し込む理由(動機)を教えてください。
31	国際学部国際地域学科	2年	白山キャンパス	環境破壊、未来の暮らしについて、さまざまな人が差別なく幸せに暮らせる社会についてなどに興味があったが、実際にボランティアなどで活動したことはなく、今年からは活動に参加して貢献したいという思いがあり申し込みました。
32	総合情報学部総合情報学科	1年	川越キャンパス	SDGsに興味があり、東洋大学でSDGsについて行動している
33	経済学部・総合政策学科	1年	白山キャンパス	SDGsに興味があり、少しでも社会に貢献したいと思ったから。
34	国際学部国際地域学科地域総合専攻	3年	白山キャンパス	誘って下さった方々がいたのと、SDGsアンバサダーというのに興味を持ったから。
35	健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科	1年	赤羽台キャンパス	これを機にSDGsについて深く知って考えて身近なところから行動したいと思ったから。色々な人と関わることで、視野を広げたいから。
36	国際学部国際地域学科地域総合専攻	4年	白山キャンパス	学業でただSDGsについて学ぶのではなく、実践の機会として今まで学んだことを活動に繋げたいと思ったからです。
37	文学部教育学科初等教育専攻	2年	白山キャンパス	昨年度のSDGs実践講座を受講したことで、よりSDGsに興味を持ったため。
38	総合情報学部総合情報学科	1年	川越キャンパス	SDGsに興味があったのと、大学生活で何かしたいと思っていたから。
39	文学部日本文学文化学科	3年	白山キャンパス	高校生の時の授業でSDGsに触れたことがあり、その時から興味関心を持っていました。自分も活動に参加することで、少しでも多くの学生や世間にSDGsについて知ってもらう機会を増やしたいと思い申し込みました。また、学生目線でSDGsについて考えることができ、自分自身の成長にも繋がると思ったからです。
40	国際観光学部国際観光学科	1年	白山キャンパス	私は付加価値をつけた既存の観光資源を利用した地域活性化に将来関わりたい。しかし、今後地域資源を活用する観光では特に、サスティナブルツーリズムが重要となってくる。そのため、東洋大学SDGsアンバサダーでの活動を通し、各地域の課題を把握すると同時に様々な地域と関わる機会を増やしたい。
41	生命科学部　応用生物科学科	3年	朝霞(板倉)キャンパス	SDGsの中でもフードロス、環境問題、エネルギー資源に関心があり、今後の研究やキャリアにおいて、SDGsの達成に向けた研究計画や企画を立案したいと考えている。 しかし今の自分の中で、SDGsに関する知識不足を感じていて、今後SDGsを達成する為にどのようなアクションを起こしていけば良いかを明確に考えられていないと感じている。 その為、今回SDGsアンバサダーに加わり、日本を含め世界で起きている様々な問題を深く知ると共に、学内外でSDGs達成に向かって実施されている取り組みについて学び、自ら行動したいと考えている。
42	福祉社会デザイン学部社会福祉学科	2年	赤羽台キャンパス	SDGsについての知識を深めたい。昨年に引き続き、アンバサダーとして色々な活動に参加したい。
43	生命科学部生命科学科	3年	朝霞(板倉)キャンパス	①大学生活を豊かにしたい;②人類に有益なことをやりたい
44	生命科学部生命科学科	3年	朝霞(板倉)キャンパス	大学で勉強以外のことを体験してみたい。地球、全人類のために自分のできることを知りたい。
45	社会福祉研究科社会福祉専攻	大学院	赤羽台キャンパス	東洋大学SDGsアンバサダーに申し込む理由は、社会的公正に関心があり、特に資源の平等に貢献したいと考えています。 私は中国の農村地域に関する研究したいんです。中国の都市地域と比較して農村地域の教育資源、介護サービスなど不足しております。 私はこれらの分野での取り組みを通じて、地域社会にポジティブな変化をもたらすことを目指しています。自分の力を最大限に活かし、SDGsの達成に向けて行動する機会を得たいと思っています。
46	社会福祉研究科社会福祉専攻	大学院	赤羽台キャンパス	より良い大学院生活を送りたいため、入りたいです。
47	国際学部国際地域学科地域総合専攻	2年	白山キャンパス	sdgsを学内外の活動を通じて広めたい
48	法学部企業法学科	1年	白山キャンパス	SDGs活動に参加したいから。
49	経営学部・会計ファイナンス学科	3年	白山キャンパス	誰かのためになれることをしたいと思ったのが動機です。自身の小さな行いの積み重ねにより、国や人々、動物までもを幸せにすることのできる活動をしてみたいと思いました。また、SDGsアンバサダーの方の生き生きとした姿に憧れ、さまざまな活動を通して、自身の成長にも繋げていきたいと思いました。
50	社会学部メディアコミュニケーション学科	3年	白山キャンパス	就職活動に使うガクチカを強くしたいと感じだから。
51	ライフデザイン学部人間環境デザイン学科	3年	赤羽台キャンパス	昨年の夏に参加した海外研修や、大学で学んだいくつかの講義などからSDGs達成のための活動に興味を持ったから。また、1、2年生の時から大学で募集しているボランティアや社会貢献活動に興味はあったがなかなか参加することができなかったので、残りの大学生活で後悔がないように出来ることをしたいと思ったから。
52	文学部国際文化コミュニケーション学科	1年	白山キャンパス	ここ数年で頻繁に叫ばれているSDGsに興味があったから
53	法学部企業法学科	1年	白山キャンパス	SDGsの活動に興味があり、社会に貢献したいと思ったからです。
54	ライフデザイン学部人間環境デザイン学科	3年	赤羽台キャンパス	中学生や高校生の頃からボランティアをすることが好きで、大学生になった今、また誰かのために何かをしたいと思い、サイトを見て興味を持ったから。
55	理工学部都市環境デザイン学科	1年	川越キャンパス	私はまちづくりや都市に興味があり将来都市に関わる仕事に就きたいと考えているため、理工学部都市環境デザイン学科に入りました。都市を学ぶ上でSDGsは切っても切り離せない関係だと思います。しかし、今までSDGsについて深く考えたことはなかったため、東洋大学にこのような取り組みがあると知りとても興味を持ちました。アンバサダーになり防災・まちづくりチームに入って、SDGsについての社会課題解決に向けて主体性を持って活動していきたいと考えています。またアンバサダーが全キャンパスから集まるということから、さまざまな観点でSDGsについて考えそれをお互いに共有できるのではと思い、広い視野を持った人に成長する糧になると思いました。
56	理工学部応用化学科	3年	川越キャンパス	他のプログラムであったアンバサダーに会ってこの人と活動してみたいと思ったから。
57	総合情報学研究科総合情報学専攻	大学院	川越キャンパス	私が現在行っている研究がSDGsに関連する脱炭素というテーマで、研究での知見を深めつつ実際に行動をおこして行きたいと思ったからです。
58	社会学部第2部社会学科	2年	白山キャンパス	防災に興味があるため
59	文学部教育学科人間発達専攻	3年	白山キャンパス	SDGsは様々なところで取り組まれており、みんなが生活する上で達成するべきゴールがあるから。自分が興味のある分野で社会に少しでも貢献できるような取り組みをしたいと思った。

添付1-3

2024年 7月 10日
SDGs推進委員会 資料

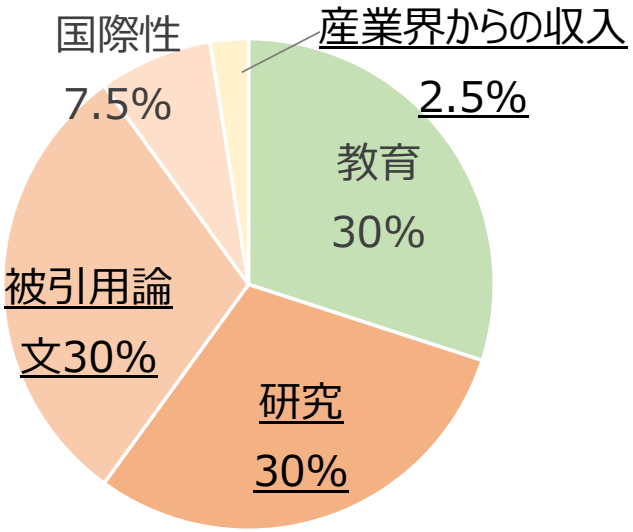
Times Higher Education
Impact Rankings2024
結果報告

学長室

1. THEによる３つのランキング

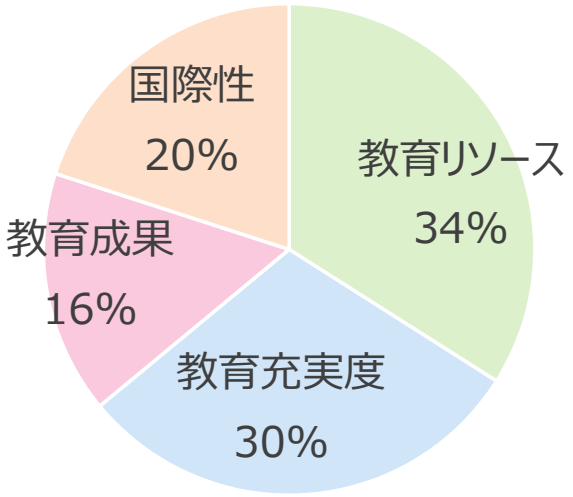
Times Higher Education
Impact Rankings 2024

世界版ランキング：研究重視



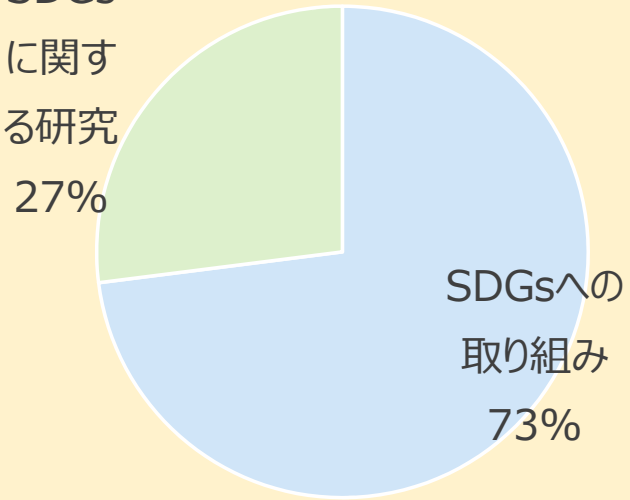
（参考）<2024>
世界：1501+
日本：119位（推定）
私大：49位（推定）

日本版ランキング：教育重視



（参考）<2023>
日本：84位（前年73位タイ）
私大：28位（前年26位）

インパクトランキング：社会貢献重視



<2024>
世界：601-800（前年601-800）
日本：30位タイ（前年38位タイ）
私大：6位タイ（前年9位タイ）

世界版は『研究』を、日本版では『教育』を評価の中心とするのに対し、
インパクトランキングはSDGsの枠組みを使い『社会貢献』を評価している

Times Higher Education Impact Rankings 2024 2. エントリー方法

▶「THE Impact Rankings」は国連のSDGs（Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標）が掲げる17の目標（ゴール）に合わせて設定。大学は自学の強みに合った目標を選んでエントリーを行う。
（エントリーのデータは2020年度のものを使用）

▶「総合ランキング」に参加する場合は「SDG17（パートナーシップ）」を必須項目とし、これに加えて3つ以上のSDGについてデータを提出し、「SDG17」とスコアの高い3つの目標がランキングに反映される。

▶昨年よりランキングの安定性を保つため、総合ランキングのスコアは過去2年間の平均値としている。

必須項目



＋

3つ以上を選択



	Impact Rankings 2024		Impact Rankings 2023		Impact Rankings 2022	
	世界の大学	日本の大学	世界の大学	日本の大学	世界の大学	日本の大学
▶総合ランキング対象	1,884	74	1,591	78	1,406	76
エントリー大学数	2,152	88	1,705	91	1,524	84

447大学増加　181大学増加

Times Higher Education Impact Rankings 2024 3. 東洋大学のエントリー

▶ 目標「2」「3」「6」「12」「14」「16」および 必須項目の「17」においてエビデンスを提出した。

▶ そのうち「2」「12」「16」および 必須項目の「17」が評価対象となった。（昨年度は「6」「12」「16」）

	エントリー項目（3つ以上を選択）							必須項目
2024	○	×	×	○	×	○		○
2023	-	-	○	○	-	○		○
SDG								
	SDG2 飢餓をゼロに	SDG3 すべての人に健康と福祉を	SDG6 安全な水とトイレを世界中に	SDG12 つくる責任つかう責任	SDG14 海の豊かさを守ろう	SDG16 平和と公正をすべての人に	＋	SDG17 パートナーシップで目標を達成しよう
設問	1.飢餓に関する研究 2.キャンパス内の食品の無駄 3.学生の飢餓 4.持続可能性の観点を含む農業、水産養殖業を専門とする卒業生の割合 5.国家的飢餓	1.健康と福祉に関する研究 2.医療専門科の卒業生 3.協働および公共医療サービス	1.水に関する研究 2.一人当たりの水消費量 3.水の利用およびケア 4.水の再利用 5.コミュニティー内の水	1.責任ある消費と生産に関する研究 2.運用（法令等）面での対策 3.リサイクルされた廃棄物の割合 4.持続可能報告書の公表	1.水の中の生命に関する研究 2.教育を通じての水中生態系の支援 3.行動を通じての水中生態系の支援 4.水に配慮した廃棄物処理 5.地元生態系の維持	1.平和と正義の研究 2.大学のガバナンス施策 3.行政との連携 4.法と民事執行分野の卒業生の割合		1.目標達成のためのパートナーシップの研究 2.目標を支えるための関係性 3.SDG報告書の発行 4.SDGsのための教育

Times Higher Education Impact Rankings 2024 4. 東洋大学の結果概要

▶ Times Higher Education（THE）は2019年より、大学の『社会貢献』の取り組みをSDGsの枠組みを使って可視化する“THE University Impact Rankings”を発表している。

▶ 本学は2020年からエントリーを開始。毎年、少しずつスコアを上げてきている。

▶ 日本の大学が軒並み順位を下げている中、本学はスコアアップに成功し、国内順位も、国内私立大学順位もアップすることができた。

Impact Rankings 2023 国内大学ランキング

1位・2位（1-100）	北海道	京　都					
3位-6位（101-200）	広　島	*九　州*	大　阪	東　北			
7位-13位（201-300）	慶應義塾	神　戸	名古屋	岡　山	立命館	筑　波	早稲田
14位-17位（301-400）	愛　媛	熊　本	名古屋市立	信　州			
18位-29位（401-600）	茨　城	鹿児島	金　沢	大阪府立	龍　谷	島　根	徳　島
	東京理科	琉　球	山　形	山　口	横浜市立		
30位-37位（601-800）	*東洋大学*						
	秋　田	三　重	上　智	帝　京	東京医科歯科	富　山	横浜国立

※順位の（カッコ）内は世界での順位。赤文字の大学名は私立。
*斜字*の大学名は昨年度より順位UP。
下線の大学名は昨年度より順位DOWN。

東洋大学の順位・得点（本年-前々年）

ランキング範囲	2024順位	2023順位	2022順位
世　界	601-800位	601-800位	601-800位
日本国内	30位タイ	38位タイ	36位タイ
国内私立大学	6位タイ	9位タイ	9位タイ

Times Higher Education Impact Rankings 2024 5. 総合ランキングにおける国内大学

▶ 総合ランキング対象の国内58大学　※大学名が赤色は私立大学を表す。また、1500+位の大学は未掲載とする。

Impact Rankings 2023			大学名	前年度	
世界順位	国内順位	総得点		世界順位	国内順位
72	1	90.6	北海道大学	22	1
95	2	89.5	京都大学	49	2
101-200	3	84.0-89.1	広島大学	101–200	3
			九州大学	201–300	9
			大阪大学	101-200	3
			東北大学	101-200	3
201-300	7	79.3-83.9	慶應義塾大学	101-200	3
			神戸大学	101-200	3
			名古屋大学	201–300	9
			岡山大学	201-300	9
			立命館大学	201–300	9
			筑波大学	101–200	3
			早稲田大学	201–300	8
301-400	14	75.8-79.2	愛媛大学	301-400	17
			熊本大学	201-300	9
			名古屋市立大学	201-300	9
			信州大学	301-400	17
401-600	18	69.9-75.7	茨城大学	301-400	17
			鹿児島大学	301–400	17
			金沢大学	401-600	24
			大阪府立大学	201-300	9
			龍谷大学	401-600	24
			島根大学	401-600	24
			徳島大学	401-600	24
			東京理科大学	301-400	17
			琉球大学	301-400	17
			山形大学	401-600	24
			山口大学	301-400	17
			横浜市立大学	401-600	24
601-800	30	64.5-69.8	秋田大学	401-600	24
			三重大学	401-600	24
			上智大学	301-600	24
			帝京大学	401-600	24
			東京医科歯科大学	-	-
			東洋大学	601-800	36
			富山大学	401-600	24
			横浜国立大学	401-600	24

Impact Rankings 2023			大学名	前年度	
世界順位	国内順位	総得点		世界順位	国内順位
801-1000	38	58.8-64.4	中部大学	601-800	38
			群馬大学	-	-
			神奈川大学	601-800	38
			新潟大学	801-1000	44
			東京都市大学	601-800	38
			東京農業大学	401-600	24
			鳥取大学	601-800	38
			山梨大学	-	-
1001-1500	46	45.0-58.7	中央大学	801-1000	44
			国際基督教大学	1001+	48
			順天堂大学	801-1000	44
			関西大学	801-1000	44
			近畿大学	-	-
			武蔵野大学	1001+	48
			お茶の水大学	1001+	48
			広島県立大学	1001+	48
			芝浦工業大学	1001+	48
			創価大学	1001+	48
			東海大学	1001+	48
			常葉大学	1001+	48
			東京都立大学	1001+	48

- 国公立大学が上位を占めているものの、大半が世界ランキングでは順位を落としている。
- 一方で本学は毎年スコアアップをすることで、順位も少しづつ上がってできている。
  ⇒日本全体のImpact Rankingに関する活動・アプローチが世界に後れを取りつつある？

- 今回、本学のスコアは69.6であったため、
  あと0.2ポイントでもう1つ上のレンジに上がれるところまで来ている。
- したがって、国内順位30位タイ（8大学同順位）、
  国内次第順位6位タイ（3大学同順位）ではあるが、
  その中でもかなり上位に近い位置に入れているとみて良い。

Times Higher Education Impact Rankings 2024 6. 国内上位23大学の評価項目

▶ 総合ランキング国内上位17大学における評価項目および得点（オレンジ色はSDG別ランキングのトップ100にランクイン）

	SDGs																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
北海道大学									97.3						84.3	72.7-79.6	92.6
京都大学		83.3							99.5							80.1	84.8-90.0
広島大学									77.0-90.2		83.7				83.9		92.9
九州大学		80.9				83.8			99.1								80.1-84.7
大阪大学									99.8			73.1-81.4				81.4	80.1-84.7
東北大学									99.8		78.4	73.1-81.4					75.4-80.0
慶應義塾大学			75.9-80.9						77.0-90.2							82.5	84.8-90.0
神戸大学		72.5							93.9							79.7	80.1-84.7
名古屋大学		61.6-71.8	67.6-71.8						98.5								67.5-75.3
岡山大学		79.4	75.9-80.9						77.0-90.2								84.8-90.0
立命館大学	83.6														78.5	72.7-79.6	67.5-75.3
筑波大学						77.0			77.0-90.2		81.2						75.4-80.0
早稲田大学											71.5-78.3	73.1-81.4				72.7-79.6	75.4-80.0
愛媛大学								69.3-73.8				65.6-73.0		75.1			67.5-75.3
熊本大学			75.9-80.9						65.2-76.9					79.4			80.1-84.7
名古屋市立大学			81.9									65.6-73.0	60.9-69.4				59.9-67.4
信州大学						72.6					71.5-78.3		60.9-69.4				80.1-84.7
東洋大学	-	61.9	48.8	-	-	57.1	-	-	-	-	-	65.3	-	37.8	-	64.0	76.3

※他大学が比較的高得点を得ている項目番号に ○
※最下段の本学のグレー枠「-」は今年度未エントリー項目

Times Higher Education Impact Rankings 2024 7．総合ランキング結果（世界）

▶TOP10の顔ぶれが変わる

いよいよトップ10からアジアの大学が消えた。
代わりに2021年以来のオセアニアの大学が増加の傾向にある。

【上位10大学の所在地域 年度別比較】

地域	2024	2023	2022	2021
アジア	0	1	3	0
オセアニア	4	3	2	5
ヨーロッパ	3	2	2	3
北米	3	5	3	2

▶TOP100の順位変動が安定してきた

TOP100に入っている大学の顔ぶれは前年から24大学が入れ替わった。内、新規9大学。
（前年は23大学が入れ替わった。）

↓

ランキングの安定性を保つため、総合ランキングのスコアを過去2年間の平均値としたことで順位が安定してきたのだろう。
THE世界大学ランキングと比較しても、順位変動の安定感は近くなっているといえる。

総合ランキング上位27大学

Impact Rankings 2024	Impact Rankings 2023	Impact Rankings 2022	国名	地域	大学名	総合点	World University Rankings 2024
1	1	1	オーストラリア	オセアニア	Western Sydney University	99.7	301-350
2	2	9	イギリス	ヨーロッパ	University of Manchester	98.5	51
2	5	25	オーストラリア	オセアニア	University of Tasmania	98.5	251-300
4	9	31	デンマーク	ヨーロッパ	Aalborg University	98.0	201-250
5	7	22	オーストラリア	オセアニア	RMIT University	97.7	251-300
6	7	11	カナダ	北米	University of Alberta	97.4	109
7	18	55	オーストラリア	オセアニア	UNSW Sydney	97.2	84
8	3	7	カナダ	北米	Queen’s University	97.1	201-250
9	6	2	アメリカ	北米	Arizona State University (Tempe)	96.4	182
10	18	42	イギリス	ヨーロッパ	University of Exeter	96.1	177
11	14	27	韓国	アジア	Yonsei University (Seoul campus)	96.0	76
12	13	19	イギリス	ヨーロッパ	University of Glasgow	95.4	87
13	100	201+	アメリカ	北米	Florida International University	95.2	401-450
13	12	6	ニュージーランド	オセアニア	University of Auckland	95.2	150
13	14	15	オーストラリア	オセアニア	University of Technology Sydney	95.2	148
13	9	12	カナダ	北米	University of Victoria	95.2	351-400
17	86	101+	カナダ	北米	Simon Fraser University	95.1	251-300
18	4	4	マレーシア	アジア	Universiti Sains Malaysia	95.0	401-500
19	38	101+	タイ	アジア	Mahidol University	94.9	601-800
19	14	36	カナダ	北米	Université Laval	94.9	251-300
21	-	-	フランス	ヨーロッパ	Institut Agro	94.8	401-500
21	9	3	カナダ	北米	Western University	94.8	201-250
23	42	74	韓国	アジア	Kyung Hee University	94.3	251-300
24	39	79	オーストラリア	オセアニア	Macquarie University	94.2	180
25	26	33	アメリカ	北米	Michigan State University	94.1	116
25	24	33	台湾	アジア	National Cheng Kung University	94.1	501-600
25	36	101+	イギリス	ヨーロッパ	University of Strathclyde	94.1	301-350

※水色は本学協定校

8

Times Higher Education Impact Rankings 2024 8. 東洋大学への評価と今後の戦略

		2024			2023		
		得点	国内順位	世界順位	得点	国内順位	世界順位
総合点		69.6	30位タイ（私大6位タイ）	601-800位	64.9	38位タイ（私大9位タイ）	601-800位
SDG得点	SDG 2	61.9	8位タイ	101-200位	-	-	-
	SDG 3	48.8	48位タイ	801-1000位	-	-	-
	SDG 6	57.1	12位タイ	201-300位	65.8	9位タイ	101-200位
	SDG 12	65.3	17位タイ	301-400位	63.7	17位タイ	201-300位
	SDG 14	37.8	32位タイ	401-600位	-	-	-
	SDG 16	64.0	14位タイ	301-400位	63.7	15位タイ	201-300位
	SDG 17	76.3	12位タイ	301-400位	70.4	25位タイ	401-600位

▶ 総得点の評価

前年より総合点は4.7ポイントアップしたことで、国内順位も、国内私大順位もアップとなった。
世界的にはエントリー大学が増加したことや欧米圏の大学の総合点の伸び率の方が高いことから、
日本の大学は全体として順位を落とす結果となっている。

▶ SDG別の評価

新たにエントリーした「SDG.2 飢餓をゼロに」は全世界で200位以内に入ることができた。コロナが要因ではないか。

▶ 今後のエントリーに向けた戦略等

- THEの日本の大学への評価を参考にしたエントリー戦略を立てていく。
- 世界で上位の本学協定校（13位 ヴィクトリア大学[カナダ]、23位 慶熙大学[韓国]、43位 チュラロンコーン大学[タイ]）の取り組み等をヒアリングし、本学の取り組みに活かす。
- 研究面においてのSDGsの達成に資する本学教員の研究活動や成果について、情報発信を継続的に取り組んでいく。
  特に研究による特許やジョイントベンチャー企業など、SDG 9の項目のスコアが上位進出のキーになりそうだ。

参考資料

Times Higher Education Impact Rankings 2024 参考1. 総合ランキング得点算出方法

- 目標ごとに、「取り組み（約73%）」+　「研究（約27%）」の合計で評価。
- 必須項目である「SDG17. パートナーシップで目標を達成しよう」の得点に、
  エントリーした目標から点数の良い上位3つの得点を加えた4目標の合計値を『総合点』とする。
- 総合ランキングのスコアは過去2年間の総合点の平均値としている。



点線で囲んだ7目標でエントリー。色の付いた４目標により評価。

例．東洋大学における得点算出

エントリーした7つの目標（左図点線）のうち、
「8. 働きがいも経済成長も」
「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」
「11. 住み続けられるまちづくりを」
が上位３目標に入らないため、不加算となる。

＜ 上位3目標 と 必須1目標 合計4目標による総合点 ＞

「 2. 飢餓をゼロに」得点　×　0.26
＋
「12. つくる責任 つかう責任」得点　×　0.26
＋
「16. 平和と公正をすべての人に」得点　×　0.26
＋
「17. パートナーシップで目標達成」得点　×　0.22

Times Higher Education Impact Rankings 2024 参考2. 各国のスコアの潮流

- 日本も高スコアを得ているSDG9はドイツが世界で最も平均スコアが高い。
- SDG8は本学も昔エントリーしていたが、韓国の大学が比較的スコアが高い傾向となっている。
- 下図からも日本がスコアを全体的に下げているのが分かる。

・本学のエントリー項目で見てみると、

SDG2：Queen’s University(Canada)

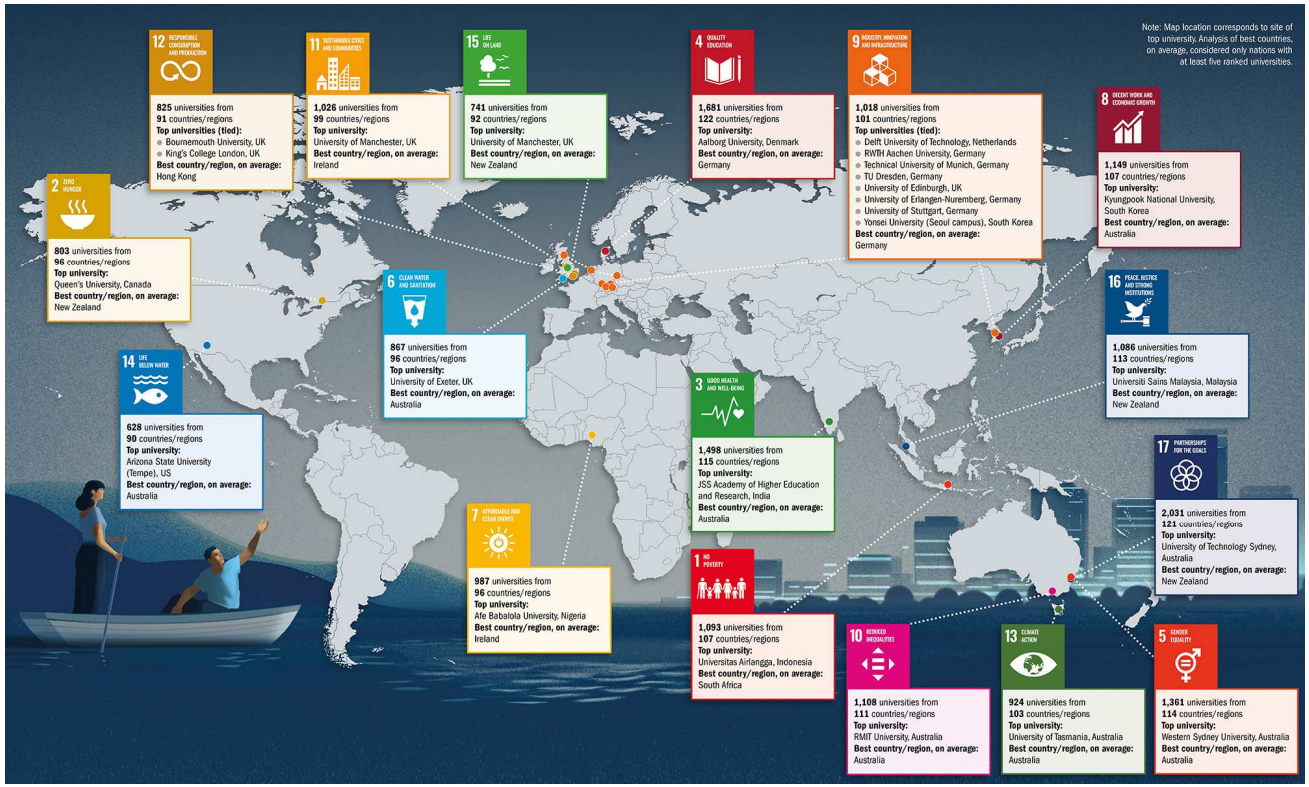
SDG12：Bournmouth University(UK)

SDG16：Universiti Sains Malaysia(Malaysia)

SDG17：University of Technology Sydney(Australia)

となっており、イギリスのボーンマス大学は本学協定校でもあるため、今後の交流やヒアリングの実施も視野に入れたい。

・東アジアでは韓国がホットスポットとなっているため、韓国の協定校へのヒアリングも実施することで、本学に活かせる点を見つけられるのではないか。



引用元：THE Impact Ranking 2024 Webサイト

12

Times Higher Education
Impact Rankings 2024

別添. SDG一覧



添付1-4

TOYO UNIVERSITY
International SDGs Ambassadors

WELCOMING SESSION

April 23, 2024, 14:00-14:30

1. Welcome remarks by Prof. Etsuko Yaguchi
   President, Toyo University

2. Welcome remarks by Prof. Toshiya Aramaki
   Vice President, Toyo University

3. Welcome remarks by Prof. Ryo Matsumaru
   Dean, the Faculty of Global and Regional Studies

4. Welcome remarks by Prof. Shinobu Yamaguchi
   Dean, the Faculty of Letters

5. SDGs Ambassadors Self-Introduction

6. Awarding of SDGs Ambassador's Certificate

7. Introduction of attendees and casual conversation

8. Photo Shooting Session

After the Welcoming Session, there will be brief communications from the President's Office, the International Office, Educational Affairs Section, and the Student Affairs Office.

SDGs Ambassadors

Ms. Nguyen Hanh Nguyen (the Faculty of Global and Reginal Studies, Vietnam)
Ms. Wint Wadi Hlaing (the Faculty of Letters, Myanmar)

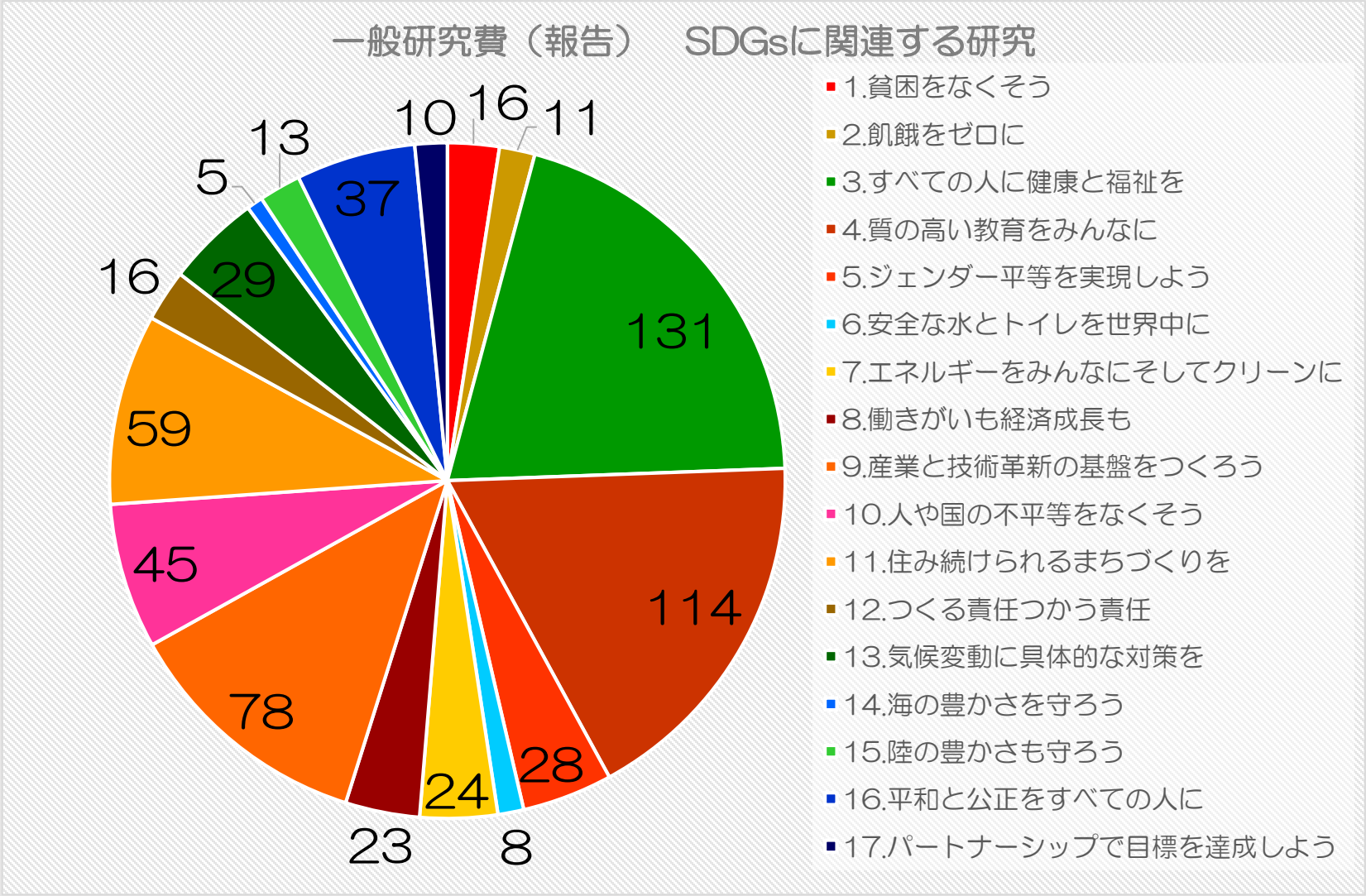
2023年度一般研究報告における SDGs関連研究

SDGs推進委員会

東洋大学 | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1. SDGsに関連する研究テーマ

計647件／ 回答教員数=609名（ 昨年：608件 ）



▶ 17項目すべての研究がある。

▶主要分野: SDG 3 (131件), SDG 4 (114件)

中程度の分野: SDG 9 (78件), SDG 11 (59件), SDG 10 (45件)

少ない分野: SDG 12 (16件), SDG 6 (5件)

※研究報告ではSDG項目を2つのみ選ぶことになっているため、研究計画時（17項目を複数選択）より全体の回答数は少なくなる。

※2023年度一般研究 研究報告書に基づく集計（新任教員を除く）

2. SDG項目ランキング

	2023年度　一般研究（報告）		
	順位	SDGs項目	件数
	1st	3.すべての人に健康と福祉を	131
	2nd	4.質の高い教育をみんなに	114
	3rd	9.産業と技術革新の基盤をつくろう	78
	4th	11.住み続けられるまちづくりを	59
	5th	10.人や国の不平等をなくそう	45
	6th	16.平和と公正をすべての人に	37
1↗	7th	13.気候変動に具体的な対策を	29
2↗	8th	5.ジェンダー平等を実現しよう	28
	9th	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに	24
3↘	10th	8.働きがいも経済成長も	23
1↗	11th	1.貧困をなくそう	16
1↘	12th	12.つくる責任つかう責任	16
	13th	15.陸の豊かさも守ろう	13
1↗	14th	2.飢餓をゼロに	11
2↗	15th	17.パートナーシップで目標を達成しよう	10
2↘	16th	6.安全な水とトイレを世界中に	8
1↘	17th	14.海の豊かさを守ろう	5

2022年度　一般研究（報告）		
順位	SDGs項目	件数
1st	3.すべての人に健康と福祉を	105
2nd	4.質の高い教育をみんなに	96
3rd	9.産業と技術革新の基盤をつくろう	79
4th	11.住み続けられるまちづくりを	58
5th	10.人や国の不平等をなくそう	43
6th	16.平和と公正をすべての人に	34
7th	8.働きがいも経済成長も	30
8th	13.気候変動に具体的な対策を	30
9th	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに	29
10th	5.ジェンダー平等を実現しよう	27
11th	12.つくる責任つかう責任	15
12th	1.貧困をなくそう	14
13th	15.陸の豊かさも守ろう	13
14th	6.安全な水とトイレを世界中に	10
15th	2.飢餓をゼロに	9
16th	14.海の豊かさを守ろう	9
17th	17.パートナーシップで目標を達成しよう	7

上位3目標は

健康と福祉　**教育**　**産業と技術革新**

▶ SDG 3. すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

▶ SDG 4. 質の高い教育をみんなに

全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

▶ SDG 9 産業と技術革新の基盤を作ろう

強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

※下位の目標は教員数等により、順位変動が多い。（件数自体はそこまで変化なし）

※Impact Rankingエントリー項目

3. 学部別上位2項目

※Impact Ranking2024エントリー科目

学部等	1.貧困	2.飢餓	3.健康と福祉	4.教育	5.ジェンダー	6.水質環境	7.エネルギー	8.経済成長	9.産業と技術革新	10.平等	11.まちづくり	12.つくる責任	13.気候変動	14.海を守ろう	15.陸を守ろう	16.平和と公正	17.パートナーシップ	SDG合計	教員数
文	0	1	**4**	**25**	**4**	0	0	1	1	3	0	1	1	0	3	**4**	1	49	86
経済	4	1	**6**	1	3	1	2	**7**	5	2	3	1	3	1	1	3	0	44	65
経営	0	1	1	**6**	0	1	1	1	**3**	**3**	1	0	**3**	0	2	**3**	1	27	22
法	0	0	5	**7**	0	0	2	2	2	**7**	2	0	3	0	0	**11**	2	43	54
社会	2	0	**10**	7	9	0	1	2	1	**13**	6	0	0	0	0	7	2	60	43
国際	1	0	2	**7**	3	0	3	0	5	2	**10**	1	4	1	0	3	1	43	29
国際観光	0	0	3	**6**	1	0	0	5	2	2	**8**	2	2	0	1	2	1	35	25
理工	0	0	**4**	**4**	0	0	1	1	**10**	0	**4**	0	0	0	0	0	0	24	16
総合情報	1	1	**18**	7	0	3	9	1	**31**	1	11	6	5	1	3	0	0	98	60
生命科	0	4	**8**	4	1	3	4	0	**5**	0	0	1	1	2	2	0	0	35	29
食環境科	0	3	**14**	**4**	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	1	0	1	27	20
福祉社会	7	0	**30**	12	5	0	0	2	3	7	**13**	2	0	0	0	2	1	84	67
健スポ	0	0	**21**	**8**	0	0	0	0	1	3	0	0	2	0	0	1	0	36	46
情報連携	0	0	4	**7**	0	0	1	1	**7**	0	1	1	4	0	0	1	0	27	35
大学院等	1	0	1	**9**	**2**	0	0	0	0	**2**	0	0	0	0	0	0	0	15	12
合計	16	11	**131**	**114**	28	8	24	23	78	45	59	16	29	5	13	37	10	647	609

4. SDG項目別上位2学部

※Impact Ranking2023エントリー科目

学部等	1.貧困	2.飢餓	3.健康と福祉	4.教育	5.ジェンダー	6.水質環境	7.エネルギー	8.経済成長	9.産業と技術革新	10.平等	11.まちづくり	12.つくる責任	13.気候変動	14.海を守ろう	15.陸を守ろう	16.平和と公正	17.パートナーシップ	SDG合計	教員数
文	0	1	4	**25**	4	0	0	1	1	3	0	1	1	0	**3**	4	1	49	86
経済	**4**	1	6	1	3	1	2	**7**	5	2	3	1	3	**1**	1	3	0	44	65
経営	0	1	1	6	0	1	1	1	3	3	1	0	3	0	2	3	1	27	22
法	0	0	5	7	0	0	2	2	2	**7**	2	0	3	0	0	**11**	**2**	43	54
社会	2	0	10	7	**9**	0	1	2	1	**13**	6	0	0	0	0	**7**	**2**	60	43
国際	1	0	2	7	3	0	3	0	5	2	10	1	**4**	**1**	0	3	1	43	29
国際観光	0	0	3	6	1	0	0	**5**	2	2	8	2	2	0	1	2	1	35	25
理工	0	0	4	4	0	0	1	1	**10**	0	4	0	0	0	0	0	0	24	16
総合情報	1	1	18	7	0	**3**	**9**	1	**31**	1	**11**	**6**	**5**	**1**	**3**	0	0	**98**	60
生命科	0	**4**	8	4	1	**3**	**4**	0	5	0	0	1	1	**2**	2	0	0	35	29
食環境科	0	**3**	14	4	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	1	0	1	27	20
福祉社会	**7**	0	**30**	**12**	**5**	0	0	2	3	**7**	**13**	**2**	0	0	0	2	1	**84**	67
健スポ	0	0	**21**	8	0	0	0	0	1	3	0	0	2	0	0	1	0	36	46
情報連携	0	0	4	7	0	0	1	1	7	0	1	1	**4**	0	0	1	0	27	35
大学院等	1	0	1	9	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	15	12
合計	16	11	131	114	28	8	24	23	78	45	59	16	29	5	13	37	10	647	609

添付2-2

2024 年 6 月 12 日
SDGs 推進委員会

関彰商事株式会社との SDGs 達成に向けた連携協力に関する協定の締結について

１．協定の概要

ＳＤＧｓ達成に向け連携することで、社会課題の解決に寄与する教育/研究/社会貢献活動を推進する

２．協定締結日

2024 年7月 12 日（金）
※同日 14:00～15:00 に締結式を白山キャンパスにて挙行予定
出席予定者：関彰商事株式会社 代表取締役社長　関 正樹　　他
東洋大学 学長　矢口 悦子、SDGs 推進センター長　金子 律子　　他

３．本協定により期待されること

◎ ＳＤＧｓ達成に資する教育/研究/社会貢献活動の実践フィールドの拡大
◎ 企業と連携したＳＤＧｓ活動による学生への教育効果

４．背景

◎ 関彰商事所属の山口凌河選手（ゴールボール）が東洋大学の卒業生であることから、これまでにも大学の各種行事において協力いただいていたが、2023 年度に SDGs 推進センターによるＤ＆Ｉをテーマとしたシンポジウムに登壇いただいたことをきっかけとして、ＳＤＧｓ領域での継続的な連携の可能性の協議へと発展した。
◎ 両者ともに、ＳＤＧｓ達成に向けた「宣言」「憲章」を制定し、活動を推進している（添付資料②）

５．具体的な取り組み

◎ 関彰商事から東洋大学へＳＤＧｓやＤ＆Ｉ領域における学生の活動フィールドの提供
- 留学生のインターンシップの受け入れ（日本企業での就業体験）
- 障がい学生のインターンシップの受け入れ
- SDGs アンバサダーの活動フィールド

◎ 東洋大学から関彰商事へ、大学の持つ学術的・専門的な知見の提供
◎ 今後もＳＤＧｓ達成に向けて情報交換を継続し、連携した取り組みを実施していく

６．添付資料

① 関彰商事株式会社と東洋大学とのＳＤＧｓ達成に向けた連携協力に関する協定書（案）
②「学校法人東洋大学ＳＤＧｓ行動憲章」及び「セキショウグループＳＤＧｓ宣言」

学校法人東洋大学 SDGs 行動憲章

学校法人東洋大学および東洋大学（以下「本学」と総称する。）は、SDGs の理念に賛同し、ここに行動憲章を制定します。

本学は、哲学者・井上円了によって 1887 年に創立された「私立哲学館」を前身としています。そこは、物事の本質に迫って深く考えることで得られた知見を惜しみなく活動へと移し、人々のために奮闘することの重要性を学ぶ場でありました。その志は「諸学の基礎は哲学にあり」として、「独立自活」「知徳兼全」と共に、本学の建学の精神として息づいています。創立直後より「余資なく優暇なき」人々のための教育機会を提供した歴史をもち、現在、日本最大級の第 2 部・イブニングコースを有する大学となっています。さらには、井上円了が生涯学習の先駆者として、人々のために実施した 5,291 回に及ぶ講演は、全国各地に講師を派遣する社会貢献事業へと継承されています。本学におけるジェンダー平等を含めた多様性を受容するダイバーシティの端緒は、1916 年に私立大学初となる女子学生を受け入れたことに見いだされます。その後、国際化推進による留学生受け入れの増大などを経ながら、今日では多様な学生・教職員が集うキャンパスとなっています。

本学の学生・教職員、関係者一同は、130 年以上の歴史の中で培われてきた伝統を正しく継承し、粛々と地球社会の明るい未来づくりに貢献し、SDGs の目標達成のために多様な人々と活動の中で奮闘します。

本学の学生・教職員、関係者一同は、学校法人東洋大学 SDGs 行動憲章に基づき以下の 5 つの行動をします。

（教育） 主体的に行動する人の育成

変化の激しい現代社会において、多様な価値を理解するとともに、自己の哲学を持ち、物事の本質について論理的・体系的に深く考え、主体的に社会の課題に取り組み他者のために奮闘する人材となるよう学びます。

（研究） 新しい価値創造と研究成果の社会への還元

共存共栄の世界を創るための価値創造を果たすため、研究機関として多面的な知を結集し、広範かつ重層的な研究を展開し、多様で複雑な課題を解決する力となります。

（社会・国際貢献） 繋がりと知の共有による社会・国際貢献

地球社会の一員として多くの人と繋がり、知を共有するとともに、一人ひとりがリーダーシップを発揮し、目の前の課題を提示し解決するために挑戦し続けます。

（環境貢献） 持続可能な地球環境の実現

持続可能な地球環境を実現するため、環境負荷低減のための諸施策に主体的に取り組みます。

（ダイバーシティ＆インクルージョン） 多様性に価値を置く多文化共生社会の実現

あらゆる人の人格と人権を尊重するという視点に立ち、様々な違いを受容し、差別のない多文化共生社会の実現に貢献します。

2021 年 6 月 6 日
学校法人東洋大学 理事長　安齋　隆
東洋大学 学長　矢口 悦子

セキショウグループ SDGs宣言

私たちは「次世代に健全な社会を繋ぐこと」が目指すべき未来と捉えて、
国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」と想いを重ね、
その達成に向けた取り組みを行うことを宣言します。



TOYO UNIVERSITY
International SDGs Ambassadors

WELCOMING SESSION

September 18, 2024, 15:00-15:30

1. Welcome remarks by Prof. Etsuko Yaguchi
   President, Toyo University

2. Welcome remarks by Prof. Ritsuko Kaneko
   Vice President, Toyo University

3. Welcome remarks by Prof. Yuko Kobayakawa
   Deputy Director of the Center for Global Education and Exchange

4. Welcome remarks by Prof. Ryo Matsumaru
   Dean, the Faculty of Global and Regional Studies

5. SDGs Ambassadors Self-Introduction

6. Awarding of SDGs Ambassador's Certificate

7. Introduction of attendees and casual conversation

8. Photo Shooting Session

SDGs Ambassadors

Mr. Tran The Khang (Vietnam)
Mr. Truong Triet Minh (Vietnam)
Mr. Usmanov Farrukhbek (Uzbekistan)

添付3-1

埼玉ＡＬＬＹ大学ネットワーク

現状・課題

＜令和2年度埼玉県 多様性を尊重する共生社会づくりに関する調査より＞

- カミングアウトした時期が１９～２９歳の割合が多い
- 他の世代に比べて１０代後半から２０代は性の多様性に理解がある
- 性の多様性に関する取組内容は大学によって異なっている

必要な取組

- 性の多様性に関する取組が先進的な大学の情報共有
- これからの性の多様性を尊重した社会で活躍できる学生への情報発信

（例）アライの大学生の居場所づくり、性の多様性に関するカリキュラムの提供

学校の設置者と連携し、必要な施策を講ずる　条例第１２条第2項

埼玉ＡＬＬＹ大学ネットワーク

県内どこの大学に通っても、全ての学生・職員の
性の多様性が尊重され、安心できる環境を実現



今後のスケジュール（予定）

2024年度

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
準備会①		準備会②	ネットワーク立ち上げ	・大学調査 ・セミナー			大学調査結果共有	

埼玉県性の多様性を尊重した社会づくり事業

「埼玉県性の多様性を尊重した社会づくり条例」の基本理念を踏まえ
①「性の多様性に関する理解の増進」
②「相談体制の整備」
③「暮らしやすい環境づくり」
を三本柱として様々な取組を行っています

理解増進

性の多様性についての正しい理解が進むよう、県民向け・企業向けに啓発を行う。

①にじいろ県民講座
（動画配信）

②にじいろ企業研修
基礎編：動画配信
実践編：講師派遣

③ALLY大学ネットワーク

相談体制の整備

性的マイノリティ当事者とその家族や企業からの相談を受ける。

①にじいろ県民相談
（県民向け相談窓口）
・電話
・LINE
・メタバース
※試行版・予定

②にじいろ企業相談
（企業向け相談窓口）
・オンライン
・電話

暮らしやすい環境づくり

性的マイノリティが安心して生活できる環境づくりのための施策を検討し、実施する。

①権利や身分に関する県の制度や手続の見直し

②埼玉県アライチャレンジ企業登録制度

③埼玉県性の多様性施策に係る市町村連携会議

④埼玉県性の多様性に関する施策推進会議

⑤アライによる暮らしやすい環境づくりセミナー

これまでの大学と連携した県の取組

令和４年度は埼玉県立大学、令和５年度は埼玉大学と連携し、アライを増やす取組を行ってきました

埼玉県立大学
令和４年度

3つのグループで実施内容を検討し、
清透祭（学園祭）で取組を行った。

- 性の多様性に関するリーフレットを作成・配布するとともに、スタンプラリーを実施




- 映画「カランコエの花」の上映会を実施し、上映後はグループワークで、登場人物の行動の理由などについて意見交換



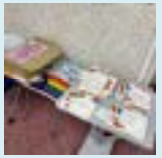

- 啓発資料の配布やポスターの掲示、ショートムービーの上映




埼玉大学
令和５年度

3つのグループで実施内容を検討し、
むつめ祭（学園祭）で取組を行った。

- 性の多様性に関するクイズを日本語・英語・中国語の3か国語で実施

- 性の多様性に関する法令・県条例の解説、県の取組の紹介、Q&Aの展示とともに、絵本・漫画・歌・映像の紹介




- ワークショップを実施し、絵の具の手形で虹の手形を作成




埼玉ＡＬＬＹ大学ネットワーク設置要綱（修正案）

（名称）
第１条　本ネットワークは、埼玉ＡＬＬＹ大学ネットワーク（以下「大学ネットワーク」という。）と称する。

（目的）
第２条　大学ネットワークは、埼玉県内にキャンパスを有する大学・短期大学（以下「大学等」という。）において、性の多様性を尊重した取組を広げ、全ての学生及び職員の性の多様性が尊重され、安心できる環境を実現することを目的とする。

（事業）
第３条　大学ネットワークは、性の多様性を尊重した社会づくりに関する取組のうち次の事業を行うものとする。
（１）大学等間の連携や大学等の取組の課題に関すること。
（２）埼玉県と大学等の連携に関すること。
（３）その他、大学等の取組に関すること。

（組織）
第４条　大学ネットワークは、埼玉県及び大学等をもって構成する。

（委員）
第５条　大学ネットワークは、委員として次の各号に掲げる者を置く。
２　埼玉県は、埼玉県県民生活部人権・男女共同参画課長及び共生推進幹を委員とする。
３　大学等は、性の多様性に関する取組担当者を委員として選任する。
４　委員長は、埼玉県県民生活部人権・男女共同参画課長をもって充てる。
５　委員長に事故があるとき、又は欠けるときは、委員長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。

（委員の職務）
第６条　委員の職務は、次に掲げるものとする。
（１）埼玉県
（ア）大学ネットワークの運営
（イ）大学ネットワーク会議の開催
（ウ）大学等向け性の多様性に関する取組の実施
（エ）その他、必要な取組の実施
（２）大学等
（ア）大学ネットワーク会議への参加
（イ）埼玉県主催の大学等向け性の多様性に関する取組への協力

（ウ）委員の属する大学等における性の多様性に関する取組の働き掛け
（エ）その他、必要な取組への協力

（加入及び脱退）
第７条　大学等が大学ネットワークへ加入又は脱退する場合は、事前に埼玉県へ申し出ることとし、埼玉県は大学等へ加入又は脱退する旨を通知する。

（会議）
第８条　会議は、年１回程度開催する。
２　会議は、委員長が招集し、主宰する。
３　委員は、大学等の職員の中から指名する者を必要に応じて出席させることができる。
４　委員長は必要に応じて、専門的知識を有する者又は関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（会議の公開・非公開）
第９条　会議は、原則、非公開とする。

（事務局）
第１０条　大学ネットワークの事務局は、埼玉県県民生活部人権・男女共同参画課に置く。

（その他）
第１１条　この設置要綱に定めるもののほか、大学ネットワークに必要な事項は事務局が定める。

附　則
この要綱は、令和６年１０月　日から施行する。

「埼玉ＡＬＬＹ大学ネットワーク」　県と大学の役割分担について（案）

１　県の役割

① ネットワークの運営

② 会議の開催

③ 大学等向け性の多様性に関する取組の実施

④ 大学・短期大学への調査

※令和6年度実施、来年度以降は必要に応じて実施

⑤ その他、会議等で提案された取組の実施

２　大学の役割

① 性の多様性に関する取組担当者の選任

人数：1～2名程度

② 会議への出席（各1時間程度）

回数：年1～2回　開催方法：オンライン

議事：各大学の課題、取組の共有等　※議事は、大学・県いずれからも提案可

③ 大学等向け性の多様性に関する取組への協力（任意）

令和6年度：「埼玉県アライによる暮らしやすい環境づくり推進セミナー」

11月21日（木）13:30～16:00　浦和コミュニティセンター　※別添チラシ参照

来年度を見据えたセミナー会場の見学

※希望により、セミナー（第1部：パネルディスカッション・第2部：ワークショップ）への参加も可（別途、要申込）

令和7年度：「埼玉県アライによる暮らしやすい環境づくり推進セミナー」

各大学のパネル展示やブース出展等による紹介（仮）

※展示・出展等に伴う打合せ（オンラインで複数回）実施、他の職員や大学生も参加可

※紹介が難しい場合は、見学等による参加も可

④ 大学・短期大学への調査結果等に基づく、大学内への新たな取組の働き掛け

⑤ その他、会議等で提案された取組に対する協力

添付3-2

2024年度Toyo SDGs Weeks〈2024/10/14～11/10〉の実施状況について

2024年10月9日
SDGs推進委員会

	日程		会場	実施組織	対象	企画	参加人数等（報告）	
	プレ期間〈～2024/10/14〉							
2	10月2日	水	・白山キャンパス、赤羽台キャンパス、川越キャンパス、朝霞キャンパス	社会貢献センター	◑ 2.学内者限定	(募金活動) 能登半島豪雨災害救援募金	-	名
3	10月3日	木	Web投稿　ボランティア支援室（啓蒙活動）	SDGsアンバサダー（社会貢献センター）	● 1.誰でも	(学外イベントへの参加) おにぎりアクション-おにぎりで世界を変える-	1472	名
4	10月9日	水	白山キャンパス６号館１階	Smile F LAOS（SDGs団体アンバサダー　社会貢献センター協力）	● 1.誰でも	(フェアトレードコーヒーを販売) フェアトレードの普及促進を目的としたラオス産オリジナルコーヒーの販売	-	名
5	10月10日	木	東洋大学赤羽台図書館１Ｆ	東洋大学赤羽台図書館	○ 2.学内者限定	(展示) 展示「ＳＤＧｓってなんだ？」	-	名
6	10月11日	金	石川県輪島市　重蔵神社付近	社会貢献センター	○ 2.学内者限定	(災害ボランティア) 能登半島豪雨災害ボランティア	-	名
	Toyo SDGs Weeks〈2024/10/14～11/10〉							
7	10月17日	木	赤羽台 20208教室・オンライン	社会貢献センター	◑ 2.学内者限定	(公開講座) 公開授業「私たち学生だからこそできること、里親制度や子どもたちとの関わり」	53	名
8	10月19日	土	東洋大学朝霞キャンパス	東洋大学京北中学校	◔ 3.特定の所属限定	(ワークショップ) 東洋大学京北中学校　未来の科学者育成プロジェクト　朝霞キャンパスでの実験	32	名
	10月19日	土	対面開催　赤羽台キャンパス（WELLB）20201教室	国際教育センター	◑ 2.学内者限定	(ワークショップ) TGLキャンプ「体験しよう！ホワイトハンドコーラス」	29	名
	10月19日	土	井上円了ホール	SDGs推進センター	● 1.誰でも	(シンポジウム) SDGsシンポジウム「スポーツとSDGs～パリ大会の事例から今私たちにできること～」	266	名
	10月26日	土	朝霞キャンパス2101教室	生命科学部、朝霞事務課	● 1.誰でも	(公開講座) 東洋大学公開講座2024　種の中をのぞいてみよう	17	名
9	10月28日	月	オンライン開催	バイオレジリエンス研究プロジェクト（東洋大学　重点	○ 4.	(学生の研究成果発表) バイオレジリエンス研究プロジェクト（BRRP）学生研究発表会	109	名
10	11月2日	土	白山キャンパス（大学祭期間中に開催）	Smile F LAOS（SDGs団体アンバサダー　社会貢献センター協力）	○ 1.誰でも	(フェアトレードコーヒーを販売) フェアトレードの普及促進を目的としたラオス産オリジナルコーヒーの販売	-	名
11	11月2日	土	赤羽台キャンパス	SDGsアンバサダー（社会貢献センター）	○ 1.誰でも	(本の回収事業) 本回収「本回収から子どもたちに笑顔を」	-	名
12	11月2日	土	朝霞キャンパス	生命科学部	○ 1.誰でも	(展示会) タコクルの朝霞市との連携による地域活動に関する大学祭での展示紹介	160	名
13	11月9日	土	対面　白山キャンパス　教室未定	国際教育センター	○ 2.学内者限定	(ワークショップ) TGLキャンプ「依頼のジオパークを考える−自然と文化をつなぐ」	10	名
14	11月10日	日	東洋大学総合スポーツセンター	国際課／国際教育センター	○ 2.学内者限定	(スポーツイベント) 国際教育センター運動会	115	名
	ポスト期間〈2024/11/11～〉							
15	11月12日	火	赤羽台図書館セミナー室	赤羽台図書館	○ 4.①東洋大学の在学生・教職員、そのご家族　②山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム加盟大学の在学生　③北区在住の方	(映画本編の上映および監督によるトークイベント) 映画上映会『1/10 Fukushimaをきいてみる2023』	35	名
16	11月13日	水	オンライン開催	国際共生社会研究センター	○ 1.誰でも	(ワークショップ) 第2回CeSDeS Open Seminar On SDGs "PERSPECVITES FOR SMART URBAN SOLUTION	100	名
17	11月14日	木	赤羽台キャンパス　ボランティア支援室分室	社会貢献センター	○ 2.学内者限定	(ワークショップ) SDGsカフェ「～「ワークショップで学ぶＳＤＧｓの概念理解」編～」	23	名
18	11月14日	木	6401教室	文学部 国際文化コミュニケーション学科	○ 1.誰でも	(講座) 講演会「地球温暖化対策と脱炭素社会 - 日本の現状と課題」	14	名
19	11月16日	土	125記念ホール（対面/オンライン併用）	ＩＲ室	● 1.誰でも	(シンポジウム) 2024年度IRシンポジウム「学生のキャリア形成に、大学教育はどうあるべきか」	131	名
20	11月19日	火	ECZ（白山キャンパス8号館1階）	国際教育センター	◑ 2.学内者限定	(ワークショップ) SDGs x ECZイベント「Business & Int'l relations」	21	名
21	11月19日	火	赤羽台キャンパス HELSPOホール	社会貢献センター	◑ 2.学内者限定	(公開講座) 公開授業「学習支援教室が果たす地域子ども支援と子育て支援の役割」	256	名
22	11月23日	土	朝霞キャンパス2101教室	食環境科学部、朝霞事務課	○ 1.誰でも	(公開講座) 東洋大学公開講座　フードデータサイエンスって何？	-	名
23	11月26日	火	川越キャンパス及びWeb配信	社会貢献センター	○ 2.学内者限定	(公開講座) 公開授業「企業と人権」	77	名
24	12月20日	金	オンライン＆対面（白山キャンパス1号館5階1503教	国際共生社会研究センター	● 1.誰でも	(ワークショップ) 第4回 CeSDeS Open Seminar On SDGs：「ロヒンギャの人々の教育−バングラデシュの難民キャンプと館林	100	名
						（※2021年度 26企画 2,775名）		
						（※2022年度 36企画 4,110名）		
						（※2023年度 33企画 4,190名）	延べ参加者数 3,020	名

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
貧困をなくそう	飢餓をゼロに	健康と福祉	質の高い教育	ジェンダー平等	安全な水とトイレ	エネルギー	働きがい/経済成長	産業と技術革新	人や国の不平等	まちづくり	つくる/つかう	気候変動	海の豊かさ	陸の豊かさ	平和と公正	パートナーシップ	ALL
		健康と福祉								まちづくり						パートナーシップ	
貧困をなくそう	飢餓をゼロに															パートナーシップ	
貧困をなくそう											つくる/つかう			陸の豊かさ			
																	ALL
		健康と福祉								まちづくり							
貧困をなくそう		健康と福祉															
		健康と福祉	質の高い教育			エネルギー		産業と技術革新			つくる/つかう	気候変動	海の豊かさ	陸の豊かさ			
		健康と福祉							人や国の不平等								
		健康と福祉		ジェンダー平等	安全な水とトイレ	エネルギー			人や国の不平等		つくる/つかう	気候変動	海の豊かさ	陸の豊かさ	平和と公正	パートナーシップ	
			質の高い教育														
		健康と福祉			安全な水とトイレ	エネルギー		産業と技術革新			つくる/つかう	気候変動	海の豊かさ	陸の豊かさ			
貧困をなくそう											つくる/つかう			陸の豊かさ			
貧困をなくそう		健康と福祉															
			質の高い教育		安全な水とトイレ					まちづくり	つくる/つかう			陸の豊かさ			
													海の豊かさ	陸の豊かさ			
		健康と福祉													平和と公正		
										まちづくり							
										まちづくり						パートナーシップ	
			質の高い教育													パートナーシップ	
						エネルギー						気候変動					
			質の高い教育														
							働きがい/経済成長	産業と技術革新									
貧困をなくそう		健康と福祉	質の高い教育														
			質の高い教育														
							働きがい/経済成長				つくる/つかう						
貧困をなくそう			質の高い教育	ジェンダー平等											平和と公正		
7件	1件	10件	8件	2件	3件	4件	2件	3件	2件	5件	7件	4件	4件	7件	3件	5件	1件
貧困をなくそう	飢餓をゼロに	健康と福祉	質の高い教育	ジェンダー平等	安全な水とトイレ	エネルギー	働きがい/経済成長	産業と技術革新	人や国の不平等	まちづくり	つくる/つかう	気候変動	海の豊かさ	陸の豊かさ	平和と公正	パートナーシップ	ALL

添付3-3

第３回文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会プログラム

日時・会場

日時：令和６年11月15日（金） 15:00～18:30（14:30 開場・受付開始）
会場：文京シビックセンター26階 スカイホール

次第

14:30 ～　開場・受付開始

～　開　会　～

◆ 司会進行：日本薬科大学　学長　都築 稔 氏

15:00 ～　開会あいさつ
15:05 ～　文京区長挨拶
15:10 ～　大学・企業紹介

～ 文京区内各大学と大学生協のサステナビリティ関連取組紹介 ～

15:15 ～　東京大学（学生）
15:30 ～　日本女子大学（学生）
15:45 ～　お茶の水女子大学（学生）
16:00 ～　東京大学消費生活協同組合
16:15 ～　日本薬科大学

16:20 ～　休憩（10分）

16:30 ～　中央大学
16:45 ～　東京大学
17:00 ～　文京学院大学
17:15 ～　文京区

～ 各団体・企業より感想・講評など ～

17:25 ～感想・講評（大学14団体＋企業５団体：各２分程度）
18:00 ～交流・意見交換
18:30 閉会

傍聴団体・事業者

＜大学関係＞
跡見学園女子大学、順天堂大学、東洋大学、日本医科大学、放送大学東京文京学習センター、東洋大学生活協同組合
＜事業者＞
株式会社東京ドーム、藤田観光株式会社ホテル椿山荘東京、東京ガス株式会社、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社、オタフクソース㈱

添付3-4

2024 年度東洋大学 SDGs シンポジウム企画（案）

▶ タイトル

東洋大学 SDGs 推進センター シンポジウム
『スポーツと SDGs – パリ大会の事例から今わたしたちにできること』

▶ 概　要

コンセプト：　パリ大会は、史上最もサステイナブルな大会運営を目指す大会として、世界中から注目を集めている。その影響もあり、日本の他大学でも「スポーツ×SDGs」の取り組みがますます顕著になってきている。この流れを受けて、本学でもパリ大会の事例を参考に、「スポーツを通じて持続可能な社会づくり」に貢献するため、今できることを考える機会とする。

開 催 日　：　2024 年 10 月 19 日（土）10:00～12:15
※Toyo SDGs Weeks：2024 年 10 月 14 日(月)～11 月 10 日(日)の 4 週間

開催方法　：　ハイブリッド
撮影・配信は外部スタッフを手配

配信会場　：　東洋大学 白山キャンパス「井上円了ホール（キャパ：700 名）」

▶ 内 容（3 時間）

1．学長挨拶（10:00～10:05　5分間）
東洋大学 学長　矢口悦子

2．東洋大学 SDGs 推進センター長挨拶・趣旨説明（10:05～10:10　5 分間）
東洋大学 SDGs 推進センター センター長　金子律子

3．特別講演（10:10～10:40　30 分間）
本学オリンピックアスリート　総合情報学研究科 鏡　優翔　（30 分間）

● **休憩/時間調整**（10:40～10:45　5分間）

4．活動報告（10:45～11:25　40 分間）
①東洋大学 学生　オリパラパリ大会アスリート（15 分間）
パラ水泳日本代表・福祉社会デザイン学部社会福祉学科 2 年 田中映伍さん
一般社団法人日本パラ水泳連盟　岸本太一様
②健康スポーツ科学部の取組　健康スポーツ科学部長　齊藤恭平（15 分間）
③東洋大学 SDGs アンバサダー パラスポーツ体験会（10 分間）

● **会場転換・休憩/時間調整**（11:25～11:30　5 分間）

５．パネルディスカッション（11:30～12:00　30 分間）

＜登壇者＞

進　行　　：荒巻俊也（SDGs 推進センター　副センター長）

パネリスト：これまでにご登壇の５名、株式会社進研アド 柴田聡子様

６．質疑応答（12:00～12:10　10 分）

Web フォームにて受付、司会による代読により実施

７．総括（12:10～12:15　５分間）

金子律子センター長によるシンポジウム全体の総括・講評

添付3-5

2024年12月11日
SDGs推進委員会

Times Higher Education
Impact Rankings2025
エントリー報告資料

東洋大学　学長室



Times Higher Education Impact Rankings 2024 2024のエントリー

▶ 目標「2」「3」「6」「12」「14」「16」および 必須項目の「17」においてエビデンスを提出した。

▶ そのうち「2」「12」「16」および 必須項目の「17」が評価対象となった。（昨年度は「6」「12」「16」）

	エントリー項目（3つ以上を選択）							必須項目
	○	×	×	○	×	○		
SDG								
	SDG2 飢餓をゼロに	SDG3 すべての人に健康と福祉を	SDG6 安全な水とトイレを世界中に	SDG12 つくる責任つかう責任	SDG14 海の豊かさを守ろう	SDG16 平和と公正をすべての人に	＋	SDG17 パートナーシップで目標を達成しよう
設問	1.飢餓に関する研究 2.キャンパス内の食品の無駄 3.学生の飢餓 4.持続可能性の観点を含む農業、水産養殖業を専門とする卒業生の割合 5.国家的飢餓	1.健康と福祉に関する研究 2.医療専門科の卒業生 3.協働および公共医療サービス	1.水に関する研究 2.一人当たりの水消費量 3.水の利用およびケア 4.水の再利用 5.コミュニティー内の水	1.責任ある消費と生産に関する研究 2.運用（法令等）面での対策 3.リサイクルされた廃棄物の割合 4.持続可能報告書の公表	1.水の中の生命に関する研究 2.教育を通じての水中生態系の支援 3.行動を通じての水中生態系の支援 4.水に配慮した廃棄物処理 5.地元生態系の維持	1.平和と正義の研究 2.大学のガバナンス施策 3.行政との連携 4.法と民事執行分野の卒業生の割合		1.目標達成のためのパートナーシップの研究 2.目標を支えるための関係性 3.SDG報告書の発行 4.SDGsのための教育

Times Higher Education Impact Rankings 2024 2025エントリー項目（案）



色付きの項目にエントリー（赤枠は新規エントリー項目）

Times Higher Education Impact Rankings 2024 2025のエントリー

▶ 目標「2」「6」「10」「12」「13」「16」および 必須項目の「17」においてエビデンスを提出する。

▶ そのうち「10」「13」が新規エントリー項目となる。

	エントリー項目（3つ以上を選択）							必須項目
SDG								
	SDG2 飢餓をゼロに	SDG6 安全な水とトイレを世界中に	SDG10 人や国の不平等をなくそう	SDG12 つくる責任つかう責任	SDG13 気候変動に具体的な対策を	SDG16 平和と公正をすべての人に		SDG17 パートナーシップで目標を達成しよう
設問	1.飢餓に関する研究 2.キャンパス内の食品の無駄 3.学生の飢餓 4.持続可能性の観点を含む農業、水産養殖業を含む卒業生の割合 5.国家的飢餓	1.水に関する研究 2.一人当たりの水消費量 3.水の利用およびケア 4.水の再利用 5.コミュニティー内の水	1.不平等の削減に関する研究 2.第一世代の学生 3.発展途上国からの学生 4.障害を持つ学生の割合 5.障害を持つ職員の割合 6.差別禁止措置	1.責任ある消費と生産に関する研究 2.運用（法令等）面での対策 3.リサイクルされた廃棄物の割合 4.持続可能報告書の公表	1.気候変動に関する研究 2.低炭素エネルギーの使用 3.環境教育の措置 4.カーボンニュートラルな大学にするコミットメント	1.平和と正義の研究 2.大学のガバナンス施策 3.行政との連携 4.法と民事執行分野の卒業生の割合	＋	1.目標達成のためのパートナーシップの研究 2.目標を支えるための関係性 3.SDG報告書の発行 4.SDGsのための教育

Times Higher Education Impact Rankings 2024 2025のエントリー



▶ 2-2 キャンパス内の食品の無駄　△
全キャンパスの食品廃棄物の総量：57(t)（前年度：18.76）
全キャンパス総人口数：32,165人

▶ 2-3 学生の飢餓　〇
Hands to Handsやハラールのイベント、学食について記載。

▶ 2-4 持続可能性の側面を含む農業及び水産養殖の卒業生の割合　△
対象学部・研究科：生命科学部・食環境科学部・生命科学研究科

▶ 2-5 国民の飢餓　〇
産官学連携推進センターや工業技術研究所の「越生梅林エスティ」について記載。
各キャンパスで地元の食材の利用についての記載が不足。

Times Higher Education Impact Rankings 2024 2025のエントリー



▶ 6-2 1人当たりの水の使用量　〇
全キャンパスの水の使用量：172,271㎥
全キャンパス総人口数：32,165人

▶ 6-3 水の使用と手入れ　◎
詳細は以下のリンクより。
https://www.toyo.ac.jp/news/20230401sdg6.html#03

▶ 6-4 水の再利用　△
SDGs行動憲章について記載。

▶ 6-5 コミュニティの水　〇
水関係の共同研究や保養所の温泉について記載。

Times Higher Education Impact Rankings 2024 2025のエントリー



▶ 10-2 第一世代の学生数　×
1,115名／7,982名（14%）
地方出身者にはまだ第一世代の学生が一定数いることが分かり、先進国の第一世代の学生数は10～30%を近年推移していることから、新入生の14%を該当とした。

▶ 10-3 発展途上国からの学生数　×
228名／29,693.9名（0.77%）

▶ 10-4 障害を持つ学生の割合　×
214名／29693.9名（0.72%）

▶ 10-5 障害を持つ職員の割合　×
20名／696名（2.87%）

▶ 10-6 差別禁止措置　〇
学生支援課の協力の元、バリアフリー支援室や
障害者学生支援のしおりなどをエビデンスとして提出

Times Higher Education Impact Rankings 2024 2025のエントリー



▶ 12-2 運用面での対策　○
研究倫理やSDGs行動憲章、レジ袋有料化や食品衛生法について記載。

▶ 12-3 リサイクルされた廃棄物の割合　×
発生した廃棄物量(t)　　：832（前年度：426）95%増加
リサイクル量(t)　　：260（前年度：218）19%増加
埋め立てされた廃棄物量(t)：572（前年度：208）175%増加

▶ 12-4 持続可能性報告書の公表　◎
SDGs活動報告書について記載。

8

Times Higher Education Impact Rankings 2024 2025のエントリー



▶ 13-2 低炭素エネルギー利用　×
29(GJ)／263,799(GJ)（0.01%）

▶ 13-3 環境教育施策　△
本学HP内「気候変動に具体的な対策を」のページや、
カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリションについて
記載。

▶ 13-4カーボンニュートラル大学への取り組み　×
記載できるものなし。
温室効果ガスプロトコルに基づく、
カーボンニュートラルを達成する目標年を持っていない。

Times Higher Education Impact Rankings 2024 2025のエントリー



▶ 16-2 大学のガバナンス施策　◎
例年通りのエビデンスを更新し、提出。
地域のステークホルダーとの関わりについては北区との包括協定や荒川区との産官学連携事業について記載。

▶ 16-3 行政との連携　◎
例年通りのエビデンスを更新し、提出。
政府機関との連携について、JICAとの連携による事例を記載。

▶ 16-4 法と民事執行分野の卒業生の割合　△
例年通りのエビデンスを更新し、提出。

Times Higher Education Impact Rankings 2024 2025のエントリー



▶ 17-2 目標を支えるための関係性　◎
例年通りのエビデンスを更新し、提出。
SDGsへの取り組みに関する国際的なベストプラクティスについて、
国連CoE 地方政府PPPセンターを記載。

▶ 17-3 SDGs報告書の発行　◎
例年通りSDGs活動報告書について記載。

▶ 17-4 SDGsのための教育　◎
例年通りのエビデンスを更新し、提出。

添付4-1

2025 年 3 月 12 日

東洋大学 SDGs 推進センター長

金子　律子　殿

社会貢献センター長

高　山　直　樹

【 公 印 省 略 】

2025 年度　東洋大学 SDGs アンバサダーの推薦について

2025 年度東洋大学 SDGs アンバサダー につきまして、2025 年 3 月 11 日開催のボランティア支援室運営員会において承認されましたので、「東洋大学 SDGs アンバサダー制度に関する要項」第 2 条第 3 項に基づき、下記の通り推薦いたします。

記

1. 個人:被推薦者 人数 41 名(継続)

団体:被推薦団体 団体数 5 団体(継続:2 団体、新規:3 団体)

2. 被推薦者名簿

別紙の通り

3. 添付資料

・2025 年度「東洋大学 SDGs アンバサダー」名簿

・東洋大学 SDGs アンバサダー制度に関する要項

以上

2025 年 3 月 12 日

東洋大学 学長
矢口 悦子 殿

東洋大学 SDGs 推進委員会 委員長
金子 律子

2025 年度 東洋大学 SDGs アンバサダー（個人・更新）の推薦について

2025 年度東洋大学 SDGs アンバサダー（個人）につきまして、2024 年度から更新を行う者を 2024 年 3 月 12 日開催の東洋大学 SDGs 推進委員会において適任と認めましたので、下記の通り推薦いたします。

記

１．被推薦者人数　41 名

２．東洋大学 SDGs 推進委員会 開催日
2025 年 3 月 12 日

３．被推薦者名簿
別紙の通り

４．認定期間
2025 年 4 月 1 日　～　2026 年 3 月 31 日

５．添付資料
・2025 年度「東洋大学 SDGs アンバサダー（個人・更新）」名簿
・東洋大学 SDGs アンバサダー制度に関する要項

以上

2025年度東洋大学SDGsアンバサダー（個人）の更新手続きについて

東洋大学SDGs推進委員会
委員長　金子 律子

社会貢献センター長より、下記概要の通り、2023年度東洋大学SDGsアンバサダーから、2025年度への更新を行う者の推薦をいただきました。
「東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項」に基づき、本委員会での議を経て、適任と認められる者を小職より学長へ推薦いたします。

記

1．社会貢献センター推薦日　：　2025年3月12日

2．推薦者人数　：　41名

＜推薦者の所属内訳　※学年は2024年度現在＞

学部	学年					合計
	1年	2年	3年	4年	大学院	
文学部	2	1	1			4
経済学部	1		1			2
経営学部	1	1				2
法学部	2					2
社会学部		3	2	1		6
国際学部	1	1	5			7
国際観光学部						0
情報連携学部				1		1
福祉社会デザイン学部		3	3			6
健康スポーツ科学部	2					2
ライフデザイン学部			2			2
理工学部	1	1				2
総合情報学部	2					2
生命科学部	2		1			3
食環境科学部						0
大学院						0
合　計	14	10	15	2	0	41

3．推薦者名簿　：　別紙の通り

4．認定期間　　：　2025年4月1日　～　2026年3月31日

5．添付資料
- 2025年度「東洋大学 SDGs アンバサダー（個人）」更新者名簿
- 東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項

以　上

2025年度「東洋大学 SDGs アンバサダー（個人）」更新者名簿

NO.	学籍番号	氏名	学部学科	学年
1			文学部教育学科	1年
2			文学部教育学科	1年
3			文学部国際文化コミュニケーション学科	2年
4			経済学部総合政策学科	3年
5			経済学部総合政策学科	1年
6			経営学部　経営学科経営学部　経営学科	1年
7			経営学部部会計ファイナンス学科	2年
8			法学部企業法学科	1年
9			法学部企業法学科	1年
10			社会学部社会学科	2年
11			社会学部社会福祉学科	3年
12			社会学部メディアコミュニケーション学科	3年
13			社会学部国際社会学科	4年
14			社会学部国際社会学科	2年
15			生命科学部生命科学科	1年
16			生命科学部応用生物科学科	3年
17			生命科学部生物資源学科	1年
18			理工学部機械工学科	2年
19			理工学部都市環境デザイン学科	1年
20			ライフデザイン学部人間環境デザイン学科	3年
21			ライフデザイン学部人間環境デザイン学科	3年

22			総合情報学部総合情報学科	1年
23			総合情報学部総合情報学科	1年
24			国際学部国際地域学科	3年
25			国際学部国際地域学科	2年
26			情報連携学部情報連携学科	4年
27			福祉社会デザイン学部社会福祉学科	2年
28			福祉社会デザイン学部社会福祉学科	2年
29			福祉社会デザイン学部社会福祉学科	2年
30			福祉社会デザイン学部　社会福祉学科	1年
31			福祉社会デザイン学部社会福祉学科	1年
32			福祉社会デザイン学部社会福祉学科	1年
33			健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科	1年
34			健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科	1年
35			文学部日本文学文化学科	3年
36			社会学部第2部社会学科	2年
37			国際学部国際地域学科	3年
38			国際学部国際地域学科	3年
39			国際学部国際地域学科	3年
40			国際学部国際地域学科	3年
41			国際学部国際地域学科	1年

東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項（令和3年10月6日要項第155号）

最終改正:令和4年10月1日要項第130号

改正内容:令和4年10月1日要項第130号[令和4年10月1日]

〇東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項

令和3年10月6日要項第155号

改正

令和4年10月1日要項第130号

東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項

（趣旨）

第1条 この要項は、東洋大学SDGs推進センター規程（令和3年7月1日規程第147号）に基づき、東洋大学（以下「本学」という。）のSDGs活動の一層の活性化、充実及び発展を図るために、学校法人東洋大学SDGs行動憲章に賛同し推進する本学の学生個人又は学生団体に対して東洋大学SDGsアンバサダーの称号を付与する制度（以下「アンバサダー制度」という。）に関して必要な事項を定める。

（称号の付与）

第2条 東洋大学SDGsアンバサダー（以下「アンバサダー」という。）の称号を希望する本学の学生個人又は学生団体の代表は、社会貢献センター長が別に定める所定の手続により申請する。

2 前項の規定による申請を受けた社会貢献センター長は、ボランティア支援室運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、適任と認められる場合は、東洋大学SDGs推進センター長（以下「推進センター長」という。）に推薦をする。

3 推進センター長は、東洋大学SDGs推進委員会（以下「推進委員会」という。）の議を経て、適任と認められる場合、学長に推薦をする。

4 学長は、推進センター長の推薦に基づき、アンバサダーの称号を付与する。

（活動内容）

第3条 アンバサダーは、本学の諸規則等を遵守し、次の各号のいずれかに該当する活動を行う。

（1） 本学のSDGs活動への参画

（2） 本学のSDGs活動の普及推進のための情報発信

（3） その他学長が必要と認めた活動

（称号の有効期間）

第4条 アンバサダーの称号の有効期間は、当該年度限りとする。ただし、アンバサダーが有効期間の更新を希望する場合は、所定の手続を経て更新することができる。

2 アンバサダー有効期間の更新手続については、第2条第1項から第4項までの規定を準用する。

（活動費補助）

第5条 本学は、アンバサダーとしての活動に必要な経費について、その一部を補助することができる。

（活動報告）

第6条 アンバサダーは、年間の活動報告を社会貢献センター長にしなければならない。

2 社会貢献センター長は、アンバサダーの活動状況について、運営委員会及び推進委員会に報告しなければならない。

（その他）

第7条 この要項に定めるもののほか、アンバサダー制度に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て推進センター長に報告し学長が決定する。

（事務の所管）

第8条 アンバサダー制度に関する事務の所管は、エクステンション部エクステンション課とする。

（改正）

第9条 この要項の改正は、学長が運営委員会及び推進委員会の意見を聴いて行う。

附 則

この要項は、2021年10月6日から施行する。

附 則（令和4年10月1日要項第130号）

この要項は、2022年10月1日から施行する。

2025年度東洋大学SDGsアンバサダー（団体）の認定について

東洋大学SDGs推進委員会
委員長　金子 律子

社会貢献センター長より、下記概要の通り、2025年度東洋大学SDGsアンバサダー（団体）の推薦をいただきました。
「東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項」に基づき、本委員会での議を経て、適任と認められる者を小職より学長へ推薦いたします。

記

1．社会貢献センター推薦日　：　2025年3月12日

2．推薦団体数　：　4団体

No.	団体名称
1	学ボラ川越（山古志部門）
2	ボードゲーム地域交流団体　ぼどのわ
3	学生NPO FLY
4	きりがく
5	RISE－難民・移民と手をつなぐ

3．各団体概要　：　別紙の通り

4．認定期間　　：　2025年4月1日　～　2026年3月31日

5．添付資料
・2025年度「東洋大学 SDGs アンバサダー（団体）」認定団体
・東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項

以　上

2025年度「東洋大学 SDGs アンバサダー（団体）」名簿

NO.	団体名	参加学生数	関連するSDGs	代表者学籍番号	代表者
1	学ボラ川越（山古志部門）	185 (運営は3名)	11.住み続けられるまちづくりを		
	活動概要	【活動目的】 ・中越地震から20年間経過し、変革を求められる山古志において、地域の人々と協力し地域振興を促す。また学ボラ設立のきっかけである山古志での復興支援について再確認し、限界地域における災害復興・地域振興について考え、今後の活動に責任感を持たせること。 ・地域の人々や他大学の学生・教授などと交流し、意見交換することで、本活動の意義について考えを深めること ・山古志で行われている Nishikigoi NFTや電子決済などの先進的な取り組みについて理解をし、今後の山古志の姿について地域の方々と共に考え、地域振興に関する企画の立案につなげること。 【活動内容】 ・①5月中旬に幹部数名で山古志の学童施設を訪れ、子供と遊ぶボランティアを少人数で開催し、その後、闘牛場や錦鯉の養鯉場に取材に行き、山古志の産業を見学する。この一連の活動で幹部は山古志における現状を認識し。その後、地域ボランティアのリーダーとして学生目線の発信や企画を行っていく。 ・②8/15～8/17に彼らを中心としてチームを編成し、虫亀・竹沢地区において開催される地域の祭りに企画段階から関わり、地域の人々と共に作り上げ、地域文化の継承を担う。また10/23・24には山古志村の追悼式に訪れ、震災の歴史や防災について学ぶとともに、復興後の地域との関わりについて団体内外に教訓伝えていく ・③定期的に山古志村の有識者からNFTを用いた活動についてのオンラインの講義や意見交流を通して、現在の山古志の取り組みを理解し、今後の活動について協議する。また今までの山古志と東洋の関わりについて発表を行い、今後の地域について学生も地域の方と協議していく		
2	ボードゲーム地域交流団体　ぼどのわ	15	4.質の高い教育をみんなに 11.住み続けられるまちづくりを		
	活動概要	【活動目的】 ・ぼどのわはボードゲームを通じた居場所づくりを目的として活動する。 主に子どもを対象として活動し、こどもの学校や家庭以外の安心できる第3のコミュニティと、新たなつながりをつくる。 ・地域福祉の活性化に貢献する。 2024年度のぼどの会を通じて、赤羽台地域に潜在しているいくつかのニーズを発見した。 例として、孤独を感じている住民の知り合いづくりのニーズや、子育て世代の居場所のニーズがある。 ・2025年度は、これらのニーズにも対応していきたいと考えている。 ・2024年度の活動を通して、赤羽台地域には他にもニーズが潜在しているのではないかと感じた。 そのため、2025年度は地域に潜在しているニーズを発見することも新たな目標とする。 【活動内容】 地域の人々とボードゲームで交流する会を開催する。・ 地域で活動している団体に出張し、ボードゲームで遊ぶ機会を提供する。・ サークルメンバーや地域の参加者がボードゲームを通して交流をする機会を提供する。・ 2024年度にはうまくできず課題として残った、地域住民同士をマッチングすることにも取り組む。・		
3	学生NPO FLY	41	1.貧困をなくそう 2.飢餓をゼロに 3.すべての人に健康と福祉を 4.質の高い教育をみんなに		
	活動概要	【活動目的】 ・FLYは、貧困、教育格差、若年犯罪などの社会問題の解決に向けて活動している学生NPOである。貧困問題に関しては、生活保護制度を生活困窮者がよりアクセスしやすく、安心して利用できるようにすることを目的としている。教育格差問題に関しては、「親の格差」という根本的な問題を社会化し、それに対応できる制度を要求することを目的としている。若年犯罪に関しては、義務教育段階での未然防止や、闇バイトなど金銭的な目的で犯罪することを防ぐために、福祉制度に繋げることを目的としている。 【活動内容】 ・全体ミーティング（毎月25日） ・チーム別（貧困・教育・犯罪）ミーティング（月1回） ・学習会（月1～2回程度） ・福祉事務所前アウトリーチ（月初めに1回） ・居場所づくり兼学習支援事業（月2回を予定） ・教育困難校での学習支援（月1回） ・繁華街でのアウトリーチ活動（不定期） ・スタディツアー（不定期）		
4	きりがく	18	4.質の高い教育をみんなに 10.人や国の不平等をなくそう 11.住み続けられるまちづくりを		
	活動概要	【活動目的】 ・東京都北区の桐ヶ丘地域において、子どもたちに家でも学校でもない第三の居場所、サードプレイスを提供する。学校の勉強に困難を感じている子どもに対する学習支援等活動を行うことや、遊びや創作活動を行うことを通じて、子どもたちの居場所づくりをすすめることを目的とする。その活動の中で地域の他団体、民生児童委員・社会福祉協議会などとの連携・協働を通じて、地域の福祉力の底上げを図る。 【活動内容】 ・学習支援と遊びを通した子どもの見守りを行う。学習支援は、子どもが持参した宿題や団体で用意した学習プリント等を活用し、学習面での分からないところをサポートする。遊びは、様々なボードゲーム、カードゲーム等の道具を準備し、子どものやりたいことに合わせて活動内容を決めていく。また、スライム作りや羊毛フェルト体験などのイベントを企画し、子どもが主体的に創作に取り組めるイベントを不定期に開催する。一方、参加児童・生徒を増やすための広報活動もかねて、子ども食堂や近隣の小学校の放課後学童に、部員がボランティアとしてとして参加していく。併せて、地域の子ども向けのイベントに参加したり、北区のささえあい団体の交流の場に参加したりなど、地域活動に参加することで地域住民や団体等との関係構築を図る。		
	RISE - 難民・移民と手をつなぐ	10	4.質の高い教育をみんなに 10.人や国の不平等をなくそう 17.パートナーシップで目標を達成しよう		

2025年度「東洋大学 SDGs アンバサダー（団体）」名簿

NO.	団体名	参加学生数	関連するSDGs	代表者学籍番号	代表者
5	活動概要				

【活動目的】
・本プロジェクトは、難民の子どもたちに教育の機会を提供し、日本文化を通じて異文化理解を促進することを目的としています。教育の機会が限られている難民の子どもたちに、日本いる子どもたちとともに、昔話を題材にした絵本を制作し、それを海外の難民の子どもたちへ届けることで、読み書き能力の向上や知的好奇心の喚起を目指します。また、文化や価値観に触れることによって、異文化への理解と寛容性を育む機会を提供します。
【活動内容】
1．翻訳する絵本の選定
対象年齢や理解度をもとに、私たちで、いくつかの昔話に選定したあと、日本人の子どもたちとロヒンギャの子どもたちへ聞き取り調査を実施します。その調査結果から、絵本の内容となる、日本の昔話とロヒンギャの昔話を一つずつ選定します。
2．絵本制作のためのワークショップ実施
・選定した昔話に基づいて、絵本制作のためのワークショップを開催します。ワークショップでは、日本の昔話の部分の絵をロヒンギャの子どもたちが担当し、ロヒンギャの昔話の部分の絵を日本の子どもたちが担当することになります。
・ワークショップ後、子どもたちに、絵本の内容やワークショップに関するインタビューをします。このインタビューにより、子どもたちがお互いへの異文化交流を図ります。
・子どもたちが主体的に関わることで、単なる翻訳ではなく、彼ら自身の感性やストーリーへの思いを反映させたオリジナルの絵本を制作します。このインタビューは、絵本の本体にも記載予定です。
・この制作過程やインタビューによって、子どもたちの創造性を引き出しますとともに、絵本を通じて、お互いの文化に対する理解が深まります。
3．翻訳の協力者確保と翻訳作業
・絵本は現在のところは４０ページ程度で想定しています。翻訳は、ロヒンギャのコミュニティの知人ネットワークを活用し、母語話者の協力を得て進めます。ロヒンギャ語通訳者は二名を予定しています。（一名は通訳、一名は校閲）
4．絵本のデザインと編集
・翻訳が完了した後、子どもが描いた絵をスキャンして、レイアウトに編集します。
・視覚的にも楽しめるデザインを施し、読みやすいフォーマットに仕上げます。
・印刷用データを作成し、実際の配布に向けた準備を進めます。
5．パートナーシップの構築と配布
・このプロジェクトを関与してくれた団体や組織に優先的に配布します。また、残りの制作した絵本は、マレーシアのロヒンギャ難民の子どもたちの教育支援団体をはじめ、国内外の難民支援団体を通じて、難民の子どもたちへ届けます。
6．プロジェクト終了後の展開
・絵本を受け取った子どもたちの反応や学びを記録し、プロジェクトの効果を検証します。
・絵本制作後、プロジェクトに参加してくれた子どもたちとともに、報告会を開き、プロジェクトの振り返りをします。
・絵本を受け取った難民の子どもたちと、日本の子どもたちをつなげ、異文化交流の場を提供します。
・新たな言語への展開や、他の難民コミュニティとの協力を検討し、より多くの子どもたちに文化交流の機会を創出します。
・本プロジェクトの経験をもとに、次の取り組みを企画し、持続可能な活動として発展させます。

東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項（令和３年10月６日要項第155号）

最終改正:令和3年10月6日要項第155号

改正内容:令和3年10月6日要項第155号[令和3年10月6日]

〇東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項

令和3年10月6日要項第155号

東洋大学SDGsアンバサダー制度に関する要項

（趣旨）

第１条　この要項は、東洋大学SDGs推進委員会規程（令和3年7月1日規程第147号）に基づき、東洋大学（以下「本学」という。）のSDGs活動の一層の活性化、充実及び発展を図るために、学校法人東洋大学SDGs行動憲章に賛同し推進する本学の学生個人又は学生団体に対して東洋大学SDGsアンバサダーの称号を付与する制度（以下「アンバサダー制度」という。）に関して必要な事項を定める。

（称号の付与）

第２条　東洋大学SDGsアンバサダー（以下「アンバサダー」という。）の称号を希望する本学の学生個人又は学生団体の代表は、社会貢献センター長が別に定める所定の手続により申請する。

２　前項の規定による申請を受けた社会貢献センター長は、ボランティア支援室運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、適任と認められる場合は、東洋大学SDGs推進委員会委員長（以下「委員長」という。）に推薦をする。

３　委員長は、東洋大学SDGs推進委員会（以下「推進委員会」という。）の議を経て、適任と認められる場合、学長に推薦をする。

４　学長は、委員長の推薦に基づき、アンバサダーの称号を付与する。

（活動内容）

第３条　アンバサダーは、本学の諸規則等を遵守し、次の各号のいずれかに該当する活動を行う。

（1）本学のSDGs活動への参画

（2）本学のSDGs活動の普及推進のための情報発信

（3）その他学長が必要と認めた活動

（称号の有効期間）

第４条　アンバサダーの称号の有効期間は、当該年度限りとする。ただし、アンバサダーが有効期間の更新を希望する場合は、所定の手続を経て更新することができる。

２　アンバサダー有効期間の更新手続については、第2条第1項から第4項までの規定を準用する。

（活動費補助）

第５条　本学は、アンバサダーとしての活動に必要な経費について、その一部を補助することができる。

（活動報告）

第６条　アンバサダーは、年間の活動報告を社会貢献センター長にしなければならない。

２　社会貢献センター長は、アンバサダーの活動状況について、運営委員会及び推進委員会に報告しなければならない。

（その他）

第７条　この要項に定めるもののほか、アンバサダー制度に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て推進委員会に報告し学長が決定する。

（事務の所管）

第８条　アンバサダー制度に関する事務の所管は、エクステンション部エクステンション課とする。

（改正）

第９条　この要項の改正は、学長が運営委員会及び推進委員会の意見を聴いて行う。

附　則

この要項は、2021年10月6日から施行する。

東京都 TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

政策企画局
Office of the Governor for Policy Planning

メニュー

> > > >

: 2025 3 14

SDGs

SDGs

5 SDGs

103 2021 6 6



SDGs

SDGs

SDGs SDGs 2021 Web

2021 SDGs 2021
2022 SDGs × - -
2023 -D -
2024 SDGs - -
SDGs
SDGs ACTION! 2021
2022 2023
2024 76kg 2024



2021 SDGs 2021
2022 SDGs ×
2023
2024 SDGs

( )

青山学院大学 AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

お茶の水女子大学 Ochanomizu University

慶應義塾
Keio University

KOKUGAKUIN Univ.

Kokushikan

駒澤大學

TOKYO
1838

上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

専修大学

中央大学

津田塾大学
TSUDA UNIVERSITY

TEIKYO

UEC 国立大学法人 電気通信大学
The University of Electro-Communications

東海大学

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

Institute of
SCIENCE TOKYO

TOKYO GEIDAI

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

FOUNDED IN 1891
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE

東京農工大学

TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE since 1881

TOYO UNIVERSITY

日本体育大学
Nippon Sport Science University

一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

法政大学
HOSEI University

立教大学

WASEDA University
早稲田大学

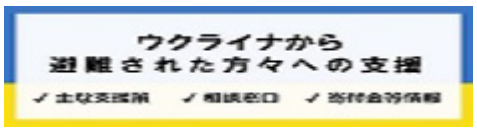
03-5388-2088

ID 001-000-20231012-001699



My TOKYO

ホームページ評価アンケート(回答ページへ遷移します) 回答する
ページに関しての
評価をお聞かせください
満足
不満
意見
感想





「!」が見つかるメディア
TOKYO UPD









SNS

163-8001 2-8-1 03-5321-1111
Copyright (C) Tokyo Metropolitan Government. All Rights Reserved.

2025年度SDGs啓　グッズについて　報告

2025年3月12日
第9回 SDGs推　委員会［報告1-2］

SDGsアンバサダー　布用名札セット

- SDGsアンバサダーオリジナルのネックストラップ
- 名札ケース
- SDGsピンバッジ

ジェットストリーム　残数　約2,000本　　SDGs推　イベント等 参加者　布用　梅

- 海洋プラスチックごみ及びコンタクトレンズの空ケースが再利用されたジェットストリーム
- シンポジウムや学生企画など、SDGs推　に　　するイベント等への参加者に　布

SIGGマイプラネット0.6L　残数　約270本　　来　・登壇者への　答用　松

- 100%リサイクルアルミから作られたアルミボトル
- SDGs　係イベントの来　の方や登壇者への　答品として　布

EVAサコッシュ　準備数　各350個、全1,400個　　SDGs推　イベント等 参加者　布用　竹　NEW

- 廃棄の　に有害物　を出さない素材　EVA素材　でできたサコッシュ
- シンポジウムや学生企画など、SDGs推　に　　するイベント等への参加者に　布

シンポジウムや学生イベントなど、
布機会がございましたらお知らせください。

SDGsアンバサダー　布用名札セット

概



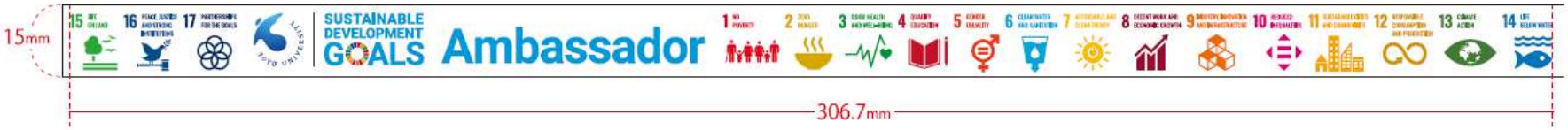
ネックストラップ　幅15mm

ソフト名札ケース



SDG　ピンバッジ

ネックストラップ印刷イメージ



ジェットストリーム

概

- 日本国内で回収された海洋プラスチックごみと使い捨てコンタクトレンズの空ケースからリサイクルした“ポストコンシューマープラスチック”を使用したボールペン
- 文具業界で初めてエコマーク商品　型No.164「海洋プラスチックごみを再生利用した　品」の　定を取得した、環境に　慮したボールペン
- “クセになる、なめらかな書き味”の油性ボールペン、「ジェットストリーム」シリーズ

印刷イメージ



https://www.mpuni.co.jp/news/20220708-52807.html



SIGGマイプラネット 0.6L

概

- 100%リサイクルアルミ　PCR素材　から作られたボトル
- キャップ　分もセルロースなどの再生可能な天然素材で作られている
- 従来の5%のエネルギー消　　で清算され、BPAフリーの注目のSIGG社新　品

印刷イメージ



EVAサコッシュ

概

- 廃棄の　に有害物　を出さない素材　EVA素材　でできたサコッシュ
- 水にも強い素材で　の日でも安心できる
- ４　展　で老　男女問わず幅広く愛用してもらえる

印刷イメージ



活動計画タイトル（キーワード）

教育課程における SDGs 学習と学習支援の拡充

① 活動計画の概要

教育課程における SDGs 学習を着実なものとするため、次の 3 事項を継続して実施する。

1　各授業科目における「持続可能な 17 のゴールとの関連」の明確化

2　SDGs に関する学習科目の開講

3　東洋大学 SDGs 行動憲章を踏まえた 3 つのポリシーのあり方の検討

また、誰 1 人として取り残さない機会均等教育を進めるため、ラーニングサポートセンターなどを活用した学習支援の拡充を図る。

② 数値的な目標の達成状況と得られた成果

1　各授業科目における「持続可能な 17 のゴールとの関連」の明確化

シラバスの作成マニュアルにおいて、「持続可能な 17 のゴールとの関連」を明示する周知徹底を図った。しかしながら、記載されたシラバスが少ないため、今後周知方法等も含め、改善を検討していく。

2　SDGs に関する学習科目の開講

秋学期に全キャンパスの学生が受講可能な全学総合科目において、「SDGs 講座-17 ゴールへの第一歩-」を開講し、合計 73 名の受講があった。

3　東洋大学 SDGs 行動憲章を踏まえた 3 つのポリシーのあり方の検討

東洋大学 SDGs 行動憲章を踏まえた 2025 年度カリキュラム改訂の基本方針の策定を行い、全学カリキュラム委員会および学部長会議で協議を行った。

4　学習支援の拡充

白山キャンパスラーニングサポートセンターにおいて、全キャンパス全学生に対して 24 時間学修可能な「PC 操作解説サイト」を開設しており、提供プログラムの充実を行った。

③ 2024 年度活動内容		添付資料(※)
4 ｜ 6 月	・白山キャンパスラーニングサポートセンターPC 操作サイト開設 ・2025 年度カリキュラム改訂等の基本方針の協議	
7 ｜ 9 月	・全学総合 J（SDGs 講座-17 ゴールへの第一歩-）開講	
10 ｜ 12 月	・全学総合 J（SDGs 講座-17 ゴールへの第一歩-）開講 ・SDGs を踏まえたシラバス作成依頼の実施（関連性の明確化等）	
1 ｜	・全学総合 J（SDGs 講座-17 ゴールへの第一歩-）開講	

3 月		

※活動実績となる成果物や資料（チラシ・ポスター・報告書 等）がございましたら、併せてご提出ください。
その際、表中の添付資料欄に番号等の記載をお願いします。

活動計画タイトル（キーワード）

「大学等コアリション」を通じた関連情報の収集及び、SDGs 関連研究支援のための URA の活用

① 活動計画の概要

学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」（以下「グランドデザイン」）では、当該部局担当となる「Ⅰ.研究に関する中期計画」には、「研究の高度化が教育の高度化を牽引し、研究活動と教育活動の高度化が地域貢献・地域連携活動の高度化を推進することで、「地球社会の明るい未来を拓く（他者のために自己を磨く）」ことを目指している。」と表記されており、「（グランドデザインの実現には）重点研究プログラムを中心に、組織的に取り組む」として、「SDGs の達成に貢献する研究」含め、さまざまな研究が展開されている。折しも 2021 年度にスタートしたカーボンニュートラル実現のための「大学等コアリション」にも本学として参加し、SDGs に関連した各種情報の入手が可能となった。そこで、2024 年度においては、こうした情報を学内で循環させ、重点研究推進プログラムから連なる関連外部資金獲得の積極化を支援するために URA を活用することを計画する(当該案件はすでに配置済みの URA により一部機能しているが、さらに本学 SDGs 推進の一翼を担う URA の増員については、担当役員との協議の上、2024 年度予算措置済み（なお、新規 URA の採用目的は科研費･外部資金獲得採択率向上や学際融合研究の促進のために配置する計画であり、SDGs 推進を専属するものではない））。また、残念ながら採択には至らなかった文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」へ「井上円了哲学・思想を基盤とする文理融合型研究拠点「東洋大学いのち総合研究機構」の形成と世界展開」において構想された、「東洋大学いのち総合研究機構」を 2024 年 11 月に発足、重点研究推進プログラムとの連携強化が今後期待される。

② 数値的な目標の達成状況と得られた成果

目標①URA の加配
・新たに 2 名採用され、3 名体制となる
目標②SDGs に関連する重点研究推進プログラムの推進
・新たに 4 件採択され、計１１課題の体制となる
目標③「東洋大学いのち総合研究機構」の発足
・2024 年 11 月に重点研究戦略会議を発展させ発足した

③ 2024 年度活動内容		添付資料(※)
4 ｜ 6	◇実施内容名 ・URA の追加採用計画と求人募集・面接等を実施 ・重点研究戦略会議により「東洋大学いのち総合研究機構」の構想を進める	

月		
7 ｜ 9 月	◇実施内容名 ・URA の求人募集・面接等を継続、採用決定 ・「東洋大学いのち総合研究機構」規程制定のための学内調整	
10 ｜ 12 月	◇実施内容名 ・「東洋大学いのち総合研究機構」の規程制定、開設 ・「東洋大学いのち総合研究機構」運営委員会による 2025 年度重点研究推進プログラムの選定・採択 ・URA の求人募集・面接等を継続、採用決定	資料 1 資料 2
1 ｜ 3 月	◇実施内容名 ・URA の求人募集・面接等を継続、採用決定（3 名体制） ・「東洋大学いのち総合研究機構」運営委員会による 2024 年度重点研究推進プログラムの評価を実施	資料 3 資料 4

※活動実績となる成果物や資料（チラシ・ポスター・報告書 等）がございましたら、併せてご提出ください。その際、表中の添付資料欄に番号等の記載をお願いします。

○東洋大学いのち総合研究機構規程

令和６年11月１日規程第196号

東洋大学いのち総合研究機構規程

（趣旨）

第１条　この規程は、東洋大学学則（昭和24年４月１日施行）第８条第１項に基づき東洋大学（以下「本学」という。）に、創立者井上円了の哲学・思想を踏まえ、あらゆる「いのち」の調和を目指す研究を推進し、各種研究分野を融合・連携させることによって、先進的な未来社会の創造に寄与することを目的とする、東洋大学いのち総合研究機構（以下「機構」という。）を設置し、その組織及び運営について必要な事項を定める。

（事業）

第２条　機構は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

（１）　井上円了哲学・思想を踏まえた多様な分野における研究の企画及び推進

（２）　東洋大学重点研究推進プログラム（以下「プログラム」という。）等における各研究分野の融合及び連携

（３）　プログラムの策定、選定や活性化等に関する事項

（４）　国内外の研究者、研究機関、企業、自治体等との共同研究、研究交流及び委託研究の受入れ

（５）　研究会、講演会、シンポジウム等の開催

（６）　研究成果の発表及び研究報告書等の各種刊行物の発行

（７）　その他機構の目的を達成するために必要な事業

（構成）

第３条　機構は、次の者をもって構成する。

（１）　機構長

（２）　副機構長

（３）　学長が指名する副学長　１名

（４）　井上円了研究に関する専門分野の研究者　１名

（５）　研究員

（６）　客員研究員

（７）　院生研究員

（８）　機構長が推薦する者　若干名

２　前項第８号の者の任期は２年とし、再任を妨げない。

（機構長）

第４条　機構に、機構長を置く。

２　機構長は、機構を代表し、機構の業務を統轄する。

３　機構長は、学長をもって充てる。

（副機構長）

第５条　機構に、副機構長を置く。

２　副機構長は、機構長の職務を助け、機構長に事故あるとき、又は機構長が欠けたときは、機構長の職務を代理し、又は代行する。

３　副機構長は、教学担当常務理事をもって充てる。

（井上円了研究に関する専門分野の研究者）

第６条　機構に、井上円了研究に関する専門分野の研究者を置く。

２　井上円了研究に関する専門分野の研究者は、本学の専任教員のうちから学長が指名し、理事長が任命する。

３　井上円了研究に関する専門分野の研究者の任期は２年とし、再任を妨げない。

（研究員）

第７条　機構に、研究員を置くことができる。

２　研究員は、機構の目的を達成するための研究活動等に従事する。

３　研究員は、本学の専任教員のうちから運営委員会の審議及び機構長の推薦を経て学長が指名し、理事長が任命する。

４　研究員の任期は２年とし、再任を妨げない。

（客員研究員）

第８条　機構に、研究上必要とする場合は、本学専任教員以外のものから、客員研究員を置くことができる。

２　客員研究員は、運営委員会の審議及び機構長の推薦を経て学長が指名し、理事長が委嘱する。

３　客員研究員の任期は２年とし、再任を妨げない。

（院生研究員）

第９条　機構に、院生研究員を置くことができる。

２　院生研究員は、機構の研究活動又は事業に参画し、当該研究活動又は事業の実施期間を任期とする。

３　院生研究員は、本学大学院に在学する学生のうち、運営委員会の審議及び機構長の推薦を経て学長が承認する。

（その他の雇用者）

第10条　機構に、必要に応じ、研究助手、研究支援者、リサーチ・アシスタントを置くことができる。

２　前項に規定する者の任期は、当該研究活動又は事業の実施期間を任期とする。

（運営委員会）

第11条　機構に、機構の運営に係る重要な事項を審議するため運営委員会を置く。

２　運営委員会は、次の者をもって構成する。

（１）　機構長

（２）　副機構長

（３）　第３条第１項第３号の副学長

（４）　学術研究推進センター長

（５）　学術研究推進センター副センター長

（６）　第３条第１項第４号の井上円了研究に関する専門分野の研究者１名

（７）　機構長が推薦する者　若干名

３　前項第６号及び第７号の運営委員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期途中で運営委員を退任した場合、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

（運営委員会の審議事項）

第12条　運営委員会は、次の事項を審議する。

（１）　機構の運営の基本方針に関する事項

（２）　機構の事業計画に関する事項

（３）　機構の予算及び決算に関する事項

（４）　プログラムに関する事項

（５）　その他機構の目的を達成するために必要な事項

２　運営委員会は、機構長が招集し、その議長となる。

（小委員会）

第13条　運営委員会は、必要に応じ小委員会を置くことができる。

２　小委員会に必要な事項は、運営委員会において別に定める。

（事務の所管）

第14条　機構に関する事務は、研究推進部が担当する。

（雑則）

第15条　この規程に定めるもののほか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

（改正）

第16条　この規程の改正は、学長が運営委員会及び各学部教授会の意見を聴いて行う。

附　則

この規程は、2024年11月１日から施行する。

東洋大学重点研究推進プログラム　採択プロジェクト一覧

2025年2月1日現在

（金額単位：千円）

採択年度	研究プロジェクト・テーマ	研究代表者所属学部・学科	職名	研究代表者氏名	研究期間	2022年度予算	2023年度予算	（当）2024年度予算	（次）2025年度予算（案）	2026年度予算（案）	2027年度予算（案）	予算計画総合計	備考
2022	福祉社会における新たな価値の創発と支援システムの構築	福祉社会デザイン学部・社会福祉学科	教授	志村 健一	2022年4月～2025年3月	[redacted]							
2022	安心な水を未来へ ～利用細菌による排水処理技術の開発と普及に向けて～	理工学部・応用化学科	教授	井坂 和一	2022年4月～2025年3月								
2022	レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	国際学部・国際地域学科	教授	松丸 亮	2022年4月～2025年3月								
2022	日常生活を豊かにするためのデジタルトランスフォーメーション（DX）の研究	情報連携学部情報連携学科	教授	中村 周吾	2022年4月～2025年3月								
2023	東洋大学のブランド力向上のための分野横断型アスリートサポート研究	健康スポーツ科学部・栄養科学科	教授	加藤 和則	2023年4月～2026年3月								
2023	生育のdiversityを生むメカニズムの解明とwell-beingな社会の実現に向けた支援体制の構築	生命科学部・生命科学科	教授	児島 伸彦	2023年4月～2026年3月								
2024	未来を拓くバイオミメティクス	生命科学部・生体医工学科	教授	合田 達郎	2024年4月～2027年3月								
2024	責任ある研究・技術開発に向けた多文化的ELSIの組織化	文学部・哲学科	教授	松浦 和也	2024年4月～2027年3月								
2024	生活も仕事も充足して継続できる社会の実現に向けた、職業キャリアの実証研究	社会学部・社会学科	教授	西野 理子	2024年4月～2027年3月								
2024	極限環境微生物で循環型社会を実現し、生活環境を豊かに！ ～TOYO SDGs Global 2024-2030-2037～	生命科学部・生物資源学科	教授	伊藤 政博	2024年4月～2027年3月								
2024	後継者の精神的健康とレジリエンス：地域連携を活用した文理融合アプローチによるレジリエンス促進プログラム開発と事業承継支援	経営学部・経営学科	教授	山本 聡	2024年4月～2027年3月								
2025	地域未利用資源の活用による地域・自然共生型脱炭素社会システムの設計	理工学部・都市環境デザイン学科	教授	村野 昭人	2025年4月～2028年3月								
2025	生成AI・データサイエンスの活用による教育・文学・言語の革新に向けた研究	情報連携学部・情報連携学科	教授	中村 周吾	2025年4月～2028年3月								
2025	福祉社会における新たな価値の創発と支援システムの構築	福祉社会デザイン学科・社会福祉学科	教授	志村 健一	2025年4月～2028年3月								
2025	レジリエントな社会からウェルビーイングな社会へ ～ポストSDGsにおける持続的幸福の追求のために	国際学部・国際地域学科	教授	松丸 亮	2025年4月～2028年3月								
					小計②								
					合計③（①+②）								
					予算要求額④※								
					④-③								

※④は「重点研究推進プログラム」研究費と「いのち総合研究機構」運営費の合計

研究者の皆様へ

東洋大学

知的財産・産官学連携のご相談

面白い研究成果がでたから、権利化（特許・実用新案等）して、スタートアップ（起業）に挑戦したい

共同研究や受託研究の企業との契約条件の交渉をお願いしたい

公的研究費を獲得したいけど、どんな資金があるのかわからない申請書の作成支援をしてほしい

企業と研究する際のリスク（利益相反・安全保障貿易管理）について教えてほしい

お気軽にご相談ください。
専門のスタッフが各キャンパスに伺ってサポートします

稲本 康　産官学連携マネージャー

企業と大学、日本と外国での研究・経営体験に基づき、様々な価値観を結ぶお手伝いをいたします。

東京大学大学院電気工学専門課程修了、工学博士。株式会社富士通研究所、富士通株式会社、Fujitsu Laboratories of Europe Limited、北陸先端科学技術大学院大学を経て、2017 年 4 月から現職。

津村 徳光　知的財産マネージャー

研究成果を特許化し技術移転しませんか？発明相談等、知財に関することは何でもお問い合わせ下さい。

熊本大学大学院電気工学専攻修士課程修了。株式会社日立製作所（研究・知財）、慶應義塾大学（知財）を経て、2023 年 10 月から現職。知財に 31 年間従事（発明発掘、権利化、特許調査、技術移転、特許訴訟、特許契約、等）。

花岡 千草　URA(University Research Administrator)

政府系資金については何でもお問い合わせください。まず出してみることが始まりの一歩です。

京都大学大学院農学研究科修士課程修了、岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了、博士（工学）。農林水産省、文部科学省、環境省で勤務。岡山大学上級 URA 等を経て、2019 年 11 月から現職。東京電機大学、京都工芸繊維大学研究支援を経て、現在は兵庫県立大学においても研究支援。

橋本 慧子　URA(University Research Administrator)

民間助成金等の外部資金へのチャレンジを支援します。伝わる申請書を一緒に作成していきましょう。

京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻博士後期課程修了、博士（農学）。総合地球環境学研究所プロジェクト研究員、筑波大学計算科学研究センター研究員（広報担当）、東京大学社会科学研究所研究戦略室、東京藝術大学共創拠点推進機構企画推進室特任助教（URA）などを経て、2024 年 10 月から現職。

青柳 重夫　URA(University Research Administrator)

JST と企業の経験を基に申請書作成にお役に立つアドバイスができますので、お気楽にご相談ください。

東北大学大学院環境科学研究科環境科学専攻博士課程後期修了、博士（学術）。株式会社明電舎、（公財）地球環境産業技術研究機構主任研究員、北斗電工株式会社、東北大学非常勤講師、科学技術振興機構（JST）による A-STEP（研究成果最適展開支援プログラム）のマッチングプランナーなどを経て、2024 年 11 月から現職。

お問い合わせ

産官学連携推進センター
事務局：研究推進部産官学連携推進課

E-mail：ml-chizai@toyo.jp

Tel:03-3945-7564（内線：7564）

東洋大学

2022~2024年度　重点研究推進プログラム

福祉社会における新たな価値の創発と支援システムの構築

福祉社会デザイン学部

（福祉社会開発研究センター）

志村　健一

研究の背景(2021年当時)と目的

- 安定的な帰属(家族、職場、地域社会)の場が得られず、社会的つながりが弱い人たちが増加している。
- 新型コロナウィルス感染症(Covid-19)の拡大と予防のための自粛生活は、人々のつながりを分断し、つながることをより困難にした。
- 社会的つながりを創出し、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」社会を構築するために、新たな支援システムを開発しなければならない。
- 「相互承認(mutual recognition)」の価値を理論的に探究し、ICT、IoT、ロボット等の科学技術を活用する先駆的な社会福祉実践を検証し、福祉社会に求められる新たな支援システムを構築することを目的として研究を遂行する。

研究体制

- 理論研究ユニット（3グループ）
  - 「相互承認」の価値を理論的に探究する側面
- 実践研究ユニット（5グループ）
  - ICT、IoTやロボット等を積極的に社会福祉実践に適用し、支援システムを構築する側面
- 開発研究ユニット（1グループ）
  - AIによる調査分析、IoT、ロボット等の科学技術を改造・開発する側面

福祉社会開発研究センター（白山キャンパス2号館8階→赤羽台キャンパスWELLB-HUB5階）

研究実績の概要【全体の成果　1】

東洋大学

- 2024年3月　理論的に『相互承認』概念を掘り下げる
  - 「相互承認」の場の形成に関する研究 －ロバート・オウエンの思想を通じて－
    - 金子 光一 （福祉社会デザイン学部・教授）
  - 人権と相互承認のかかわりについて
    - 秋元 美世 （社会福祉学研究科・教授）
  - 哲学の立場より見る相互承認
    - 三重野 清顕 （文学部・教授）
  - 相互承認の成立基盤である「場所」の論理について
    - 稲沢 公一 （福祉社会デザイン学部・教授）
  - コメンテーター
    - 小林 良二 （東京都立大学・名誉教授）
    - 吉浦 輪 （福祉社会デザイン学部・教授）

研究実績の概要【全体の成果　2】

- 2024年12月　セブン銀行への知識提供とワークショップの開催
- 2025年1月　日本学術会議社会学委員会価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会とのシンポジウムの共催
- 2025年3月 『福祉社会における新たな価値の創発と支援システムの構築』をブックレット形式で発行予定
  - 全8冊、掲載論文39本
- 2025年3月 『福祉社会開発研究』第17号発行予定
  - 投稿論文　本（予定）
  - センター活動報告

ブックレットの概要　1

- 臨床における相互承認の論理　（歴史・原論グループ）
  - 第1章　「臨床の立場から『相互承認』概念を考える」［吉浦　輪］
  - 第2章　「つながり」の論理－「相互性」の成立基盤－［稲沢　公一］
  - 第3章　カトリック教会による慈善と国家による社会事業の関係についての考察－イタリアにおける慈善団体オペレ・ピエの公的な位置づけ－［村川　真一］

ブックレットの概要　２

- 信頼からはじまる相互承認　（対象論グループ）
  - 第1章　ホームレス支援にみるトラウマ・インフォームド・ケアーワシントン州シアトルにおける支援現場の相互承認ー［川原　恵子］
  - 第2章　シアトルにおける難民・移民支援ーRefugee Women’s Alliance（ReWA）の実践からー［荻野　剛史］
  - 第3章　刑事施設における全人的ケアの実践ー米国ワシントン州SCORE Jailの取り組みからー［戸井　宏紀］
  - 第4章　動物介在活動と女性受刑者の社会復帰ー米国ワシントン州ミッション・クリーク女性センター（Mission Creek Corrections Center for Women）の取り組みが受刑者と動物・刑務官・コミュニティ・社会間の相互承認におよぼす影響ー［佐藤　亜樹］

ブックレットの概要　３

- 相互承認と制度政策のパラダイム　（政策論グループ）
  - 第1章　相互承認と協働行為――集団的行為と個人の関係をめぐって[秋元美世]
  - 第2章　社会的承認とニーズ充足－制度化の対象設定をめぐって[寺田誠]
  - 第3章　相互承認から見た地域づくりのパラダイム[伊奈川秀和]
  - 第4章　地域共生社会の実現に向けた政策の展開[山本麻里]
  - 第5章　モンゴルの社会福祉から見た地域共生社会[伊奈川秀和]

ブックレットの概要　4

- 分身ロボットを介した相互承認　（障がいグループ）
  - 第1章　医療的ケアが必要な児童による分身ロボットOriHimeを介した出席の試みに関する実践的研究―2021年度～2023年度世田谷区教育委員会との協働研究―[藤木　聡美]
  - 第2章　特別支援学校におけるOriHimeの利活用の可能性－特別支援学校(肢体不自由部門)高等部における活用事例－[高野　聡子]
  - 第3章　分身ロボットの改良の試み[横田　祥]
  - 第4章　OriHimeに入り込む－分身ロボットでの就労に関するグラウンデッド・セオリー－[志村　健一・永廣　柾人]
  - 第5章　分身ロボットカフェで働くことの意味－[丸山　恵理子・奥西　允]

ブックレットの概要　5

- 地域における相互承認－共に住まい、支え合う地域をめざして－　（地域福祉グループ）
  - 序 章 地域で「相互承認」はいかに実現できるか ［加山　弾］
  - 第1章 地域で生まれる承認・不承認とコミュニティソーシャルワーク ［加山　弾］
  - 第2章 承認論と地域福祉［早坂　聡久］
  - 第3章 社会的排除と居住［山本　美香］
  - 第4章 相互承認を広げるコミュニティソーシャルワーカーの実践 ［加山　弾］
  - 第5章 地域福祉活動におけるICTの活用と「承認」―社会福祉協議会における取組みを中心として―［小櫃　俊介・大洞　菜穂美］
  - 第6章 地域公益的取り組みの可能性―大阪ふれあいネットワークの取り組みから― ［早坂　聡久］
  - 第7章 社会福祉施設に対する地域からの承認 ［大洞　菜穂美・小櫃　俊介］
  - 第8章 相互承認に向けた居住支援の実際 ［志村　敬親・洪心璐］
  - 第9章 海外における居住支援の挑戦:排除なき社会の実現に向けて(I)―アメリカの実践から考える―［洪　心璐］
  - 第10章 海外における居住支援の挑戦:排除なき社会の実現に向けて(II)―中国の実践から考える―［劉　鵬瑶］

ブックレットの概要　6

- 乳幼児期の子どもの承認をめぐる実践的研究～東京都世田谷区との協働研究を手がかりにして～　（子どもグループ）
  - 第1章　保育園等における当事者主体の相談支援－世田谷区における実践システムの開発研究－[上田　美香]
  - 第2章　乳幼児支援における子どもの権利視点の重要性と課題[森田　明美]
  - 第3章　保育園等におけるICT機材を活用した外国にルーツを　持つ子どもたちへの支援[麗麗]

ブックレットの概要　7

- 地域包括ケアの今日的課題　（地域包括ケアグループ）
  - 第1章　地域包括ケアの課題と研究の視角―地域包括ケアグループ「地域包括ケアの諸問題」研究―　［吉浦　輪］
  - 第2章　地域包括支援センターと医療機関との退院調整時の連携に関するアンケート調査結果報告　［相沢　卓］
  - 第3章　中動態的態度に基づいた共感的相互理解に関する一考察―いわゆる「ごみ屋敷」ケースにおける援助関係形成過程において―　［藤澤　美保］
  - 第4章　地域包括支援センターによる“8050問題”への取り組み―問題の多様性と連携の課題―　［山田　智之］
  - 第5章　高齢者の退院支援における地域包括支援センターと病院の連携に関する一考察　［清水　映樹］
  - 第6章　障害者支援施設と地域医療機関の連携を巡る諸問題―「看取り」実践における協働事例から―　［髙橋　愛優香］

ブックレットの概要 ８

- 未来にむけたデザインと福祉の融合と相互承認 （高齢グループ）
  - 第1章　高齢者介護におけるAI活用可能性の検討～ケアマネジメント支援システムの開発に向けて～［古川　和稔・窪田　佳寛］
  - 第2章　プログラミングを高齢者や障がい者のQOL向上にいかす試みープログラミング教育が拡げる新しい可能性ー［勝平　純司］
  - 第3章　スヌーズレン/多重感覚環境の適用と実践事例ー スヌーズレンと相互承認 ー［嶺　也守寛・新岡　美樹］

重点研究推進プログラム2022～2024年度総括

- 学部新設の追い風として
  - 複数学部複数学科所属の研究者を横断的につなぐ研究の実施。
  - 地域自治体等との協働の促進。
  - 赤羽台移転後のセンターの体制作りなど。
- 若手研究者の育成
  - 2025年3月22日　重点研究推進プログラム　総括シンポジウム
  - 若手研究者による報告会企画

重点研究推進プログラム2022～2024年度総括

- 福祉社会開発研究センターとしての社会貢献要素の自覚
- 被災地等における地域での研究と社会実装
  - 潜在的な福祉課題が被災によって顕在化されている。
  - 被災地等での研究が先駆的なものになるという仮説を立案する。
- 重点研究推進プログラム2025年度への応募

今後の展望

- 各研究グループがそれぞれの視座、分野からセンター全体の研究課題へ取り組んでいる。
  - →最終年度の研究成果の取りまとめ
  - →ブックレット形式での製本へ（独自性と統一性）
  - →若手研究者による総括シンポジウムの開催
- 科研挑戦的研究（開拓）の継続
- 2025年度重点研究推進プログラムによる研究実施

ご清聴ありがとうございました。

2022年度～2024年度

安心な水を未来へ
～有用細菌による排水処理技術の開発と普及に向けて～

工業技術研究所	理工・応用化学	井坂 和一＊	
川越	理工・応用化学	反町 篤行	
	理工・応用化学	峯岸 宏明	
	理工・応用化学	相沢 宏明	
	理工・都市環境	山崎 宏史	
	理工・都市環境	青木 宗之	
	総情・総合情報	大塚 佳臣	
白山	国際・国際地域	北脇 秀敏	
	経済・総合政策	清田 佳美	
赤羽台	情連・情報連携	後藤尚弘	

＊研究代表者

重点課題
(5) SDGsの達成に貢献する研究または
同課題達成に向けたテーマ性を有する研究

本研究テーマの全体

①-1 アナモックス菌培養
(応化 峯岸宏明)

④-1 発酵排水へ展開
(情報連携　後藤尚弘)

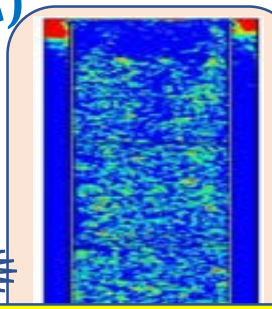
②-1 流体シミュレーション
（応化　井坂和一）

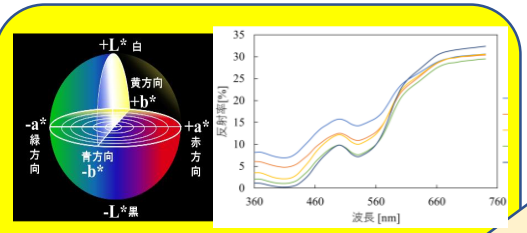
②-2 センシング技術
(応化　相沢宏明)

③-1 温室効果ガス評価
(都市　山崎宏史)
N_2O/CO_2排出量の評価

菌の培養条件
大量培養技術





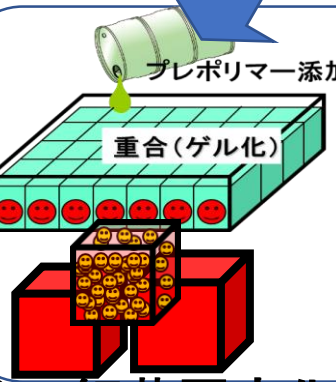


光学センサー

④-2 海外技術展開
(国際地域　北脇秀敏)



プレポリマー添加
重合（ゲル化）



①-2 細菌固定化技術
（応化　井坂和一）

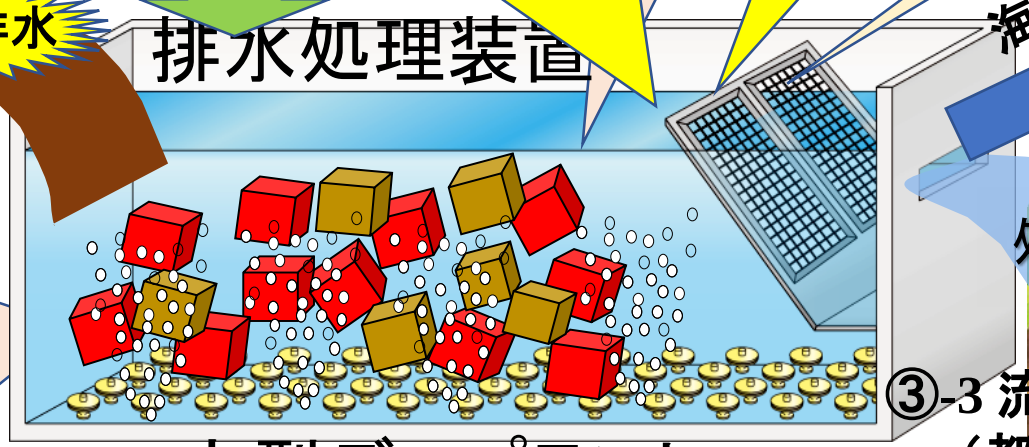
食品残渣

発酵排水

工場排水

③-4大気放出される窒素評価
（応化　反町　篤行）

排水処理装置



大型デモプラント
②-3 システム検討
(応化　井坂和一)

海外技術支援

処理水



④-3 合意形成
（総情　大塚佳臣）

③-3 流域魚類への影響
（都市　青木宗之）



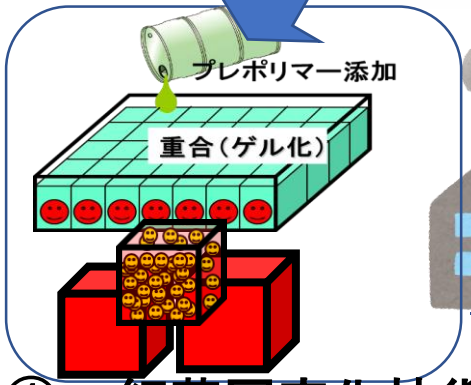
①-3 排水処理性能の評価
(応化　井坂和一)

③-2 総合経済性評価　LCA（総合政策　清田 佳美）

本研究テーマの全体

①-1 アナモックス菌培養
(応化 峯岸宏明)

菌の培養条件
大量培養技術

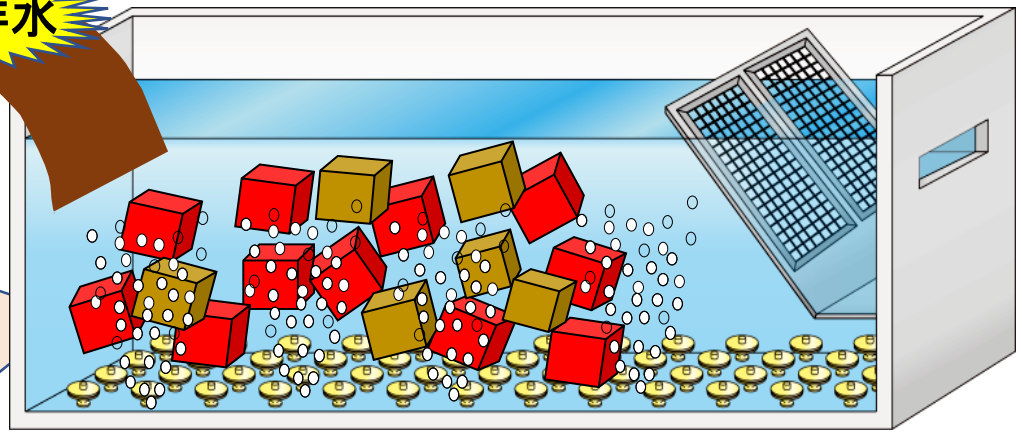


①-2 細菌固定化技術
（応化　井坂和一）



工場排水

排水処理装置





①-3 排水処理性能の評価
(応化　井坂和一)

①–1 アナモックス細菌の大量培養

理工学部　井坂教授/峯岸准教授

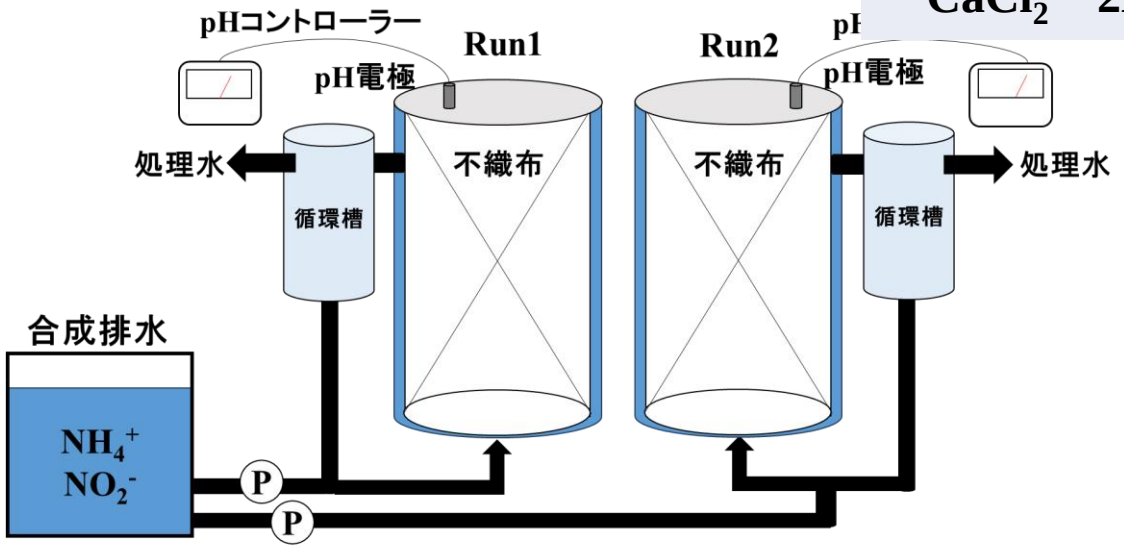


○運転条件

項目	数値
反応槽容積 [L]	300
槽内温度 [℃]	35
pH	7.6
窒素負荷 [kg-N m^{-3} d^{-1}]	0.06 (2024.9.17)

○供試排水

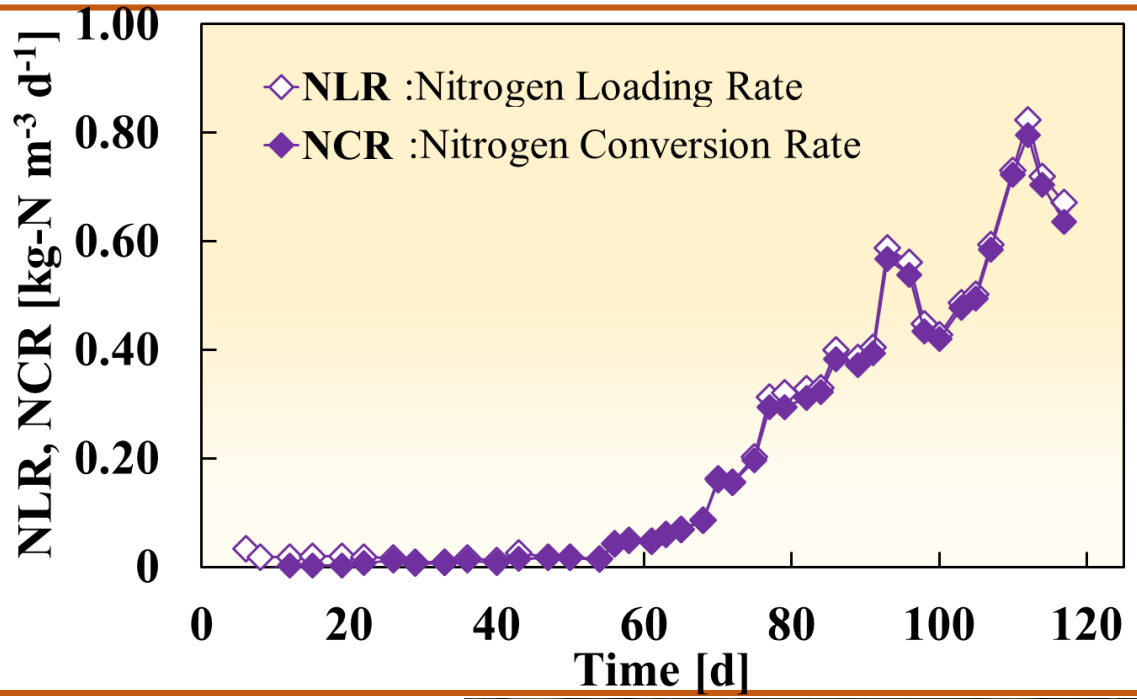
基質	濃度[mg L^{-1}]
NH_4^+-N	32.7～854
NO_2^--N	30～1120
$NaHCO_3$	500
$MgSO_4 \cdot 7H_2O$	300
KH_2PO_4	27.2
$CaCl_2 \cdot 2H_2O$	180



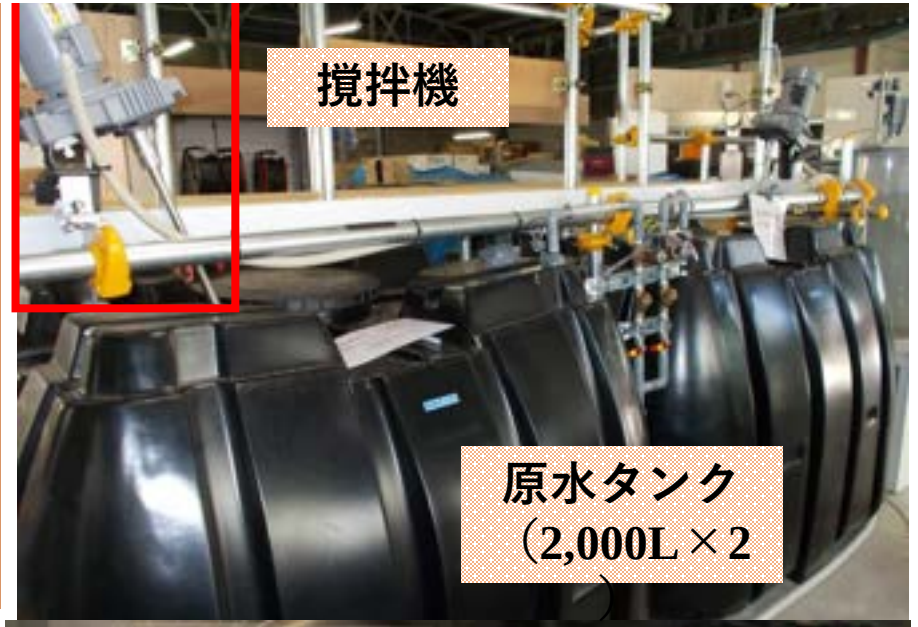
反応槽容積
- 300L×２槽
- φ500×H1,000
- pH制御

原水槽　（攪拌機付）
- 2,000L×２槽

アナモックス細菌の大量培養

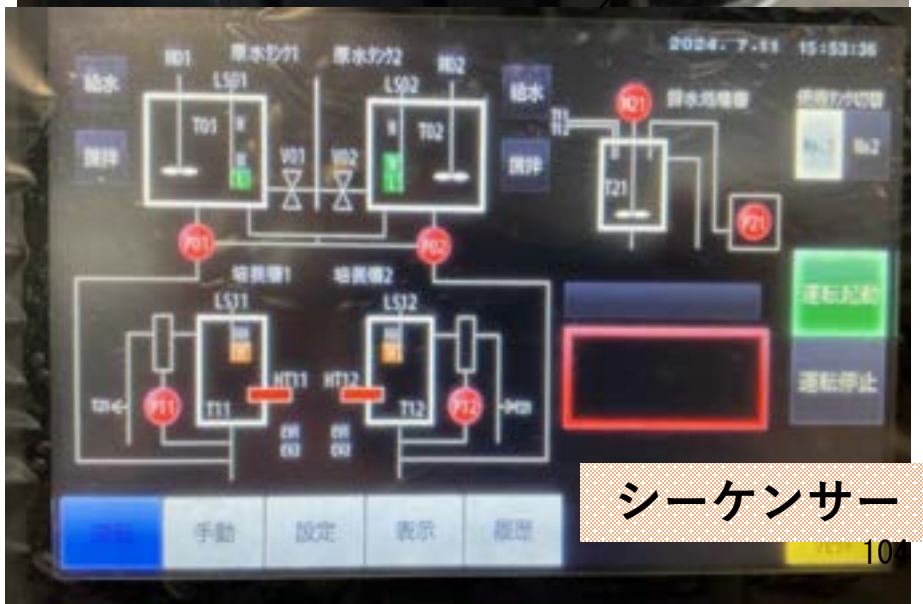


理工学部　井坂教授/峯岸准教授





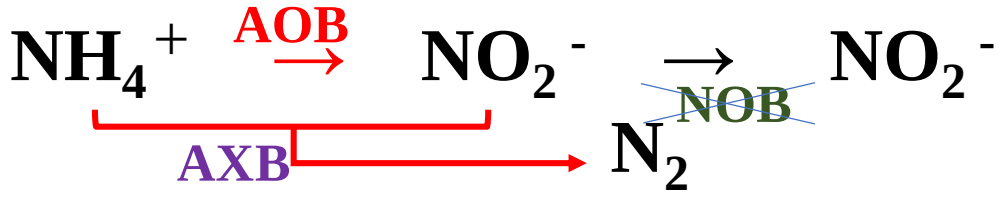




①基本プロセス開発（微生物解析）

①–1 微生物叢の解析・定量評価系の構築

理工学部 峯岸准教授



(1)反応を担う細菌の定量（定量PCRによる評価）

- 16S rRNA遺伝子に基づく、アナモックス細菌(AOB)の定量化
- 16S rRNA遺伝子に基づく、アンモニア酸化細菌(AXB)の定量化

(2)阻害要因である亜硝酸酸化細菌(NOB)の評価

*Nitrospira*属の同定および定量化のプライマー設計

Nitrospira 16S遺伝子増幅用

Primer	配列	長さ	Nitrospira position※
NR16S_F3	AAGGTYYTCGGATTGTAAAC	23	412-431
NR16S_R	GWTTGCARCCCTYTGTACCG	20	1252-1233

クローン解析によりLingageIIのNitrospira japonicaeであると同定



①微量金属制限なし：*Nitrospira*>*Nitrobacter*　②微量金属制限あり：Nitrospira<*Nitrobacter*

微生物活性と微量元素

東洋大学　環境工学研究室

汚濁物質（処理対象）

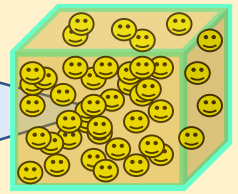
窒素
- NH_4^+
- NO_2^-
- NO_3^-

化学物質
- SeO_4^{2-}
- SeO_3^{2-}
- 1,4-Dioxane

分解菌

- 硝化菌
- ｱﾅﾓｯｸｽ菌
- 脱窒菌
- セレン還元菌
- ジオキサン分解菌

固定化技術



固定化担体

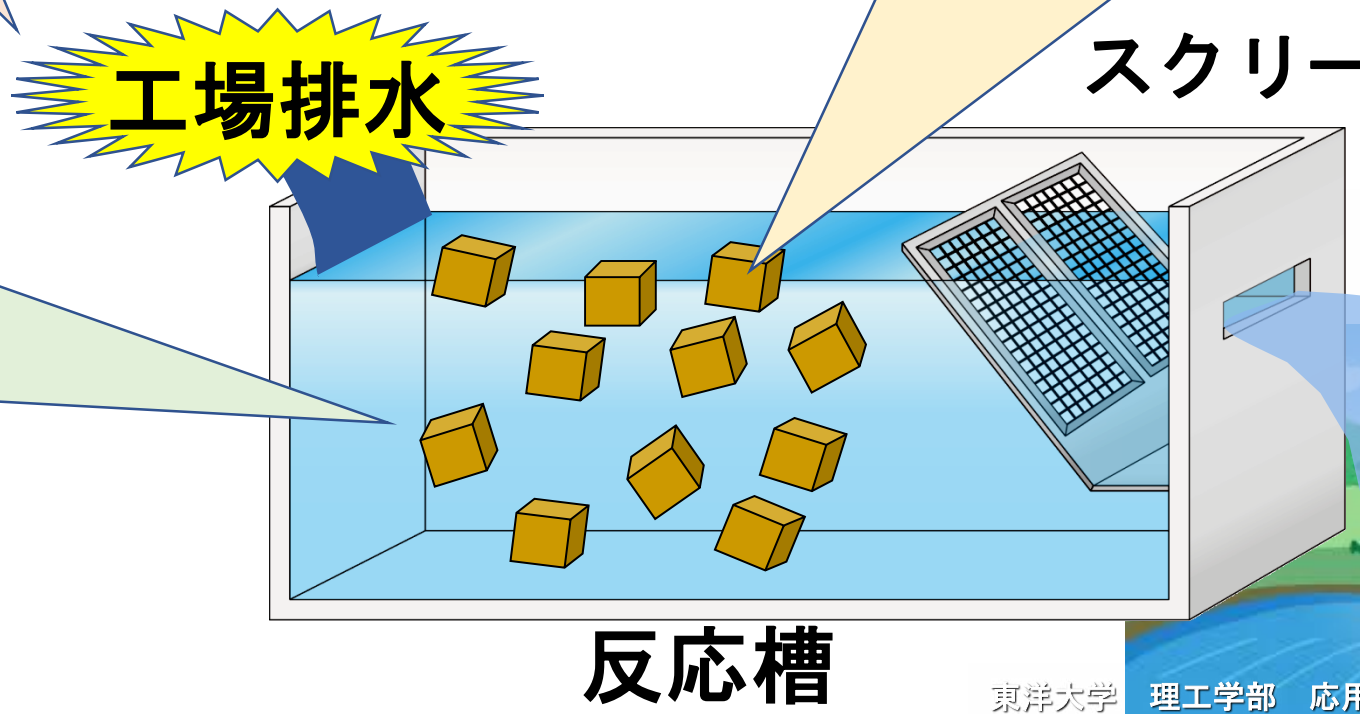
付着
- 表面積
- 細孔

包括固定
- 毒性
- 拡散抵抗

分離性
- サイズ

成分（必須・微量元素）

主要元素	N	C
	P	H
	S	Ca
微量元素	Fe	Ni
	Cu	Co
	Zn	Mo
	Mn	Se



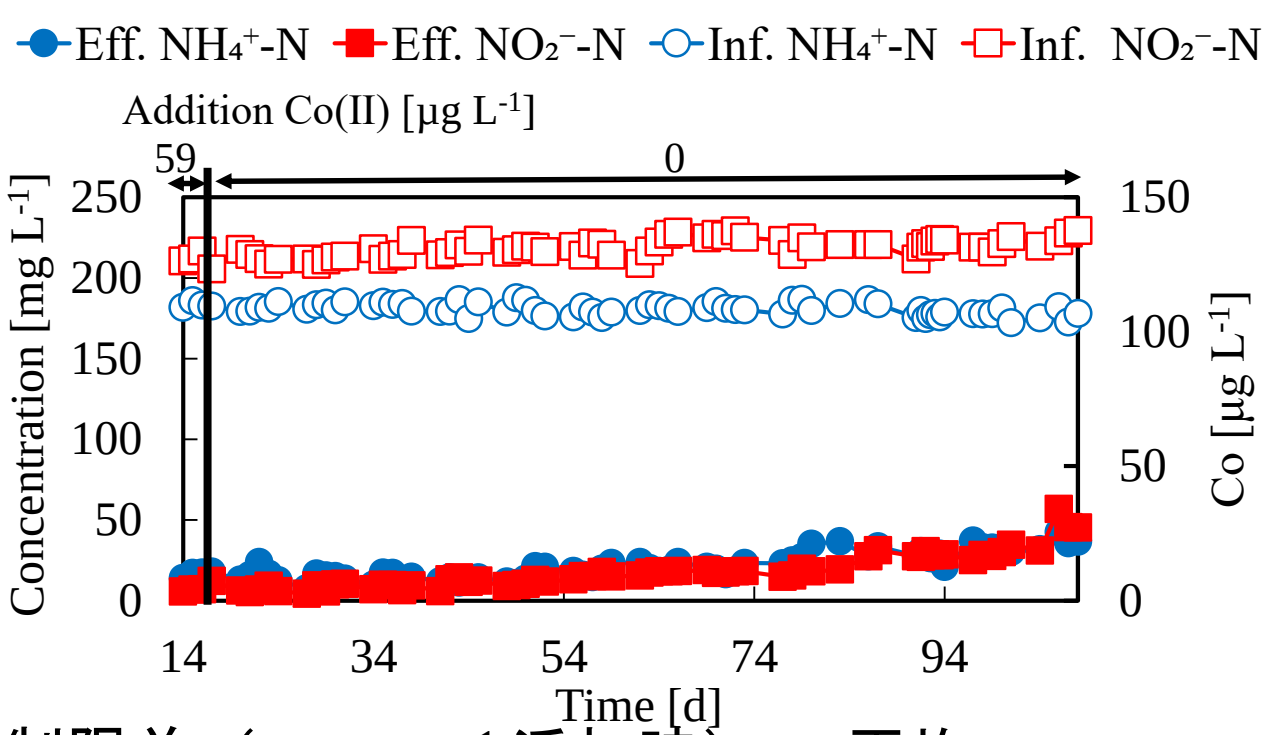
①基本プロセス開発(小型試験)

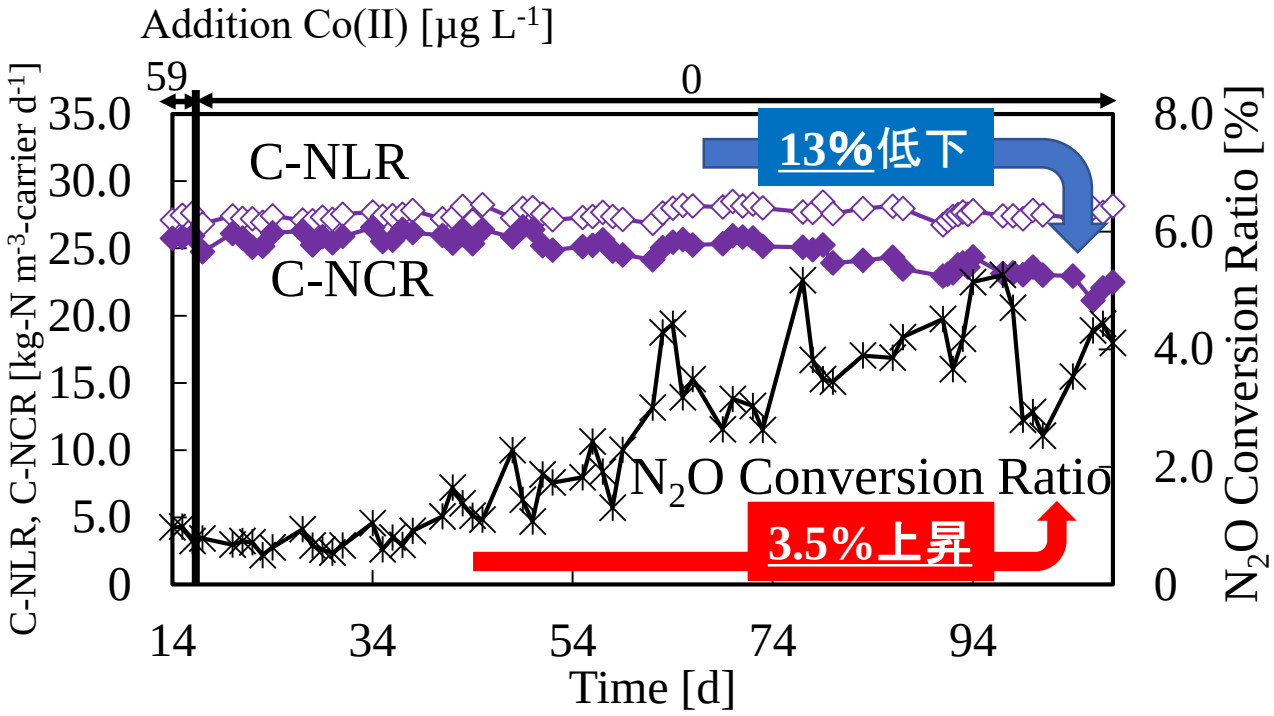
理工学部 井坂教授



Co（II）制限試験：処理性能、N_2O転換率

理工学部 井坂教授/山崎教授





制限前（59 μg L^{-1} 添加時）：平均C-NCR：25.8 kg m^{-3}-carrier d^{-1}、平均N_2O転換率：0.83%

制限後（0 μg L^{-1} 添加時）：窒素処理活性は低下傾向を示し、92日間で**13%低下**

N_2O転換率は上昇傾向を示し、92日間で**3.5%上昇**

Co（II）制限下では運転維持が不可能・N_2O転換率も上昇傾向を示した

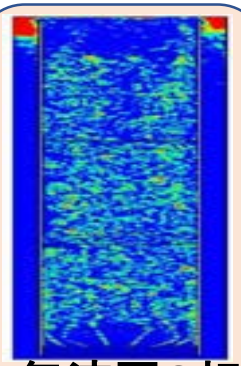
活性低下前にN_2O転換率が上昇する傾向

N_2O転換率の傾向で、活性の低下を事前に検知できる可能性

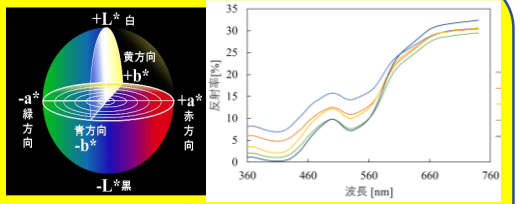
本研究テーマの全体

②-1 流体シミュレーション
（応化　井坂和一）

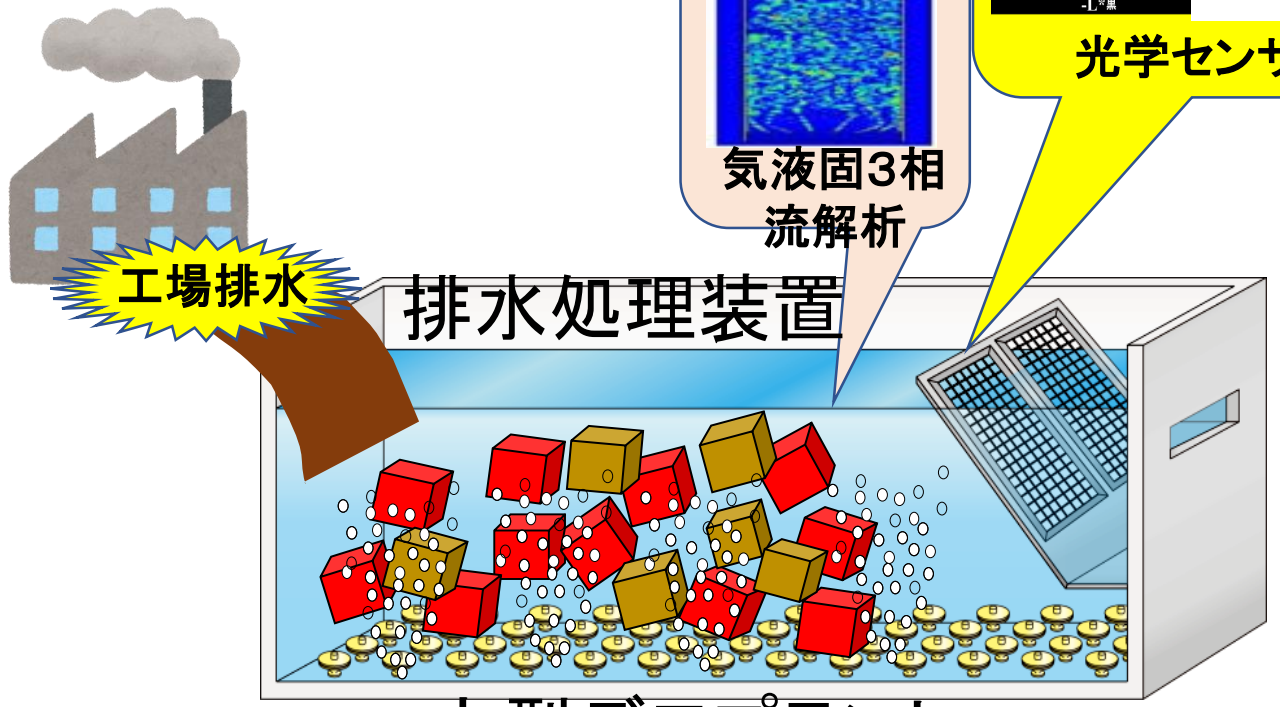
②-2 センシング技術
(応化　相沢宏明)



気液固3相
流解析

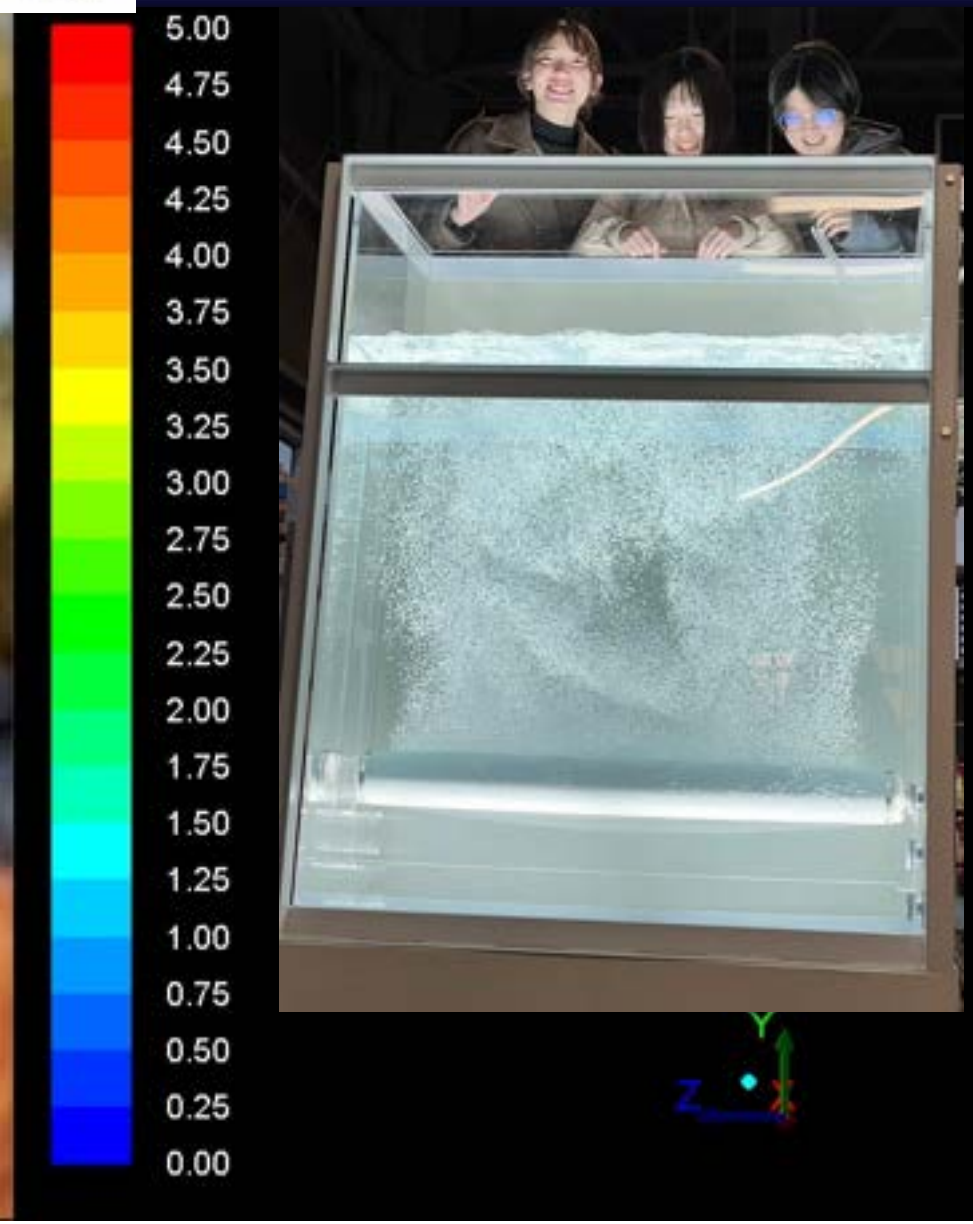


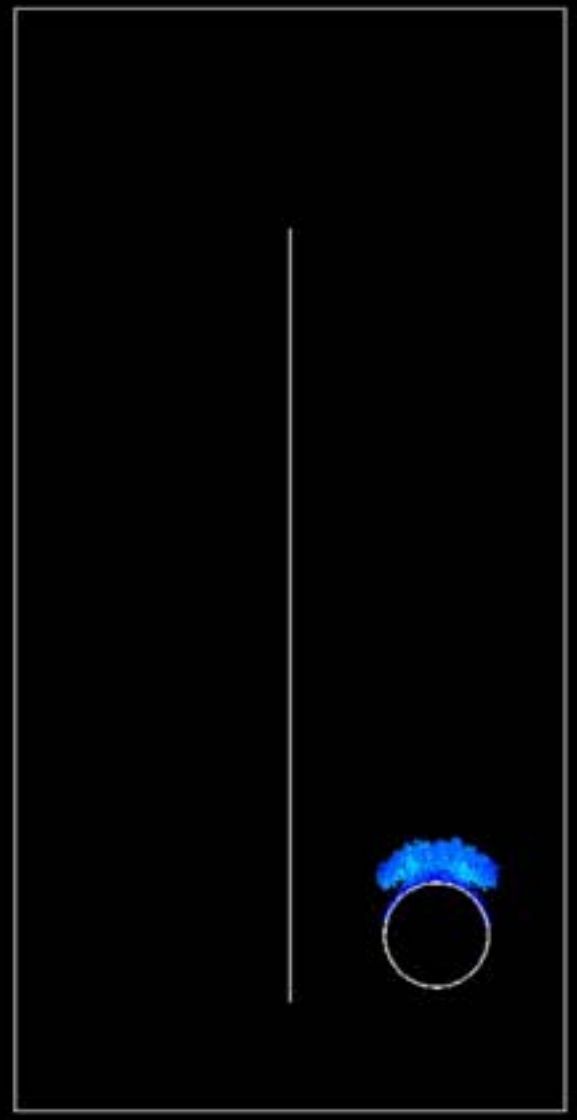
光学センサー

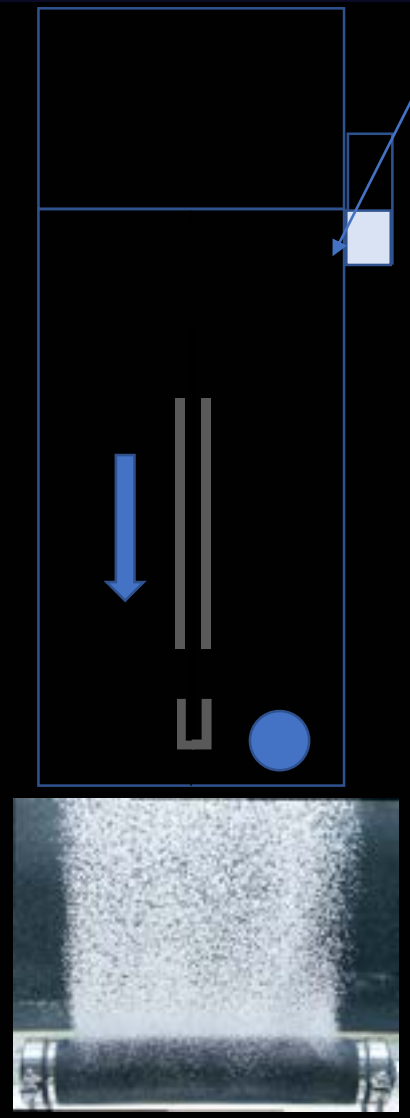


大型デモプラント
②-3 システム検討
(応化　井坂和一)

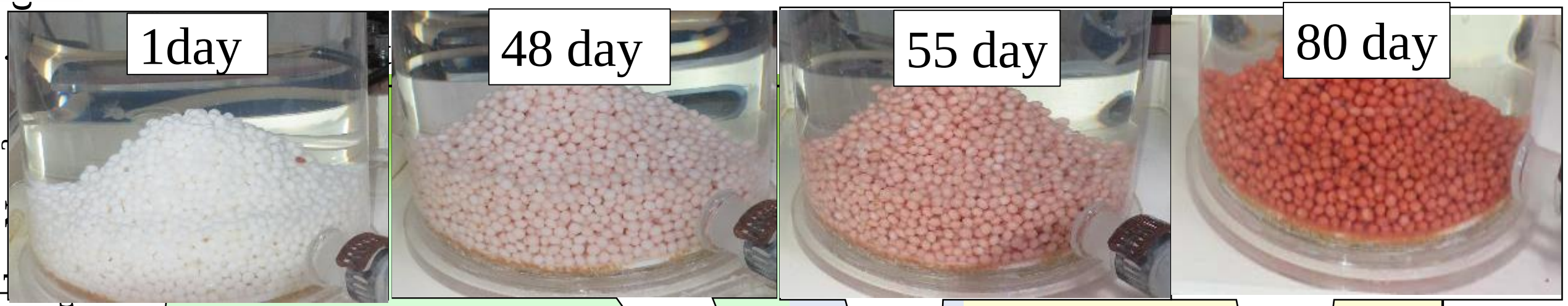
②システム化検討（実証装置）

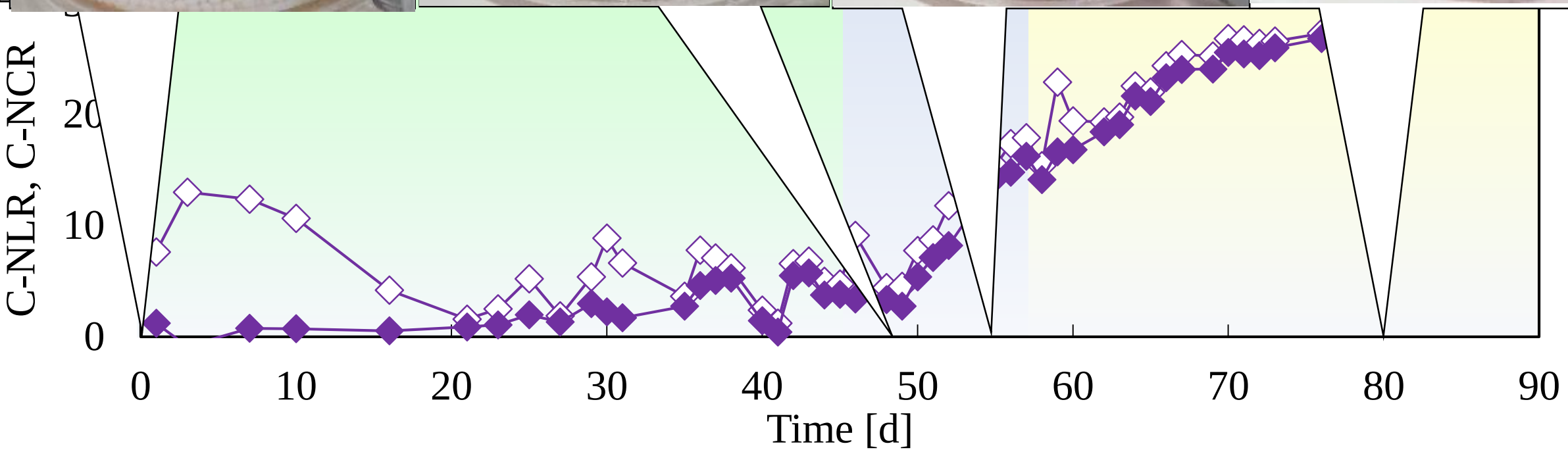






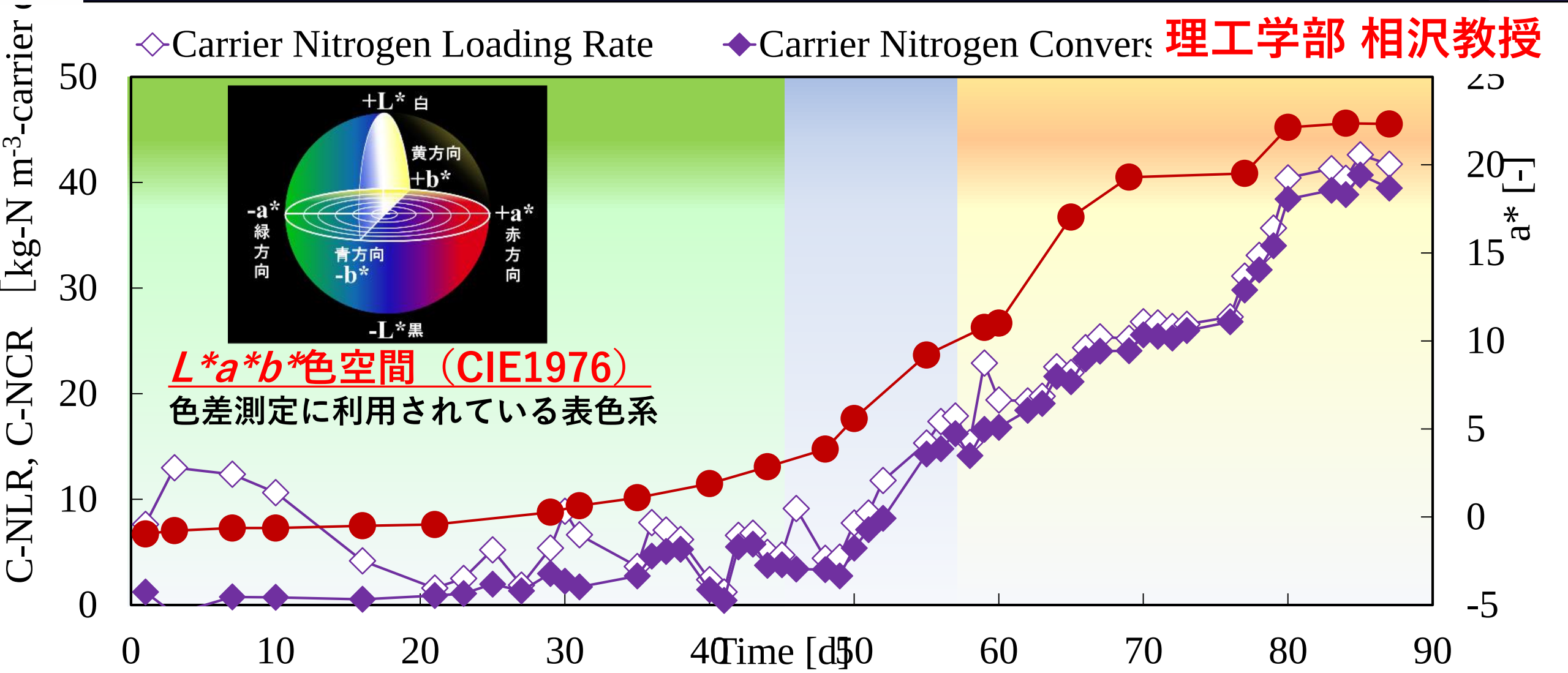
②システム化検討（センサー）





②システム化検討（センサー）

理工学部 相沢教授



処理性能（C-NCR）の上昇に伴い色彩a*も増加。活性指標として有効。

本研究テーマの全体

④-1 発酵排水へ展開
(情報連携　後藤尚弘)

③-1 温室効果ガス評価
(都市　山崎宏史)
N_2O/CO_2排出量の評価

③-4大気放出される窒素評価
（応化　反町　篤行）

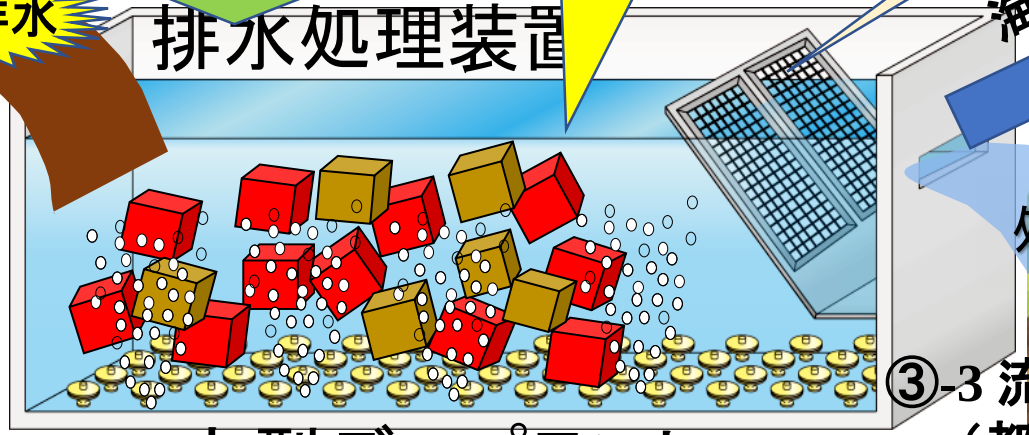
④-2 海外技術展開
(国際地域　北脇秀敏)





海外技術支援

排水処理装置



大型デモプラント

処理水



④-3 合意形成

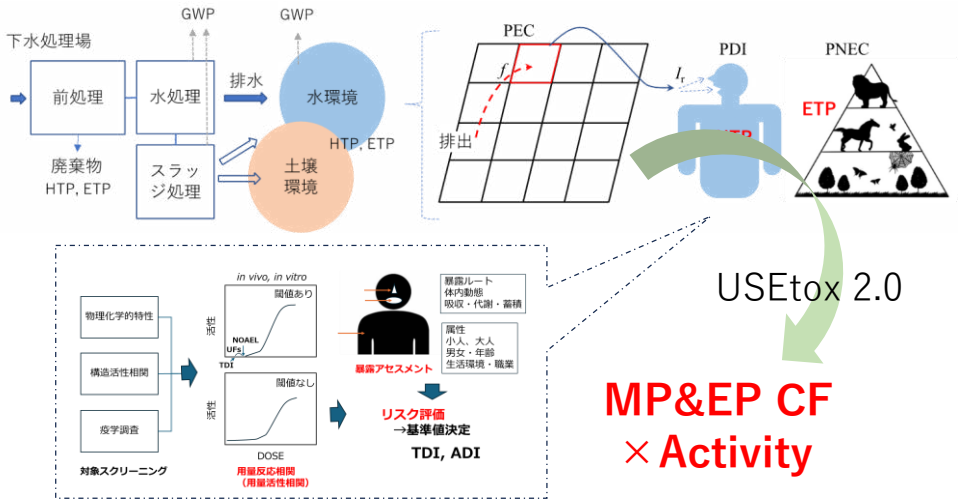
③-3 流域魚類への影響
（都市　青木宗之）

③-2 総合経済性評価　LCA（総合政策　清田 佳美）

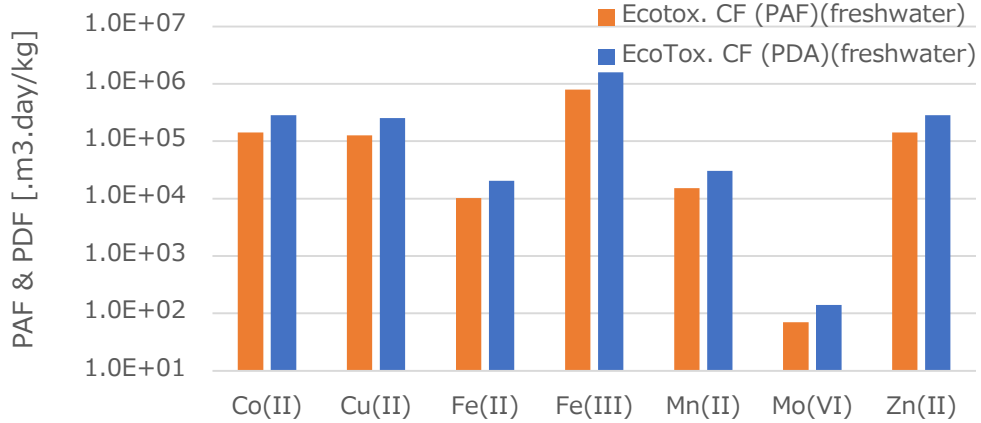
③-2 経済性評価

メタル利用の影響評価

1.メタルのLCA：国際的な整備状況調査・選定・評価



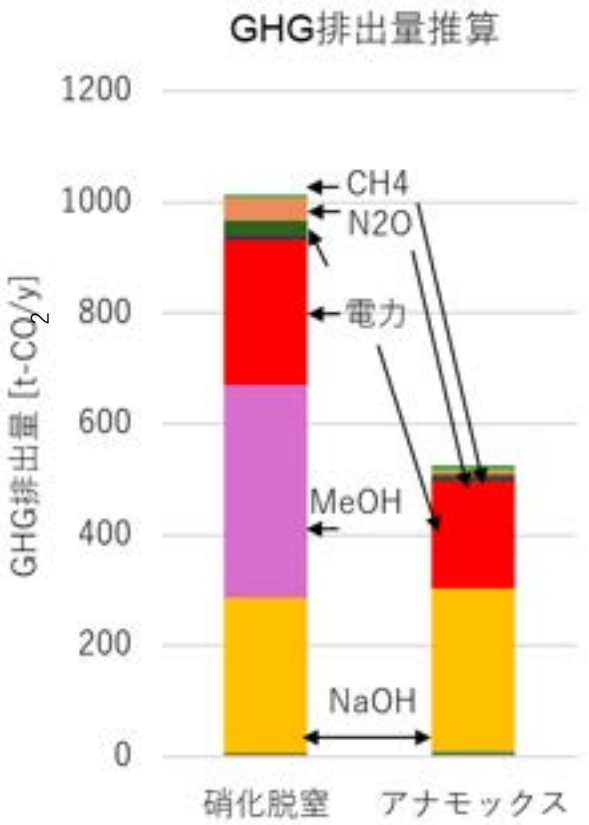
2. 生態系影響：淡水系排出・摂取特性化係数

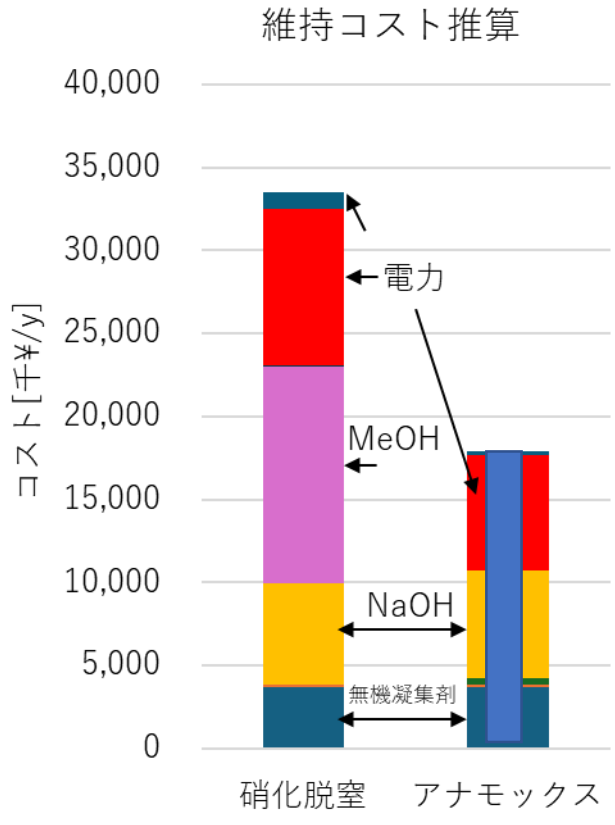


消化汚泥脱水ろ液処理に20ppb-Zn使用時：
・放流水分配→返流水/原水比率で希釈→公共用水基準以下、水生生物影響基準以下
・汚泥分配→発生汚泥量に依存する汚泥中濃度→影響は極めて小さいと考えられるが肥料転用等は影響確認。特定微量物への分配影響は課題。

環境影響と経済性

硝化脱窒プロセスのLCA調査により環境影響およびコストの主要影響プロセス・要素の抽出・把握





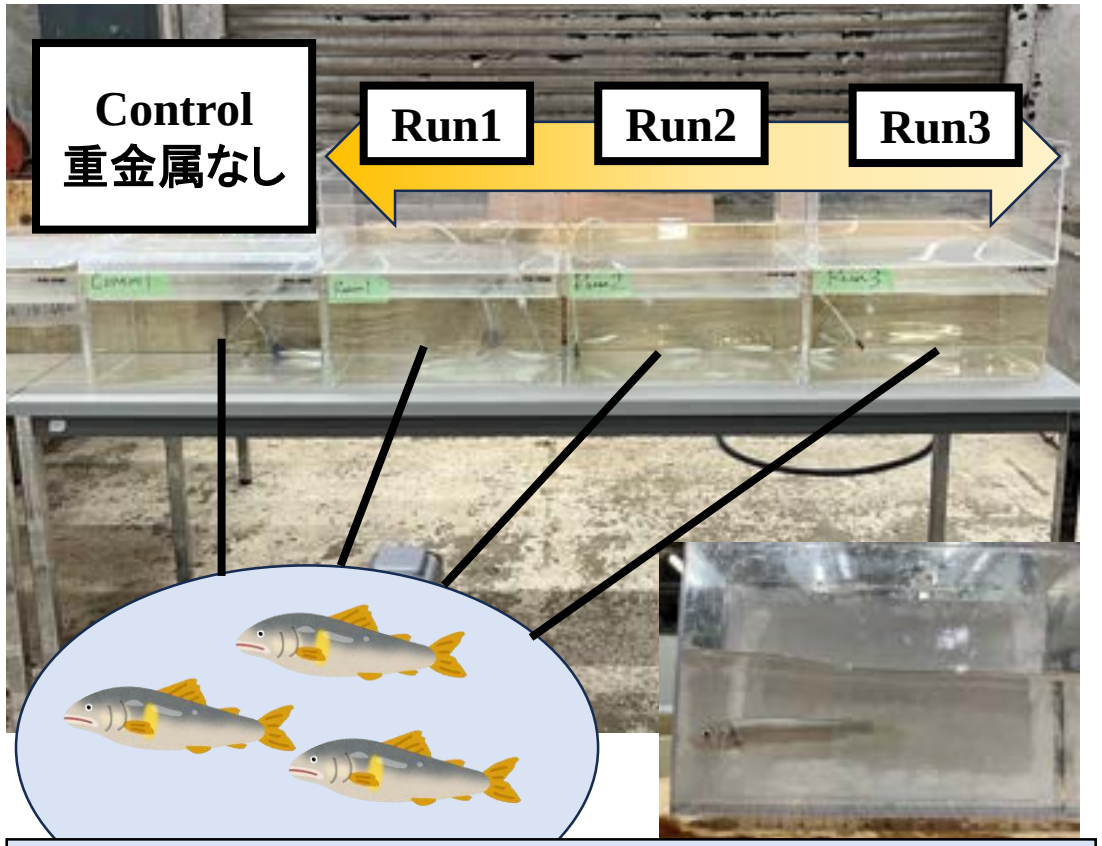
・消化汚泥脱水ろ液の返流水処理を想定
・T-N 1000mg/L、原単位法（データベース・文献値）

環境影響：
・電力削減によるＧＨＧ削減効果、使用薬品に由来する環境影響削減効果大
・経済性：維持コスト
・O2消費量、発生汚泥の大幅な削減による電力コスト削減大
・薬品コストの削減効果大

③-3流域魚類への影響

理工学部 青木准教授

【実験風景(アユ)】

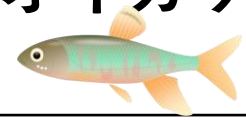


体長約10cmのアユを各水槽に3匹

【試験条件】

(単位 μg L^{-1})	Control	Run1	Run2	Run3
Mn(II)	添加なし	5	0.5	0.05
Fe(II)		100	10	1
Co(II)		20	2	0.2
Cu(II)		20	2	0.2
Zn(II)		20	2	0.2
Mo(VI)		5	0.5	0.05

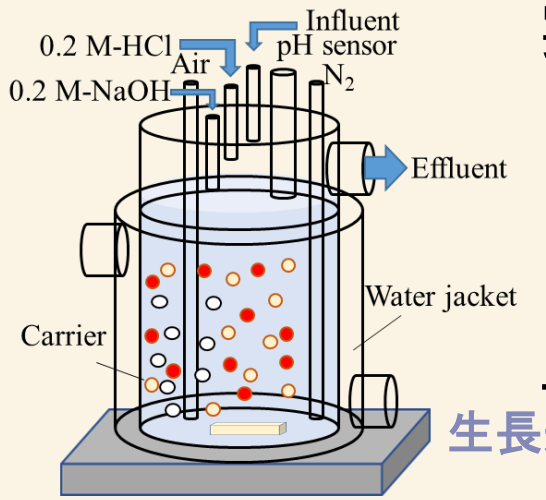
【試験結果】

ウグイ	ドジョウ	オイカワ	アユ
			
影響なし	影響なし	影響なし	影響なし

試験レベルの濃度域において、魚類(4種)への影響は確認されなかった
➢流域魚類への影響はないといえる

処理水を対象とした藻類生長に及ぼす影響

理工学部 山崎教授



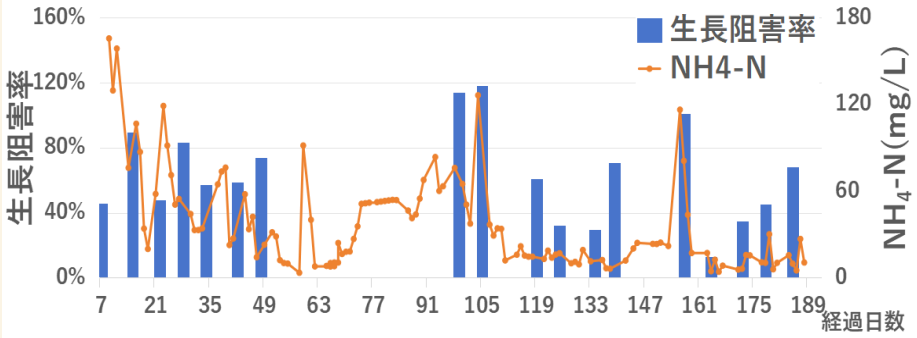
実験サンプル：
一槽型処理水*

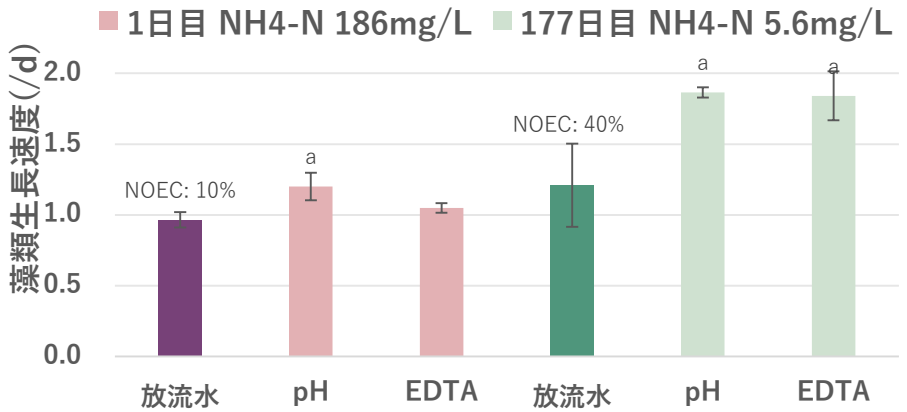
実験方法：
藻類生長阻害試験
& 毒性同定評価**

エンドポイント：
生長速度 & 生長阻害率
等分散性検定
有意差検定実施

*: 1つの処理槽において亜硝酸型硝化 & アナモックス処理を進行
**: 環境省、US.EPA等による実施[1-4)]

初期流入水		TE (Trace Element for anammox bacteria)	
成分	濃度 (mg/L)	基質	濃度 (g/L)(ppb)
NH_4Cl	1909	$FeSO_4 \cdot 7H_2O$(Fe)	5000(1004)
(as NH_4-N)	(500)	$ZnSO_4 \cdot 7H_2O$(Zn)	431(98)
$NaHCO_3$	1500	$CoCl_2 \cdot 7H_2O$(Co)	238(59)
KH_2PO_4	22	$MnCl_2 \cdot 4H_2O$(Mn)	991(275)
NaCl	51	$CuSO_4 \cdot 5H_2O$(Cu)	251(64)
KCl	24	$NaMoO_4 \cdot 2H_2O$(Mo)	219(87)
$CaCl_2 \cdot 2H_2O$	24	$NiCl_2 \cdot 6H_2O$(Ni)	190(47)
$MgSO_4 \cdot 7H_2O$	84	$H3BO_3$(B)	11(2)





a: TIE処理区生長速度と放流水生長速度の比較有意に増加

アナモックス処理流入＆放流水の金属イオン濃度(ppb)

	B	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	Mo
流入	52	282	887	65	47	62	114	94
放流	51	218	635	50	36	49	89	69
Δ (%)	-2.5	-22.7	-28.4	-23.1	-23.4	-21.0	-21.9	-26.6

1. 藻類生長阻害試験

アナモックス処理水
- 平均生長阻害率　60%
- 平均NOEC　≦ 40%

(比較)浄化槽処理水
- 平均生長阻害率*** 27%[5)]
- 平均NOEC　< 20%

生活排水を対象とした浄化槽処理水より藻類生長への影響は少ない

2. 毒性同定評価

処理水に残存する$NH_{4\ \&\ 3}$–N
→有害影響確認

処理水に残存する金属成分
→NH_4–N高濃度時有害影響示さず

1) 排水（環境水）管理のバイオアッセイ技術検討分科会：生物応答を用いた排水試験法（検討案）第 3 版（2015）2) US EPA, EPA/600/2-88/070(1989)　3) US EPA, EPA/833B-99/002(1999)
4) US EPA, Clarifications Regarding Toxicity Reduction and Identification Evaluations in the National Pollutant Discharge Elimination System Program, (2001)
5) CHEN, et al., Journal of Water and Environment Technology, Vol.21, No.3: 141–150, 2023

③-4生態系への影響

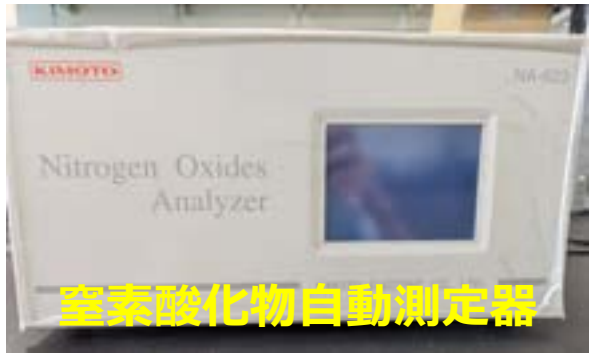
大気放出される窒素評価

理工学部 反町教授

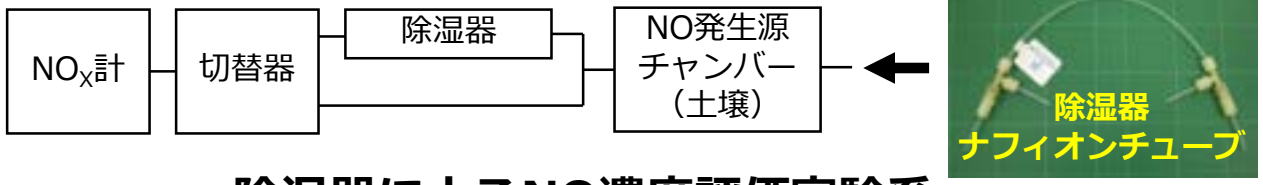
ロ NOガス測定：

①方法：窒素酸化物自動計測器（化学発光法）

③検討事項：除湿器（ナフィオンチューブ）を用いた加湿サンプルガスの除湿時のNO測定



③実験方法：NO濃度測定における除湿器の影響



除湿器によるNO濃度評価実験系

④結果：20%のNOがNO_2に変換

➡ NO発生量の過小評価の恐れ

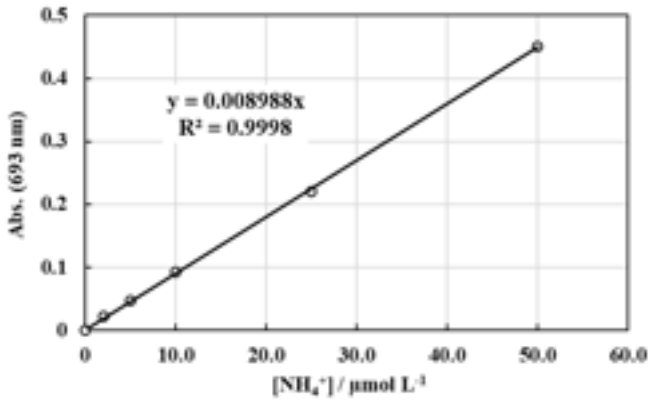
ロ NH_3ガス分析：

②方法：フィルター法（捕集後、フィルター分析）

③検討事項：紫外可視分光光度計を用いた常時モニタリングにおける迅速かつ簡易的な分析法



③実験方法：NH_4Clとインドフェノール試薬を用いて、合成した溶液を標準溶液として紫外可視吸光光度計で分析



インドフェノール法によるNH_4^+検量線

④結果：検量線の作成

➡ NH_3ガス分析に使用可能

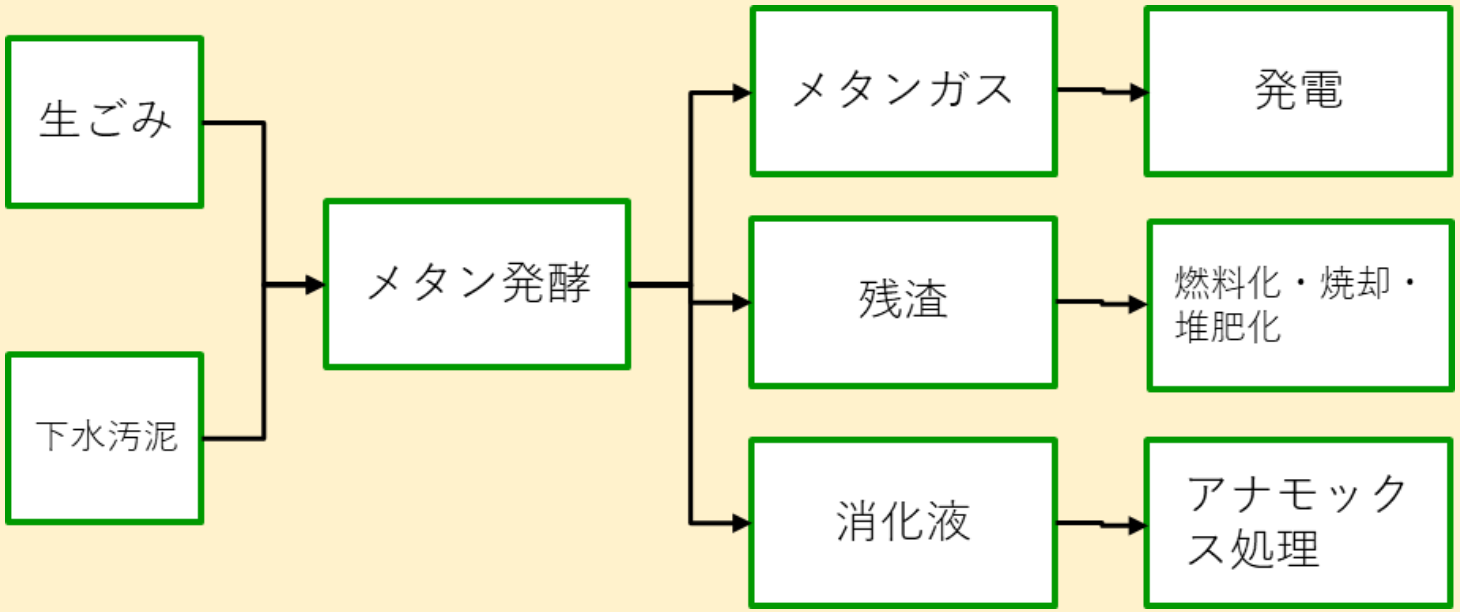
各担当部分の研究成果

情報連携学部 後藤教授

- 廃棄物、下水汚泥の混合処理＋アナモックス処理によって温室効果ガス排出削減量の試算を行う

提案スキーム

生ごみと下水汚泥を混ぜメタン発酵。得られたメタンガスは発電し、消化液にアナモックス処理を適用する



豊橋市下水処理場、大阪市下水処理場等からデータを入手

試算結果
アナモックス導入による二酸化炭素排出削減量

	ktCO2/年
茨城	4.5
栃木	2.5
群馬	5.1
埼玉	62.7
千葉	12.5
東京	24.1
神奈川	10.0
合計	121.4

関東地方では121.4ktCO2の削減（一般家庭の約4万世帯に該当）

④-2海外展開（海外調査）

バングラデシュ南北ダッカ市を調査

国際学部 北脇教授



Figure-1: Sampling Location of Leachate Treatment Plant (Courtesy: Google earth Image)

Photo Snippet of Sampling to Sample Delivery to the Laboratory


Raw Leachate Sampling Point


Anaerobic Sampling Point


Aerobic Waste Water Sampling Point


Treated Waste Water Sampling Point


Sampling of Leachate


Sampling of Treated Waste Water


Sampling of anaerobic Waste Water


Pouring sample in the sampling Bottle


Labeling and Sealing of Sampling Bottle


Sampling Team with four locations representatives samples


Refrigerate the Sampling bottles with Ice


Finally Deliver Sample to BRTC, BUET

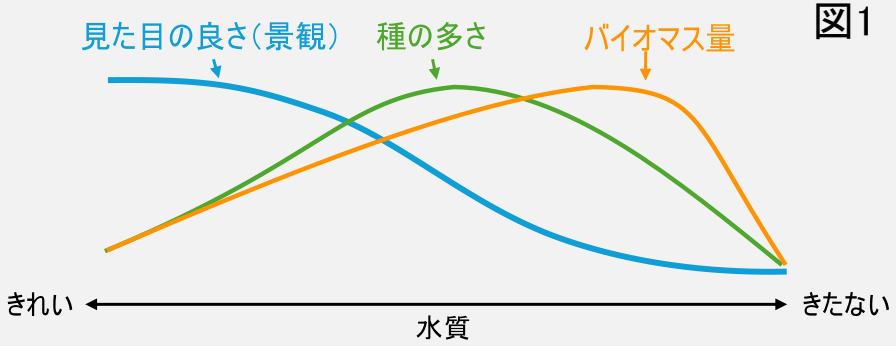
④-3 合意形成

総合情報学部 大塚佳臣

研究の狙い

適切な水質改善レベルを考える上で、水域の水質改善がもたらす景観の改善、種の多様性、バイオマス量のトレードオフに対する住民の価値評価を定量的に把握する必要がある。

図1



研究の方法

水質の変化による景観、魚類の種の多様性、魚類バイオマス量のトレードオフを踏まえた住民の相対価値を一対比較法で評価

➔適切な水質改善レベルを考察

水質の変化による景観の改善、魚類の種の多様性、魚類バイオマス量の概念を説明した上で、これらの属性の相対価値を問うアンケート調査を実施
（全国の成人13,000人対象）

Q 左と右の項目のどちらを重視しますか？

種の多さ ○—○—○—○—○ 景観

←総当たりで聞く

図2 水域別の3つの属性の相対重要度



結　果

- 魚類は種の多様性が最も重視される
- 海ではバイオマス量＞景観、河川・湖沼では景観＞バイオマス量が優先される
- 女性はバイオマス量より景観を重視し、河川・湖沼でその傾向が強い
- 20–39歳は河川で景観を相対的に重視している

考　察

- 水質改善は種の多様性が確保されるレベルで受け入れられる可能性が高い
- 河川・湖沼では種の多様性と景観とのバランスを考慮した水質改善レベルを検討する必要がある

東洋大学　水のシンポジウム

①2011年12月　第１回　水のシンポジウム

「地球レベルから見た現代の水問題」

②2021年 9月　第２回　水のシンポジウム

「サステナブルな社会の実現を水環境から考える」

③2022年12月　第３回　水のシンポジウム

「東洋大学重点研究推進プログラム『安心な水を未来へ』」

④2024年　2月　第４回　水のシンポジウム

「有用細菌による排水処理技術の開発と普及に向けて」

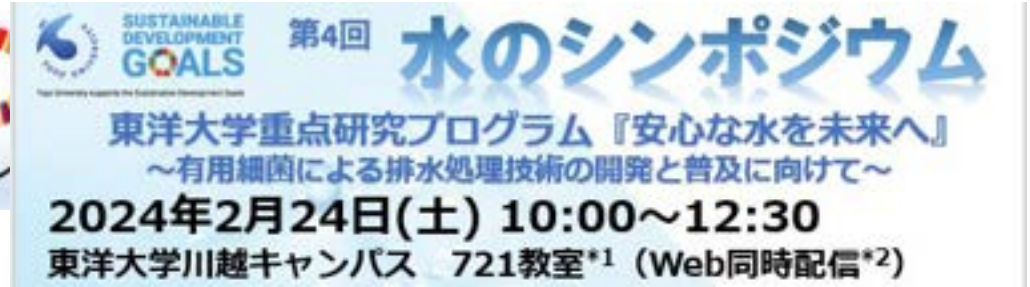
⑤2024年 11月　第５回　水のシンポジウム

「新しい排水処理技術の評価と社会実装に向けて」









展示会

○展示会（５件）

①JST新技術説明会 2022年9月13日Online
②イノベーション・ジャパン2022　2022年10月4日（火）～10月31日（月）
③ビジネスアリーナ2023　2023年2月8日（水）～2月9日（木）
④New環境展　2023年5月24日（水）～5月26日（金）東京ビッグサイト
⑤New環境展　2024年5月22日（水）～5月24日（金）東京ビッグサイト





広報（日経・東洋経済）

○『日本経済新聞に３週連続で掲載』（～コラムSDGs世代～）

日本経済新聞

トップ　速報　オピニオン　経済　政治　ビジネス　金融　マーケット　マネーのまなび

安全な水を世界中に（上）

2022年10月18日



安全な水を世界中に（中）

2022年10月25日



安全な水を世界中に（下）

2022年11月 1日



○東洋経済オンラインにて掲載

「新時代の排水処理技術」カギ握る微生物の力とは

最先端研究を通じた学生の成長とSDGsへの貢献

（2023年3月27日）

①重点研究の研究内容、本研究の意義、計画など

②重点研究の内容にする学生と井坂先生の対談



学会発表（受賞）

○第56回日本水環境学会年会（Web開催）

年会学生優秀ポスター発表賞（ライオン賞）　1名

受賞１件
2022年3月



○第57回日本水環境学会年会（高知大会）

年会学生優秀ポスター発表賞（ライオン賞）２名
年会優秀発表賞（クリタ賞）1名

受賞３件
2023年3月

○第59回日本水処理生物学会（九州大会）

ベストプレゼンテーション賞１名

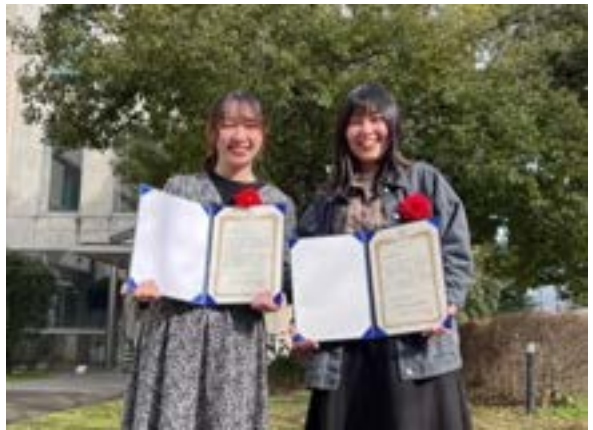
受賞２件
2023年10月

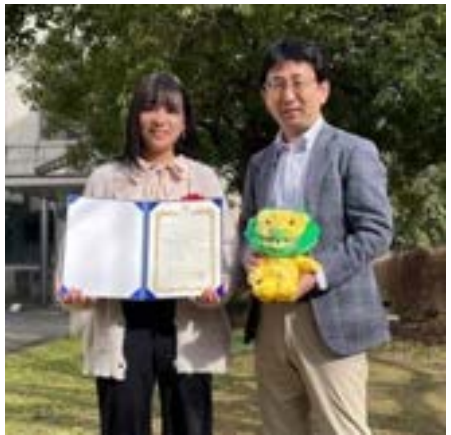


○第58回日本水環境学会年会（九州大会）

年会学生優秀ポスター発表賞（ライオン賞）１名
年会優秀発表賞（クリタ賞）２名

受賞３件
2024年3月







○第59回日本水環境学会年会（札幌大会）

2025年3月？

2024年度までの成果（予定含む）

項　目	件数（詳細）
学会発表	83件＊予定含む（日本水環境学会、日本水処理生物学会） 27件(2024年)
特許	・特許出願 9 件（埼玉県、民間企業と共同出願） 4件(2024年) ・基本特許登録１件（特許第7268860号：2023年5月）
論文	15 報（査読有 11 報） 6件(2024年) うち修士課程の学生執筆による論文（2報 査読有）
講演会主催	4件（第3～5回水のシンポジウム）3重点合同シンポ 1件(2024年)
展示会	5件（New環境展，JST新技術説明会，ﾋﾞｼﾞﾈｽｱﾘｰﾅ2023ほか）
外部資金（採択）	10 件（環境研究総合推進費，民間企業共研，科研費） 4 件(2024年)
若手研究者の育成	3　件（博士後期生のRA雇用、博士前期生の雇用）
評価委員会	3　件（各年度1回実施予定） 1件(2024年)

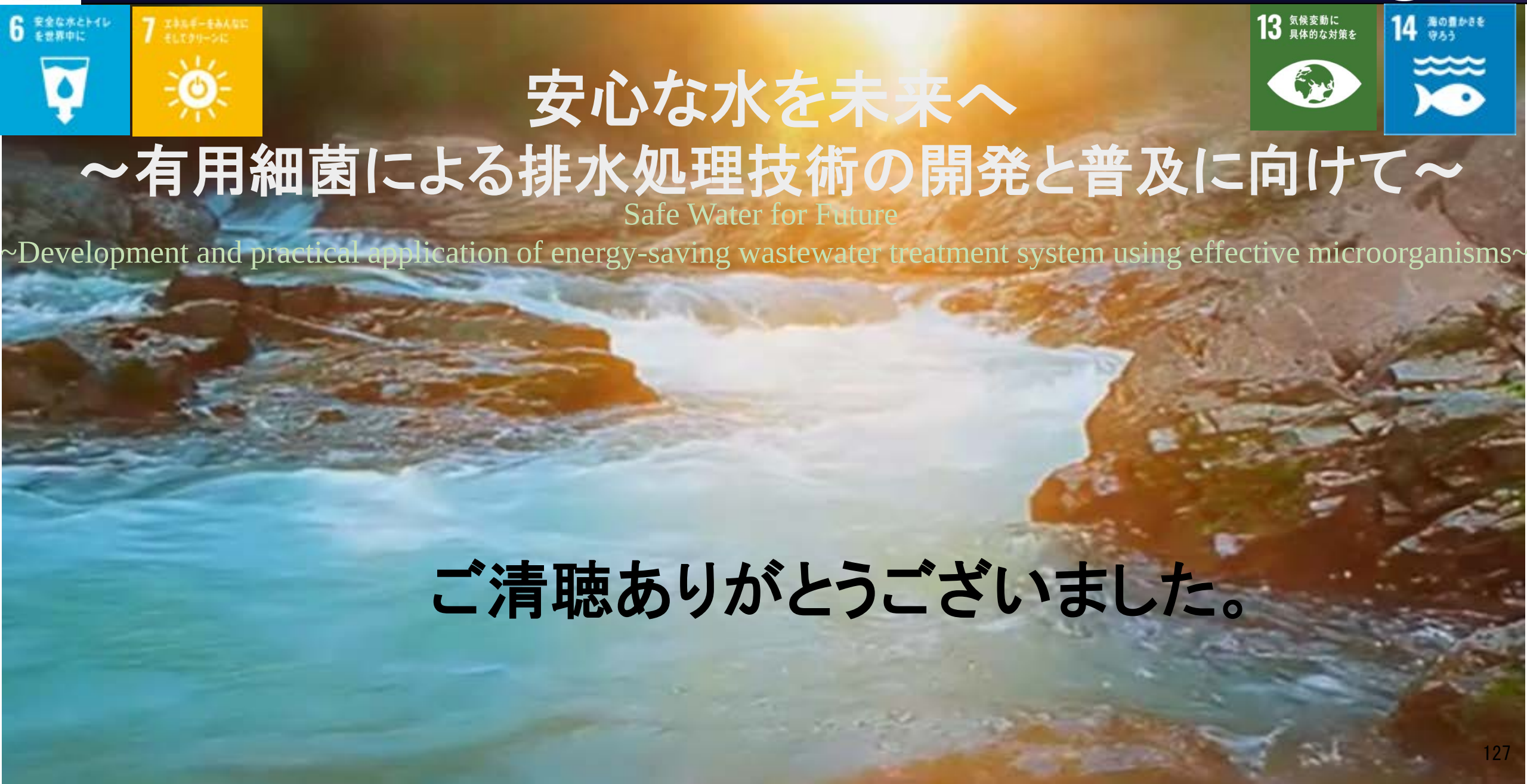
展開：2025年度　国プロテーマへ応募（産官学連携）
東洋大学・公共研究期間・民間企業で国プロへ応募

2027年　新学部（環境イノベーション学部）設置構想中

2025-2027　新学部設置、学科再編、新校舎建設により、川越キャンパスは「Smart Green Campus」に生まれ変わります。



川越キャンパスを包む「こもれびの森」は、地域の方々が大切にしてきた雑木林を、東洋大学が引き継ぎ、ともに守り続けてきた場所です。その川越キャンパスが、新しい科学を追究する"こもれびの森のキャンパス"として、リデザイン（再構築）を進めていきます。
理工学部、総合情報学部、そして2027年4月に開設を予定している環境イノベーション学部（*）の3学部が協働し、教育・研究・地域連携を通じて、新たな価値を創出する「Smart Green Campus」へと生まれ変わります。



安心な水を未来へ
～有用細菌による排水処理技術の開発と普及に向けて～

Safe Water for Future

~Development and practical application of energy-saving wastewater treatment system using effective microorganisms~

ご清聴ありがとうございました。

2024年度重点研究推進プログラム研究成果報告会

レジリエントな社会に向けた SDGsの包摂的実現に関する研究 （2022年度～2024年度）

2025年1月

東洋大学国際共生社会研究センター

センター長　松丸 亮

研究の背景（研究開始時）

- 日本におけるSDGs関連研究の発表論文数は増加傾向。
- 論文数が多い研究テーマ。
  - ゴール3「すべての人に健康と福祉を」
  - ゴール7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」
  - ゴール13「気候変動に具体的な対策を」
- ゴール1「貧困」に関連する論文が最も少ない。
- ゴール5「ジェンダー」を扱う論文も少ない傾向。
- 今後のSDGs研究には、ジェンダーの視点の導入と分野間の連携不足を解消する必要性を指摘。

『The Power of Data to Advance the SDGs』（過去5年間のSDGs関連研究の動向調査、エルゼビア、2020）

- これまでセンターでは、貧困削減、ジェンダーといったSDGs研究の中でも不足が指摘されている分野の研究を実施
- 文理融合・学際的なセンターという特徴を活かした分野間連携による研究を実施
- 本重点研究においてもそれを深化させる予定。

SDGs研究の動向からみても意義がある研究

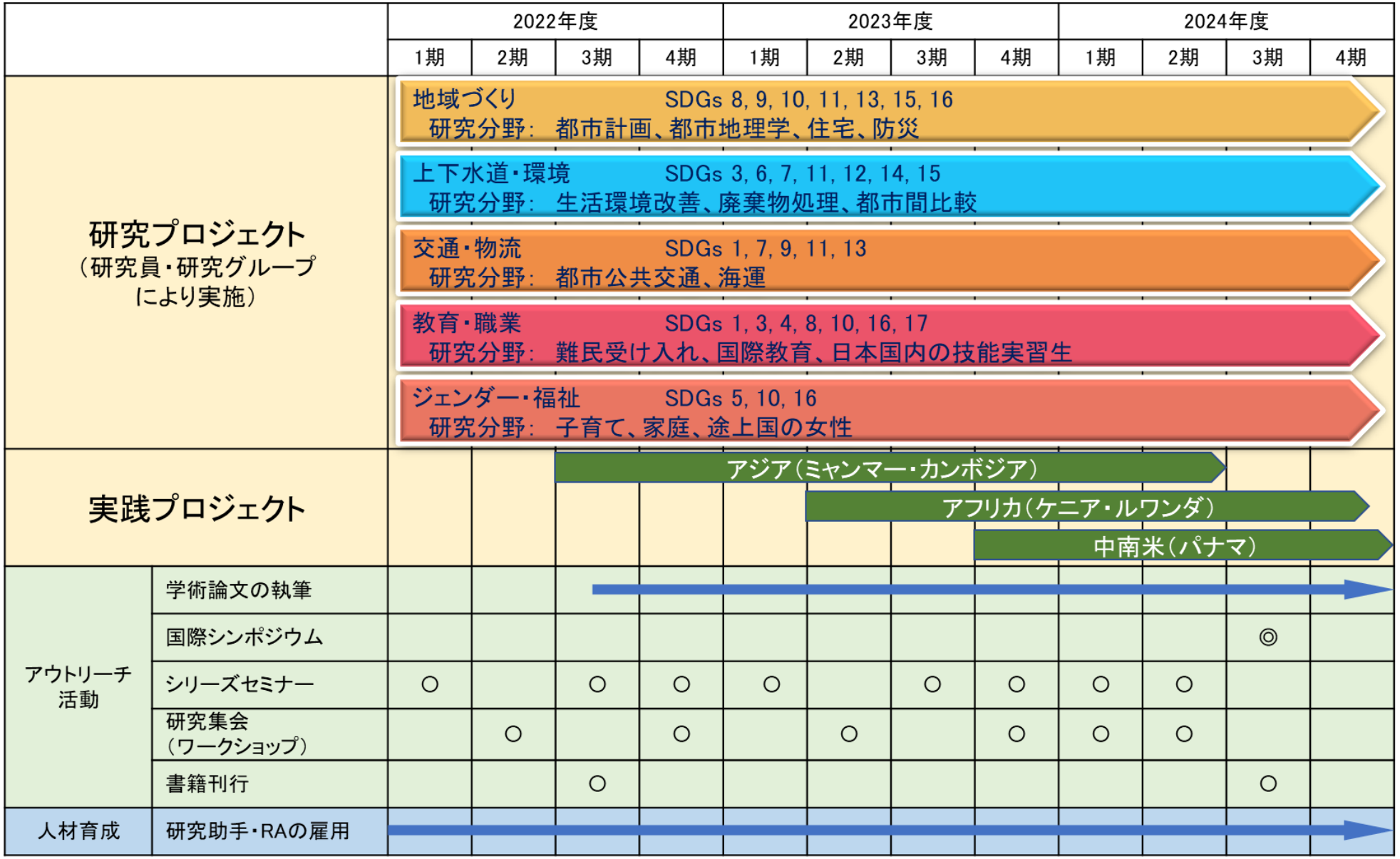
研究の目的・目標

これまでの研究キーワードである「サステナブル（持続可能）」に、「レジリエント」という新たな視点を加え、センターが担う実践型研究のプラットフォーム機能を文理融合・産官学連携の促進などの形でより強化することで、

- **包摂的なSDGsの実現に向けた実践的研究を深化させること。**
- **実践成果の地域・分野展開にかかる研究を加速させること。**

- 多分野の専門家（研究員＋関係者）で構成される複数のチームが日本、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、中南米、大洋州といった諸地域で、本学への留学経験者（主として現地大学の研究者や政府機関の官僚）や民間企業や団体、JICA協力隊員（本学現役院生）とも連携しながら、レジリエントでサステナブルな社会の構築という共通の目標に向けた研究に取り組む。

全体工程（計画）


2022年度
2023年度
2024年度
1期
2期
3期
4期
研究プロジェクト
（研究員・研究グループにより実施）
地域づくり SDGs 8, 9, 10, 11, 13, 15, 16
研究分野： 都市計画、都市地理学、住宅、防災
上下水道・環境 SDGs 3, 6, 7, 11, 12, 14, 15
研究分野： 生活環境改善、廃棄物処理、都市間比較
交通・物流 SDGs 1, 7, 9, 11, 13
研究分野： 都市公共交通、海運
教育・職業 SDGs 1, 3, 4, 8, 10, 16, 17
研究分野： 難民受け入れ、国際教育、日本国内の技能実習生
ジェンダー・福祉 SDGs 5, 10, 16
研究分野： 子育て、家庭、途上国の女性
実践プロジェクト
アジア（ミャンマー・カンボジア）
アフリカ（ケニア・ルワンダ）
中南米（パナマ）
アウトリーチ活動
学術論文の執筆
国際シンポジウム
◎
シリーズセミナー
○
研究集会（ワークショップ）
書籍刊行
人材育成
研究助手・RAの雇用

主要研究プロジェクト実績

	2022年度				2023年度				2024年度			
	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期
地域づくり 小規模人道支援がもたらす循環型インパクトに関する研究 中山間地域の地域資源を活用した地域活性化にかかる研究（日本、ベトナム、イタリア）												
交通・物流 開発途上国における私的交通依存下での公共交通												
SURFイニシアチブ（スマート都市管理フレームワーク） トルコ・シリア地震後の復興都市計画立案にかかる共同研究												
トンガコミュニティ災害レジリエンス強化												
環境負荷の低い資源を利用した芸術・歴史建築の保全技術確立												
上下水道・環境 紛争国における破壊建造物のリサイクルを活用した都市の復興に関する研究												
上下水道・環境 インレー湖環境改善 サブサハラにおける村落給水												
教育・職業 ミャンマー政変の人的資本育成への影響－高等教育と職業訓練に焦点を当てて－												
ジェンダー・福祉 CopaGloba親になる過程におけるコペアレンティングの認識の形成に焦点を当てた縦断的国際比較研究 東洋大学における「MeW（Menstrual Wellbeing by/in Social Design）Project」の展開												

2024年度実績

① 研究成果

② アウトリーチ活動

③ 産官学連携プロジェクト・異分野融合・オープンイノベーション

④ 若手研究者の育成

①研究成果（論文・発表・書籍）

■採択論文数

- Scopus掲載論文：28編

■学会発表数

- 国際学会：13回
- 国内学会：27回

②アウトリーチ活動（1）書籍の刊行

■書籍の刊行

- 日本語：1冊（フィールドワークで世界を見る）



はじめに

Ⅰ　フィールドワークとは
　第1章　フィールドワークとは？〔岡本郁子・中村香子〕

Ⅱ　人びととコミュニティを理解するためのフィールドワーク
　第2章　人類学のフィールドワーク―「想定の外」への終わりなき旅―〔中村香子〕
　第3章　コミュニティのフィールドワーク〔鈴木鉄忠〕
　第4章　移民社会のフィールドワーク―カラーチーの「ベンガリー」移民―〔鈴木鉄忠〕

Ⅲ　社会の仕組みを理解するためのフィールドワーク
　第5章　行政を理解するためのフィールドワーク〔沼尾波子〕
　第6章　経済活動を理解するためのフィールドワーク〔坪田建明〕
　第7章　福祉や社会を理解するためのフィールドワーク〔藪長千乃〕
　第8章　途上国の農村経済・社会を理解するためのフィールドワーク〔岡本郁子〕
　第9章　教育を理解するためのフィールドワーク〔金子聖子〕

Ⅳ　まちづくり計画のためのフィールドワーク
　第10章　都市計画やまちづくり，地域づくりのフィールドワーク〔志摩憲寿〕
　第11章　交通とまちづくりのフィールドワーク〔岡村敏之〕
　第12章　環境とまちづくりのフィールドワーク〔荒巻俊也〕

②アウトリーチ活動（2） CeSDeS Open Seminar on SDGsの開催

回	開催日	セミナータイトル	参加者数
1	2024年 4月20日	「サニテーションと月経をめぐる課題の諸相」 ―沈黙の殻をやぶり動き出した世界― （担当：中村）	100名
2	2024年 11月13日	PERSPECVITES FOR SMART URBAN SOLUTION FRAMEWORK (SURF) IN GLOBAL SOUTH MEGACITIES （担当：志摩）	40名
3	2024年 11月27日	Learning from Indigenous Knowledge and Language: Solutions to Climate Change and Migration（担当：岡本）	160名
4	2024年 12月20日	ロヒンギャの人々の教育ーバングラデシュの難民キャンプと館林からの報告 （担当：小野道子）	52名









第33回 日本ナイル・エチオピア学会 シンポジウム

第1回 CeSDeS Open Seminar on SDGs

サニテーションと月経をめぐる課題の諸相
ー衣服の袋をやぶり動き出した世界ー

日時・場所

2024年4月20日（土）14:00～16:00

会場：東洋大学白山キャンパス 8号館7階125ホール

ハイブリット（対面式・オンラインzoom配信）

発表内容

1. 「コミュニティ・サニテーションと月経保健衛生:子どもと地域と研究者の共創」
   山内太郎（北海道大学）
2. 「月経の尊厳をめざして:アフリカ、欧米、アジアに拡がるボトムアップの活動」
   杉田映理・大阪大学MeWプロジェクト学生メンバー（大阪大学）
3. 「ケニアにおける女性と少女の尊厳を守る月経とサニテーションのプロジェクト」
   千葉暁子・大門碧（ピースウィンズ・ジャパン）
   ※ケニアよりオンラインで発表
4. 「東洋大学における月経をとりまく環境の改善を目指す学生主体の取り組み」
   中村香子（国際学部 教授・国際共生社会研究センター研究員）
   Toyo-MeWプロジェクト学生メンバー（東洋大学国際学部）



共催：東洋大学国際共生社会研究センター
詳細は右のQRコードまたは下記HPをご覧ください
https://x.gd/mTwNg







CESDES and MEXT/JSPS KAKENHI 24K01056 Open Seminar
Toyo University – November 13, 2024

PERSPECVITES FOR SMART URBAN SOLUTION FRAMEWORK (SURF) IN GLOBAL SOUTH MEGACITIES

As urban challenges in global south megacities become increasingly serious and urgent, both conventional approach such as development assistance and recent approach such as PPP, mainly covering a single field show limited performance. On the other hand, emerging initiatives based on digital technology and data analytics are opening new possibility for urban management in global south megacities.
This research, organized by CESDES (Center for Sustainable Development Studies, Toyo University) and MEXT/JSPS KAKENHI 24K01056, defining "Smart Urban Solution Framework (SURF)" as mechanism for self-organizing and coordinating process to tackle with urban challenges, tries to develop and implement SURF 1.0 through case studies.
This is the first workshop by the research group to set perspectives for Smart Urban Solution Framework (SURF) by sharing the relevant experiences.

PROGRAM OVERVIEW

16:00 OPENING REMARK
- Ryo Matsumaru (Toyo University)

16:10 INTRODUCTION: RESEARCH FRAMEWORK
- Norihisa Shima (Toyo University)

16:30 EXPERIENCES TOWARD SMART URBAN SOLUTION FRAMEWORK
- Akito Murayama (The University of Tokyo)
- Jemima Ann Ebin Ado and Akinori Morimoto (Waseda University)
- Noriko Akita (Chiba University)

17:00 DISCUSSION: PRESPECTIVES FOR SMART URBAN SOLUTION FRAMEWORK

17:40 CLOSING REMARK

- Venue: Hakusan Campus, Toyo University. Online participation via Zoom is available (Need registration)
- Language: English (Translation not available)
- Registration and contact: Norihisa Shima at n-shima@toyo.jp







第3回　CeSDeS Open Seminar

主催：国際共生社会研究センター

Learning from Indigenous Knowledge and Language: Solutions to Climate Change and Migration

日時・開催場所

11/27（水）

14:45 - 16:15

東洋大学白山キャンパス1203教室

(Classroom 1203 Hakusan Campus)

対面・オンライン開催　要参加申込

(In-person/online　Application required)

Abstract

This talk explores a multidisciplinary approach to socio-ecological resilience with a focus on language and knowledge systems of indigenous populations. Climate change is already causing significant migration of communities away from their original habitats. As these communities break up and in part relocate to new, often urban environments, we observe fragmentation of cultural heritage in terms of language and indigenous knowledge. This loss impacts not only the integrity and health of the groups' identity. It also means an inability to access ecological practices and sustainability traditions that could hold the key for nature-based solutions to climate emergencies. A documentary approach to indigenous epistemology with the purpose of conserving and revitalizing indigenous ecological epistemology, I propose, can benefit both the original community as well as the migrated one in terms of health, as well as preserve valuable expertise of threatened ecosystems for broader environmental solutions.

(この講演では、先住民の言語や知識システムに焦点を当て、社会生態学的レジリエンスに対する学際的アプローチを探求します。)



Professor Umberto Ansaldo

Affiliation: Professor of Linguistics

Honorary Professor, The University of Hong Kong
Adjunct Professor, University of Western Australia

詳細・お申込みは
こちら







第4回CeSDeS Open Seminar On SDGs

ロヒンギャの人々の教育ーバングラデシュの難民キャンプと館林からの報告

2024年12月20日（金）18:00～19:30
東洋大学白山キャンパス1503教室
対面・オンライン 開催（要参加申込）

プログラム内容

ファシリテーター：小野道子（国際共生社会研究センター 研究員）

- **オープニング**
  松丸 亮（国際共生社会研究センター長）
- **「バングラデシュ難民キャンプでのロヒンギャの人々の教育」**
  Professor Nasir Uddin （チッタゴン大学） ※英語による報告
- **「館林市のロヒンギャの人々の教育」**
  Ms. Khadiza Begum （Harmony Sisters Network）
- **コメント**
  ① 金子 聖子（国際共生社会研究センター 研究員）
  ② 塩崎 悠輝（静岡県立大学国際関係学部 准教授）
- **質疑応答**


Professor Nasir Uddin


Ms. Khadiza Begum

詳細・お申し込みはこちら ⟶

主催：東洋大学国際共生社会研究センター
協力：JSPS学術国際交流事業外国人招へい研究者（短期）「ロヒンギャ難民の共同体とイスラーム教育のネットワーク」、JSPS科研費22K00074「中東・南アジア・東南アジアを横断したイスラームの知の継承」







②アウトリーチ活動（3） ニュースレターの発行

■ 和文：年3回・英文：年2回

和文：63号（2024年7月）、64号（2024年11月）、65号（2025年2月予定）

英文：42号（2023年9月）、43号（2025年1月予定）





和文63・64号

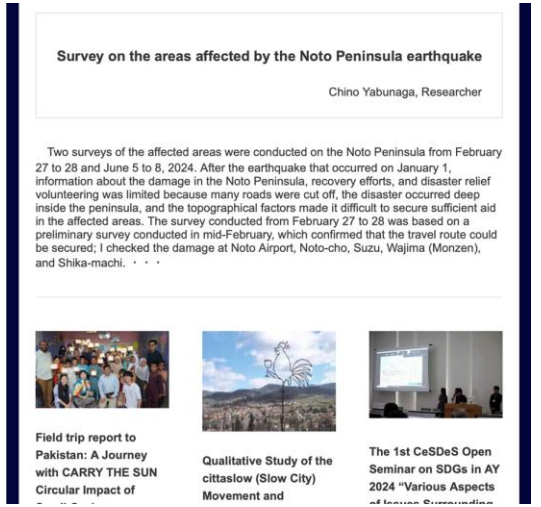


英文42

②アウトリーチ活動（4） その他のアウトリーチ活動

- CeSDeS Mail Newsの配信
  登録アドレス約560件
  （関連分野の研究者、大学等研究機関のSDGs担当部門、企業・自治体等）
- 公式Xの運用開始
  活動報告やイベント告知を発信
- 公式Instagramの運用開始
  活動報告やイベント告知を発信
- 活動報告
  出張やイベントの活動報告をオープン化







③産官学連携プロジェクトの実施

- コペアレンティングに関する縦断的国際比較研究
  - **フィンランド（ユヴァスキュラ大学、ユヴァスキュラ応用科学大学）、ポルトガル（ポルト大学）と共同研究**
  - 調査結果を複数の国際学会で発表＆論文化
- 東洋大学における「MeW Project」の展開（実践プロジェクト）
  - **株式会社日本カルミックとの共同研究**
  - 取り組みの意義が評価され、活動の全学展開が開始
- 小規模人道支援がもたらす循環型インパクトに関する研究
  - **ランドポート株式会社（ソーラーランタン開発・提供）との共同研究**
  - 調査結果を国際研究集会の招待講演にて発表
- トンガ王国トンガタプ島ヌにおけるコミュニティの災害に対するレジリエンス強化（実践プロジェクト）
  - **特定非営利活動法人 地球市民の会と共同研究**
  - トンガ王国政府との連携により避難訓練の実施
- トルコ・シリア地震後の復興都市計画立案（実践プロジェクト）
  - **株式会社長大（建設コンサルタント）と共同研究契約を締結済**
  - 共同で現地調査を実施。復興都市計画立案に向け調査結果を分析
- SURFイニシアチブ（スマート都市管理フレームワーク）
  - **開発コンサルタント各社との共同研究**
  - 科研費の獲得









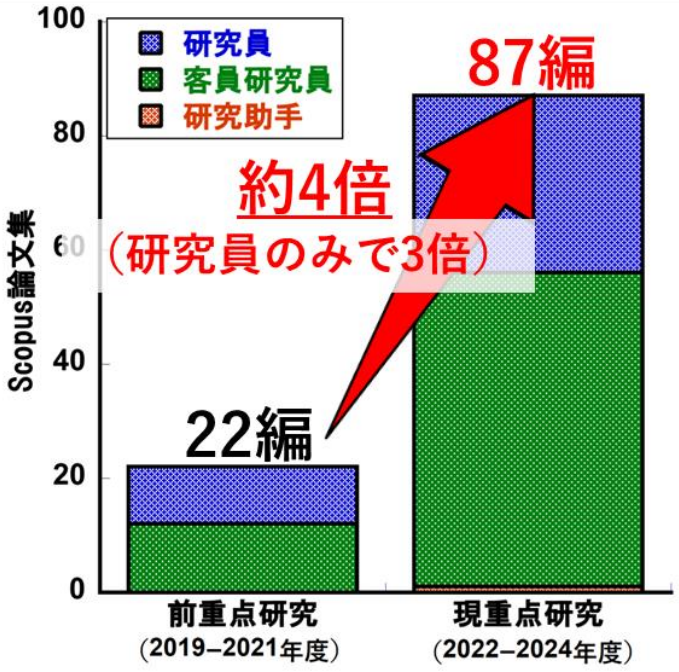


④若手研究者の育成

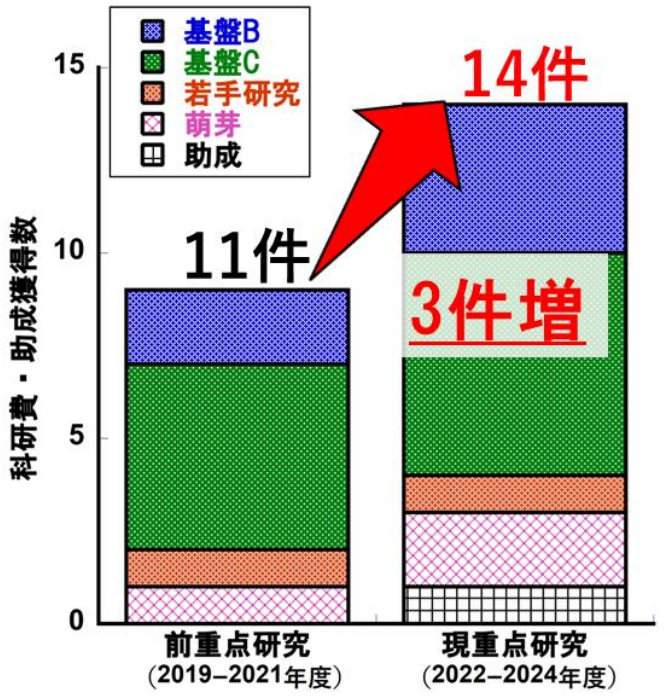
- ポスドクを**研究助手・研究支援者**として採用
  - 書籍、ニュースレター等の準備
  - センター主催のセミナー実施支援
  - SNSの運用
  - RA・客員研究員・アルバイトの人的管理
  - データ分析、助成申請書作成等の研究支援
- 博士後期課程院生をRAとして雇用し、博士課程修了をサポート
- 博士後期課程修了者を客員研究員として採用

3か年（2022-2024年度）の研究実績

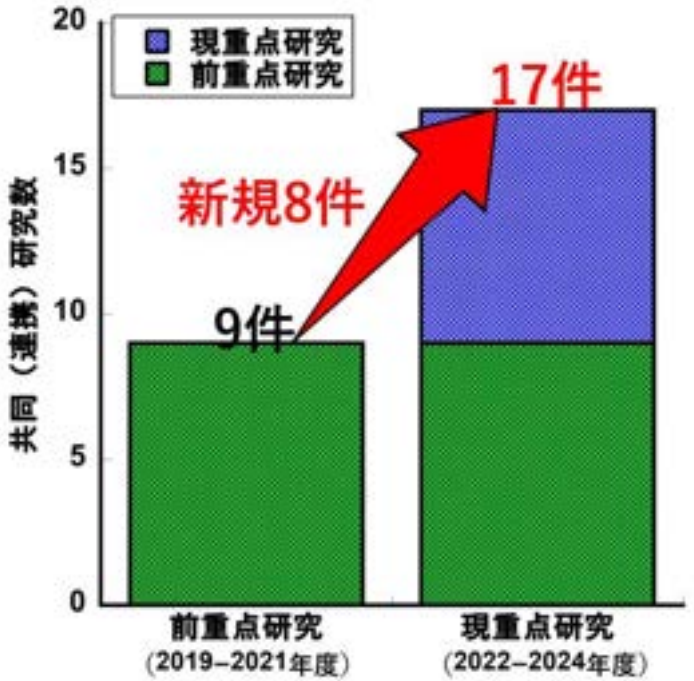
【Scopus 論文業績数】



【研究費等獲得数】



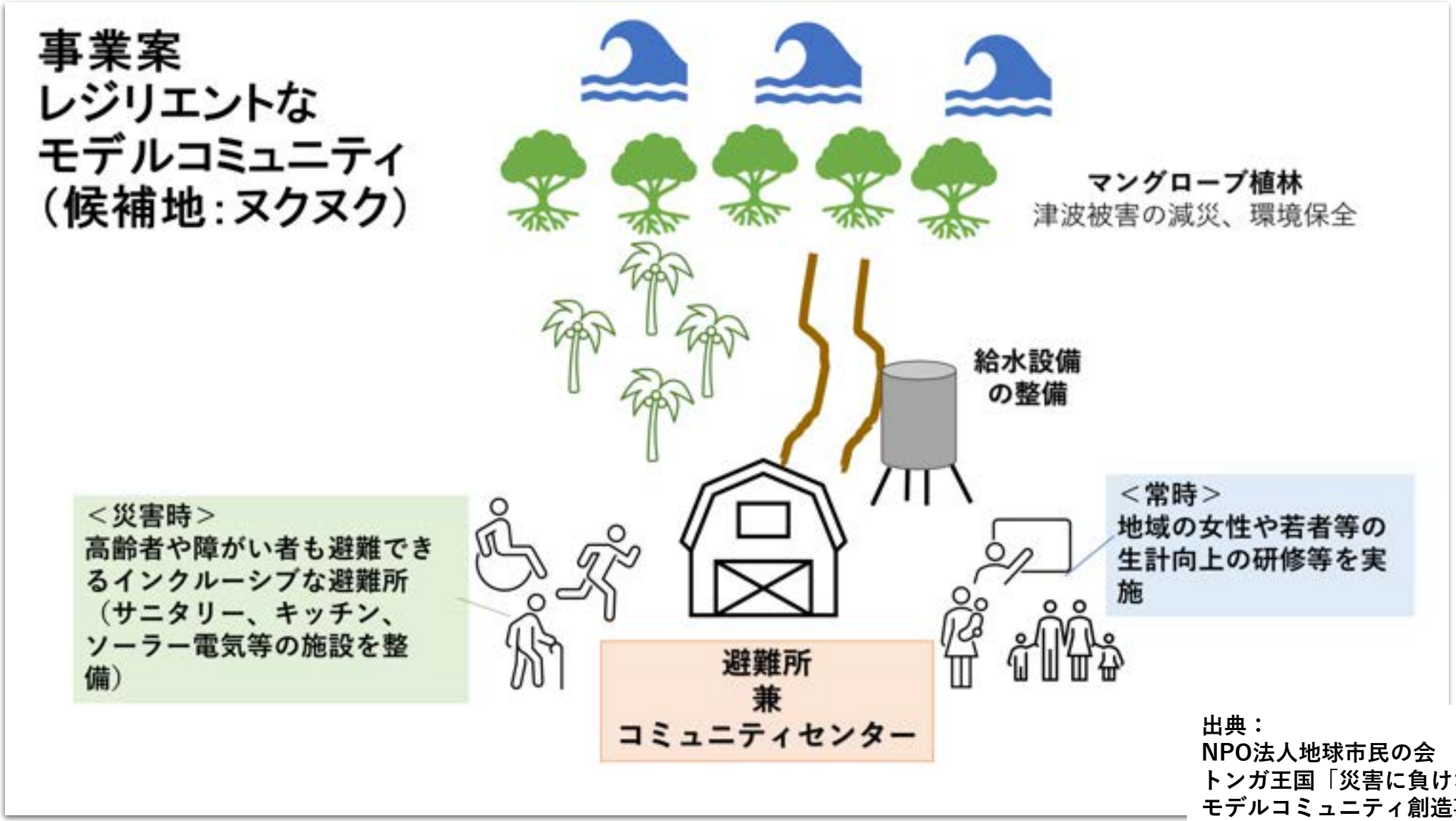
【共同研究・連携機関数】



■ **現重点研究**

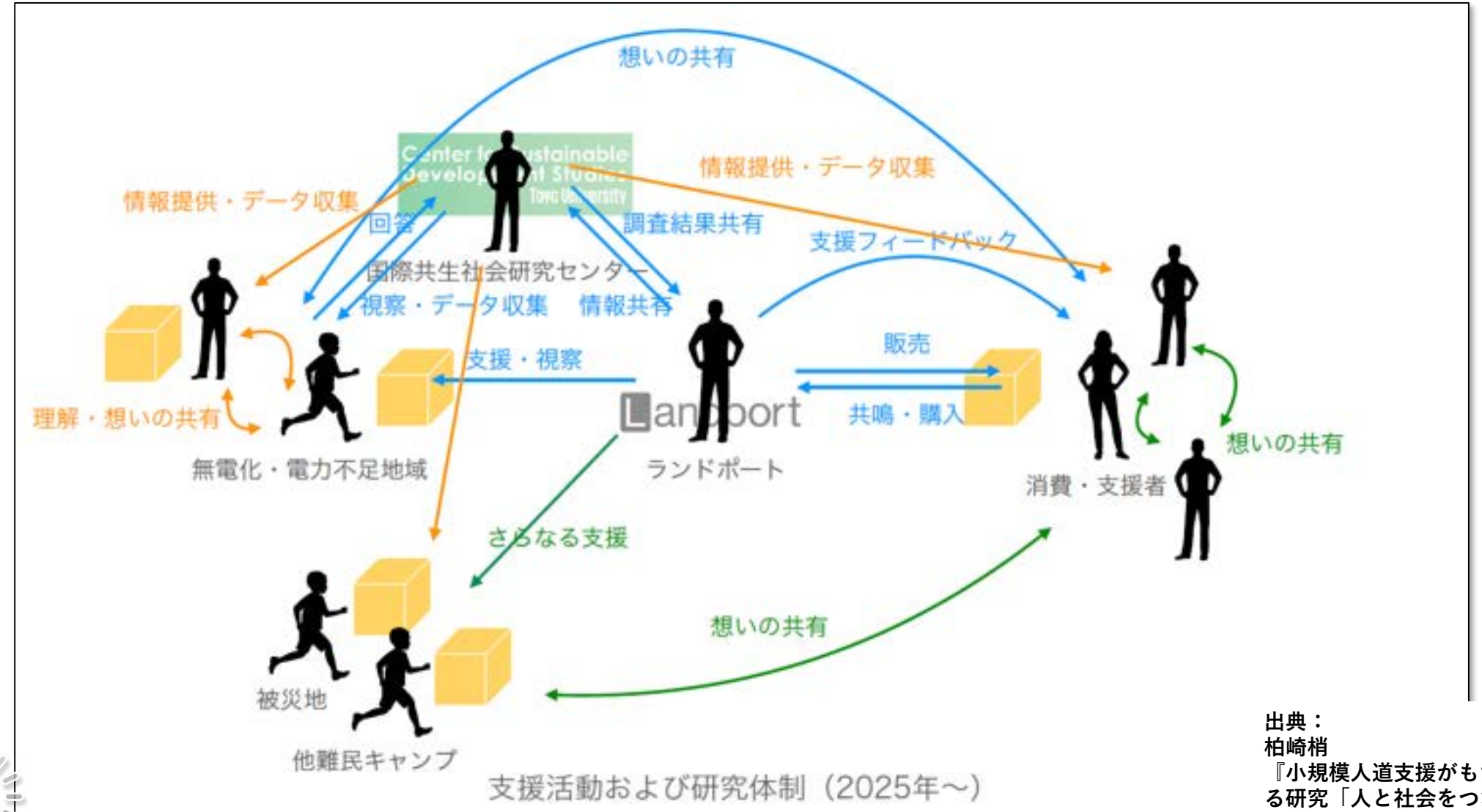
- Scopus論文87編（研究員31編、客員研究員55編、研究助手1編）
- 外部資金獲得14件（科研13件、JASSO1件）

コミュニティレベルにおける「レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現」に向けたイメージ



出典：
NPO法人地球市民の会
トンガ王国「災害に負けないレジリエントなモデルコミュニティ創造事業」提案書から

「レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現」に向けた コミュニティレベルに対する支援展開のイメージ（民間企業・市民社会連携）



出典：
柏崎梢
『小規模人道支援がもたらす循環型インパクトに関する研究「人と社会をつなぐ共鳴の循環」』2024年度総括シンポジウムスライドから

「レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現」に向けた都市マネジメント展開のイメージ



検討資料のため、スライドをぼかしてあります。

出典：
城所哲夫「Smart Urban Solution Framework (SURF)勉強会」スライドから

今後の研究展開

研究テーマ

「レジリエントな社会からウェルビーイングな社会へ
－ポストSDGsにおける持続的幸福の追求のために－」

社会的な福利に加え、個々人の福利も同時に向上させる方法を解明

【目的】

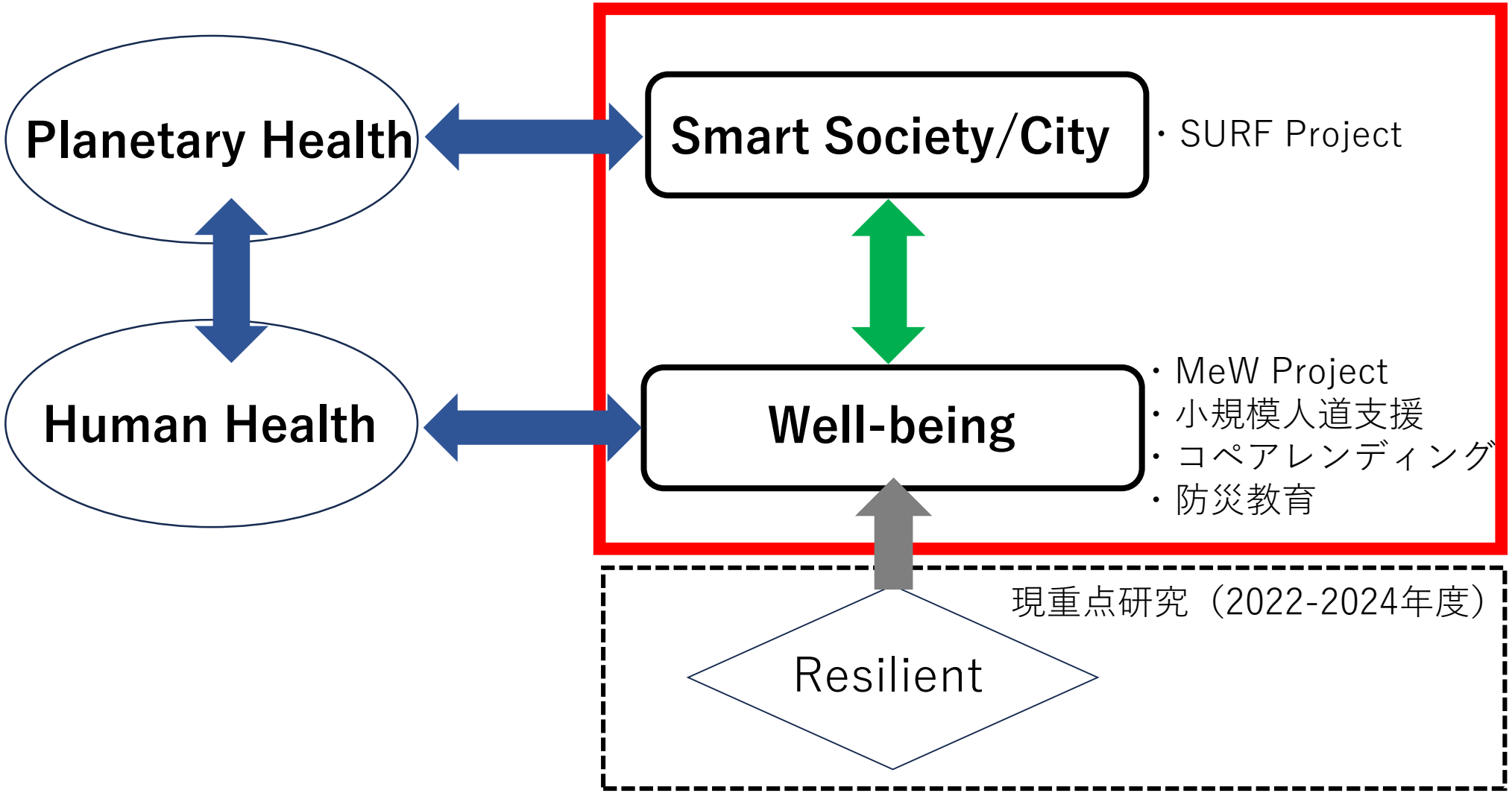
■2022-2024年度重点研究
社会的な危機への耐性を持つレジリエントな社会の実現

- 災害等の危機への耐性を持つレジリエントな社会を実現させ、開発によるインフラ面・経済面の豊かさを向上させ保護する研究を実施。

■人々が持続的幸福を充足できるウェルビーイングな社会の実現

- 2022-2024年度重点研究を成果を土台に、個々人の選好に応じた**主観的幸福度や多様な価値観に合わせたウェルビーイングの実現を同時に実現**するための研究へと拡張・発展

今後の研究展開にかかるコンセプト



ご静聴ありがとうございました

日常生活を豊かにするための
デジタルトランスフォーメーション（DX）の研究

A Research on Digital Transformation (DX)
to Enrich Our Daily Lives

2024年度　研究成果報告

研究代表者：中村周吾

Project Leader: Shugo Nakamura

プロジェクトの目的

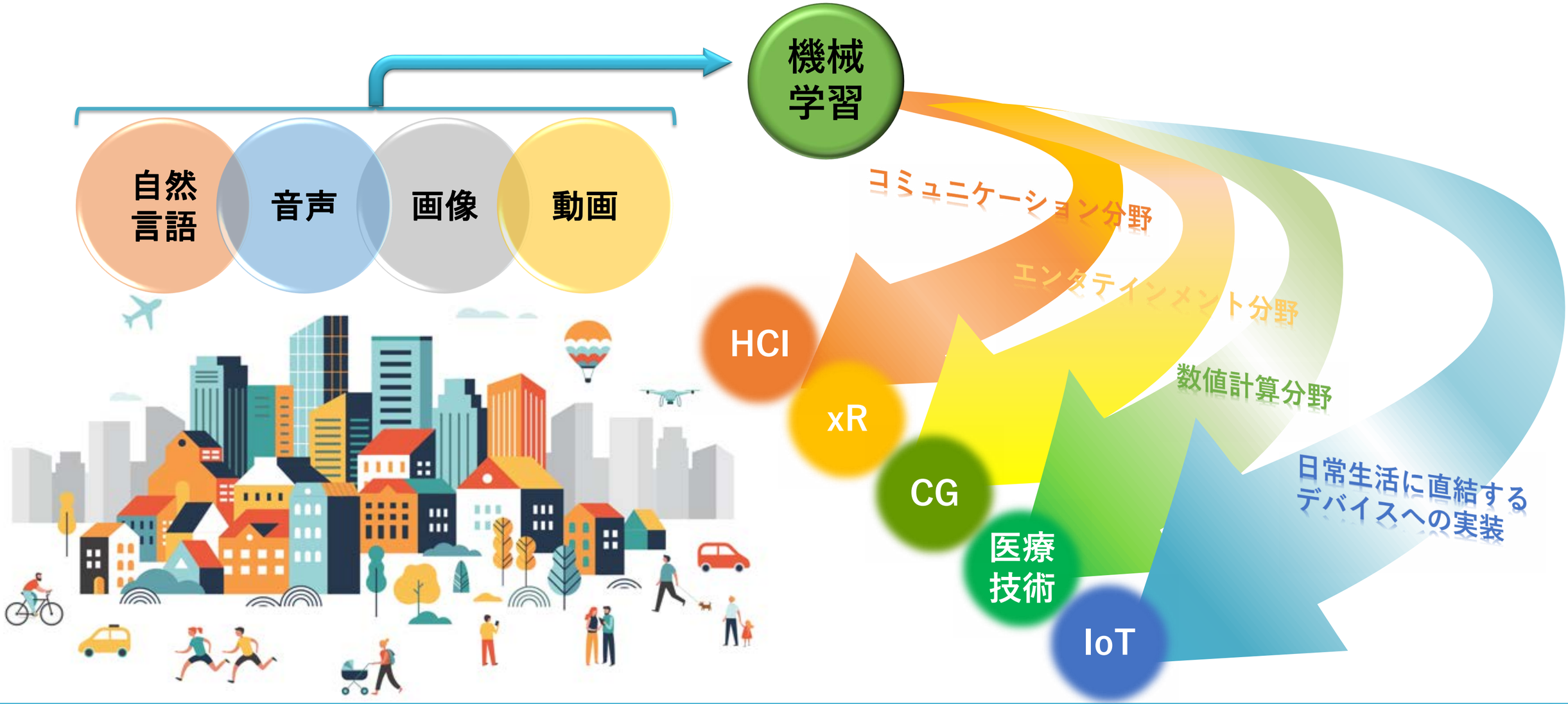
研究背景

- 社会のデジタルトランスフォーメーション（DX）が注目されているが，現在のDXの方向は
  提唱者が述べた**「人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させる」**とはズレている
  - 産業社会としての効率化や構造変革に焦点があたっている
  - ロボットが人間の仕事を奪うという危機意識を持つ人もいる
  - アルゴリズムによるニュース記事選択により社会の分断が進んでいる可能性がある

- 機械学習の手法は日進月歩で登場しているが，応用先は限定的で，
  実社会にどう適用するのか，人々の生活がより良くなるのかまで議論されているものは少ない
  - 国際的な研究力を高める上で，大規模データを用いた学習を行うためには計算リソースが不可欠
  - 生活と密接に関わるIoTデバイスからデータを収集し，サーバーで再学習するフレームワークが必要

研究目的

- DX本来の視点にもとづいて機械学習の応用事例を推進し，技術的にも新たな基盤をつくること



人々の生活に寄与する研究

- 新時代の組織・個人における重要な4つのエンゲージメントに寄与する研究

夢中になれる仕事そのもの
仕事・作業の効率化
仕事の多様化（テレワーク）



相互に敬意を持てるパートナー
自己実現と他者理解
快適な人間関係

誇りの持てる組織
円滑なコミュニケーション
SNS
メタバース

充実したプライベートライフ
衣食住
健康
趣味（エンタメやスポーツ）

- 仕事の効率化以外に，人そのものや，コミュニティまたはその過程で必要なコミュニケーション，衣食住に関わる生活にまで踏み込んで，AIを活用した技術開発をし，社会発信する

研究成果の目標

1. 生活者目線で有益な応用分野において先行的または利用可能な事例を公表すること
2. 応用分野で有効な実験やデータを行い，それを公開すること
3. 応用分野のデータ処理に有効な機械学習技術を開発すること

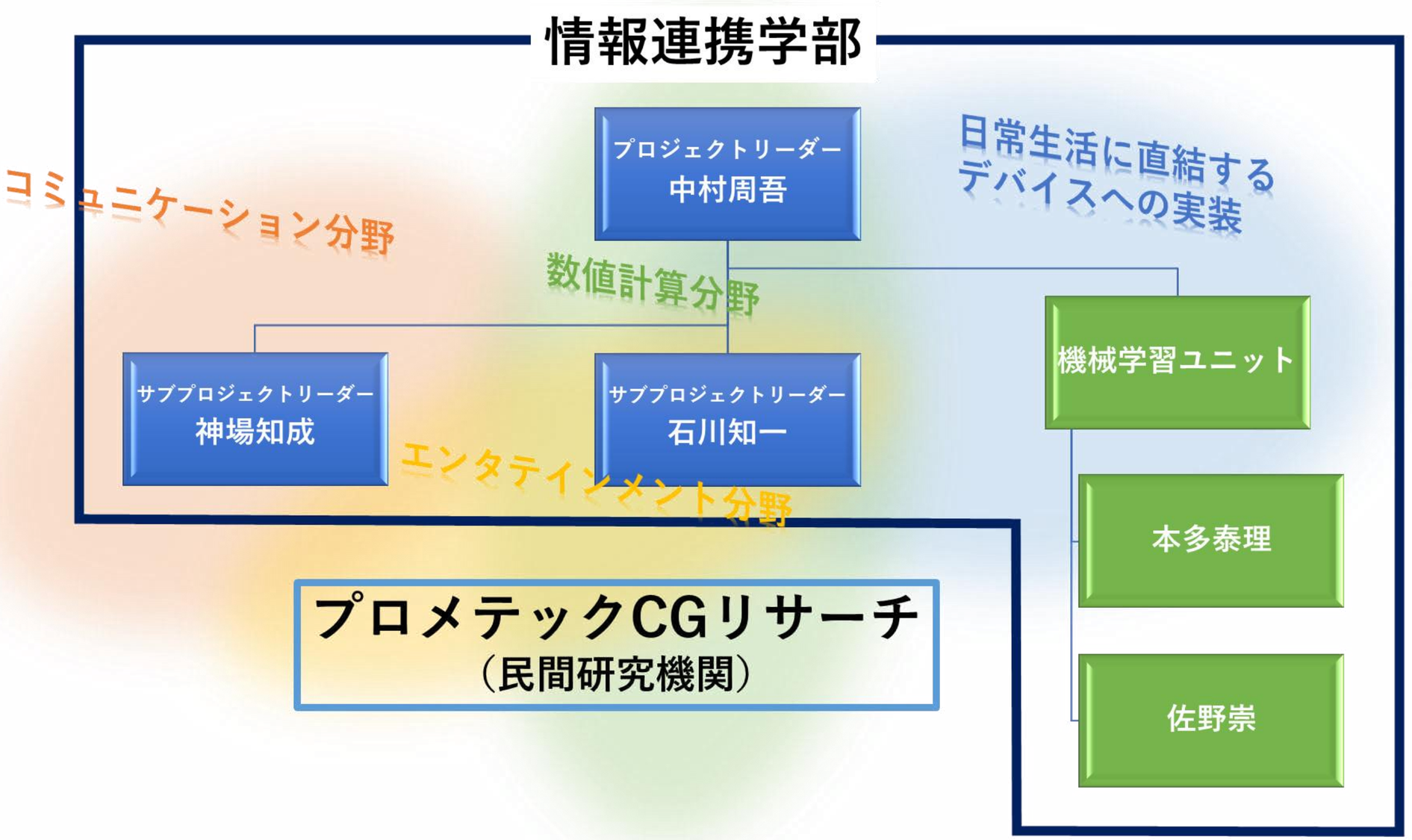
- SDGs
  - 3. すべての人に健康と福祉を
  - 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
  - 17. パートナーシップで目標を達成しよう







研究組織体制


情報連携学部
プロジェクトリーダー
中村周吾
コミュニケーション分野
日常生活に直結する
デバイスへの実装
数値計算分野
サブプロジェクトリーダー
神場知成
サブプロジェクトリーダー
石川知一
エンタテインメント分野
機械学習ユニット
本多泰理
佐野崇
プロメテックCGリサーチ
（民間研究機関）

本年度の研究成果

今年度の成果例

機械学習

（文学部との共同研究）

- 大規模言語モデルによる現代短歌の評価
  - 東洋大学現代学生百人一首の2016年～2021年の和歌が対象

「受賞 / 落選」を予測する2分類予測器を構築

（予測モデル1）

- 短歌を doc2vec で分散表現ベクトル化し、Random Forestに入力

（予測モデル2）

- 大規模言語モデル（GPT-4o mini）に短歌を入力、2種類のスコアを出力
  - 短歌の説明と、「奥行き」が感じられるかのスコア（0～1）
  - 短歌に現代性が感じられる単語があるかどうかと、「現代性」スコア（0～1）
- Random Forestにこれらの2つのスコアを入力

入力：母、運転マジックアワー光る星山の形がうっすらきれい
説明文：この短歌は、母が運転する車の中から見える美しい風景
間が感じられます。
出力：0.85
理由：この短歌は、母とのドライブという親密な情景を美しく描
感情やエピソードがあれば、さらに深みが増すでしょう。

入力：まじやばい最近の子の言葉遣い　後悔してももう直せない
現代性：まじやばい
出力：0.8
理由：現代の若者文化を反映した短歌で、言葉遣いの変化に対す
呼びやすい点が評価されます。

結果

balanced_accuracy指標が、予測モデル1で **0.57**、予測モデル2で **0.70** であり、
大規模言語モデルを用いて短歌の評価を行うことで、
従来の機械学習モデルを超える性能をもつ新しい手法を構築できた。

情報処理学会 第87回全国大会 で発表予定

今年度の成果例

機械学習

常微分方程式ベースのニューラルネットワークの表現力（どの程度広い範囲の写像を実現できるのか？）を数学的に記述する研究を継続

第一ステップとして、考察対象である仮説集合の各仮説が定義されている多様体がある主束のファイバーと見なせる場合を考察し、その構造群の各要素を当該主束の全空間上のflowとして表せるための条件を模索

上記はflow embedding problemと呼ばれる古典的問題に関連が深く、これに機械学習で重要な「学習可能性」の観点も加えつつ、新たな問題としての定式化を試みている

結果

Euclid空間などのごく限定的な多様体上の微分同相群は、1次元高い空間に埋め込むことでflowとして表現可能であることを2024年9月の日本応用数理学会年会で報告した。

動画フレーム間差分のセグメンテーションへの応用可能性

機械学習

- 動画セグメンテーション: 動画から物体の領域を特定する
- 従来法: 動き情報として光学フローを用いる
  - 光学フローは豊富な動き情報を持つが計算にコスト(例:専用のニューラルネットが必要)
- Q. 隣接フレームの画素差分を取れば、低コストな動き情報にならないか?
  - シンプルなアイデアだが深層学習との組み合わせは試されていなかったため、検証を行った
- 発見:
  - 1. フレーム間差分は確かに精度向上に寄与
  - 2. 背景が固定された動画で特に有効(下図の例)

エッジデバイス等の制約ある
環境で応用が期待できる



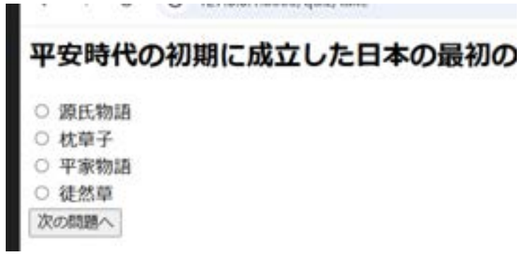
PRMU 2024-5 発表済
ICMLSC 2025 発表予定

今年度の成果例

- 【教育利用1】 生成AIを利用し、プログラミング学習者のモチベーションを向上
- **課題**：生成AIの発展により、初学者が生成AIのコード生成に依存しすぎるリスク
- **解決策**：学習者が自ら書いたコードに対してモチベーションを高めるアドバイスを生成AIで提供するシステムを開発し、学習者の主体的な学習を促進。将来的に幅広い教育場面への応用を進める（情処シンポジウム発表予定）



- 【教育利用2】 勉強のための自己学習用クイズの自動生成に生成AIを活用
- **課題**：クイズの難易度設定が人間の感覚と一致しにくい
- **解決策**：日本史を対象とし、生成AIとヒューマンフィードバックを組み合わせてクイズの難易度調整を試みた。現時点では選択肢の表現方法の影響などによる課題が残るが、長期的には、さまざまな科目の学習を助けるツールとして進化させることが可能。（情処シンポジウム発表予定）



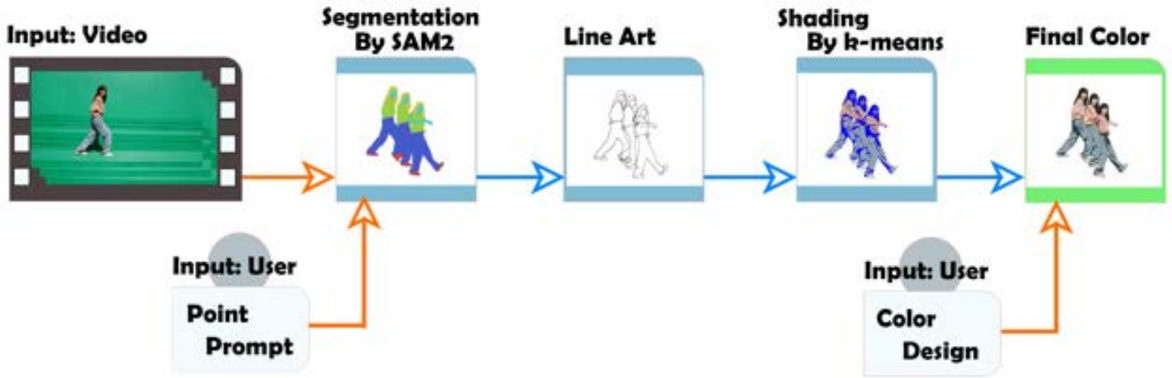
- 【産業利用】 越境ECサイトデザインツールの開発
- 課題：国ごとに異なるデザイン需要への対応
- 解決策：ECサイトを日本・中国の習慣や嗜好にあわせてデザインするツールを開発。産業発展や快適なインターネット利用につなげていく（HCII 2024発表済）

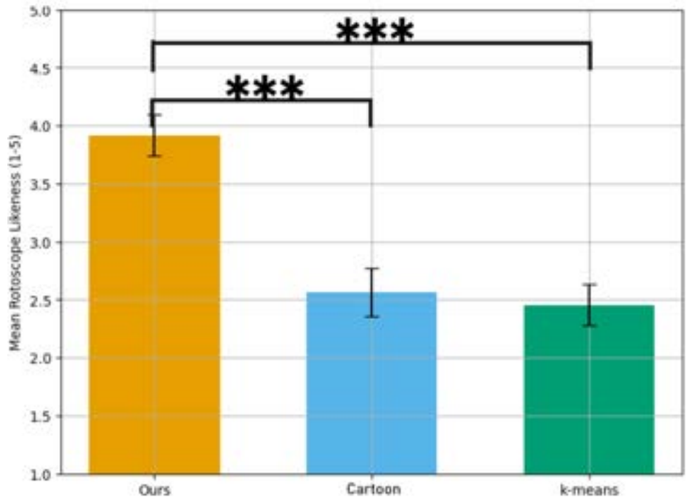


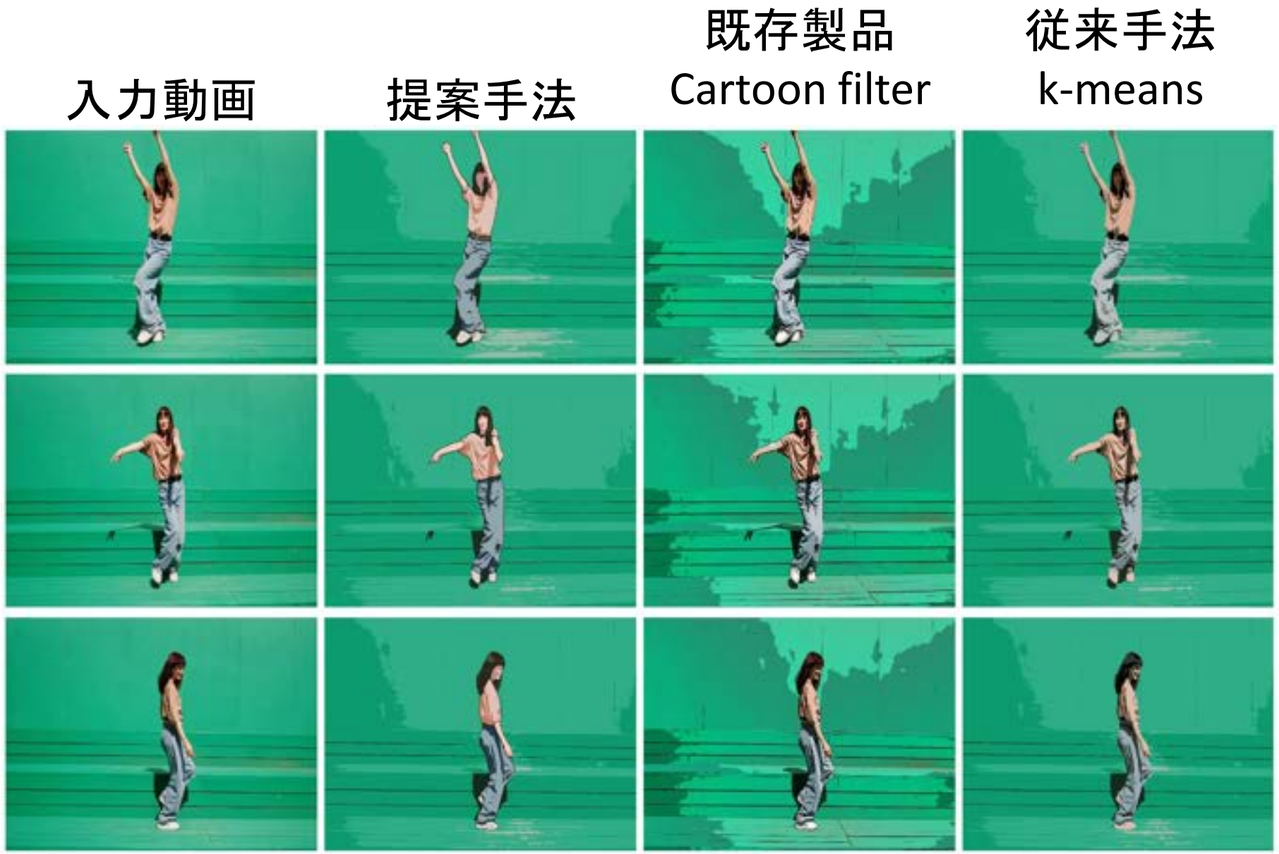
SAMを利用したロトスコープアニメーション技法の研究

CG

- SAMとk-meansクラスタリングを組み合わせ，ロトスコープ作業の自動化手法を提案
- 線画作成・影領域生成・色彩設計の3ステップで，アニメ制作向けの素材を自動生成
- 134名からのアンケートで既存手法より高評価を得た





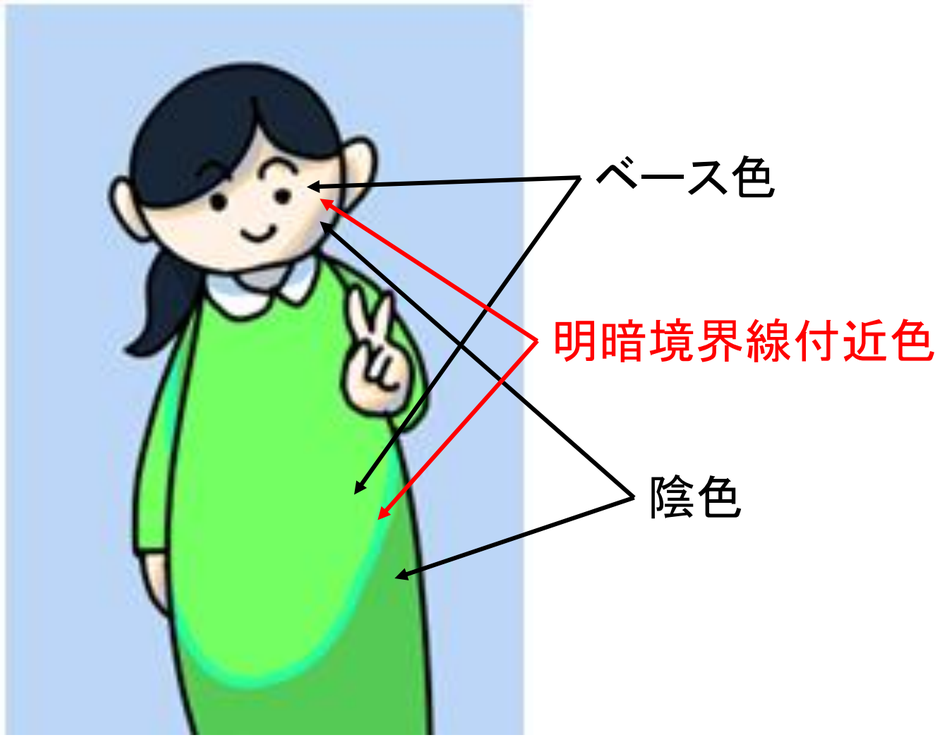


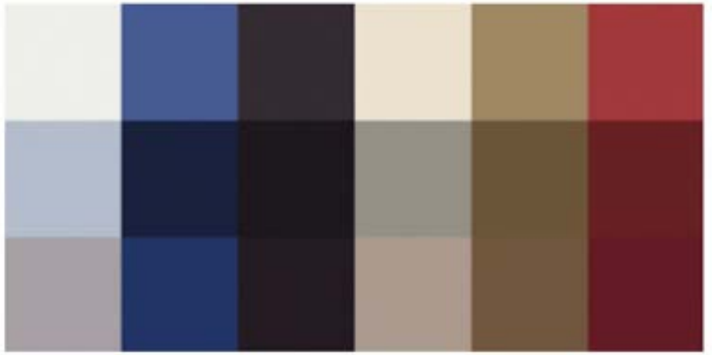
GRAPP2025で発表予定

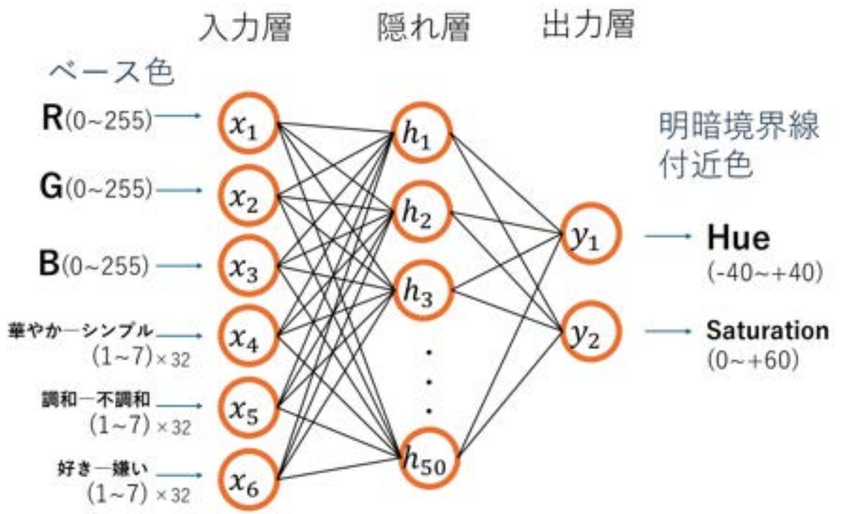
機械学習を利用したイラスト配色についての研究

CG

- イラストの明暗境界線付近の色彩設計を機械学習で自動化する手法を提案
- 536組のベース色と陰色のデータを学習させ，適切な陰色を自動で決定
- 53人へのアンケートで得た印象をモデル化し，所望の印象を与える明暗境界線付近色を予測









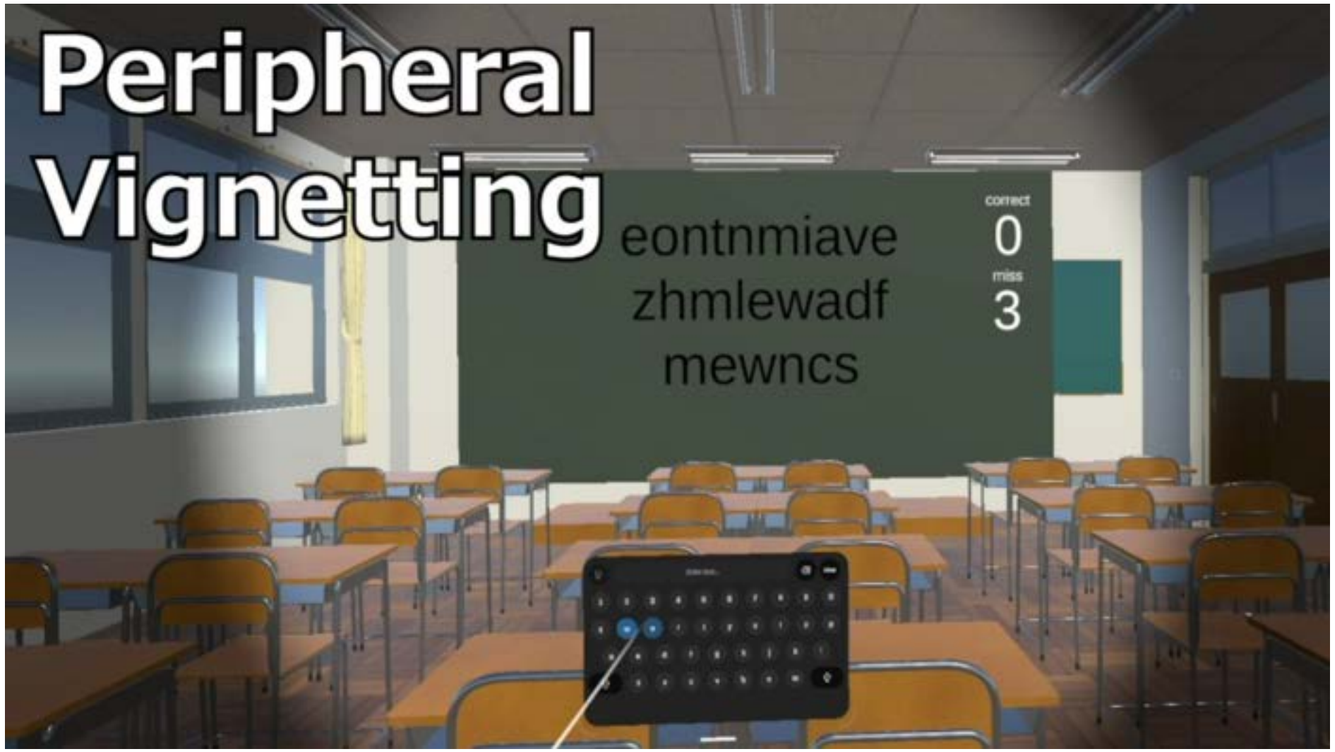
ベース色のみの入力　陰と境界付近の着色結果

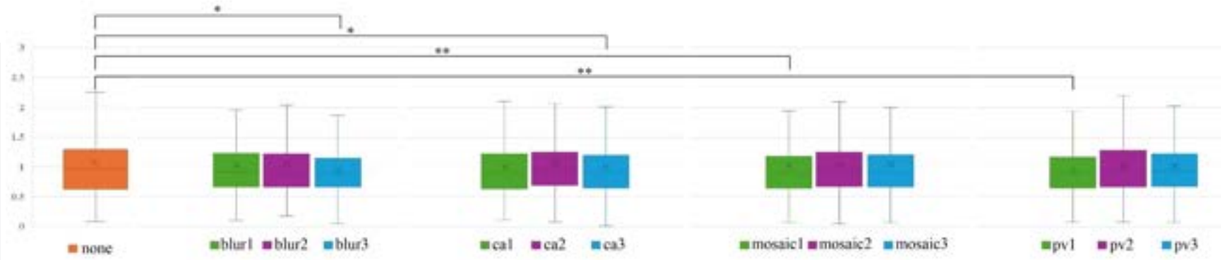
GRAPP2025で発表予定

VR空間における集中力向上のための無意識的視覚周辺効果

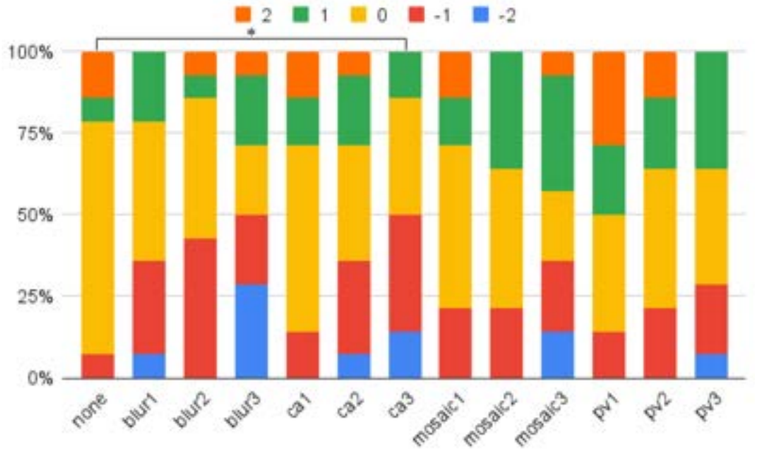
xR

- VR環境で無意識的な視覚効果を周辺視野に適用し，集中力向上を図る
- 4種の視覚効果（ぼかし・色収差・モザイク・周辺減光）の効果を検証
- 周辺減光が最も好まれ，無意識的な視覚効果でも集中力向上を確認





キー入力の時間間隔



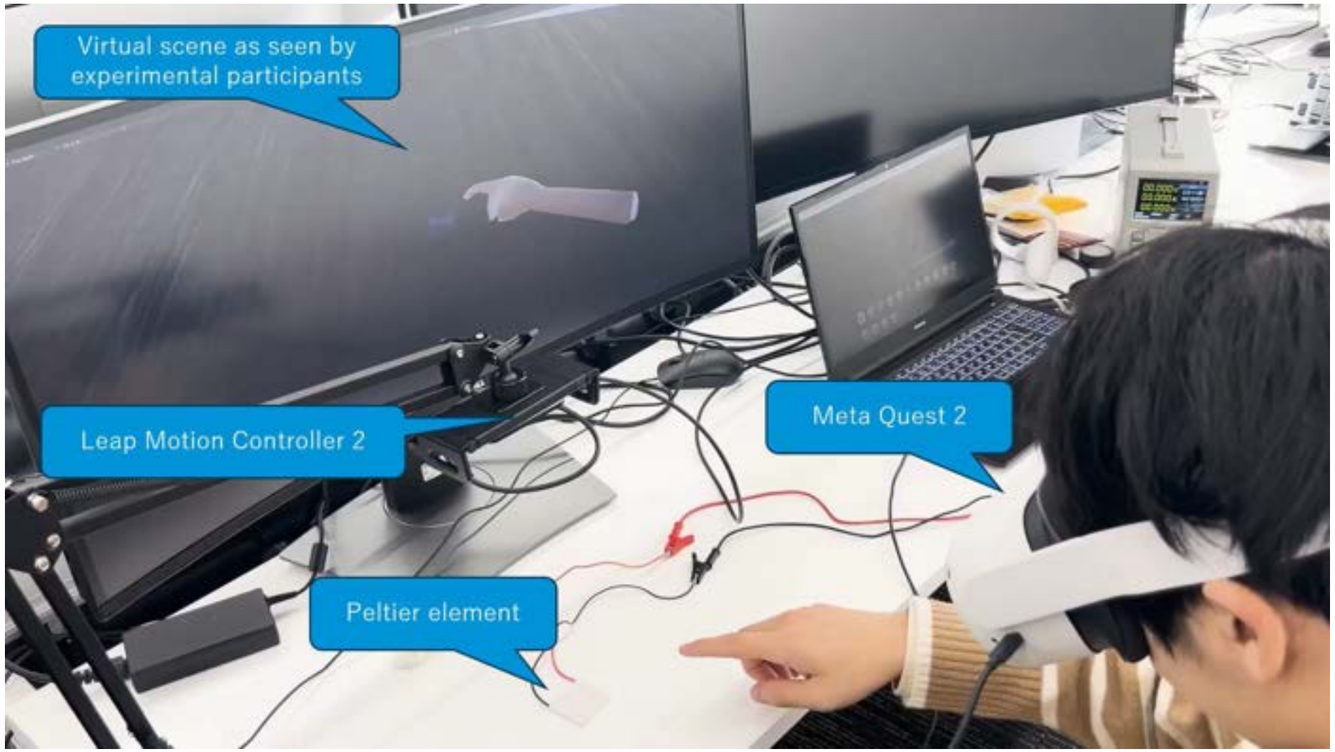
主観的な集中力の評価結果

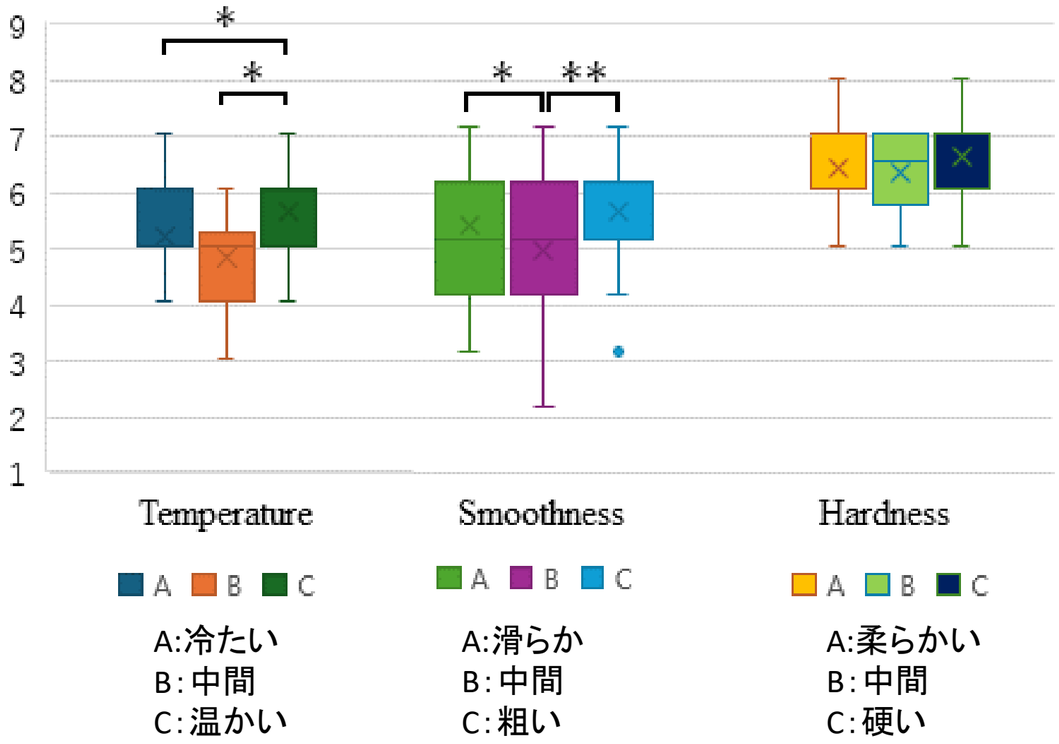
IEEE VR 2025 Postersで発表予定

バーチャルハンド錯視による温度と触覚の錯覚に関する研究

xR

- VR空間での温度・滑らかさ・硬さに関する触覚体験の研究
- 特別なデバイスを使用せず，仮想触錯覚による視覚情報のみで触覚を再現
- 視覚情報のみで温度と滑らかさの触覚錯覚を誘発できることを実証

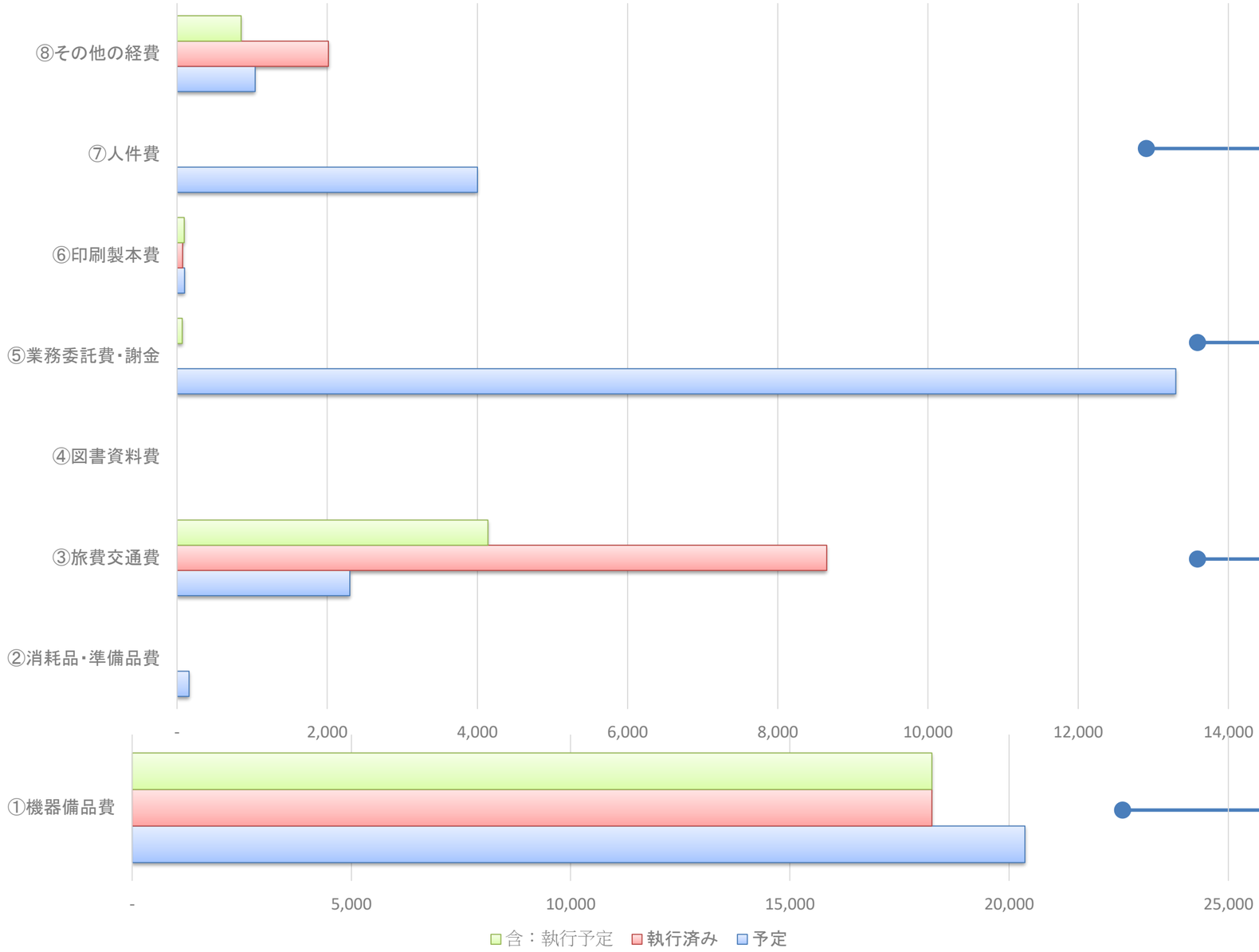




SIGGRAPH 2024 Postersで発表済み

本年度の研究費執行状況

研究費予定と執行状況



実験助手1名の雇用予定だったが採用に至らなかった

外注予定のシステム開発費の見直しにより，支出を削減した

海外のオンサイト開催学会の参加，価格高騰により支出が増えた

GPUサーバーおよび周辺機器の購入

その他の報告

他学部との連携・若手研究者の育成

- 文学部・高柳祐子准教授らと，自然言語処理技術を用いた現代短歌の分析について研究を遂行し，成果を3月の国内研究会で発表予定

- 博士前期課程の大学院生にGPUサーバーを活用して成果を挙げることができた

  Tuan Nguyen, Tan Nguyen, Hirotada Honda, Takashi Sano, Vinh Nguyen, Shugo Nakamura, “From Coupled Oscillators to Graph Neural Networks: Reducing Over-smoothing via a Kuramoto Model-based Approach”, AISTATS 2024, 2024-05, 査読有

- その他，本プロジェクトに参画した学部学生に大学院進学を促し，若手研究者の基盤を作った
  - 次年度のプロジェクト教員の修士学生数　８名（予定）

発表業績

本年度の業績（発表済み）

発表論文

[1] T. Nguyen, H. Honda, T. Sano, V. Nguyen, S. Nakamura, T. M. Nguyen, "From Coupled Oscillators to Graph Neural Networks: Reducing Over-smoothing via a Kuramoto Model-based Approach", Proc. of AISTATS 2024, 2024-05, 査読有

[2] 河村聡太, 本多泰理, 中村周吾, 佐野崇, "フレーム間差分を用いた動画セグメンテーションモデルの開発と評価", パターン認識・メディア理解研究会（PRMU）, 2024-5, 査読なし

[3] Z. Xiaojiao, T. Kamba, "Design Support Tool Based on the Analysis of Differences Between Japanese and Chinese E-commerce Sites", HCII 2024 – Late Braking Papers, Springer LNCS, 2024, 査読有

[4] E. Ichimura, T. Kamba, "Programming Education Methods for Elementary School Students and Their Relation with Personal Preferences", IIAI Letters on Institutional Research 4, 1013, 2024, 査読有

[5] S. Iida, T. Ishikawa, "A Study on Tactile Illusions of Temperature and Touch Through Virtual Hand Illusion", Proc. of SIGGRAPH 2024 Posters, 2024-07, 査読有

[6] R. Arai, T. Ishikawa, "A Research on High Performance Factors in Shooting Tasks of FPS Games", Proc. of Conference on Games 2024, 2024-08, 査読有

[7] T. Ono, T. Ishikawa, "A Research on the Evaluation of the XR System for Soccer Game", Proc. of Conference on Games 2024, 2024-08, 査読有

[8] 高橋まりな, 石川知一, "知覚サイズを考慮したVR空間キャプチャ画像の自動部分拡大手法", Visual Computing 2024, ポスター, 2024-09, 査読なし

[9] 長谷川聖那, 石川知一, "感性評価に基づいた化粧品容器デザイン補助手法の提案", Visual Computing 2024, ポスター, 2024-09, 査読なし

[10] 本多泰理, T. Nguyen, 佐野崇, 中村周吾, "On differential-equation-based-neural-networks on manifolds",日本応用数理学会2024年度年会, 査読なし

[11] K. Enoki, T. Ishikawa, "A Study on Reducing Communication-bound Apprehension in Web Meeting Using Facial Expression Deformation", Proc. of ArtsIT 2024, 2024-11, 査読有

[12] Y. Harada, T. Ishikawa, "Does display size affect short-term memory tasks?", Proc. of ICVIP 2024, 2024-12, 査読有

[13] T. Ishikawa, "A Proposal of an Auxiliary Method for Cosmetic Container Design Based on Sensibility Evaluation", Proc. of IICAH 2025, 2025-01, 査読有

招待講演

[1] 石川知一, ハイスペックGPUと画像生成AIによる次世代カメラ研究, オンライン・セミナ「ARM/GPU/FPGA/RISC-Vで作る AIカメラ&IoTエッジ開発 100の要点」, 2024年7月26日, ZEPエンジニアリング

[2] H. Honda, “Some topics in differential equation-based neural networks”, Dynamics of multicellular systems and applications in machine learning (2024年10月24日@金沢東急ホテル) https://sites.google.com/view/kanazawa24mcml/home?authuser=0

本年度の業績（発表予定）

- SCOPUS掲載論文11件
- 査読付き論文13件

発表論文（予定）

[1] S. Kawamura, H. Honda, S. Nakamura, T. Sano, "Investigation of Frame Differences as Motion Cues for Video Object Segmentation," Proc. of The 9th International Conference on Machine Learning and Soft Computing (ICMLSC 2025), 2025-1, 査読あり

[2] M. Sakakibara, T. Ishikawa, "Semi-automatic Generation of Rotoscope Animation Using SAM and k-means Clustering", Proc. of GRAPP 2025, 2025-02, 査読有

[3] H. Matsunaga, T. Ishikawa, "Automatic coloring near light/dark boundaries in illustrations based on impressions using machine learning", Proc. of GRAPP 2025, 2025-02, 査読有

[4] 吉野 巧実, 中村 周吾, 本多 泰理, 佐野 崇, " LLMを用いたプレイヤーを楽しませるためのMinecraftエージェント", HAIシンポジウム2025, 査読なし

[5] 中田知希, 神場知成, "2Dゲームのグラフィック表現と心地よいフレームレートの検討", 情報処理学会シンポジウムINTERACTION2025, 査読なし

[6] 蓬田悠希, 神場知成, "大規模言語モデルを用いた迷路ゲーム内NPCがゲーム難易度に与える影響の検討", 情報処理学会シンポジウムINTERACTION2025, 査読なし

[7] 須藤亘, 神場知成, "大規模言語モデルを用いたクイズ出題システムにおけるヒューマンフィードバックによる難易度自動調整の実験", 情報処理学会シンポジウムINTERACTION2025, 査読なし

[8] 皆川廉太郎, 神場知成, "スクリーン内で動く物体に対するユーザの視線追従に関する検討", 情報処理学会シンポジウムINTERACTION2025, 査読なし

[9] 市村衣未, 神場知成, "プログラミング学習における意欲向上のための生成AI利用の検討", 情報処理学会シンポジウムINTERACTION2025, 査読なし

[10] 本多泰理, “On the flow embedding problem and ODE-based neural networks on fiber bundles”,日本応用数理学会2024年度部会連合発表会, 査読なし

[11] T. Ueno, T. Ishikawa, "Unconscious Visual Effects for Enhancing Concentration in Virtual Reality", Proc. of IEEE VR 2025 Posters, 2025-03, 査読有

[12] 飯島裕樹, 石川知一, "漫画中のオノマトペを入力とした効果音検索システムの提案", 映像表現・芸術科学フォーラム2025, 査読なし

[13] 高橋まりな, 石川知一, "VR空間における知覚に基づく画像部分拡大", 映像表現・芸術科学フォーラム2025, 査読なし

[14] 國分佑馬, 石川知一, "パーティクルエフェクトを用いたMR映像拡張による没入感向上の研究", 映像表現・芸術科学フォーラム2025, 査読なし

[15] 髙橋悠, 石川知一, "足踏み動作を用いた移動方向推定手法の検討", 映像表現・芸術科学フォーラム2025, 査読なし

[16] 木時慶太, 石川知一, "動画に基づく歩行者動態の解析群衆アニメーションへの適用についての研究", 映像表現・芸術科学フォーラム2025, 査読なし

[17] 上條貴矢, 石川知一, "J-POP楽曲の音響特徴量に基づく類似度計算とその評価に関する一研究", 映像表現・芸術科学フォーラム2025, 査読なし

[18] 石川貴啓, 萩野貫太郎, 佐瀬智洋, 杉山大樹, 井上泰佑, 石川知一, "画像生成AIを活用した美術館の入館者数増加プロジェクトの報告", 映像表現・芸術科学フォーラム2025, 査読なし

[19] 淺井馨, 森美咲希, 岩崎拓未, 本多泰理, 佐野崇, 高柳祐子, 中村周吾, "大規模言語モデルによる現代短歌の評価", 情報処理学会 第87回全国大会, 査読なし

[20] 玉眞俊弥, 本多泰理, 佐野崇, 中村周吾, "マルチモーダル型大規模言語モデルを活用した自動車運転時の危険予測", 情報処理学会 第87回全国大会, 査読なし

[21] 柳黎史, 中村周吾, 本多泰理, 佐野崇, "動画拡散モデルを用いた少数データによる新規視点画像生成", 情報処理学会 第87回全国大会, 査読なし

[22] 國分佑馬, 石川知一, "MRゴーグルを用いた映像拡張効果による没入感の検証", 情報処理学会 第87回全国大会, 査読なし

[23] 桐畑響, 石川知一, "高低差があるVR空間における効率的な移動手法の提案", 情報処理学会 第87回全国大会, 査読なし

[24] 柳井優希, 石川知一, "VRコンテンツを活用した文化財建造物への興味喚起と学習効果の検証", 情報処理学会 第87回全国大会, 査読なし

[25]水野瞭汰, 石川知一, "ゲーム内の見た目と実際の衝突判定の差異がプレイヤーの体験に与える影響", 情報処理学会 第87回全国大会, 査読なし

３年間の総括

- 計画の数値目標を大幅に上回る研究業績数を達成
  - SCOPUS掲載論文 33件
  - 査読付き論文 39件
  - 招待講演 5件
  - 投稿論文・学会発表 合計93件

- 学会発表で、多くの奨励賞、Best presentation awardなどを受賞

- これらのほとんどは学部学生、大学院学生が第一著者のものであり、学生の活発な研究活動を促すことができたといえる

本プロジェクトを通じて、日常生活に深く関わり豊かにしてくれるような機械学習の応用、また重要な基盤技術を数多く実現し、対外的に公表することができた。

東洋大学 重点研究推進プログラム
2024年度 研究成果報告

東洋大学のブランド力向上のための分野横断型アスリートサポート研究

対象研究課題：
(８)東洋大学の150周年を視野に入れて、大学としての個性化とブランド力を高めるための研究
(３)福祉改革の促進、健康寿命延伸の観点からの医療・健康福祉、食環境、生命科学分野等の先進国をリードする研究

【研究代表者】
東洋大学大学院 健康スポーツ科学研究科
ライフイノベーション研究所
加藤　和則

東洋大学のブランド力向上のための分野横断型アスリートサポート研究

東洋大学

- これまでの重点研究等で得られた科学的知見と技術を活用し、赤羽台キャンパスを中心に、アスリートサポート研究を発展させる
- 未解決・未着手の研究課題（ニーズ）をアスリートサポートの観点から拾い上げ、哲学、社会学、健康科学、栄養学、スポーツ科学等を融合させた、分野横断型の研究組織を構築する
- 「東洋大学中長期計画」の基本方針に基づき、“ブランドとなりうる連携・共同研究の促進”、“多様な学生のキャリア形成の支援”、“特色のあるリカレント教育の推進”に繋がる研究を目指す

①フィジカルサポート研究（土江・平井・小河・小林）

- 短距離走選手における光センサモジュールを用いたキネマティクス解析
- 女性サッカー選手における持続的な過度の身体的負荷と中枢動脈の硬化



②コンディショニングサポート研究（加藤・太田・吉﨑・阿藤・新谷）

- 筋肉量改善を目指した、運動効果の改善法のアプローチ
- 東洋大学牛久高校硬式野球部自炊生への栄養指導
- 腸を標的とした、コンディショニングサポート
- 暑熱対策成分の機能性検証、社会実装と地域活性化活動
- 新規滑り止め分散物の研究開発そして起業



③リーガル・キャリアサポート教育＆研究（早川・谷釜・竹村・谷塚・江田・加藤）

- スポーツ指導における哲学対話教育の実施
- アンチ・ドーピング教育の実施
- アスリートのセカンドキャリアセミナーの実施



①アスリートフィジカルサポート研究

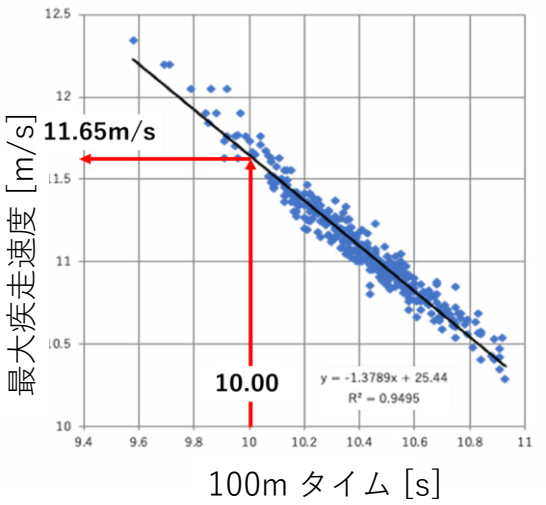
Assisted Sprint（牽引走）における超最大速度での時空間変数変化

～最大走速度をより高めるための条件の検討～

東洋大学

継続

最大疾走速度とタイム



①100mタイムは最大疾走速度で決まる（上図）
②9秒台到達には、最大疾走速度が11.65m/sを超える必要がある
③疾走速度＝ピッチ×ストライドなので
ピッチorストライドを高める必要がある
④ピッチとストライドに影響を与える
パラメータを明らかにする
⑤パラメータを定期的に観察し、目標とする数値を実現するためのトレーニング方法を考案、実施する

OPTO JUMP Next

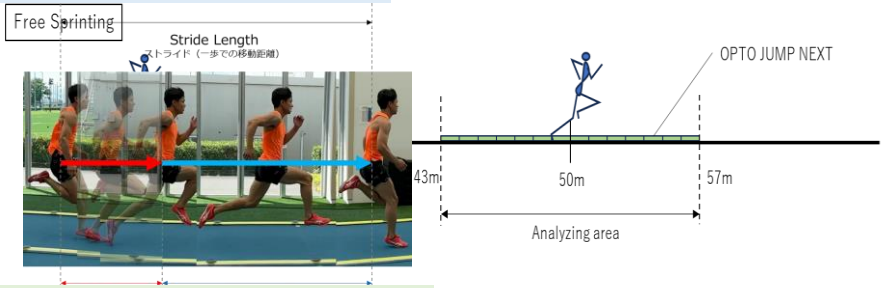


本重点研究推進プログラム予算で購入

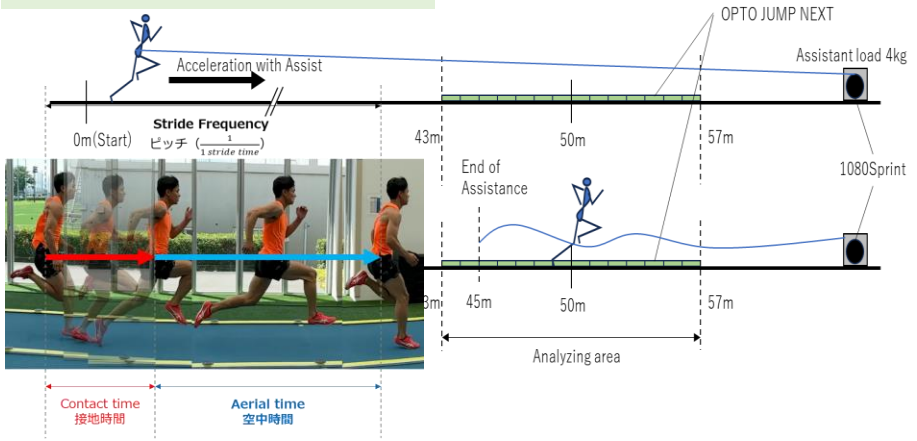


OPTO JUMP Nextは1cmごとの接地位置の測定と、ピッチ、ストライド、接地時間、空中時間を測定し、その情報を解析して選手に即時フィードバックすることができる

フリースプリント走



アシストスプリント走



昨年度は1名のデータの取得

トップスピードを上げるためには、接地中の移動距離(CL)を上げ、空中時間(AT)を短くしてピッチを上げる(SF)ことを意識したトレーニングを実施

①アスリートフィジカルサポート研究

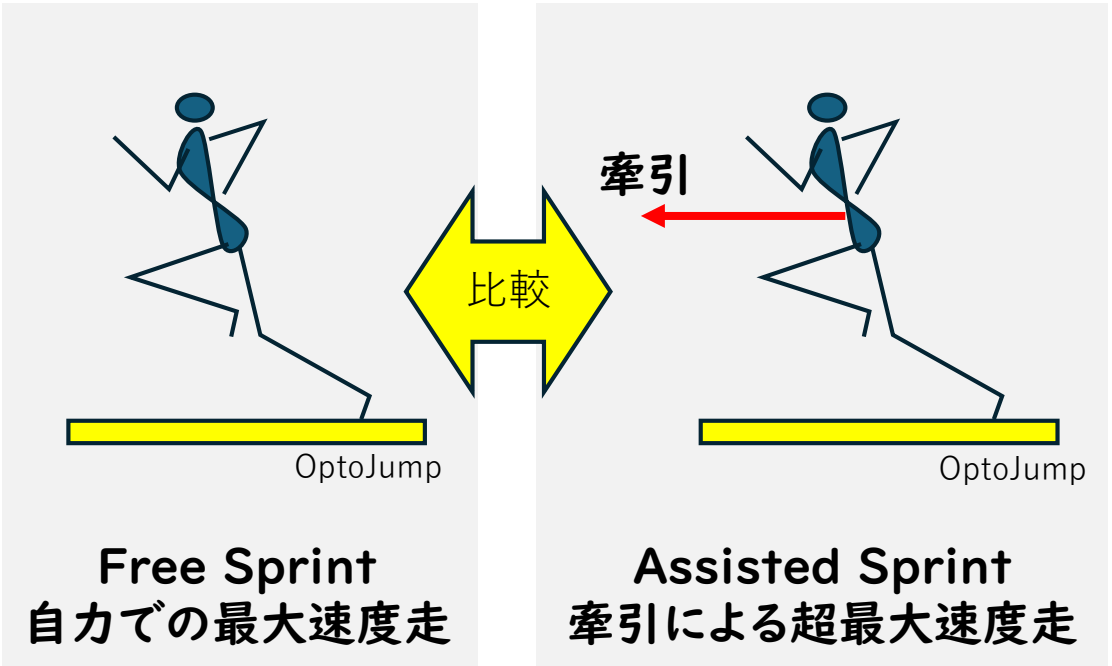
Assisted Sprint（牽引走）における超最大速度での時空間変数変化

～最大走速度をより高めるための条件の検討～

東洋大学

継続





【目的】

牽引によるAssisted Sprintでの超最大速度において、ピッチとストライドおよびそれを構成する接地・空中時間、移動距離などの時空間変数の変化を観察し、パフォーマンスを高めるための方法を検討すること

【方法】

被験者　日本トップ選手を含むスプリンター１１名（鹿屋体育大学と共同研究）

Assisted SprintおよびFree Sprintを実施し、OPTO JUMPによって測定されるピッチ、ストライド、時空間変数を観察した

①アスリートフィジカルサポート研究

Assisted Sprint（牽引走）における超最大速度での時空間変数変化

～最大走速度をより高めるための条件の検討～

東洋大学

継続

表1　Free Sprintに対するAssisted Sprintでの走速度、ピッチ・ストライドの変化

	走速度[m/s]		ピッチ[step/s]		ストライド[m]	
	Free	Assisted	Free	Assisted	Free	Assisted
Mean	10.310	10.619	4.707	4.730	2.193	2.248
SD	0.321	0.384	0.157	0.200	0.074	0.067
	増加 p<0.001		有意な変化なし		増加 p<0.01	

【結果と考察】

Assisted Sprintにおいて走速度は全ての被験者で増加した
ストライドは有意に増加、ピッチは有意な変化はなかった（表1）
速度の増加と接地空中比（空中時間／接地時間）増加に相関（図1）
➡短時間の接地でより大きな空中時間 ∴大きな鉛直方向のパワー

大きな空中移動距離を実現できた選手がより大きなストライドを実現し、
その結果、走速度がより大きく増加した（図2）
➡短縮する接地時間の中で、より大きな空中移動距離を出す必要がある

より高い走速度を実現するには、短時間の接地に対応する鉛直パワーが重要
短い接地時間に対応できている選手は、水平方向の加速力が備われば
より高い速度を実現するポテンシャルを持っている

世界陸上 東京 2025に向けてトレーニング

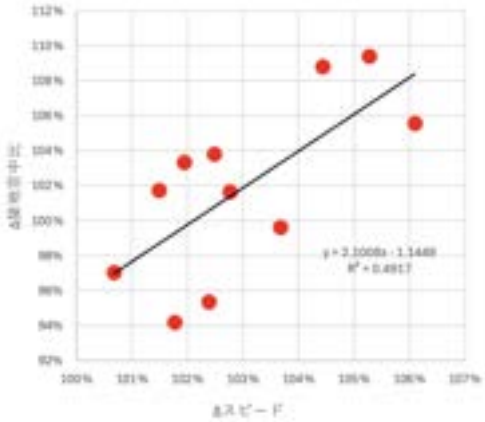


図1 走速度と接地空中比の変化率

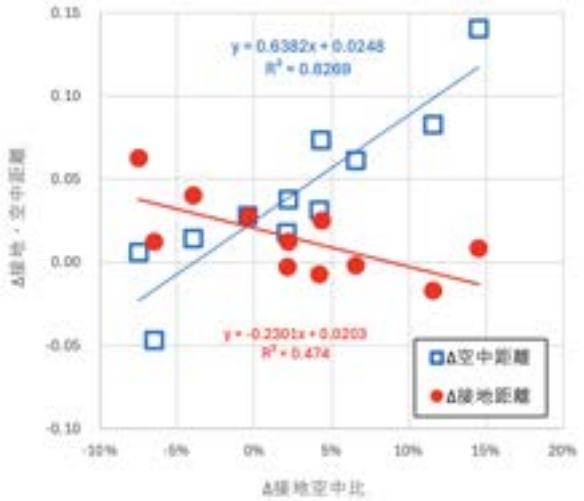


図2 接地空中比の変化率と接地・空中移動距離の変化

①アスリートフィジカルサポート研究

持続的な過度の身体的負荷と中枢動脈の硬化

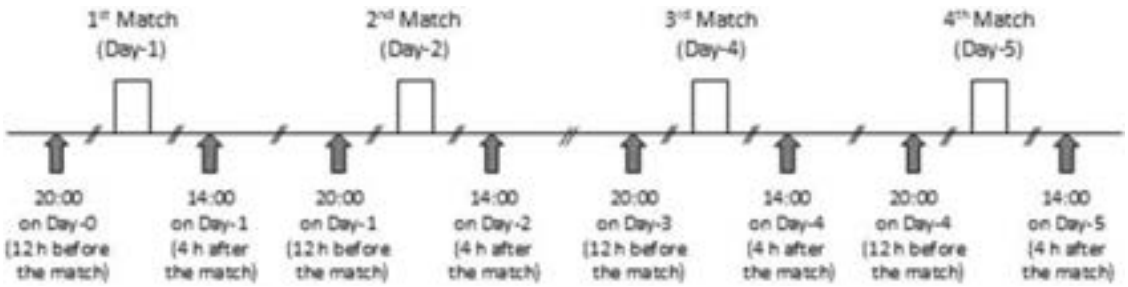
～短期間の連続サッカー試合における若年女性サッカー選手での解析～

東洋大学

継続

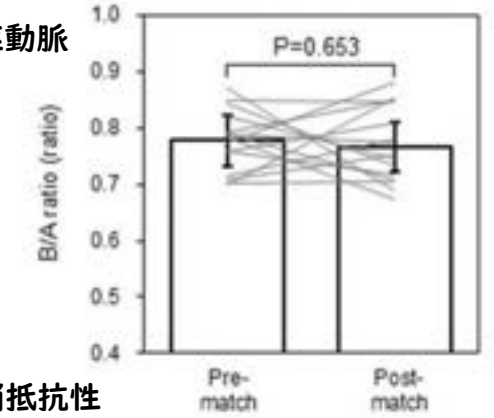
15名の被験者（17.2 ± 0.7歳、平均 ± SD）が、Youth Girls Soccer Tournament において5日間にわたり4試合（2日連続の試合の後に1日の休息を挟み、これを2回繰り返す）に、スターティングメンバーまたは交代選手として参加した。

心拍数、血圧（BP）、光電容積脈波の二次微分波（SDPTG）を、各試合の前夜および試合終了4時間後に測定した。SDPTGの第一下降波および第二下降波を第一上昇波で除した比率（B/A比およびD/A比）を、それぞれ中枢動脈の硬さと末梢波反射の指標として算出した。

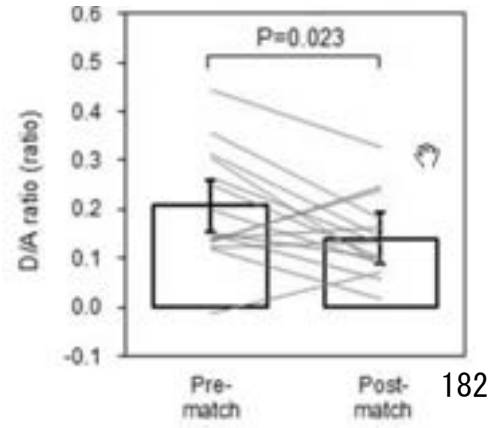




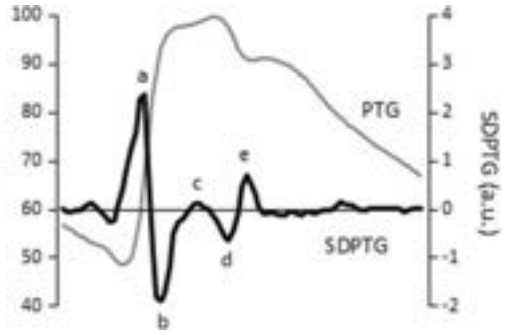
中枢動脈



末梢抵抗性







大会での試合回数の多さによる疲労が、選手の血管を固くすることが考えられたが、この条件下では**硬化は認められなかった**。また末梢の反射波は逆に低下した。

②アスリートコンディショニングサポート研究

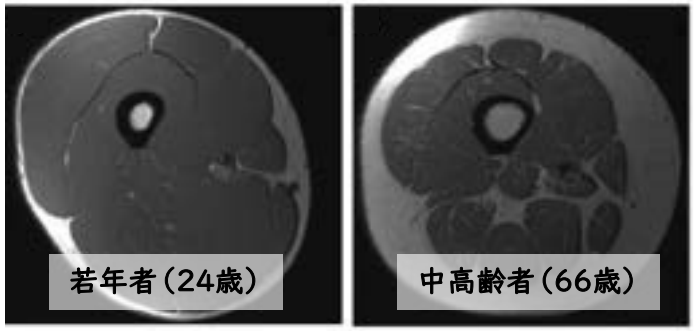
筋肉量改善を目指した、運動効果の改善法のアプローチ

～骨格筋毛細血管を標的とした薬理的効果の検証～

東洋大学

新規

加齢に伴い骨格筋量は低下する

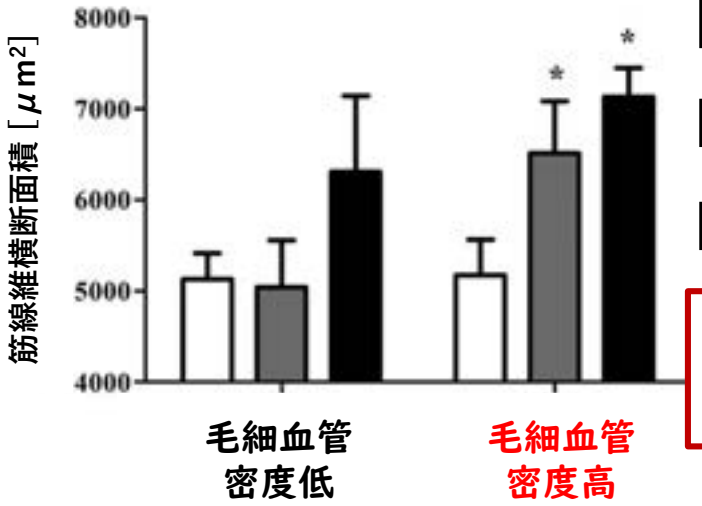


McLeod *et al.* Bio Gerontology 2016 一部改変



筋力トレーニング（筋トレ）

高齢者における骨格筋内の毛細血管密度と筋トレによる筋量改善応答の関係



骨格筋毛細血管は運動による筋量の改善反応を高める標的となる？

筋トレによる筋量改善の反応性には毛細血管の密度が影響？

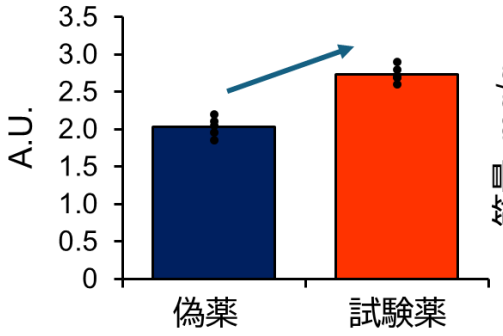
実験対象：マウス♂（4ヵ月齢 C57BL/6J）

薬剤による毛細血管密度増加刺激：降圧剤P※を2週間飲水摂取

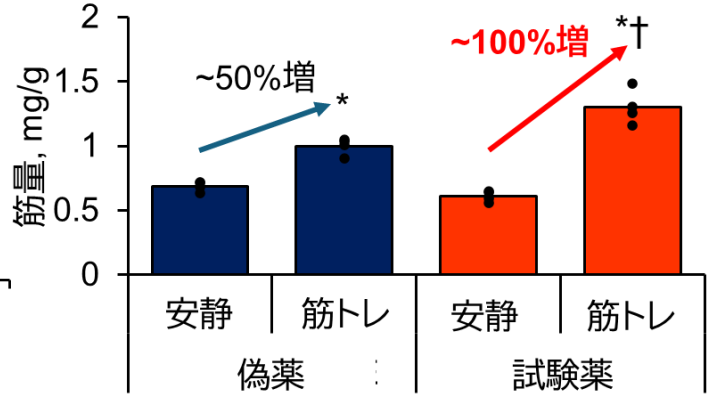
筋トレ模倣負荷：共働筋切除（実験動物の筋トレモデル）

偽薬群	偽薬 2-wk.	筋トレ 2-wk.
試験薬群	試験薬 2-wk.	筋トレ 2-wk.

薬剤投与による筋毛細血管密度の変化



筋トレ模倣負荷による筋量改善応答と薬剤投与の影響



骨格筋毛細血管は運動効果を改善する標的となる

降圧剤P以外に、天然成分や運動方法で毛細血管量を増やす方法を研究し、筋量増加を目指す

②アスリートコンディショニングサポート研究

東洋大学牛久高校硬式野球部自炊生への栄養指導

～摂取栄養素の可視化と栄養管理方法の構築～

東洋大学

継続

設定：自炊を行う高校生の食習慣は栄養素の偏りが多く、筋肉増量効果が得られにくい。
そのため、Nudge手法に基づいた栄養指導により、本人が目標とする身体組成に近づく栄養管理手法を構築する。
対象者：下宿生活（自炊）を行い、野球部に所属する高校生（東洋大学倫理委員会承認済み）
介入：**Nudge法による栄養指導（6ヶ月間）**
主なアウトカム評価：身体組成（インピーダンス法、ISAK法）、食習慣（栄養素摂取量）

栄養サポート前の1日の食事

朝食



ごはんと納豆

昼食



海苔弁当

間食



唐揚げ丼

夕食



ラーメン＆チャーハン

間食（捕食）食



プロテイン、菓子パン

【サポート前の食事の判定】（上記写真）

- タンパク質　125ｇ
- 脂質　　80ｇ
- 炭水化物　411ｇ
  総エネルギー　3000kcal

・不規則な食事に見えるが、エネルギー源栄養素は適量
・ビタミン、ミネラル等の微量栄養素は圧倒的に不足

⇒不足の栄養素があると増量効果が得られにくい

Nudge手法による栄養指導（6ヶ月を予定）

・禁止食品を設けない（〇〇はだめ、と言わない）
・強制摂取も指導しない（〇〇は必ず食べる、と言わない）
・栄養指導を通して、本人自らが食品を選択する。

捕食における食品選択の多様性を評価する

②アスリートコンディショニングサポート研究

東洋大学牛久高校硬式野球部自炊生への栄養指導

～摂取栄養素の可視化と栄養管理方法の構築～

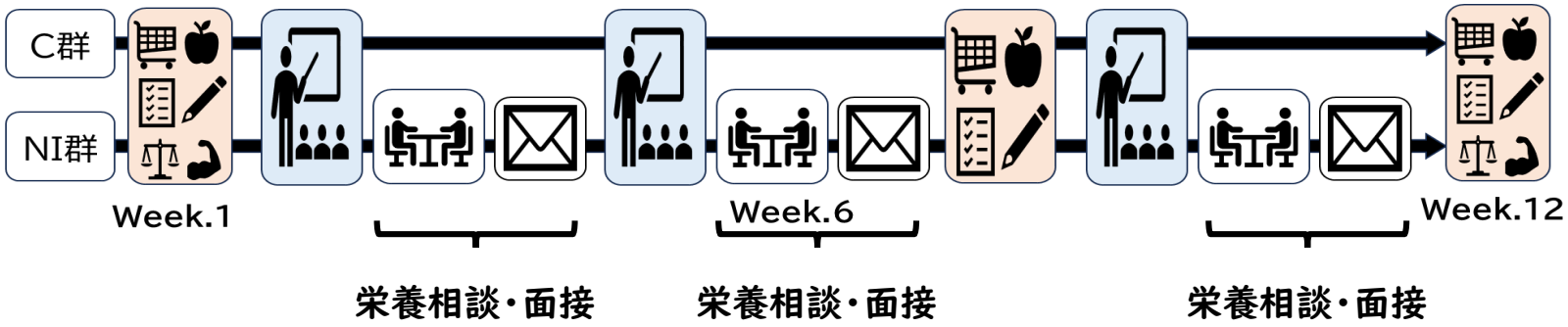
東洋大学

継続

【対象者】

親元を離れ、自活している高校野球選手7名

- 栄養教室のみを行う**コントロール群**(Control：C群)：3名
- 栄養教室に加え、**5Aモデルと動機づけ面接を組み込んだ**
  栄養相談を実施する**栄養介入群**（Nutrition Intervention：NI群）：4名





実際に栄養教室を行っている様子

対象者自身が食料品店で購入したものを撮影し、**「食品摂取の多様性得点（DVS）」**を基にスコア化して得点表を作成した



① 肉・魚	1点	⑥ 海藻類	点
② 卵	1点	⑦ いも	点
③ 大豆・大豆製品	点	⑧ 果物	点
④ 牛乳・乳製品	点	⑨ 糖質供給源	1点
⑤ 緑黄色野菜	点	⑩ スポーツ飲料水	点
寮生活をしている高校生アスリートの食品選択の多様性得点	3点		

②アスリートコンディショニングサポート研究

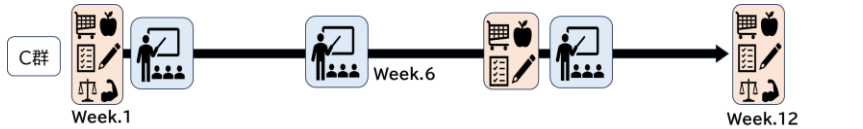
東洋大学牛久高校硬式野球部自炊生への栄養指導

～摂取栄養素の可視化と栄養管理方法の構築～

東洋大学

継続

コントロール群





① 肉・魚	0 点	⑥ 海藻類	0 点
② 卵	0 点	⑦ いも	0 点
③ 大豆・大豆製品	0 点	⑧ 果物	0 点
④ 牛乳・乳製品	1 点	⑨ 糖質供給源	1 点
⑤ 緑黄色野菜	0 点	⑩ スポーツ飲料水	1 点
寮生活をしている高校生アスリートの食品選択の多様性得点	3 点		



① 肉・魚	0 点	⑥ 海藻類	0 点
② 卵	0 点	⑦ いも	0 点
③ 大豆・大豆製品	0 点	⑧ 果物	0 点
④ 牛乳・乳製品	1 点	⑨ 糖質供給源	0 点
⑤ 緑黄色野菜	0 点	⑩ スポーツ飲料水	0 点
寮生活をしている高校生アスリートの食品選択の多様性得点	1 点		

介入群





① 肉・魚	0 点	⑥ 海藻類	0 点
② 卵	0 点	⑦ いも	0 点
③ 大豆・大豆製品	0 点	⑧ 果物	0 点
④ 牛乳・乳製品	1 点	⑨ 糖質供給源	1 点
⑤ 緑黄色野菜	0 点	⑩ スポーツ飲料水	1 点
寮生活をしている高校生アスリートの食品選択の多様性得点	3 点		



① 肉・魚	0 点	⑥ 海藻類	1 点
② 卵	0 点	⑦ いも	0 点
③ 大豆・大豆製品	0 点	⑧ 果物	1 点
④ 牛乳・乳製品	1 点	⑨ 糖質供給源	0 点
⑤ 緑黄色野菜	0 点	⑩ スポーツ飲料水	1 点
寮生活をしている高校生アスリートの食品選択の多様性得点	4 点		

C群の食品選択の多様性得点

No.	Week. I	Week.3
E	3	I
F	2	2
G	2	I

NI群の食品選択の多様性得点

No.	Week. I	Week.3
A	3	4
B	3	4
C	4	4
D	5	4

個別の栄養相談を行った対象者は、補食における食品選択の点数の改善がみられた。
自活している高校生アスリートに対して栄養介入を行う際は、栄養教室だけではなく、**栄養相談などの個別指導の重要性**が示された

②アスリートコンディショニングサポート研究

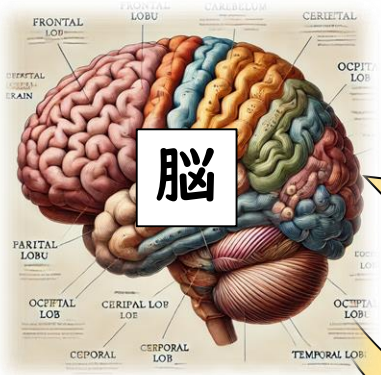
腸を標的とした、コンディショニングサポート

～腸に働く微生物から発酵産物を活用する～

東洋大学

新規

試合結果、競技成績
パフォーマンス維持等の
精神的ストレス

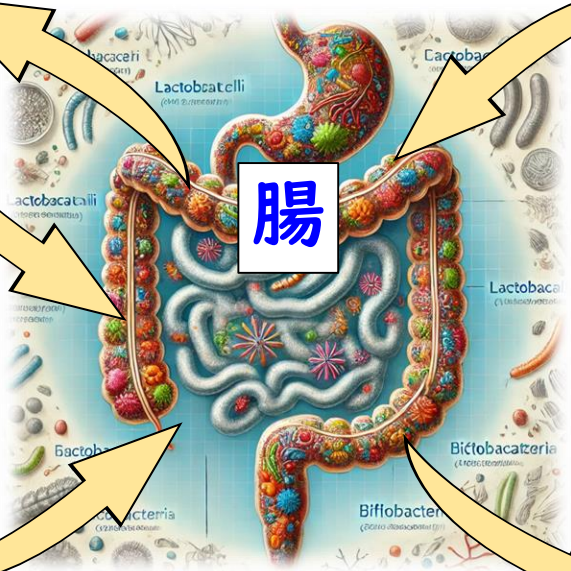


睡眠不足

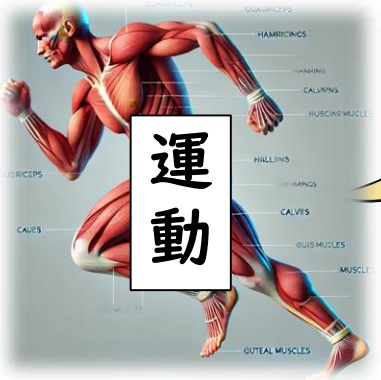
偏った食事



海外遠征・アウェーへの
早朝・長距離移動による
生活リズムの変化



激しい運動・トレーニング



負荷の大きいマラソンでも
酪酸菌の低下(順天堂大学)

M Sato, Scientific reports. 2022

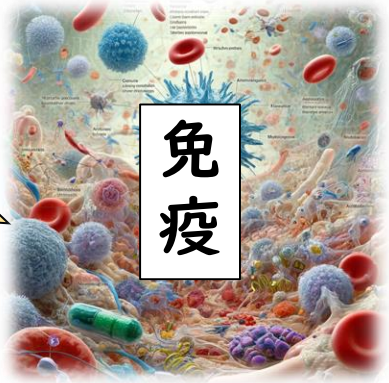
ラグビー部員：酪酸が少なく
コハク酸(下痢の原因)が多い
(摂南大学)

S Morishima, Microorganisms. 2021

アスリートの
10～20%に
胃腸痛・下痢

RJS Costa, Aliment Pharmacol Ther. 2017

免疫機能の低下



アスリートの感染症への
罹患率は3倍以上

L Spence, Med Sci Sports Exerc. 2007

過剰なトレーニングが
免疫能を低下(明治大学)

M Suzui, J Appl Physiol. 2004

アスリートには腸を中心に考えたコンディショニングサポートが必要

②アスリートコンディショニングサポート研究

腸を標的とした、コンディショニングサポート

～腸に働く微生物から発酵産物を活用する～

東洋大学

新規

株式会社ソフィア



大豆 → 乳酸菌発酵

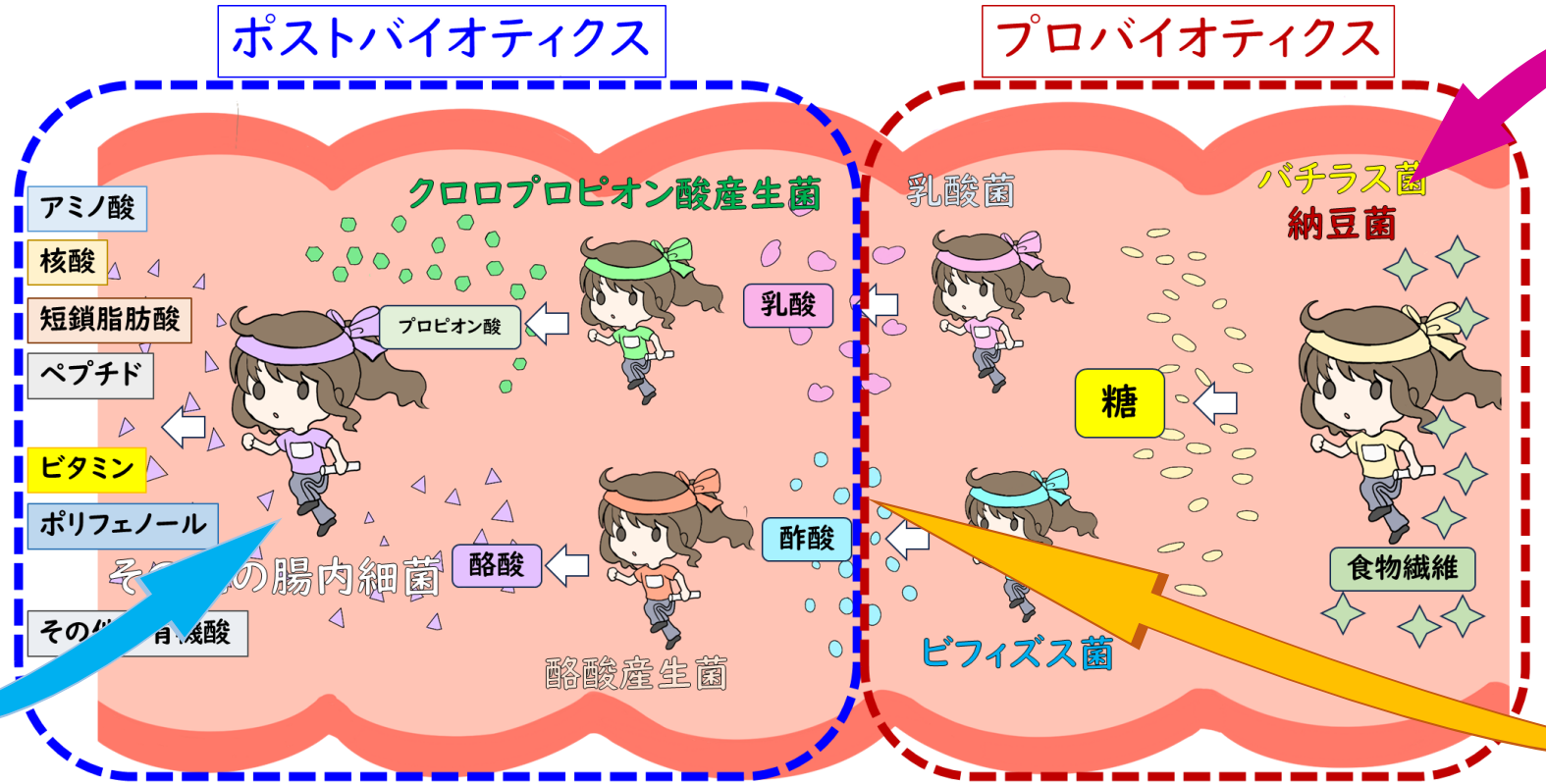


→ 成分解析

ポストバイオティクス飲料



微生物菌体（プロバイオティクス）および微生物代謝産物（ポストバイオティクス）による腸内機能の改善→**免疫・ストレス・疲労への影響**



ミツカン Holdings



KOBELCOグループ



腸環境改善とアスリートサポートの共同研究の契約進行中

②アスリートコンディショニングサポート研究

暑熱対策成分の機能性検証、社会実装と地域活性化活動

～ハッサクプロジェクトの活動～

東洋大学

継続

ハッサク果皮に含まれる機能性成分オーラプテンの抽出から食品原料の製造工程を確立し、暑さ対策の食品試作品（飴）を株式会社和環で製造





東洋大発（初）ベンチャー認定
2024年10月22日

東洋大学発ベンチャー認定
株式会社和環 → 第1号



食品開発展2024出展＆プレゼン
2024年10月23日







和歌山ジャズマラソン出展
2024年11月10日





NHK和歌山で紹介 2025年2月4日



東洋大学の研究成果・知財の製品化を通じて、継続的に社会問題・健康問題に対して取り組む

②アスリートコンディショニングサポート研究

新規滑り止め分散物の研究開発そして起業
～アスリートのパフォーマンス向上を目指した製品開発～

東洋大学

新規

目的：スポーツで主に使用される滑り止めは「炭酸マグネシウム粉末」が主流であるが、主効果は汗の吸収効果のみであるため、**汗をあまりかかないプレイヤーにとっては滑り止めとはなり得ない**。また、粉末であるため、粉末の吸引、大量の粉末運搬、粉塵による施設清掃が必須などの**健康・環境問題等のデメリット**も挙げられる。
そこでより滑り止め効果の高い分散物を開発することができれば、**スリップによる怪我やミスの防止**、アスリートの更なる**パフォーマンス向上**が期待されるので、両者の利点を持つ、**吸水性が高く、粘着性が自在に調整できるペースト**を開発する。

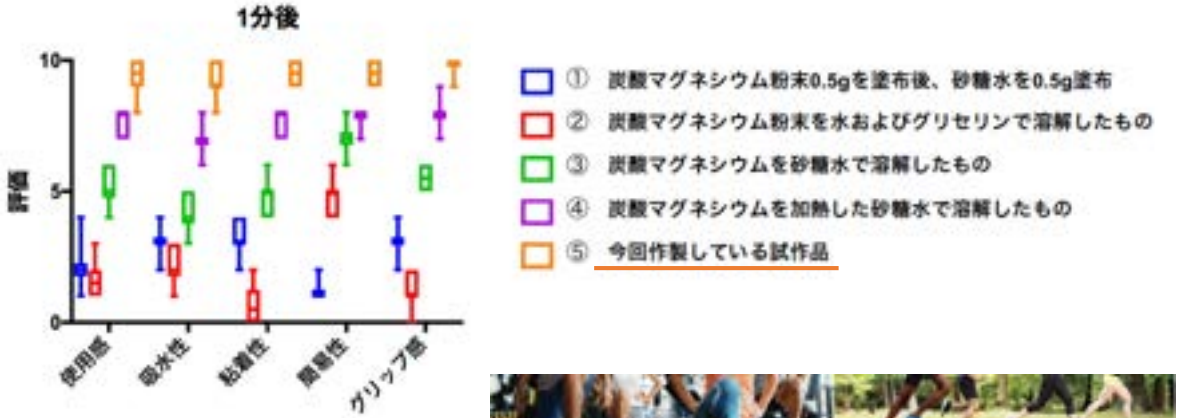




Water Absorption and Sticky



アウトカム評価：
機能解析（摩擦係数の測定、パフォーマンス評価）
成分分析（高速液体クロマトグラフィー）



進捗状況：
・特許取得（特許7570079）
・東洋大学発ベンチャー認定（株式会社Refst）
・適した摩擦係数の測定およびプレイヤーのパフォマンス評価
　・・・**東洋大学運動部（ラグビー、卓球）でモニター予定**
・2025年4月から販売に向けてのブランディングとプロモーション





東洋大学発の製品開発と改良研究・販売サポート

③アスリートキャリア・リーガルサポート研究

スポーツ指導における哲学対話教育の実施

～倫理教育を基盤としたスポーツ・インテグリティの構築～

新規

東洋大学

目的：スポーツ界では、度重なるスポーツ指導における倫理的逸脱行為、暴力・ハラスメント等の発生を受けて、「暴力根絶宣言」「我が国のスポーツ・インテグリティの確保のために」という声明が出ているが、今なお、運動部活動やスポーツ現場では**非民主的な在り方や暴力的行為の発生**、その他**コンプライアンス事案等の問題**を抱えている。その一因として、上意下達の文化や対話の欠如が指摘されている。アメリカの哲学者であるマシュー・リップマンが提唱した「子どものための哲学対話」の理論が近年注目されているが、**スポーツ指導にこそ、哲学対話教育は欠かせない**ものである。スポーツ空間における適切な「指導者ー選手」関係、「先輩ー後輩」関係、民主的な空間づくり、自律的な選手育成（競技力向上との接続）、学生アスリートの幸福度の向上等を目指し、大学運動部において**スポーツ指導における哲学対話教育の実践の取り組みを実施**する

実施日：① 2024年7月3日　②12月11日　@赤羽台キャンパス

対象：東洋大学女子バスケットボール部
（2回目は、毎日新聞運動部記者2名が参加）

講師：東洋大学付属京北高等学校 哲学ラボ部
福田誠司教諭、三橋遼介教諭

コーディネーター：竹村瑞穂先生、谷釜尋徳先生（健康スポーツ科学研究科）

内容：① 哲学対話とは何か（批判的思考、価値観の相対化、傾聴トレーニング）
② 勝利至上主義について考える、スポーツをすることの意味とは



7月の教育セミナーの様子

東洋大学では哲学の大学として倫理教育を基盤とした「TOYO SPORT INTEGRITY」を構築し、東洋大学で活躍する学生アスリートやスポーツを楽しむ学生が、活き活きと幸福を感じられるような体制を整える

2025年度はラグビー部でも実施予定

③アスリートキャリア・リーガルサポート研究

アンチ・ドーピング教育の実施

～学生アスリートに対するアンチドーピングの情報提供～

東洋大学

新規

目的：日本が、ユネスコ「スポーツにおけるドーピング防止に関する国際規約」を2006年に締結し、アンチ・ドーピング活動に主体的に参画する体制が整備され、世界アンチ・ドーピング機構は2021年に「教育に関する国際基準」を刊行し、スポーツの価値教育を含めた倫理教育に力を入れ始めている。しかしながら国内の状況をみると、トップアスリートやユース世代に対しては精力的な取り組みがなされているが、**学生アスリート（国内レベル）に対する教育の機会が多いとは言えない**。そこで、近年の動向も踏まえ、学生アスリートに対するアンチ・ドーピング（倫理）教育の展開を意図して、**アンチ・ドーピング教育セミナーを本学で実施**した。



第1回目：2024年1月18日（木）第1回アンチ・ドーピング教育セミナー（オンライン実施）
対象：東洋大学強化指定部、一般部、サークル、AOアスリート学生、一般学生対象
講師：浅川伸氏（JADA専務理事）、上東悦子氏（JISS主任研究員、公認スポーツファーマシスト）

第2回目：2025年3月２７日実施予定　第2回アンチ・ドーピング教育セミナー（川越キャンパス）
対象：川越キャンパス強化指定部（陸上競技部、硬式野球部、ラグビー部）
講師：竹村瑞穂先生（健康スポーツ科学部、JADA評議員、JADA学術委員会委員）
加藤和則（健康スポーツ科学部、公認スポーツファーマシスト）
2025年度から資格取得



Sports Pharmacist 公認スポーツファーマシスト

役割：スポーツにおけるアンチドーピング情報を通じて、広く世の中に対して、医療に係わるアンチ・ドーピング規則や医薬品の適正使用などの情報を提供し、健康教育に貢献すること

➡ **国内のスポーツ政策：“ハイパフォーマンス”から“ライフパフォーマンス”へ：**

広くスポーツを楽しむ人々へのサポートを視野に入れた教育を展開

③アスリートキャリア・リーガルサポート研究

アスリートのセカンドキャリアセミナーの実施

～価値観の変化と決断力～

東洋大学

新規

目的：本学運動部アスリートの競技引退後のセカンドキャリアだけではなく、競技生活実施中のキャリア形成に取り組む**デュアルキャリア教育も大学生アスリートとして最も重要**であると提唱されている。これらの実現のためにTOYOスポーツセンターと連携し、**キャリアサポート講習会を川越キャンパス強化指定部対象に実施**した。

講師の小原氏は大谷翔平選手と高校時代の同期で、大学、社会人、独立リーグで投手として活躍後、テレビ局、放送メディア企業にキャリアチェンジした経験を有しており、いかに**キャリアに対する意識の変化とターニングポイント**を自らの経験を元に講演した。

第1回目：2024年３月28日（木）大学生アスリート対象キャリア教育講演会
対象：川越キャンパス強化指定部（陸上競技部、硬式野球部、ラグビー部）
講師：小原大樹氏（(株)サイバーエージェント、花巻東高校、慶應義塾大野球部出身）















キャリアセミナーの様子





若手研究者の育成

研究助手（重点研究推進プログラムで採用中）の活動成果

東洋大学

研究助手：**岩澤卓弥**（33歳） 博士（理学）東京電機大学 2019年修了

2021年～2023年：東洋大学 生体医工学研究センター 研究助手（前重点研究）
2023年～ 現在　：東洋大学 ライフイノベーション研究所 研究助手（本重点研究）



研究業績

★査読付き学術論文（2023～2025）7報、執筆中2報

1) Watabe T, **Iwasawa T**, Kimura H, et al. Theranostics using 89Zr/177Lu-labeled antibody targeting erythropoietin-producing hepatocellular A2. ***Eur J Nuclear Med Mol Imaging***, 2025 *in press*. (Impact Factor 8.6)
2) Sakata M, Imaizumi Y, **Iwasawa T**, **Kato K**, Goda T. Semiconductor Transistor-Based Detection of Epithelial-Mesenchymal Transition via Weak Acid-Induced Proton Perturbation. ***ACS Biomaterials Science & Engineering***. 2024, 11:1.
3) Sakuraba S, Koizumi A, **Iwasawa T**, Ito T and **Kato K**. Serum EphA2 as a promising biomarker for the early detection and diagnosis of colorectal cancer. ***Biomolecules.*** 2024; 14:1504.
4) Furukawa T, Kimura H, Sasaki M, Yamada T, **Iwasawa T**, Yagi Y, **Kato K**, Yasui H. Novel [^{111}In] In-BnDTPA-EphA2-230-1 antibody for SPECT imaging tracer targeting of EphA2. ***ACS Omega***. 2023; 8:7030-7035.
5) Murakoshi M, Kamei N, Suzuki Y, Kubota M, Sanuki M, Tashiro H, **Iwasawa T**, **Kato K**, Tanaka M, Furuhashi M and Gohda T. Circulating tumor necrosis factor-related biomarkers predict kidney function decline in Japanese patients with diabetes: An observational cohort study. ***Diabetes Res Clin Practice.*** 2023; 206: 111017.
6) Murakoshi M, **Iwasawa T**, Koshida T, Suzuki Y, Gohda T and **Kato K**. Development of an In-House EphA2 ELISA for Human Serum and Measurement of Circulating Levels of EphA2 in Hypertensive Patients with Renal Dysfunction. ***Diagnostics (Basel).*** 2022; 12: 3023.
7) **Iwasawa T**, Sakai N, Sanagawa R, Yamamoto S, Nanba T, Ebihara S, Iwahori Y, **Kato K**. Effect of a food containing Auraptene on core body temperature, serum osmolarity and thermal sensation under hot and humid environment. ***Japanese Pharmacology & Therapeutics.*** 2023, 51(9):1341-1353.

★国際学会発表（2023～2025） 筆頭 2件、共著4件

1) **Iwasawa T**, Yamauchi S, Fukunaga T, Orita H, Ito T, **Kato K**. A novel subset of Treg-like MDSCs expressing LAG-3 found in advanced gastric cancer. ***AACR 2024 Annual Meeting***, San Diego, USA.
2) **Iwasawa T**, Yamauchi S, Fukunaga T, Orita H, **Kato K**. Novel subset of granulocytic MDSCs as immunosuppressive regulators and therapeutic targets in gastric cancer. ***AACR 2023 Annual Meeting.*** Florida, USA.

★国内学会発表 招待講演 3件、一般筆頭3件、共著17件

招待講演リスト：
第53回 日本免疫学会 2024年 長崎
第22回 日本機能性食品医用学会 2024年 東京
第21回 日本機能性食品医用学会 2023年 沖縄

発表学会リスト：
日本免疫学会、日本薬学会
日本癌学会、日本分子生物学会
日本機能性食品医用学会

★外部研究費獲得 研究代表者 1件、分担研究者3件、申請中2件

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2024年4月 – 2026年3月
「新規ミエロイド系免疫抑制細胞を標的とした動脈硬化症を制御する機能分子の解明」

◎教育

東洋大学 理工学部 非常勤講師（@川越キャンパス）「生物学Ⅰ、Ⅱ」（教職科目）
東洋大学 健康スポーツ科学部 非常勤講師（@赤羽台キャンパス）
「情報処理数学Ⅰ、Ⅱ」「プログラミング言語Ⅰ、Ⅱ」

反省点：次年度の課題

今年度未実施・検討途中の研究計画

東洋大学

無侵襲性の新規疲労マーカーの網羅的探索と評価方法の確立

メタボローム解析の流れ



アスリートの「今」の体の中を推測する分子マーカーの探索

新規疲労マーカーなどの知財の創出
アスリートの疲労の高精度＆簡便な評価方法の確立
疲労マーカーの代謝経路を考慮した栄養学的介入の提案

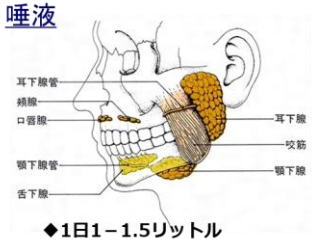
評価キットの開発



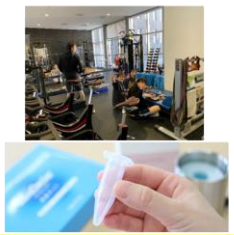


アミノ酸代謝経路
脂質代謝経路
尿素回路等々

唾液









唾液採取は起床後に一度うがいをしてから太めのストローを用いて採取

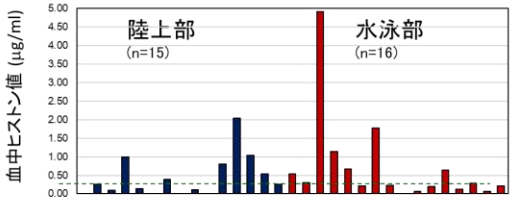
- ◆1日1－1.5リットル
- ◆分泌量：顎下腺＞耳下腺＞舌下腺
- ◆pH: 5.5-8.0
- ◆多種類の代謝産物および有機成分を含む（アミノ酸・脂質・成長因子など）
- ◆無侵襲で経時的に採取および保存が可能

解析技術と経験を有している杉本昌弘教授（慶應義塾大学先端生命科学所）と共同研究を開始

慶應義塾大のヒト倫理審査委員会へ申請予定

女子アスリートに多い溶血性貧血の把握と栄養管理

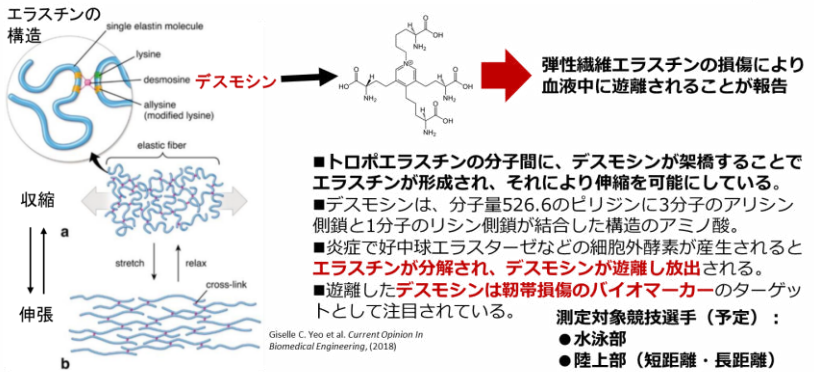




仮説：アスリートは日頃のトレーニングにより、物理的な衝撃により組織細胞が損傷し、核内のヒストン蛋白質が放出される。ヒストンが一定量蓄積すると、赤血球の不安定さが生じ壊れやすくなる。
→溶血性貧血

血中ヒストン値を指標とした、アスリートのコンディショニング管理（栄養・トレーニング量）

腱・靭帯疲労による傷害の事前評価マーカーの探索と測定②



弾性繊維エラスチンの損傷により血液中に遊離されることが報告

■トロポエラスチンの分子間に、デスモシンが架橋することでエラスチンが形成され、それにより伸縮を可能にしている。
■デスモシンは、分子量526.6のピリジンに3分子のアリシン側鎖と1分子のリシン側鎖が結合した構造のアミノ酸。
■炎症で好中球エラスターゼなどの細胞外酵素が産生されると**エラスチンが分解され、デスモシンが遊離し放出**される。
■遊離した**デスモシンは靭帯損傷のバイオマーカー**のターゲットとして注目されている。

Giselle C. Yeo et al. *Current Opinion In Biomedical Engineering*, (2018)

測定対象競技選手（予定）：
- **水泳部**
- **陸上部（短距離・長距離）**
- **野球部**

（ヒト研究倫理委員会に申請予定）

社会人アスリート対象のキャリアサポート教育

目的：アスリートとしての**競技期間が短い女性アスリートのセカンドキャリア教育のニーズ**を調査するために、関係団体に対してのヒアリング調査を行う。

対象：女子ソフトボール（JDリーグ）等

調査情報：高卒の選手の多い競技団体は大学/専門学校に、**大卒の選手は大学院へ入学し、指導やマネジメント等を再度学び**、その後の自身のキャリアに繋げたいニーズがあることが判明

⬇

他の女性競技団体とも情報交換し、本学大学院のカリキュラム編成時に活用

2025年度は本プログラム最終年度となるために、研究分担者、共同研究先大学・企業との連携を推進











2025/2/13
東洋大学重点研究推進プログラム
2024年度成果報告会

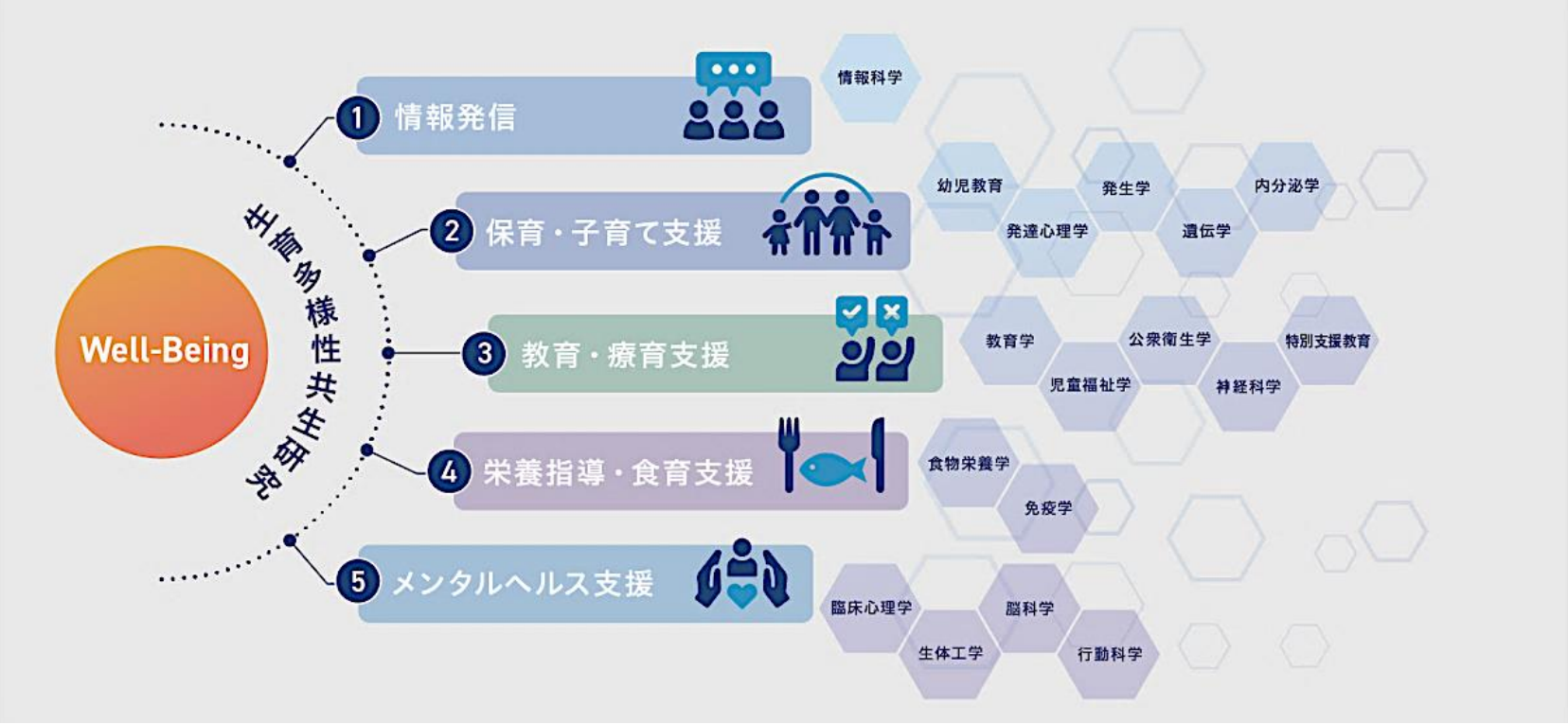
生育のdiversityを生むメカニズムの解明と well-beingな社会の実現に向けた支援体制の構築

生育多様性共生研究プロジェクト
代表・児島 伸彦

研究プロジェクトの構成

生命科学分野では、性分化および性差を決定するメカニズム研究ならびにモデル動物等を用いた神経精神疾患の脳内メカニズムに関する研究を推進し、保育、教育、療育の各現場で活用できる知見を集約します。

人文・社会学分野では、学生の食事に関する実態調査、保育所など児童施設における保育者の技術に関する実態調査、特別支援等の自立活動に関する実態調査を実施し、上記の生命科学分野の研究との接点を探ります。



子どもの発達（脳を含む）への理解の醸成

Developmental Diversity Symbiosis Research

子ども支援学科　高山 静子
生命科学科　金子 律子

保育の現場に生命科学分野の知見をわかりやすく伝えることで、保育士が子どもの脳の発達の原理を理解し、日々の保育に活用できるよう支援する。

- 「**子どもの把握と理解**」（郁洋舎出版）で
  子どもの個性や発達特性を多角的に理解するための視点を提供。
- 社会福祉協議会など講演会
  「**子どもの脳の発達の基礎知識～二つと同じ脳はない**」
  脳の発達が子どもごとに異なることを科学的な根拠に基づいて解説し、保育現場で活かせる知識を提供。
- 保育雑誌エデュカーレ「発達深ぼりブクレット「体」からアプローチする子ども理解」（NII書誌ID BD07085142）に、「**ホルモンの発達　微量でも絶対不可欠なホルモンたち**」を執筆。





期待される効果：

・子ども一人ひとりの発達の多様性への理解が深まり、保育士の専門性向上に寄与する。
・科学的な視点を取り入れた保育実践が促進されることで、子どもの成長をより効果的にサポートできる。

Developmental Diversity
Symbiosis Research

シナプス可塑性を地域の子育て支援に役立てる

招待講演：シナプス可塑性から学ぶ地域の子ども育成支援

大阪市貝塚市　貝塚公民館大会実行委員会

生命科学科　児島 伸彦

「子どもを真ん中に考える地域づくり」をテーマに子育て支援に取り組む貝塚市からの依頼を受け、市民の皆様に脳のしくみや発達におけるシナプスの可塑性の役割と重要性について理解を深めていただくための講演会を開催しました。





2024年度 テーマ別研究成果と進捗

精神疾患・神経発達症の生物学的基盤解明

うつ病とミクログリア（児島）

自閉スペクトラム症（ASD）と脳腸相関（児島）

ASDリスク遺伝子の作用機序（金子）

ASD患者の感覚特性（金子）

器官の性差・性分化をもたらす分子メカニズム

心臓の発達と老化（小柴）

性分化を制御する分子の作用機序（根建）

外部刺激に対する脳・自律神経応答メカニズムの解明

ストレス性自律反応の脳内機構（堀内）

fNIRSを用いた快・不快刺激に対する脳機能変化の計測（鈴木裕）

食と健康のアンケート調査

青年期の健康観と食生活および腸年齢との相関（川口・大瀬良）

幼児期の食生活および腸年齢との相関（大瀬良）

妊娠期の農薬曝露と出生児の発達度の関連（吉永）

睡眠の心理的、生物学的研究

睡眠と夢の臨床心理学研究（松田）

精神疾患モデル動物の睡眠脳波の計測（児島）

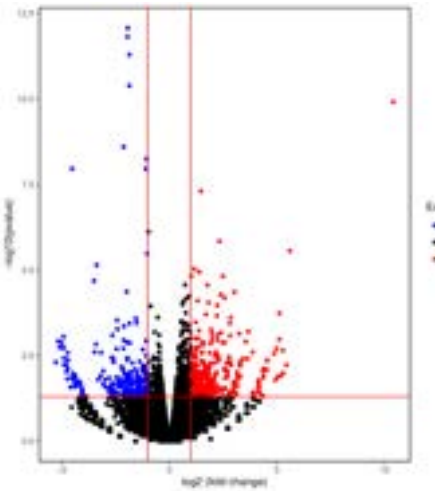
精神疾患・神経発達症の生物学的基盤の解明研究 ①　自閉スペクトラム症と脳腸相関

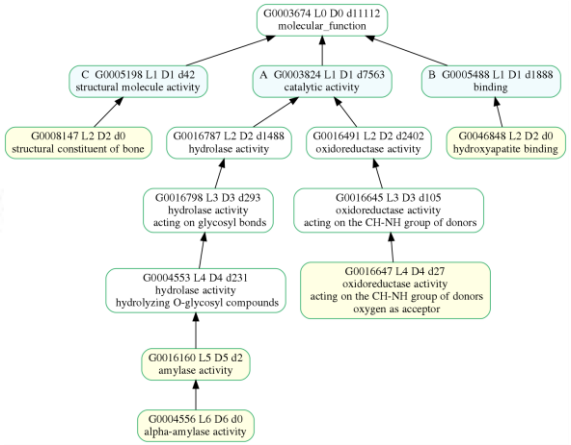
生命科学科　児島 伸彦

胎生期バルプロ酸（VPA）曝露モデルにおける脳内遺伝子発現変動と腸内細菌叢の変化

RNA-seq解析

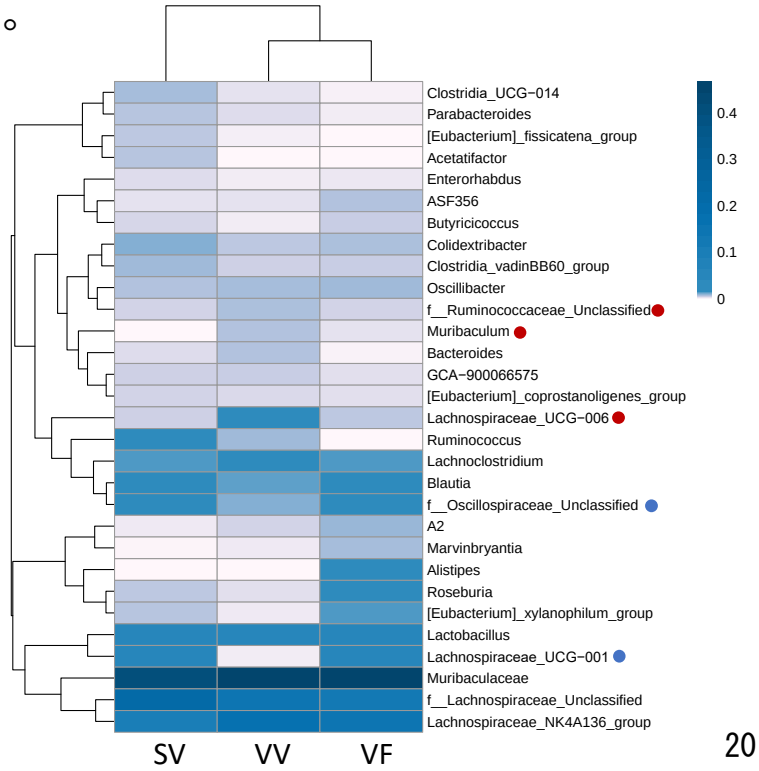
3週齢のVPAマウス海馬で有意に変動した遺伝子に、ヒトASD関連遺伝子や、脳内の炎症・免疫機能に関連する遺伝子が含まれていた。





腸内細菌叢解析

VPAマウス（VV）で増減し、ヒトの自閉症行動の改善に効果のあるフェルラ酸の投与（VF）で正常化する腸内細菌が複数同定された。



今後の展望

健常マウスの腸内細菌移植によりVPAマウスの行動表現型や脳内遺伝子発現が正常化できるかどうかの検証を行う。

ASDの感覚特性：
分子・細胞レベル～ヒトレベルでの研究や研究還元の実績

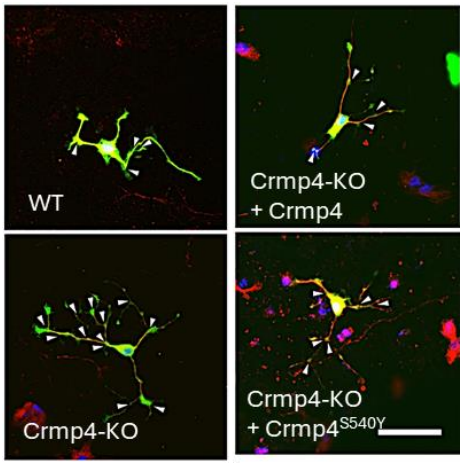
生命科学科　金子 律子

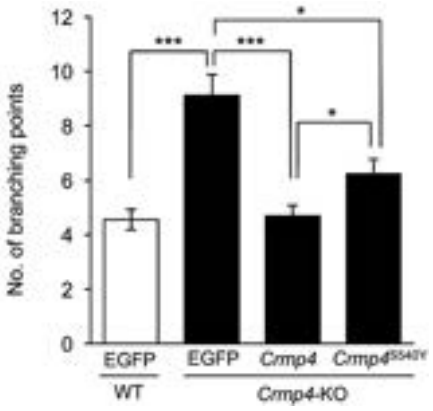
発達障害の１つであるASDの発症メカニズムに関する研究

モデル動物や細胞を用いた研究

変異タンパクと細胞骨格タンパク質の結合変化を捉えることができた。

細胞骨格の重合異常⇒ニューロンの突起形成異常⇒神経ネットワークの異常（論文投稿予定）





ASD患者の感覚特性調査

特別支援学校での調査研究

ASD患者でこれまでよく言われていた「学童期から中高生になると、感覚特性は弱まる」というのは「**感覚過敏**」に関しては当てはまらず、両世代で高い。一方、「**感覚回避**」（感覚特性が目立たないように回避する適応行動）は学童期より中高生で強まる（論文投稿準備中）。
⇒継続的な配慮が必要

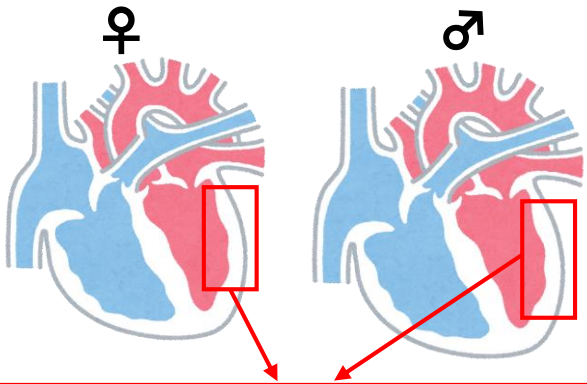


聴覚過敏用耳栓（キングジム）の装着効果について学生対象に調査した。

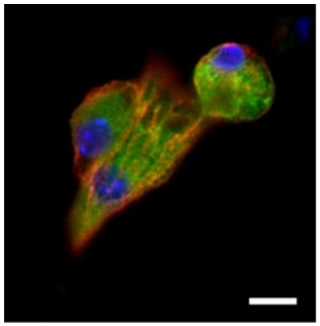
心臓に性差をもたらす分子機構の解明

生命科学科　小柴和子

胎仔 or 老齢マウス心臓

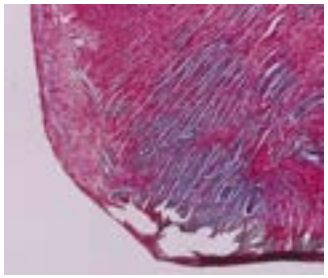


左心室よりRNAを抽出
RNA-seqによる発現量の比較
性差をもって発現する遺伝子の探索



胎生期に性差をもって発現する遺伝子の機能解析

初代培養心筋細胞にsiRNAを導入することによる機能阻害実験を行ったところ、サルコメアの異常が引き起こされ、心筋分化への関与が考えられた。



老齢期に性差をもって発現する遺伝子の探索

老齢マウスでは、メスに比べオスで心臓線維化が早く進行する。老化に伴う心臓の線維化に関わる因子を雌雄老齢心臓に発現する遺伝子を比較することにより明らかにする。

今後の展望

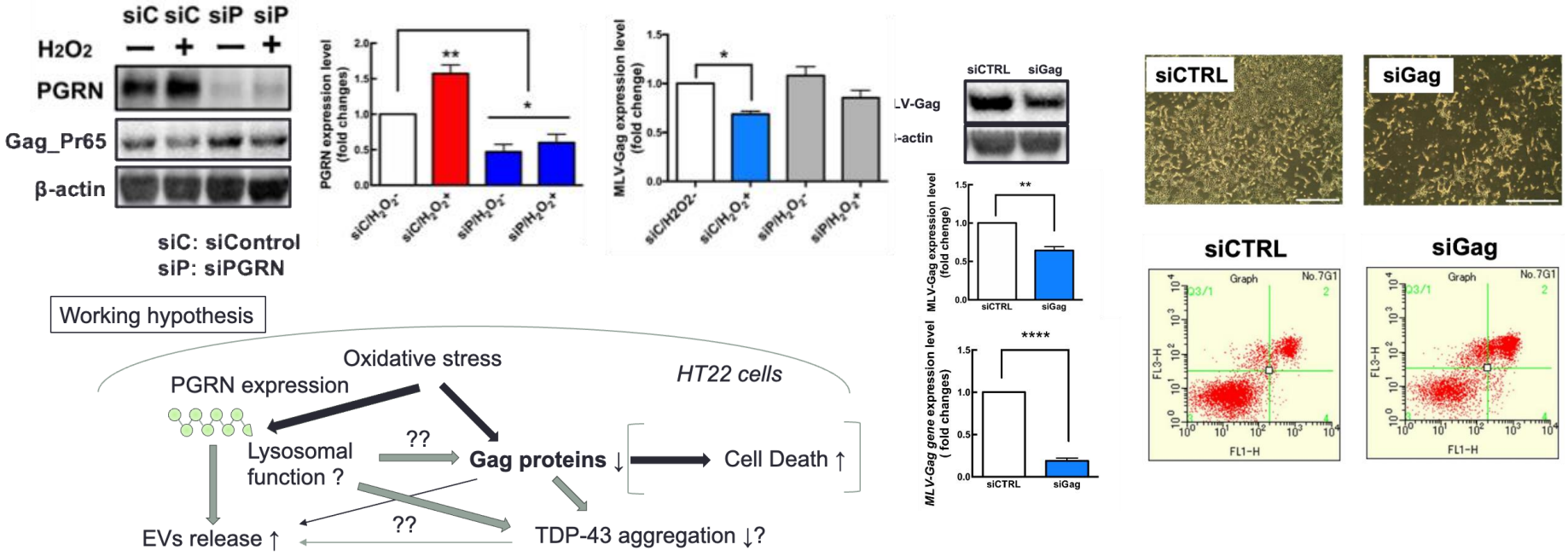
心臓は雌雄の差が顕著な臓器であり、心臓疾患の発症頻度も雌雄によって異なるものが多い。胎仔期心臓において雌雄で異なる発現量を示す遺伝子に対して機能阻害実験を行ったところ、心筋分化への関与が認められたので、今後はその作用機序を明らかにしていく。また、心臓の線維化は心臓機能の低下につながることから、老齢マウス心臓のオスに強く発現する遺伝子と線維化との関係を調べていく。

脳の性分化を制御するプログラニュリンの新機能

生命科学科　根建　拓

プログラニュリンの制御分子の同定

脳の発達過程においてプログラニュリンはエストロジェンによって増加し、脳の性分化に関係しているプログラニュリンが、内在性レトロウイルスを制御している可能性を発見した。
（第47回日本分子生物学会 招待講演）



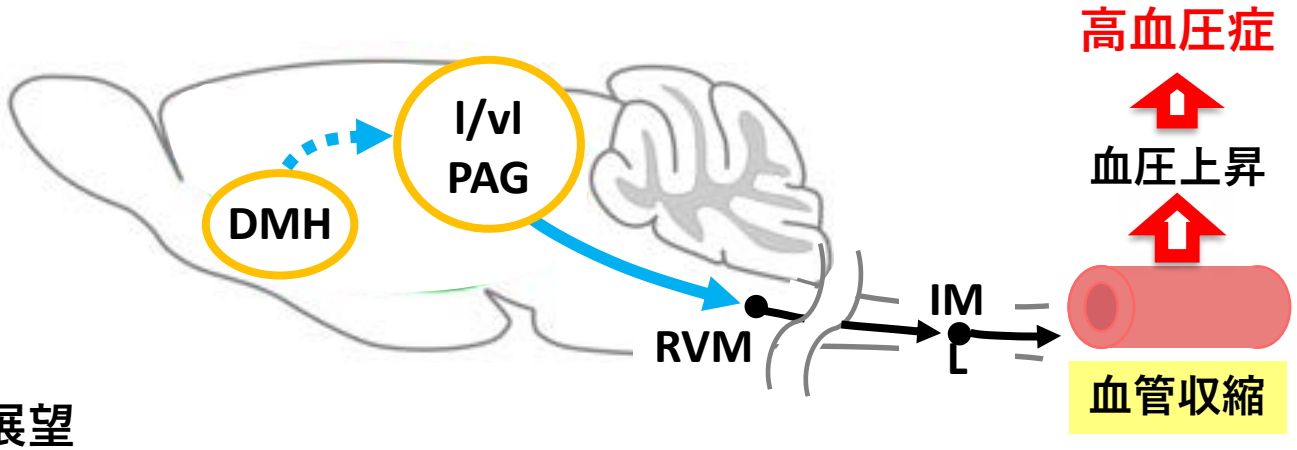
今後の展開

脳の性分化に重要なプログラニュリンが、内在性レトロウイルスを制御する新しい役割を持つことを発見しました。プログラニュリンは生物の「ゆらぎのある状態変化」と密接に関わっているため、ヒトの生育多様性に影響を与えるホルモンやウイルス、さらにそれらが引き起こす「生育のゆらぎ」を中心に研究を進めていきます。

ストレス性自律反応の神経機構の解明

生体医工学科　堀内 城司

発達障害者は、対人関係のストレスにより、自律神経症状や高血圧症を含む循環障害を抱えることがある。しかし、これらの循環障害の発症メカニズムや有効な治療法は未解明である。
本研究では、不快情動ストレスによって引き起こされる自律神経反応の脳内経路を同定することを目的とした。その結果、**視床下部ストレス中枢（DMH）**から**延髄循環中枢（RVM）**への経路が**中脳中心灰白質（PAG）**を介していることを明らかにした（Matsuyama *et al*., Am. J. Physiol. Regul. Integr. Comp. Physiol., 327(1): R66-R78, 2024）。さらに、高血圧症の発症にはDMH周辺のアストロサイトが関与している可能性を示した（Hasebe *et al*., Scientific Reports, 14: 22984, 2024）。



今後の展望

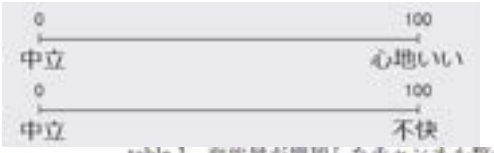
今後は、研究対象をラットの自閉症モデルに絞り、ストレス負荷時における自律反応とその脳内メカニズムの詳細な解明を目指し、モデル動物の行動および生理的反応との関連を解析する。また、この知見を基に、脳波やNIRSを用いた自閉症児の解析への応用も視野に入れている。

快・不快画像を用いたfNIRSによる脳機能測定法の検討

生体医工学科　鈴木 裕



・快・中立・不快の3群で構成された快画像群を使用
・あらかじめVAS（ビジュアル・アナログ・スケール）法によって快か不快か選定



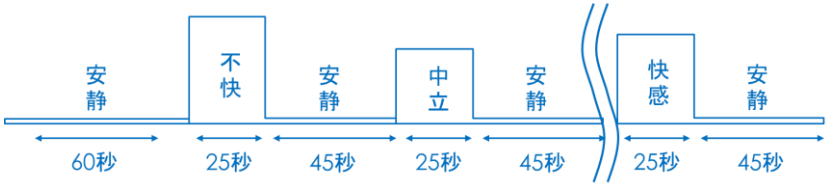
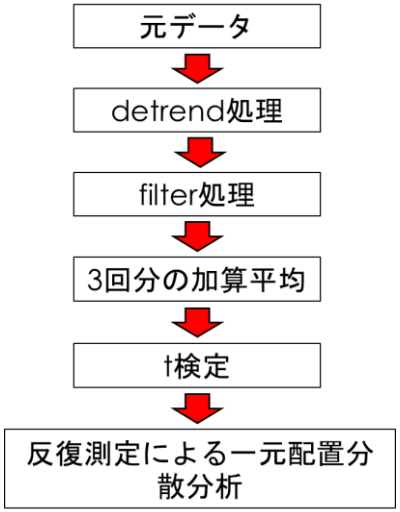
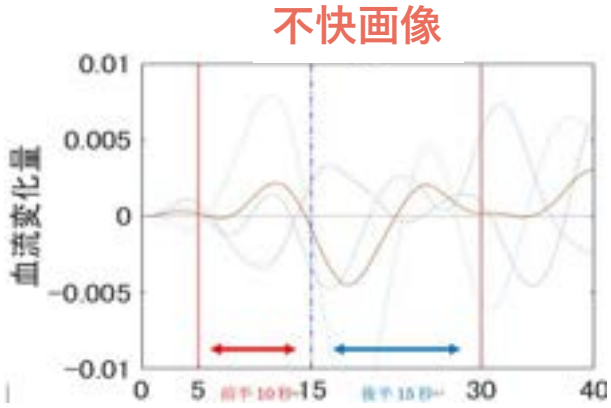


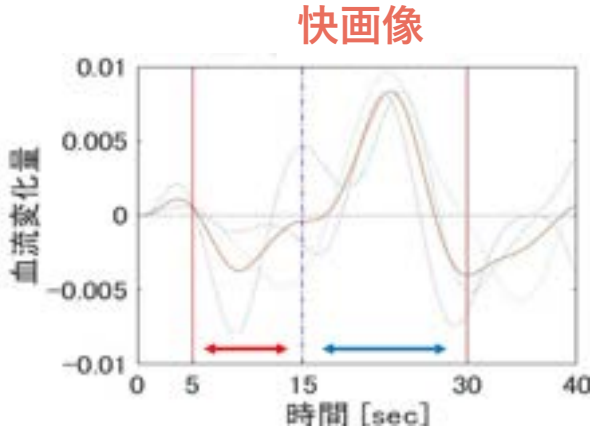
table.1　血流量が増加したチャンネル数

刺激 被験者	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
Aro	8	5	9	3	18	6	2	16	21	2
Neu	3	0	0	6	0	2	22	4	5	5
Ple	0	2	4	5	0	3	22	11	4	2



信号処理のフロー





・脳血流量が変化するチャンネル数が快・不快で変化
・脳血流波形が快・不快で変化

今後の展開

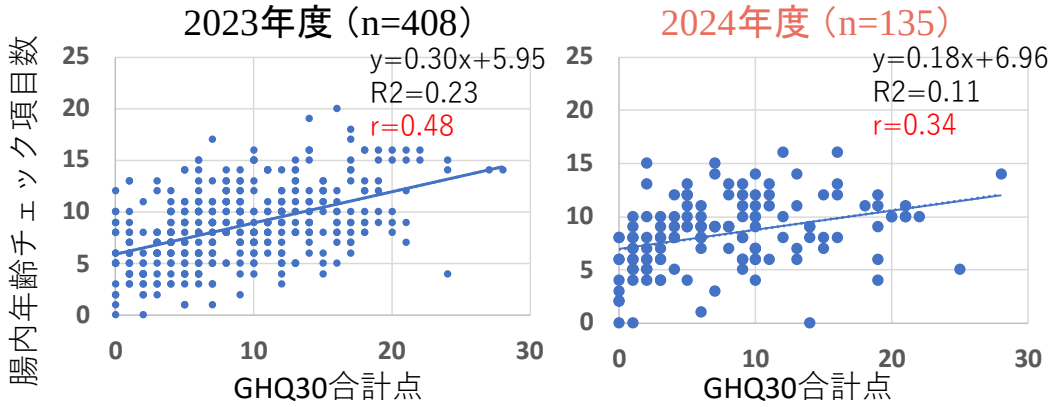
快・不快画像刺激による脳血流とともに、脳波計測による反応を計測する。

青年期の健康観と食生活、腸年齢の関連性の調査

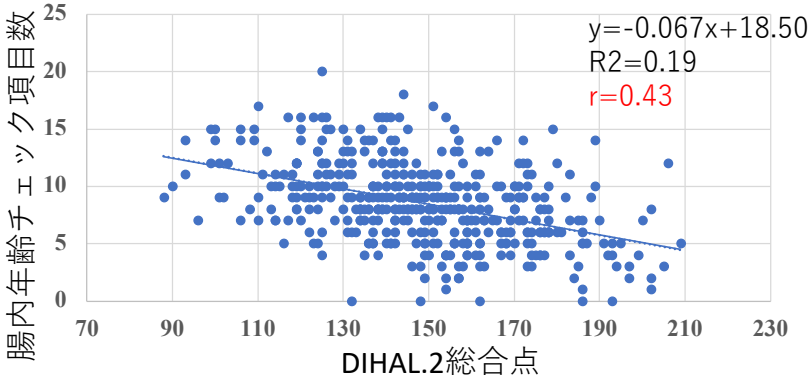
生命科学科　川口 英夫
健康栄養学科　大瀬良 知子

昨年に引き続き、大学生を対象に、精神健康調査（GHQ-30）、健康度・生活習慣診断（DIHAL2）、食事歴法（BDHQ）、食嗜好・腸年齢アンケートを実施した。

腸内環境と精神健康度の相関



腸内環境と健康度・生活習慣の相関　2023・2024年度（n=483）



腸内環境と精神健康度の相関については、質問票レベルで「**脳腸相関**」が確認できる可能性を、今年度も全く別の研究協力者を対象に再確認した。
腸内環境と健康度・生活習慣の相関についても、質問票レベルで「腸内環境の改善には生活習慣が重要である」という傾向が示された。今後より詳細な生活習慣の解析が必要となる。

幼児期の食生活、腸年齢の関連性の調査

健康栄養学科　大瀬良 知子

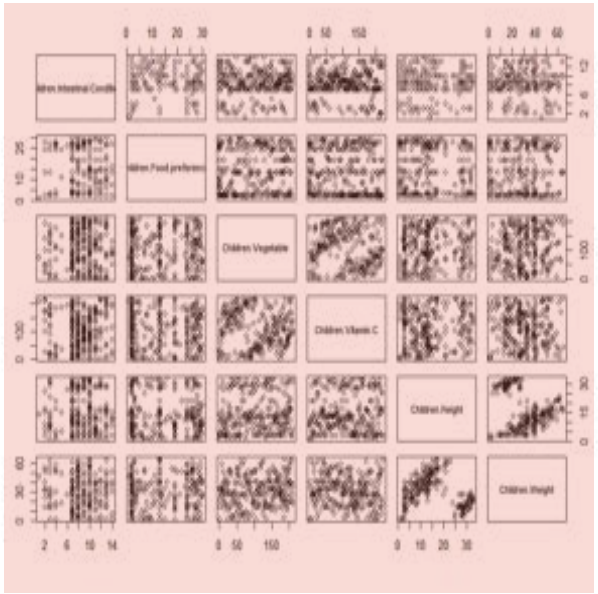
目的：腸の活動状況と食嗜好、食物摂取状況の関連性の検討

方法：幼児（3～5歳）とその保護者　合計250名

統計解析：相関係数、ロジスティックス回帰分析

結果：

・保護者と幼児の腸の活動状況には正の相関がみられた。
・幼児の腸の活動状況の低さと嫌いな食品の数の多さ、野菜摂取量の少なさに関連がみられた。
・しかし、幼児では体格に影響するものでない可能性が示唆された。
・幼児、保護者ともに腸の活動状況が悪いと主観的健康観は低く、前年度の大学生における調査の結果と同様の傾向が認められた。



考察：

幼児においては、食生活の課題である食嗜好の改善や野菜摂取量の向上に着目することが有効である可能性が示唆された。

結論：

幼児やその保護者といった大学生とは異なるライフステージにおいても腸の活動状況と健康観に関連があることが確認できた。

次年度の課題

食嗜好と腸の活動状況、健康度の関連について、因果関係が明らかにできる研究デザインで実施する。

睡眠と夢の臨床心理学研究

社会心理学科　松田 英子



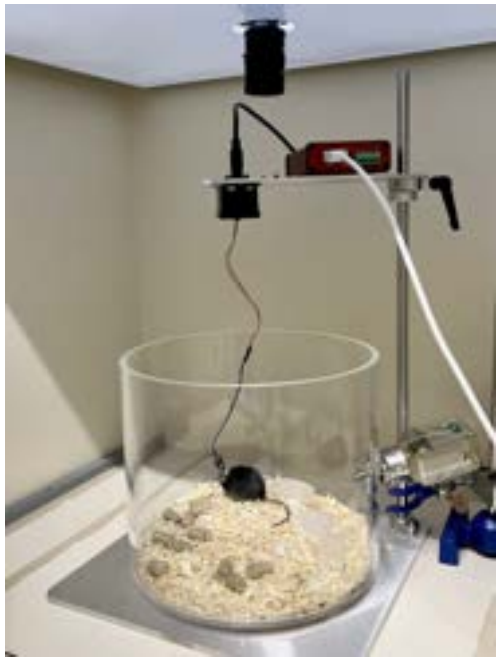
幼児の睡眠問題、軽度知的障害のある生徒、中高年の睡眠不調やレム睡眠行動障害を調査して、睡眠と夢の質や対処法が、各生涯発達段階において発達特性や社会的行動、心理的健康に影響を与えることが明らかになった。今後は、幼児の睡眠問題への保護者向け支援や、特別支援学校の教員向け啓蒙活動、レム睡眠行動障害の早期発見に向けたツール開発を進める予定である。

精神疾患・神経発達症の生物学的基盤の解明研究 ②

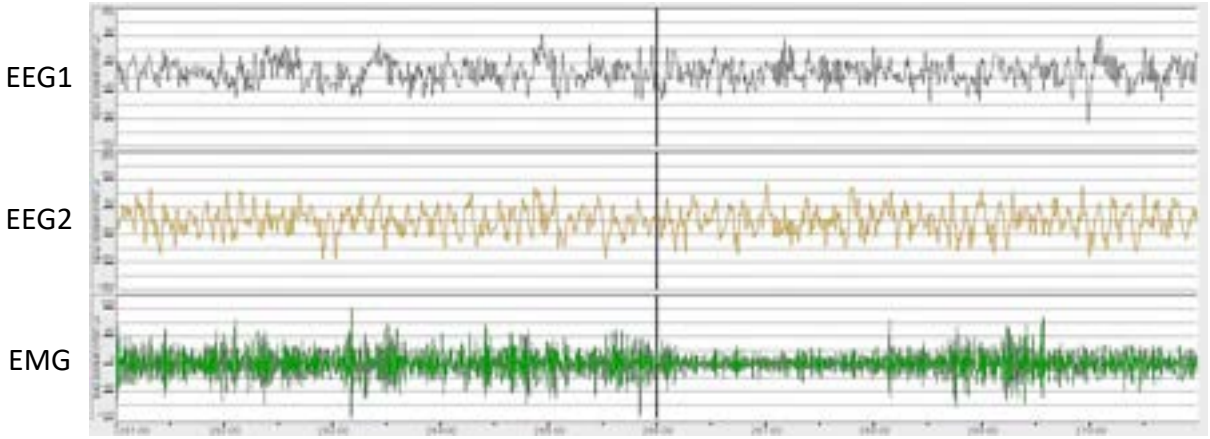
生命科学科　児島 伸彦

PTSDと睡眠リズム

単回持続的ストレスによるPTSDモデルの睡眠脳波の解析



マウスの頭蓋に電極を設置し、脳波2チャンネルおよび筋電図を24時間連続で計測した。今後、取得したデータに対して周波数解析を行い、覚醒、non-REM、REM相を判定し、PTSDにおける睡眠脳波の異常を明らかにする。



今後の展望

PTSDにおける覚醒睡眠リズムの乱れおよび睡眠障害の脳内メカニズムを解明する。また、睡眠障害を示す他の病態（例えば、自閉症スペクトラム症、REM睡眠行動障害など）についても、同様のアプローチで検討を進める。

保育者への保育に関する困りごとのインタビュー調査研究

健康栄養学科　大瀬良 知子
生命科学科　児島 伸彦

保育・教育現場における「〇〇が苦手」な子どもへの対応方法に関する具体的な困りごとを把握し、その背後にある神経科学的な基盤を探ることを目的とし、より効果的な支援方法を提案し、保育・教育現場の改善に寄与することを目指す（朝霞キャンパス人を対象とする研究に関する倫理審査承認済）。

子どもが抱える困りごとや問題行動についての具体的なエピソードや、その行動に対する対応方法について9項目24問からなるインタビューにより調査する。



今後の展望

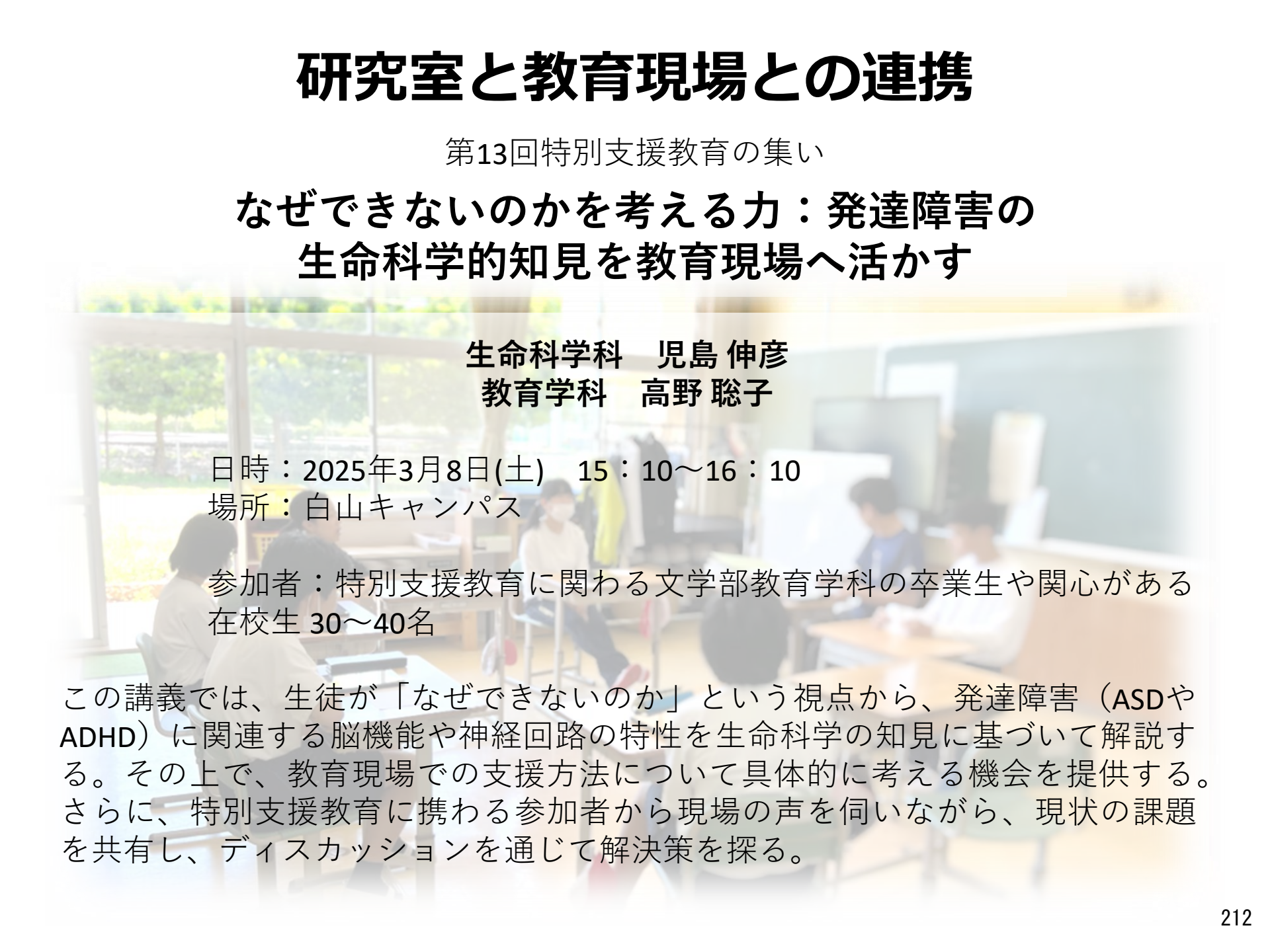
一般的な対処法だけでなく、生命科学分野の視点を盛り込んだマニュアルの作成を予定。

現場の保育者と意見交換を行いながらマニュアルの有効性を検証する。

研究室と教育現場との連携

第13回特別支援教育の集い

なぜできないのかを考える力：発達障害の生命科学的知見を教育現場へ活かす



生命科学科　児島 伸彦
教育学科　高野 聡子

日時：2025年3月8日(土)　15：10〜16：10
場所：白山キャンパス

参加者：特別支援教育に関わる文学部教育学科の卒業生や関心がある在校生 30〜40名

この講義では、生徒が「なぜできないのか」という視点から、発達障害（ASDやADHD）に関連する脳機能や神経回路の特性を生命科学の知見に基づいて解説する。その上で、教育現場での支援方法について具体的に考える機会を提供する。さらに、特別支援教育に携わる参加者から現場の声を伺いながら、現状の課題を共有し、ディスカッションを通じて解決策を探る。



今後の展望



研究メンバーの交流の強化

定期的なミーティングとSNSツールを用いた交流
チーム内での相互理解を促進し、チーム活動の効率化を図る

保育士や療育教育者、保護者向けの情報発信の強化

ウェブサイトの充実とわかりやすい情報提供
科学的知見をもとにした支援の活用の機会をつくる

幼児期・学童期の食と健康調査の継続

幼児期および学童期に焦点を当てた食と健康調査の継続実施
調査結果に基づいた栄養指導の実践

保育者向け「困りごと対応マニュアル」の作成

保育者の直面する課題に対応するための、科学的知見を活用した対応マニュアルの作成

重点研究推進プロジェクト（2024-2026）

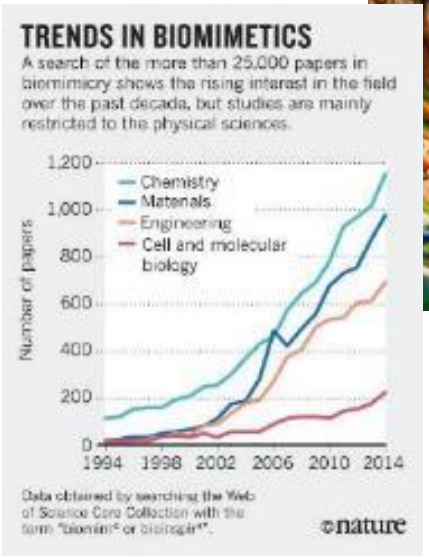
未来を拓くバイオミメティクス

研究代表：　生命科学部　生体医工学科　教授
合田達郎
学内研究者数：13名

バイオミメティクスとは？

生物が進化の過程で獲得してきた構造・機能・生産・情報処理から着想を得て、それらを科学、医学、産業などの様々な分野に生かそうとする概念





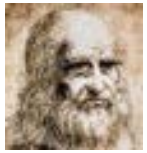
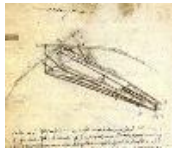
生物学者の参入は8%未満

150万種の真核生物のなかで生物模倣はごく一部

ゲノム編集技術によってさらに活性化

Nature **2016**, *529*, 277-278

バイオミメティックス 1.0


バイオミメティックス 2.0

2007
ドイツ「生物多様性に対する国家戦略」
動植物をヒントに革新的技術を開発
2009
日本経団連「生物多様性宣言」
自然の摂理と伝統に学ぶ技術開発を推進
2010
サンディエゴ動物園「Da Vinci Index」
2025年に米国で3000億ドルのGDP
2013
文科省　新学術領域「生物模範工学」

2011　ドイツ政府
バイオミメティックスの国際標準化提案

2015
バイオミメティックス国際標準制定（ISO/TC 266）
ISO 18458:2015, ISO 18459:2015, ISO 18457:2016

2018　日本政府（環境省）
第五次環境基本計画：持続可能性を支える技術の開発・普及としてバイオミメティックス

バイオミメティックス 3.0

「生物の生き残り戦略にヒントを得て人類の未来を築く」
「持続可能性へのパラダイム変換と技術革新」

本プロジェクトの目的

生物が進化の過程で獲得してきた構造・機能・生産方法・物質循環から着想を得て、それらを科学、医工学、産業などに生かす

→ **重点研究課題（5）：SDGsに貢献**

3．すべての人に健康と福祉を、9．産業と技術革新の基盤をつくろう



本学の研究力強化、文理融合、国際化、若手育成に貢献

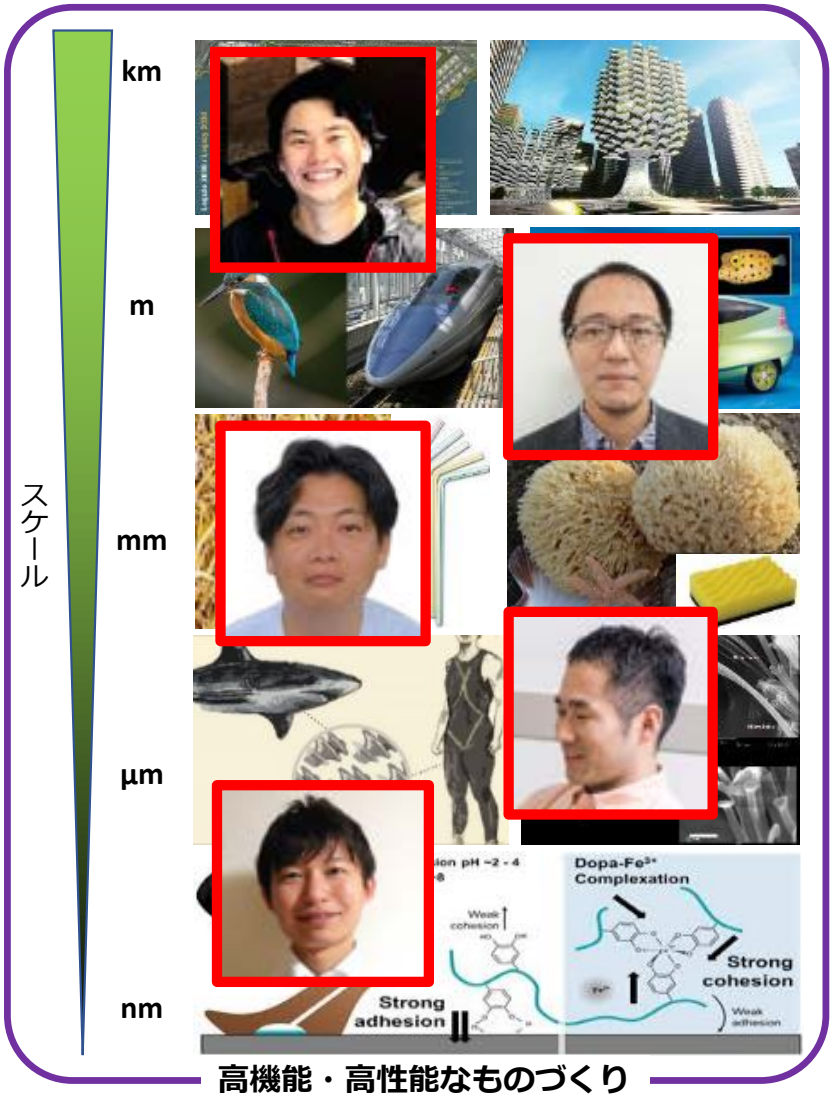
① 生物の構造や形に着想した高機能なものづくり
② 生物の有する持続可能な生産方法に倣ったものづくり
③ 生物がおこなう情報プロセシングの活用
④ 初等～高等教育へのバイオミメティクスの普及
⑤ 井上円了哲学からみたバイオミメティクスの価値の探究

- Scopus掲載国際学術論文数の増加
- 国際学会での英語口頭発表
- 外部資金獲得
- 国内外研究者ネットワークの構築・拡大
- 企業との共同研究実施
- 大学院進学者数・博士研究員数の増加

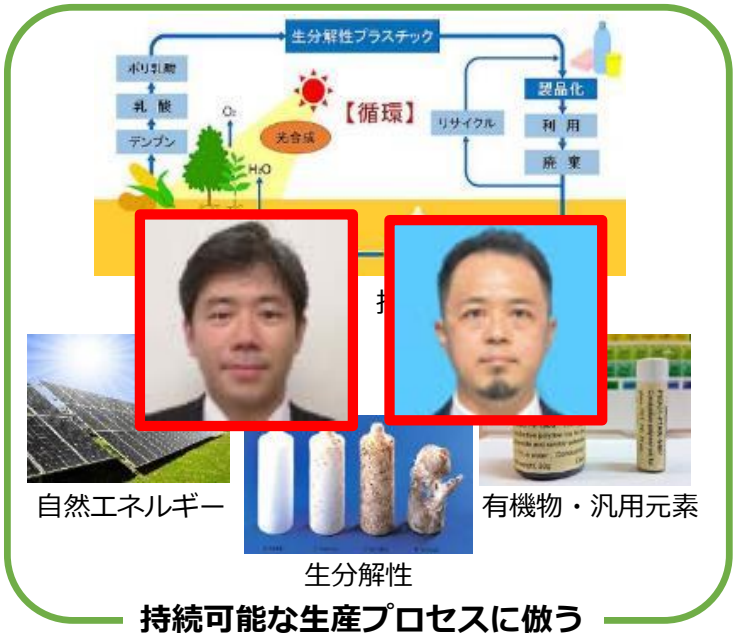


井上円了の哲学や思想と、バイオミメティクスを活用したモノづくり研究を融合し、東西の哲学を基盤とするグローバルな知の研究拠点としての東洋大学を顕現する

バイオミメティクス／バイオミミクリ：自然界のモノづくり・システムから学ぶ



高機能・高性能なものづくり



持続可能な生産プロセスに倣う



生物のシステムに倣う

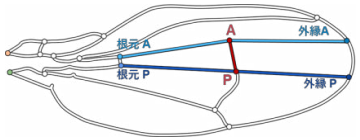
①生物の持つ構造や形に着想した高機能なものづくり（窪田、高岩）

生物がもつ物質輸送ネットワークの利用、スポーツギアの開発

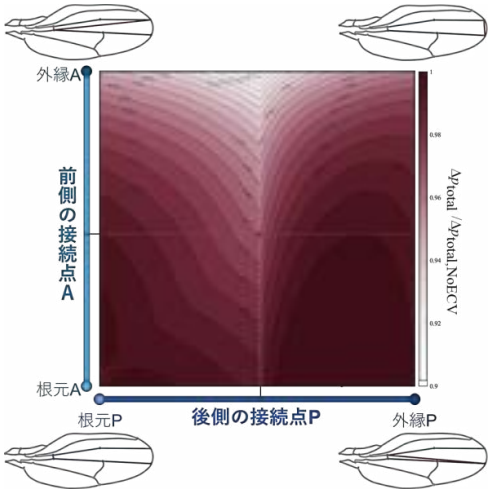


機械工学科
窪田

生物が持つ物質輸送ネットワーク



ハワイ種特有の翅脈がPCVと直接接続する位置で圧力損失が最小となる。



スポーツギアの社会実装



ミズノ社との共同研究成果として，競泳用キャップについて特許を共同出願し製品の販売を開始.

キャップ表面の凸形状により平滑なキャップより4.8%程度流体抵抗を低減.

ツバメの巣の模倣による伝統土塗り壁の再評価、歴史的建築物の耐震補強







建築学科
高岩

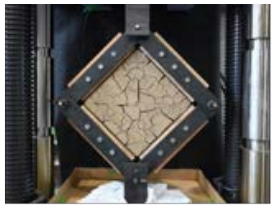
土と藁スサを用いる
（繊維含有率・繊維長さ・繊維径・ムチン含有率）　**第１期**

第２期

ムチンを用いる	← **固化材**	
田んぼの土を用いる	← **発酵** →	土と藁スサを発酵させる
積み上げる	← **施工** →	塗り広げる
積み上げる二次元配向	← **繊維配向** →	無作為の三次元配向

第2期重点研究でおこなう研究テーマの検討

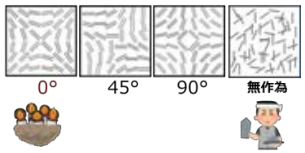






ツバメの巣のX線CT



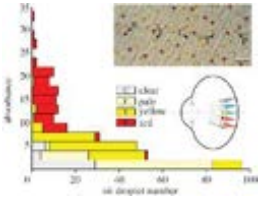


藁スサの任意配向による壁土の材料特性の把握

①生物の持つ構造や形に着想した高機能なものづくり（秋元、甲斐）

鳥の目の光波長フィルターに倣った血中酸素飽和度計測カメラの開発



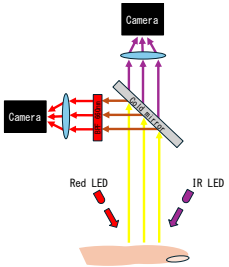




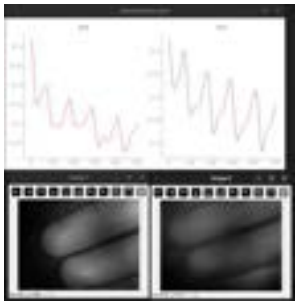
生体医工学科
秋元

鳥による、人を超えた色識別

鳥の目の油滴: スペクトルフィルターとして機能するマイクロレンズ
Phil. Trans. R. Soc. B 2014 369:20130041







スペクトルフィルタ機能を模倣

・ノイズ除去を光学的に行うことで高精度化を実現
・リアルタイムでの計測結果表示を実現





試作装置開発・改良

・高精度計測が可能となり、光源の安定性が不足
・安定した光源の自作により、計測精度向上、計測距離を拡張

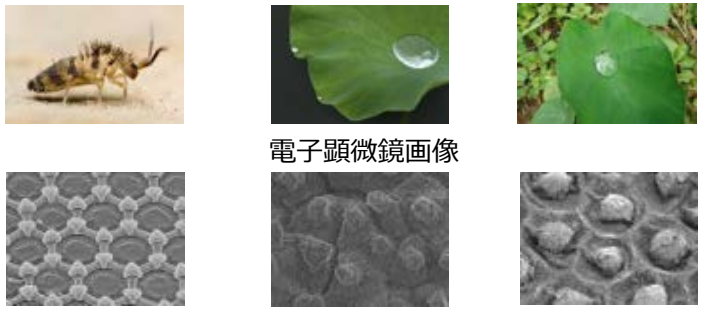
生物の撥水表面の幾何構造を模倣・抽出し、水滴・油滴の保持・輸送・混合・分割を行うマイクロ流体装置を開発



生体医工学科
甲斐

生体表面の撥水構造は、幾何学的かつ
規則的な微細凹凸構造によって発現する

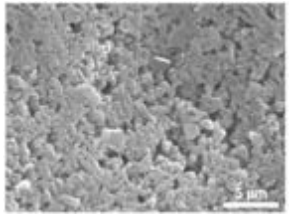
アヤトビムシ　ハスの葉　サトイモの葉



電子顕微鏡画像

微細な多孔質・凹凸構造を有する、撥水性の人工材料の開発

撥水化処理剤を混合した多孔質ポリマー





水 → 弾かれる



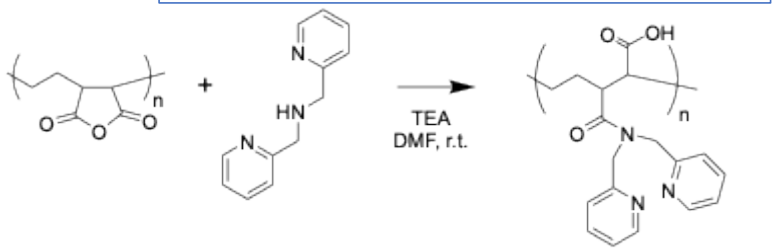
油 → 吸収される

基板表面で水滴を輸送・混合・分析するマイクロ流体装置や
水と油の分離装置などへの応用可能性

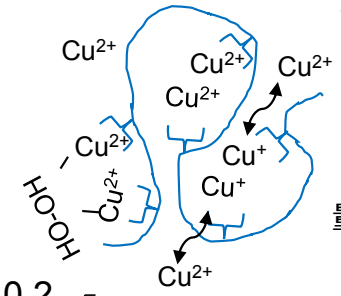
①生物の持つ構造や形に着想した高機能なものづくり（大澤）

②生物の有する持続可能な生産方法に倣ったものづくり（合田）

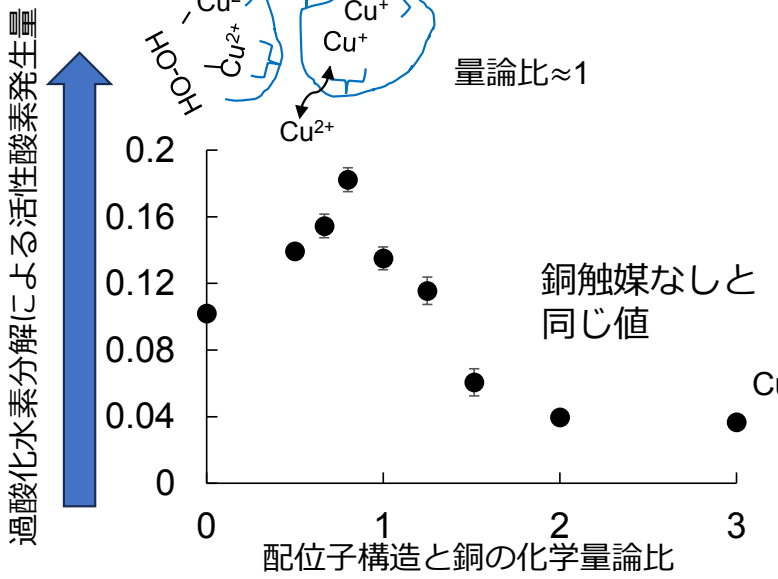
酵素の構造に倣う機能性高分子設計とその応用



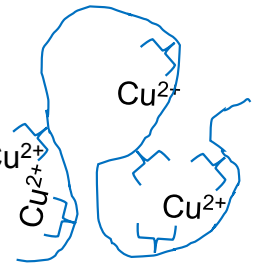
ジピコリルアミド構造



量論比≈1



銅触媒なしと同じ値



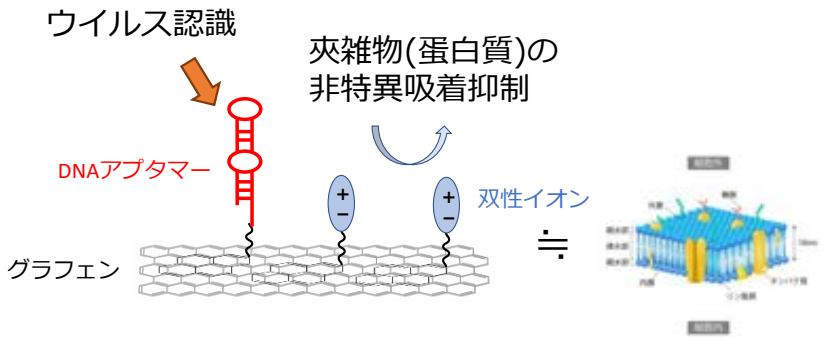
量論比+>1

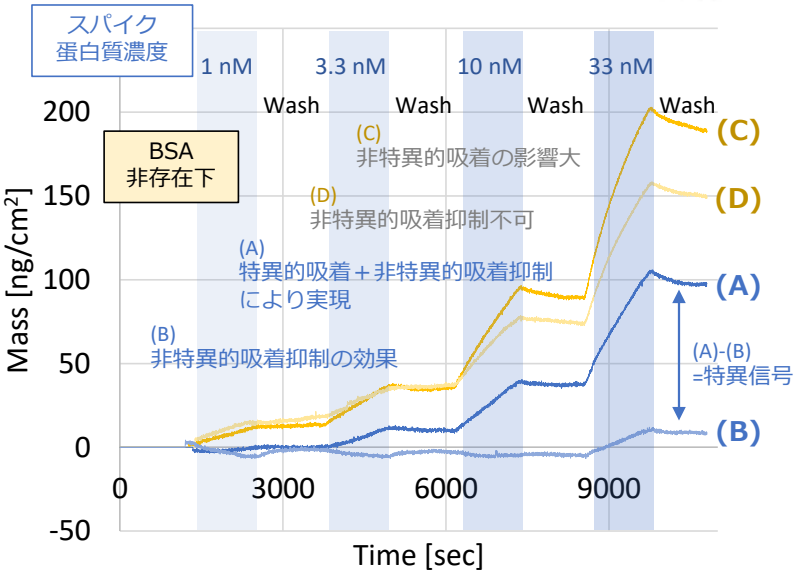


生体医工学科
大澤



感染機構に倣ったウイルス認識を用いた超高感度グラフェン型計測デバイスの開発





スパイク蛋白質の
特異検出に成功！



生体医工学科
合田

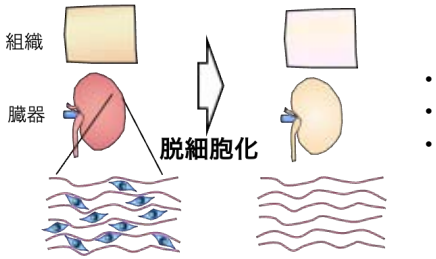
生体膜での
分子認識を
模倣

②生物の有する持続可能な生産方法に倣ったものづくり（木村）
③生物の情報プロセシングを活用したものづくり（宮西）

脱細胞組織を用いた組織・再生医工学研究



生体医工学科
木村

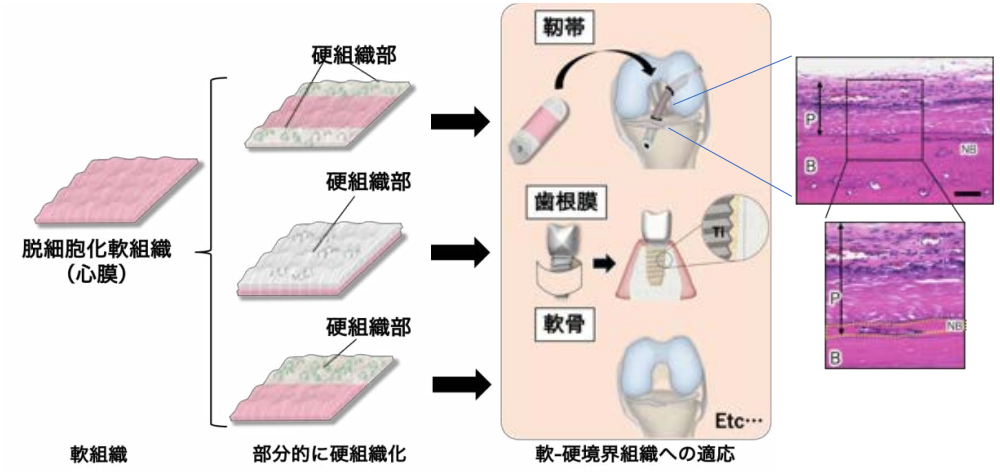


- 構造維持
- 生体親和性
- 成長性

↓

新バイオマテリアル

軟組織の硬組織化による境界組織のミメティクス



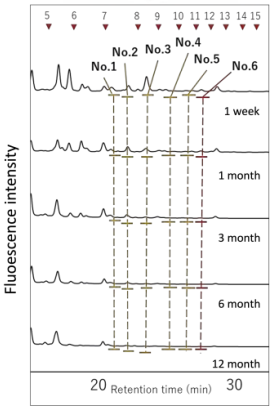
高度な糖鎖修飾に寄与する糖を骨子とした挙動解析とGLYCO-TUNINGによる共生推進



食環境科学科
宮西

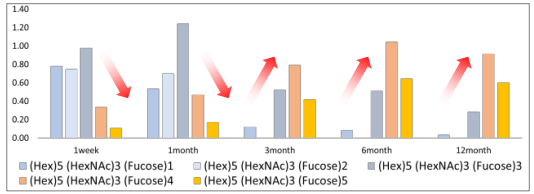


ヒトのミルクオリゴ糖から経時変化するオリゴ糖を抽出



ミルクオリゴ糖の経時変化
（フコースが付加したオリゴ糖）

No.	予測された構造
1	
2	
3	
4	
5	
6	



授乳初期ではフコースが1～3個付加した構造の比率が高く、
後期にかけて4～5個付加した構造の比率が増加する事が明らかとなった。

これらのオリゴ糖の構造骨格に基づき、生物間共生活動のチューニングの高度化、
オリゴ糖構造の最適化、細胞間相互作用などに寄与するオリゴ糖を評価

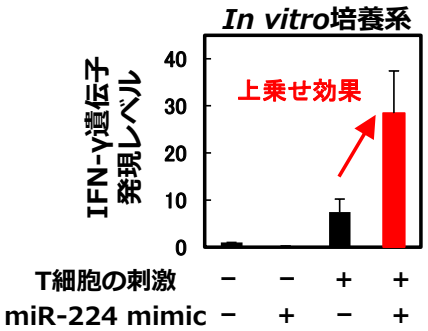
③生物の情報プロセシングを活用したものづくり（北村・増田）

生体エクソソームによる細胞間コミュニケーションを模倣した高機能な薬剤送達システムの構築



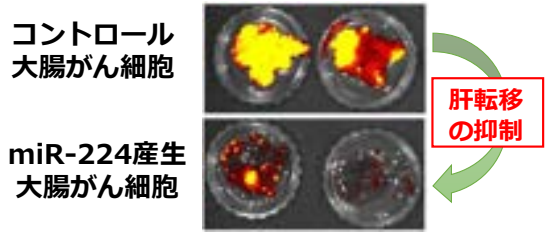
生体医工学科
北村

*In vitro*培養系



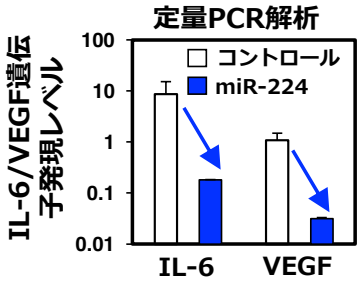
生体エクソソームを模倣した薬剤(miR-224 mimic)の導入により免疫応答が増強

転移性肝がんモデル

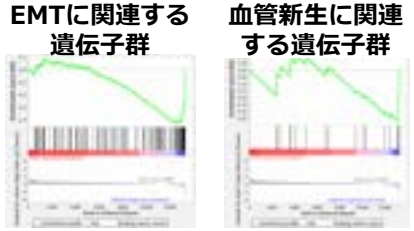


転移巣：赤～黄色のシグナル

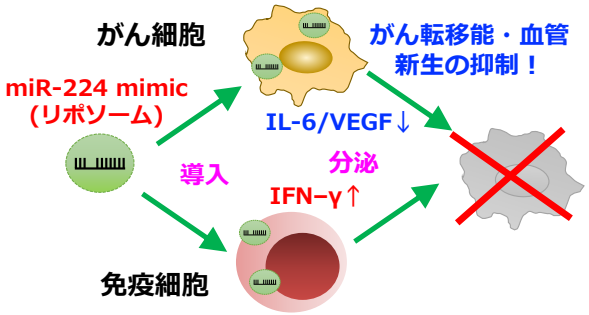
定量PCR解析



Gene Set Enrichment Analysis（GSEA）



miR-224を導入した大腸がん細胞はEMTおよび血管新生に関連する遺伝子群が低下



生体エクソソームの機能性を模倣し、高機能薬剤輸送システムの開発に応用

神経回路での情報伝達課程を模倣した深層学習による血清ラマンスペクトルからのアミノ酸レベル推定

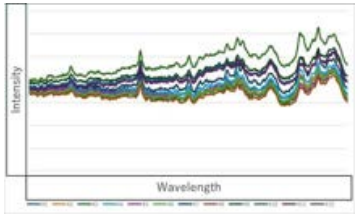
実験データのような小標本データに対して、深層学習を行える研究を行っている。

データ拡張技術を独立変数からなる数値データに適応させることで、小標本データを増強し、深層学習で学習効果を出せた。



総合情報学科
増田

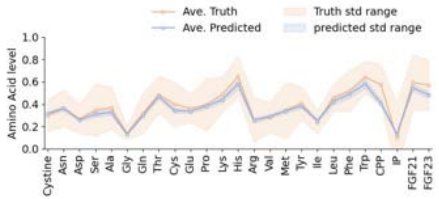
血清ラマンスペクトルを入力にアミノ酸レベルの推定が可能



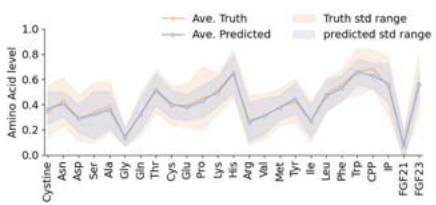
ラマンスペクトルの一部



推定したアミノ酸レベルの一部



Without Data augmentation



With Data augmentation

データ拡張によって予測範囲が広がっている(右図青の範囲)

④初等～高等教育へのバイオミメティクスの普及（谷口、後藤）

小学生向けのバイオミメティクス紹介ウェブサイトコンテンツの更新・充実、こもれび祭への出展



教育学科
谷口

- 2022年２月より，**合田研・窪田研・高岩研の３学科合同での研究会を継続**
- 研究会は学生が主体となって，**「分野横断」**や**「サイエンスコミュニケーション」**を目的とした活動を展開
- 2024年度は、バイオミメティクスの事例（先行研究）紹介やサイエンスコミュニケーションに関するディスカッション等、**計28回**の研究会活動
- **2022年以降の大学祭**ではバイオミメティクスについて，一般の大人や幼児，小中学生にも興味，関心を持っていただけるように参加型のイベント形式で発表。2024年度は**朝霞キャンパスと川越キャンパスの2か所同時開催**となり、新しい展示も追加



2024年度こもれび祭での発表
(2日間で**1042人**にお越し頂いた)



バイオミメティクス紹介サイト作成
https://www.toyo.ac.jp/contents/bmsv/studygroup/index.html
(2024.3)

バイオミメティクス概念を学習指導要領（中等教育）や教科書に掲載・普及



食環境科学科
後藤

バイオミメティクスの学校教育への導入を目指す
- 学校教育におけるバイオミメティクスの価値・意義の整理
- 学校教育でのバイオミメティクスの扱い方の現状把握と整理
- 導入のためのストラテジーの考案

本年度の取組
2024年　5月11日　プロジェクト研究キックオフミーティングにて説明
2024年　11月8日　文科省関係者を交えたシンポジウム
「学校教育への導入の期待と可能性」講演

主な成果・・・次世代の科学者や技術者の育成に寄与
学校教育への導入に向けた価値の整理
創造力の向上: 自然界の仕組みを学ぶことによる創造力の向上
問題解決能力の強化: 生物の特性を模倣による実践的な問題解決能力の育成
持続可能な技術の理解: 持続可能な技術や革新的なアイデアを創出する力の育成
科学技術への興味喚起: 実践的な学びによる科学や技術への興味の喚起

今後の計画・期待
カリキュラムの拡充: バイオミメティクスを含んだカリキュラムをさらに充実
教育現場での実践: 教育現場でのバイオミメティクスの応用の推進
研究と連携: 大学や研究機関との連携を強化、最新の研究成果を教育に反映



⑤井上円了哲学からみたバイオミメティクスの価値の探究（長谷川）

井上円了の哲学や思想と、バイオミメティクスを活用したモノづくり研究を融合し、東西の哲学を基盤とするグローバルな知の研究拠点としての東洋大学を顕現する



法律学科
井上円了センター
長谷川

井上円了は19世紀の進化論哲学を受容し、「相含の哲学」にも当時の進化論のモデルが明確に反映されている。
「多様な生物の命に関わるバイオミメティクス概念の哲学的な検討」について「相含の哲学」から検討する

<スケジュール>
重点BM理系メンバー7名の研究内容に関して
順次ヒアリングを実施
2024年12月末時点で2名のヒアリングを完了
（1～2年目）
↓
「相含の哲学」と「バイオミメティクス」の関係性を追求
↓
重点研究シンポジウム等にて成果報告
（2~3年目）
↓
バイオミメティクスを井上円了哲学の「総合の大観」のなかに位置づける
（最終目標）

「バイオミメティクス」といえば東洋大学！





研究計画	FY 2024	FY 2025	FY 2026
①生物の構造や形に着想した高機能なものづくり（窪田、高岩、秋元、甲斐、大澤）	生物がもつ物質輸送ネットワーク利用、競技用カヌーのパドル開発、害虫駆除装置開発（同時並行） ツバメの巣に倣った土塗壁の再評価 歴史的建築物の耐震補強 鳥の目のスペクトルフィルタ機能を模倣 試作装置開発・改良 生物の撥水表面の幾何構造を数式化 水滴の保持・輸送・混合・分割を行う流体装置開発		
②生物の有する持続可能な生産方法に倣ったものづくり（合田、木村）	汎用性元素のみから構成される導電性材料開発 汗・涙・唾液成分を検出 ワイヤレス化		
③生物が利用する情報プロセシングを活用したものづくり（合田、宮西、北村、増田）	グラフェン上に生体膜模倣分子認識界面を構築 新型コロナウイルス（不活化）検出実験 高度な糖鎖修飾に寄与する糖を骨子とした挙動解析 GLYCO-TUNINGによる共生推進 生体エクソソーム模倣薬剤のin vitro評価 マウスを用いたin vivo評価		
④初等～高等教育へのバイオミメティクスの普及（谷口、後藤）	小学生向けのバイオミメティクス紹介ウェブサイトコンテンツの更新・充実、こもれび祭への出展 学習指導要領の分析・戦略策定 附属校・協定校等での実績づくり		
⑤井上哲学からみたバイオミメティクスの価値の探究（長谷川）	重点メンバーへのヒアリング調査 「相合の哲学」と「バイオミメティクス」を追求		
拠点会議（１回／年）、 シンポジウム開催（１回／年） 外部評価委員会（１回／年）	 	 	 
	大型競争的資金（科研費、JST、NEDO、AMED、国際共同研究基金、財団等）応募、産学連携		
外部資金 産学連携 知財戦略 共同研究	例 ヘルスケア支援（JST：合田、窪田、秋元、甲斐、増田他） 微細加工系（JST：甲斐、窪田、合田、木村、大澤他）	低侵襲治療（AMED：北村、秋元、宮西、木村、増田、他） 共生システム（農水関連：宮西、合田、北村、他）	カヌー開発（ミズノ株、東京の中小企業5社、日本カヌー連盟、東京東信用金庫、東洋大学）

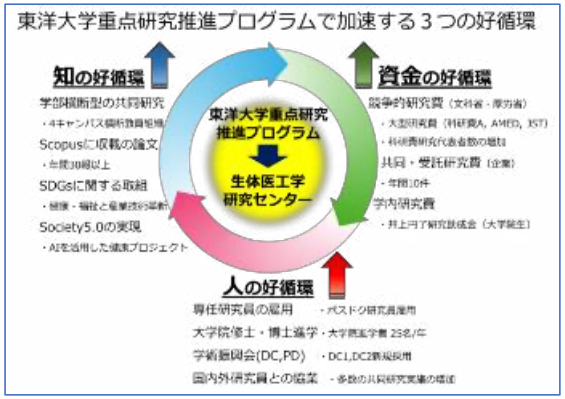
2024年度の主な成果（知・資金・人の好循環）

【2024年度査読付き原著論文（Impact Factor > 5 論文を抜粋）】：3報

1. *ACS Biomaterials Science and Engineering*（合田、 IF = 5.5 ）
2. *Nanoscale*（合田、 IF = 6.7 ）
3. *Marine Drugs* （宮西、 IF = 5.4 ）

【外部資金の採択実績（抜粋）】

- 省庁関連の大型事業　（継続、合田、5年、総額：1億4千万円）
- 戦略的創造研究推進事業(CREST)：生命循環と共生する分解・劣化ナノ材料の統合理解（継続、木村、2021-2026年度、総額7千万円）
- 学術変革A: 細胞外情報を統御するマルチモーダルECM （継続、木村、2023-2027年度、総額2千万円）
- テルモ生命科学振興財団：研究開発助成金（新規、北村、大澤、秋元、3年、総額：1千5百万円）
- 科研費：挑戦萌芽（新規、宮西、3年、480万円）
- 金沢大学環日本海域環境研究センター（新規、宮西、1年、16万円）



【新規大学院進学者（2024年度）】：合計16名

- 博士前期課程：13名（内訳：合田研3名、 北村研1名、秋元研2名、 窪田研2名、高岩研5名 ）
- 博士後期課程：3名（内訳：合田研1名、高岩研2名 ）

【若手研究者雇用】：合計3名

- 研究支援者：1名（内訳：宮西研1名）
- 博士後期課程RA：2名（内訳：合田研1名、高岩研1名）

【学生の受賞】：合計5件

- 瀧澤日菜：日本建築学会大会学術講演会 構造部門（木質構造）若手優秀発表賞（高岩研2024）
- 小寺彩乃, 堀江夏樹, 工藤和美, 高岩裕也：日本建築学会大会建築デザイン発表会優秀発表賞（高岩研2024）
- 洪政延：2024年(第35回)日本建築学会優秀卒業論文賞（高岩研2024）
- 第52回 可視化情報シンポジウム『ベストプレゼンテーション賞』（窪田研 2024）
- 日本食品分析学会学術集会『最優秀ポスター発表賞』（宮西研 2023, 2024, 同一学生の2年連続受賞）

オープン・イノベーション

バイオミメティクス シンポジウム（2024.11.8）

研究成果報告、文理融合・オープンイノベーションを議論（右写真）



バイオミメティクス研究会議（毎年50回以上開催）

主な参加者（学）：東洋大学内、東京大学、北海道大学、東北大学、東京科学大学、横浜市立大学、広島大学、鳥取大学、香川大学、帯広畜産大学、久留米工業大学、豊橋技術科学大学、芝浦工業大学、東北工業大学、順天堂大学、聖路加国際大学、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、農業技術研究機構

主な参加者（産・官）：
東芝、アース製薬、ミズノ、ファンケル、テックラボ、京セラ、旭化成、丸善製薬、エムック、 槙野産業、坪川製箱所、WAVE、小池産業、バイオメディカルソリューションズ（大塚製薬）、文部科学省、葛飾区役所



企業との共同研究

ミズノ受託共同研究（継続、窪田、135万円）
アース製薬受託共同研究（継続、窪田、総額240万円）
東芝（継続、木村、110万円／年）
セブン銀行（新規、窪田、合田他）
日産化学（新規、合田）
製薬企業受託共同研究（新規、宮西、2年、200万円）
キミカ共同研究（新規、宮西）

国際化・世界水準の大学に向けて

個々の人脈を活かし、
共同研究を通じた国際ネットワークを形成



2024年度の国際共著論文の成果（2報）

Hai, Goda *et al., Langmuir*, *in press*.

Hayashi, Miyanishi *et al., Marine Drus*, **2024**.

重点研究推進プログラム
「責任ある研究・技術開発に向けた多文化的ELSI の組織化」
2024年度成果報告

動画作成日2025.1.22



全体の目標

- １）ELSIに関わる人材の育成
- ２）具体的な研究・技術開発の現場との人文学者とマッチング
- ３）日常世界と文化に根差したELSIの継続的発信



2024年度の目標

- A) 学内外におけるELSIネットワークの構築
- B) ELSIの倫理的議論のキャッチアップ
  - 井上円了の思想がELSI領域へどの程度寄与しうるかの測定
- C)日常的倫理観の言語化



目標の達成状況

- A) 学内外におけるELSIネットワークの構築

- 達成状況：遅れている
  - 事由：研究支援者・RAの採用に時間がかかったため

  - 8/29：シンポジウム「哲学的古典の普遍性とその解釈の方法」
  - 2/18（予定）：山本PJとの「経営と家族」に関する共同シンポジウム
  - 期日未定：日本ロボット学会「ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会」における意見交換会

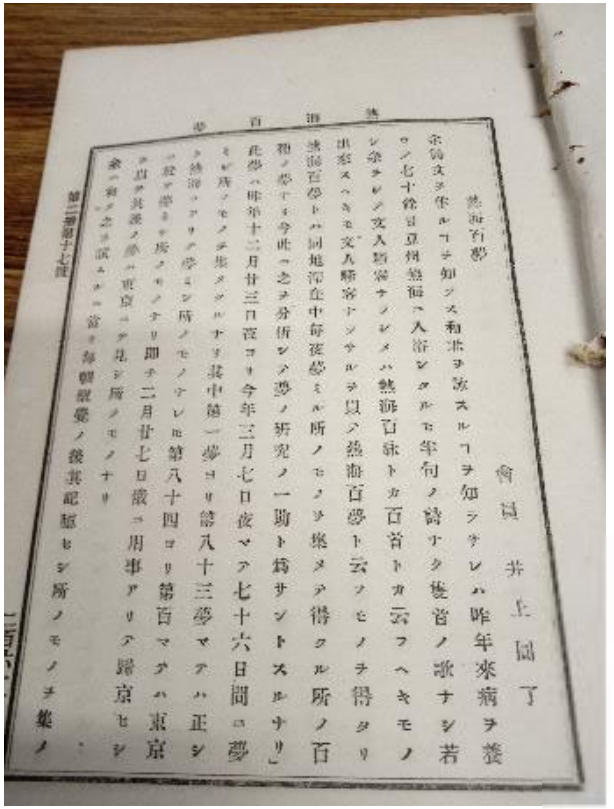


目標の達成状況

- B) ELSIの倫理的議論のキャッチアップ

- 達成状況：やや遅れている
  - メンバーと研究支援者・RAを中心とした毎週水曜日の研究報告会
  - 12/18：メンバー間による井上円了思想の検討

  - ELSIの倫理的議論が伝統的な倫理学的知見とうまく接合できていない事態をメンバー間で共有できた



目標の達成状況

- C)日常的倫理観の言語化

- 達成状況：想定通りの進捗
  - 9/30：シンポジウム「〈推し活〉を学問する」
  - 3月（予定）：上記シンポのフィードバックイベント

  - ELSIで前提される主体的で独立した人間とは異なる、共存的で関係の中にある人間像が浮き彫りになった



目標の達成状況

- １）ELSIに関わる人材の育成
  - 研究支援者・RAの確保
- ２）具体的な研究・技術開発の現場と人文学者とのマッチング
  - 次年度より本格始動
- ３）日常世界と文化に根差したELSIの継続的発信
  - 雑誌『国際哲学研究』の刊行（３月予定）



重点研究推進プログラム
2024年度活動報告

生活も仕事も充足して継続できる
社会の実現に向けた、
職業キャリアの実証研究

東洋大学

生活も仕事も充足して継続できる環境

キャリア形成の
実態把握と課題発見

- 離職、意欲低下、昇進不達等の
  タイミングや要因を解明

休暇・休業制度利用に
関連する問題点の解明

- 育児休暇・休業
- 介護休暇・休業

組織における
ジェンダー平等の検証

- 男女での相違の検討
  ＝ジェンダー平等の検証
- ジェンダーバランスの検証

✓ 改善への提言

✓「くるみん認定」
「えるぼし認定」
取得検討

生活も仕事も充足して継続できる環境

職員のキャリア形成における実態把握と課題発見

- キャリア形成の実態把握
- 就業継続、昇進等をめぐる意欲や認識を把握
- 意欲の上昇・低下、昇進達成・不達等のタイミングや要因を解明

職員の働きやすさに関する実態把握と課題発見

- 育児休暇・休業制度の利用に関する問題点の解明
- 介護をかかえる職員の働き方に関する実態把握と問題点の解明
- ジェンダーバランスの検証と問題点の解明

教員の働きやすさに関する実態把握と課題発見

- 育児休暇・休業制度の利用に関する問題点の解明
- 介護をかかえる教員の働き方に関する実態把握と問題点の解明
- ジェンダーバランスの検証と問題点の解明

- ✓ **改善への提言**
- ✓ **協力者へのフィードバック**
- ✓ **研究成果公表**
- ✓ **「くるみん認定」「えるぼし認定」取得検討**

キックオフシンポジウムの開催



2024年6月29日　14～16時
スカイホールにて開催

内外から50名ほどが参加



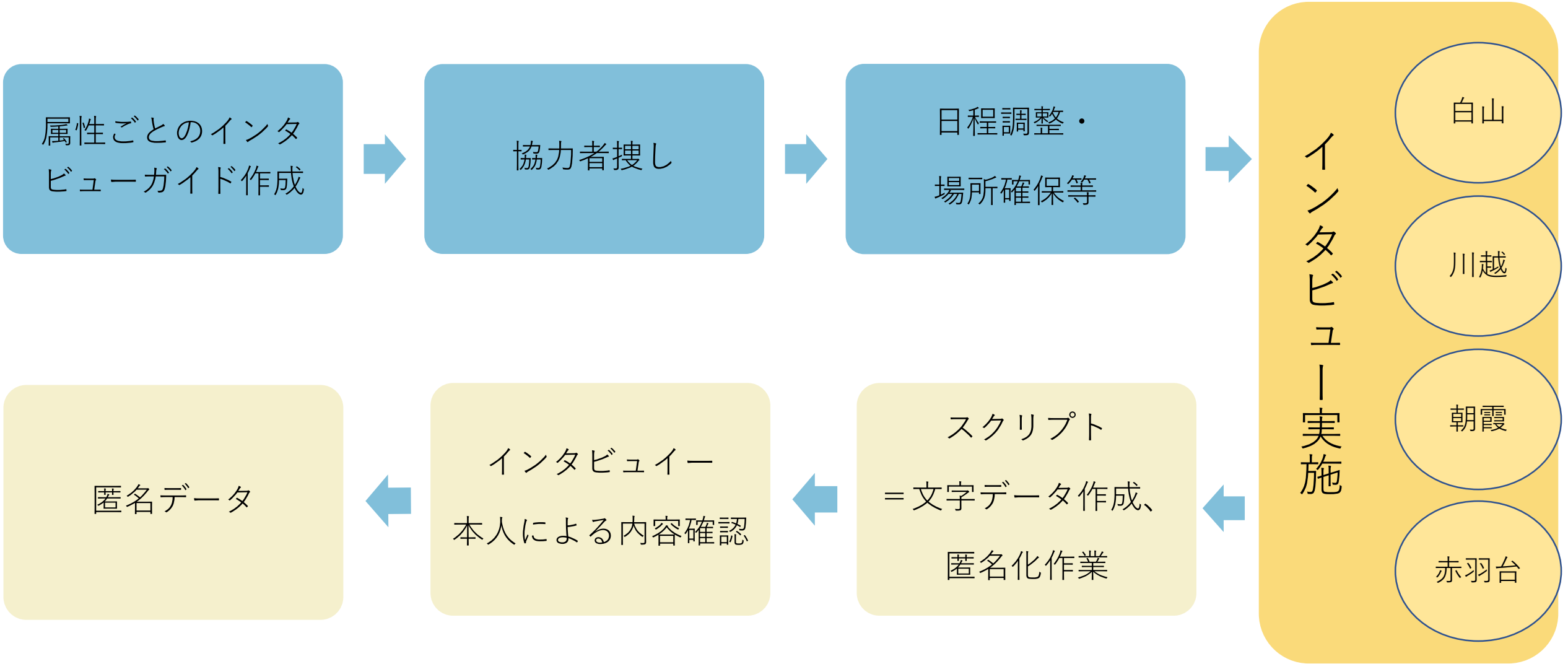
学内教職員向けイベント
＝ランチタイムトークの開催



＜第1回＞
2024年7月30日（火）13:05～13:50
会場：白山キャンパス６号館　第三会議室
＜第2回＞
2024年9月11日（水）13:05～13:50
赤羽台キャンパス

・テーマは「育児休業・介護休業をめぐる『職場の雰囲気』を考える」
・ガルーンで広報 → 職員の方数名が参加

職員へのインタビュー


属性ごとのインタビューガイド作成
協力者捜し
日程調整・場所確保等
インタビュー実施
白山
川越
朝霞
赤羽台
スクリプト＝文字データ作成、匿名化作業
インタビュイー本人による内容確認
匿名データ

職員へのインタビュー

同僚・上司



9人

3人

育児休業取得者

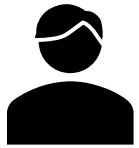


10人

介護経験者

1人

インタビューで聞かれた声



同僚・男性

休業者の仕事を、全体でどう分配するか、正職員にしかできない仕事も多く、代替の派遣さんにも申し訳ない。自分の残業などが大幅に増えたわけではないが、同僚への負担を考えると、自分が育休を取るのは無理だと思う。



上司・女性

自分が若い頃に比べれば、だいぶ育児休業や時短勤務も取りやすい雰囲気になったとは思う。
でも、とにかく人手不足で、特定の職員に負荷が高くなっているし、休業者が重なったら対処できない。



育休・女性・時短利用

他と比べて、産休・育休を申請しやすい職場だと思うが、お休み中のことや、その後の時短勤務などで、周りに迷惑をかけていると、後ろめたい気持ちもある。



育休・女性・時短利用

育休や時短勤務だと、昇進が遅れたり、異動の希望も通りにくいという噂を聞く。
時間内で一生懸命働いているのに評価が異なり、モヤっとすることもある。
育休取得が今後、自分のキャリアにどんな影響をもたらすのかを知りたい。

既存データの活用

毎年、人事課で実施されている自己申告データの活用

人事課との協力関係の構築
データへのアクセスの倫理的配慮

社会学研究科で倫理審査→承認

自己申告実施時に、過去を含めた回答データの提供について協力を依頼（2024年10月）

職員の62%、有期雇用者の83%がデータ提供に同意

人事課でのデータの匿名化作業中

研究会の開催

		日時
2024年	第1回	4月5日（金） 17：00～18：30
	第2回	7月31日（水）17：00～18：00
	第3回	12月24日（火）12：30～14：00
2025年	第4回	1月15日（火）16：30～18：00
	今後、毎月開催	
	第5回	2月19日（水）15：00～16：00
	第6回	3月12日（水）15：00～16：00
		（4月以降も開催予定）

Ⅰ 職員のキャリア形成

観測すべき項目

- インタビュー
- 研究会

確認すべき関連

- **アンケート調査実施**
- **既存データの活用**

- インタビュー
- 研究会

研究成果
研究成果パンフレット

Ⅱ 職員の働きやすさ

東洋大学で
必要なこと

- インタビュー
- 研究会

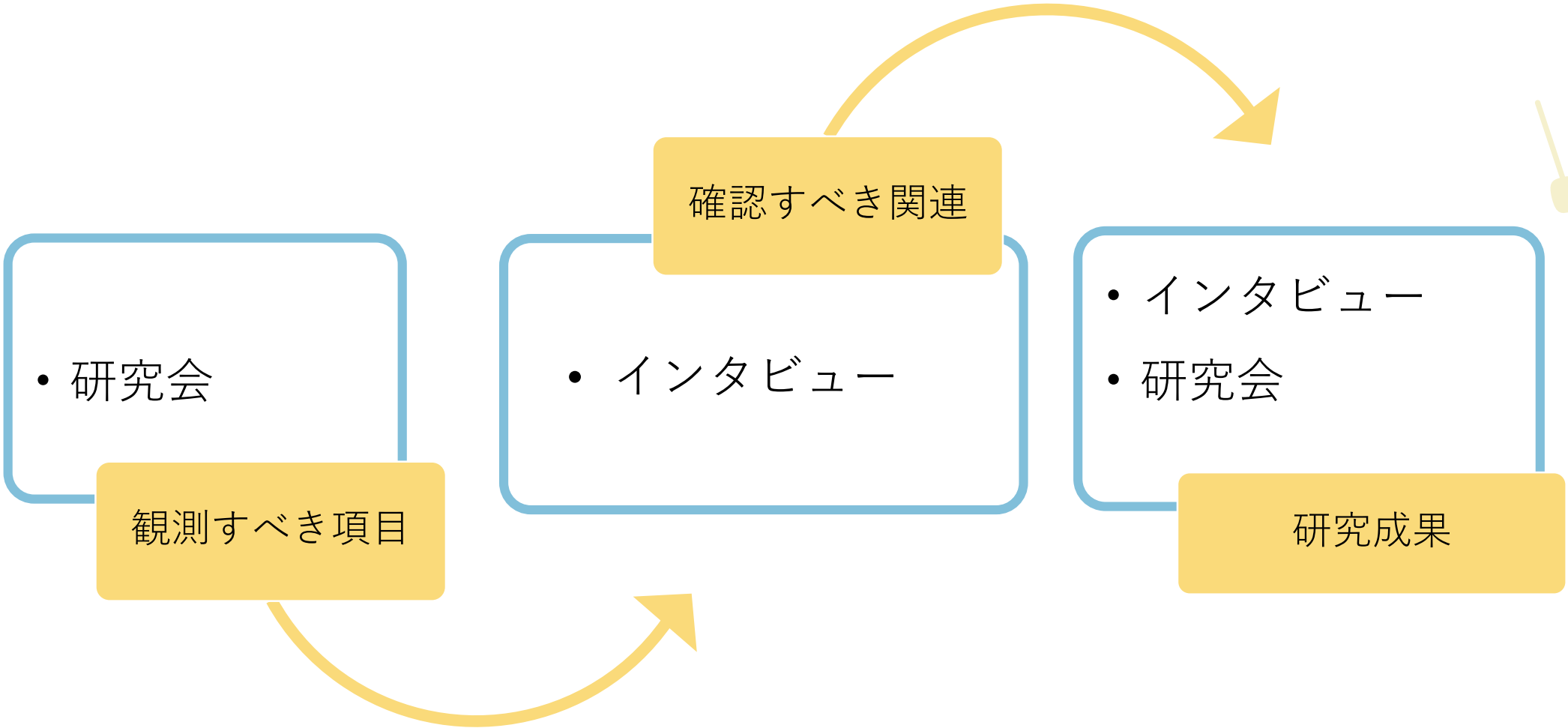
効果があったか

- **アンケート調査実施**
- **職員対象のイベント開催**

- 効果測定
- 研究会

研究成果
研究成果パンフレット

Ⅲ 教員のキャリア：
育児や介護を含めたキャリア形成と周囲の環境



同じ学部学科で育休を取る人、介護を抱えている人への対応は？

研究計画

2024年度

- シンポジウムの開催
- イベントの開催
- 職員へのインタビュー

2025年度

- 職員へのインタビュー
- 教員への情報収集・インタビュー
- 職員へのアンケート調査
- 既存データの分析
- 職員対象のイベントの開催

2026年度

- 研究成果の公表
- 海外学会/学会誌への成果公表
- 研究成果パンフレットの作成
- 研究成果の還元

ご協力いただいている職員の方々に心から感謝申し上げるとともに、みなさまにしっかりしたフィードバックもできる研究をめざしていきます。

東洋大学



東洋大学重点研究推進プログラム（2024-2026）

極限環境微生物で循環型社会を実現し、生活環境を豊かに！

サブタイトル ～TOYO SDGs Global 2024-2030-2037～

重点研究課題名：（3）生命科学分野の先進国をリードする研究
（5）SDGsの達成に貢献する研究
（8）東洋大学東洋大学の150周年、大学ブランド力の向上

バイオレジリエンス研究プロジェクト（BRRP）

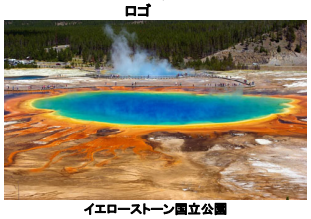
研究代表者：生命科学部　伊藤 政博

2025年1月22日

研究の目的・目標



東洋大学
バイオレジリエンス研究プロジェクト
ロゴ



イエローストーン国立公園
「グランド・プリズマティック・スプリング」虹色に光る温泉

（研究目的）

- 科学技術はこれまで私たちの生活環境を豊かにしてきた。
- しかし、SDGs達成にはさらなる技術革新が求められている。

↓

- 我々のグループは極限環境微生物の研究をリードし、SDGs達成に向けた複数の新たな取り組みを推進する。

↓

- これらの活動を通じて、2030年までにSDGs達成を目指し、2037年の東洋大学150周年に向けて、世界に尊敬される大学として Center of Excellenceの地位を確立する。（世界的研究拠点）



2023年度までの3年間での世の中の変化に対して、次の3年間（第2期）に何を実施するのか？

研究の背景

① 東洋大学重点研究プログラムの理念との関連



- ✓ 生命科学の最先端研究（向上門）
- ✓ その成果の社会実装化を目指す（向下門）

② 当該分野や関連分野の研究動向等

SDGsの推進に関して、2023年のSDSN（Sustainable Development Solutions Network）と独ベルテルスマン財団によるランキング

本重点研究は、日本がSDGsの目標達成に向けて積極的に取り組むべき課題にマッチする研究テーマとして以下のような取り組む。

1. プラスチック廃棄物問題の解決
2. 二酸化炭素排出削減
3. 海洋汚染防止
4. 地域産業との連携
5. 環境浄化微生物製剤とDNA修復技術の新展開
6. アウトリーチ・サイエンスコミュニケーション活動

研究者の概要

研究員の構成：
生命科学部：8名
食環境科学部：2名
理工学部：1名
文学部：1名
経営学部：2名
研究助手：2名

研究班の構成：
遺伝子活用班
環境リノベ班
バイオものづくり班
理科教育展開&評価班

グループの主体：
バイオレジリエンス研究プロジェクト



	所属・職	研究者名	研究プロジェクトにおける役割（担当）
研究代表者	生命科学部・教授	伊藤 政博	全体を統括、環境リノベ班リーダー：カーボンニュートラル、理科教育等（SDGs 4 9 12 13 14）
研究分担者	生命科学部・教授	鳴海 一成	副総括、遺伝子活用班リーダー：放射線抵抗性細菌を活用した社会実装（SDGs 3 9 14 15）
	生命科学部・教授	道久 則之	副総括、バイオものづくり班リーダー：カーボンニュートラルへの取り組み（SDGs 3 7 9 13）
	食環境科学部・教授	後藤 顕一	副総括、理科教育展開&評価班リーダー：理科教育研究の実践と評価と社会実装（SDGs 4 14）
	生命科学部・教授	清水 和哉	環境リノベ班：極限環境微生物を利用した水質浄化研究とその社会実装（SDGs 3 6 14）
	生命科学部・准教授	東端 啓貴	環境リノベ班：プラスチック分解菌によるプラゴミ問題への解決とその社会実装（SDGs 9 14 15）
	生命科学部・准教授	三浦 健	環境リノベ班：極限環境微生物を利用した水質浄化研究とその社会実装（SDGs 3 6 14）
	生命科学部・教授	一石 明彦	遺伝子活用班：糸状菌の紫外線損傷とDNA修復機構研究と社会実装（SDGs 3 9）
	食環境科学部・教授	加藤 悦子	バイオものづくり班：酒類成分分析の社会実装に向けた取り組みと課題解決（SDGs 9 12）
	生命科学部・准教授	高品 知典	バイオものづくり班：好塩性古細菌の酵素を利用した産業触媒の開発と実用化（SDGs 9 12）
	理工学部・准教授	峯岸 宏明	バイオものづくり班：耐熱性酵素、東洋大発酒類の社会実装、プラゴミ解決（SDGs 9 14）
	経営学部・講師	堀口 哲生	バイオものづくり班：マーケットリサーチと実際の社会実装への取り組み（SDGs 4 9）
	文学部・教授	鈴木 一成	理科教育展開&評価班：理科教育のアウトリーの実践と評価と社会実装（SDGs 4 14）
	経営学部・准教授	中野 剛治	理科教育展開&評価班：起業家育成プログラム立案と運営を担当（SDGs 4 8）

2023年度までの3年間での世の中の変化に対して、次の3年間（第2期）に何を実施するのか？

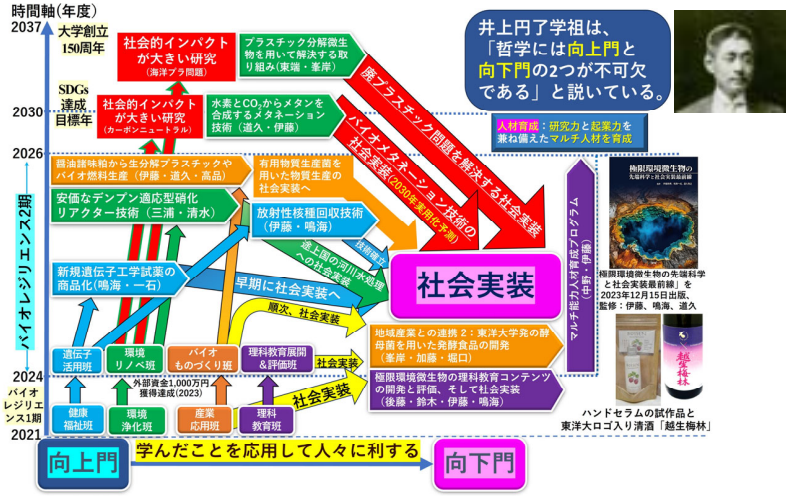


図.「極限環境微生物で循環型社会を実現し生活環境を豊かに！」計画の全体像

シナジー効果俯瞰図



活動・成果紹介（1）



New環境展・国際発酵醸造食品産業展出展・商談プロジェクト研究紹介



キャンパス横断・酒粕プロジェクト
朝霞キャンパス学生食堂「Umart！」
東洋大OB「佐藤酒造」（越生）
経営学部・食環境学部学生46名！



東洋大OB「佐藤酒造」（越生）と共同での日本酒「越生梅林エスティNo.3」（紫陽花酵母）

2月中に製品化

川崎町道の駅のためのオリジナルパンの製造



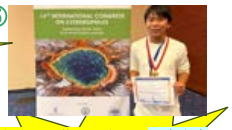
アウトリーチ活動
- 附属京北中学高等学校「未来の科学者育成プログラム」
- TOYO SDGs Weeks
- KISTEC（神奈川県立産業技術総合研究所）理科実験教室
- 文学部教育学科「初等教科教育法（理科）」出張講義
- 桶川市夏休み子どもワールド
- 第19回かわさきサイエンスチャレンジ・理科実験室
- 中谷財団・次世代理系人材育成プログラム―ホンモノから学び経験する真の探究―その他

7月28日に桶川市で開催した夏休み子どもワールドの記事が埼玉中央よみうりに掲載されました！



外部講師を招いてのBRRPセミナーを開催
第1回BRRPセミナー「高機能生体触媒の開発」（大阪公立大学大学院教授・荻野博康先生）
第2回BRRPセミナー「リボソームの進化工学」（大阪大学特任教授・宮崎健太郎先生）





大学院生・若手研究員の国内学会発表39件、国際学会発表9件、ポスター賞授賞４件
学振特別研究員（DC2）採用1件

活動紹介②の詳細：キャンパス横断・酒粕プロジェクト

酒粕の有効活用に向けた学食メニュー開発プロジェクト



プロジェクトの概要

- 東洋大学ブランドの日本酒「越生梅林 エスティNo.2」等を
- 醸造する過程で出た酒粕を有効活用するためにスタート

- TOYO FOOD LABと連携し、経営学部・食環境科学部の
- 学生が中心となり、酒粕を活用した商品を開発・朝霞キャンパス学食「Umart!」で提供予定

プロジェクトの進捗と今後の予定

- 東洋大学経営学部・食環境科学部から46人の学生がプロジェクトに参加

- これまで市場調査の報告会、開発中の商品の試食会を2回行い、試食会には、それぞれ約50人、40人の教職員・学生が参加

- 2025年度春学期にUmart!で開発した商品を提供する予定

活動・成果紹介（2）



2024年6月21日出版

- 「極限酵素とその産業応用」（全448頁、監訳）の出版
  伊藤、鳴海、道久3名の監訳
- 国際誌Engineering Microbiology誌より、伊藤が特集号のゲストエディターとして
  Extremophiles: Harnessing Life at the Edge for a Sustainable Future
  を出版することが決定！



2024年6月12日　@朝霞キャンパス



第2期キックオフシンポジウム開催

2024年9月に開催された
14th International Congress of Extremophiles
（Extremophiles2024）@ギリシャ
での成果発表



国際会議の誘致を実現

2025年11月6日-7日に東洋大学・朝霞キャンパスにて「第1回東アジア極限環境微生物会議」の開催が決定！

現時点での主な参加予定者は以下の通りです。
中国: 山東大学 She Qunxin教授およびShen Yulong教授、上海交通大学 Fengping Wang教授
韓国: 延世大学 Lee Dong-Woo教授および韓国海洋科学技術院 Kang Sung Gyun教授
日本: 九州大学 **石野良純教授（クリスパー遺伝子発見者）**、京都大学 跡見晴幸教授および栗原達夫教授、富山県立大学 金井保教授、東京科学大学 中村聡教授、東洋大学 鳴海一成教授、道久則之教授、東端啓貴准教授その他BRRPメンバー、今後も参加者を追加募集する予定。中国と韓国からは、それぞれ学生や若手研究者を含めて約20名、日本からは東洋大学を含めて約50名の参加を見込。

2024年度研究計画の進捗状況及び達成度：

① 共同研究プロジェクトの実施:

- 国際共同研究プロジェクト:東洋大学BRRPと山東大学の国際共同研究（JSPS　二国間交流事業　**共同研究に申請中**）
- 国内共同研究プロジェクト:これまでに共同研究を実施している企業とは別に、新規で3社と共同研究を開始。
- 科学研究費等の外部資金獲得: 1,000万円以上／年間（2023年度、2024年度連続達成）

② 研究成果の公表と学術的評価の向上:

- 本重点研究に関する大型専門書刊行:「極限酵素とその産業応用」（監訳）の出版 →
- **Springer Nature社より2025年度に「Extremophiles for a Sustainable Future」出版予定**
- SCOPUS論文の5報掲載（進捗率17%）（3年間目標30報、うちQ1以上は8報）。
- ニュースレターの発行: 2024年度は2回発行（2024年9月（No. 7）、2025年2月発行予定（No. 8））
- 国際会議での成果発表: 9件（進捗率38%）（3年間目標24件）、39件（進捗率65%）（3年間目標60件）
- 国際シンポジウム: 2025年度に**第1回東アジア極限環境微生物会議**を朝霞キャンパスで開催決定





ニュースレター
No. 7

③ 若手研究者の育成:

・博士学位取得: 年間1～2名、RA雇用: 期間中3名（現在2名）
・**大学院生ワーキンググループ研究発表会の主催**: 年10回（TOYO SDGs Weeksとして参加、延べ109名が参加）
④ 2024年度の成果報告書のまとめと外部評価委員会を3月下旬に開催予定。

各グループの2024年度の優れた研究成果（1）

環境リノベ班　海洋プラごみ問題をプラスチック分解微生物で解決する取り組み

＜特に優れた成果＞

- これまでは、プラスチック分解候補株の単離に2～3年の集積培養期間が必要であったが、**油田サンプル**を用いることで約半年と非常に短い集積培養期間で候補株が単離できることを明らかにした。
- 国内油田からサンプルを採取し、プラスチックを唯一の炭素源とする培地を用いた集積培養法により**プラスチック分解菌候補株（108株）**の単離に成功した。
- 昨年度に開発したプラスチック分解の**多検体迅速検出法**を用いて、これまでに単離したプラスチック分解菌候補株について、ポリエチレン分解能評価方法を確立した。

酸化還元指示薬（青色）を用いたポリエチレン分解の検出

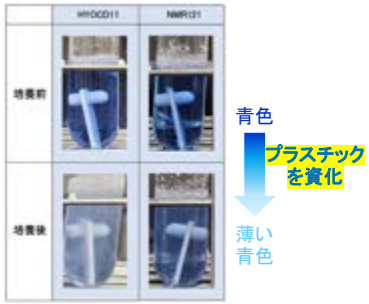
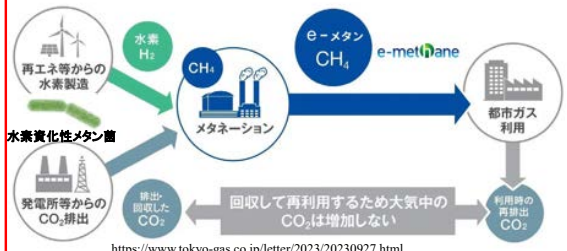


図 DCPIPを用いたポリエチレン分解の検出
室温で7日間、ポリエチレンを唯一の炭素源として培養した。2,6-ジクロロフェノールインドールフェノール（DCPIP）（酸化型）は、青色を呈する。**プラスチックを資化したことで生成した還元力がDCPIPに渡されると透明になる。**

各グループの2024年度優れた研究成果（2）

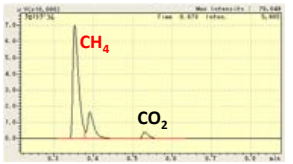
バイオものづくり班　　バイオメタネーション技術の社会実装

二酸化炭素排出削減：水素とCO_2からメタンを合成するメタネーション技術の構築と社会実装



https://www.tokyo-gas.co.jp/letter/2023/20230927.html

GCによるメタンの検出



メタン菌をJCM培地を用いて60℃で培養

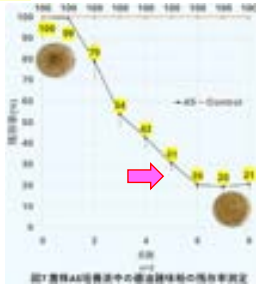
※2030年度の社会実装を目標に環境系企業との共同研究実施中

各グループの2024年度の優れた研究成果（3）

バイオものづくり班　醤油諸味粕の減量及び有効活用の社会実装

- 醤油諸味粕は醤油製造の際に発生する副産物
- 日本では年間約6万トン発生（2022）





6日目には**約80%の諸味粕を分解**することを確認

特願2024-155447
発明の名称：好アルカリ性細菌による醤油諸味粕の埼地利用および減量化、
出願人：学校法人東洋大学、発明者：伊藤政博（出願日：2024年9月10日）

社会実装に向けて企業との共同研究を進める

各グループの2024年度の優れた研究成果（4）

＜2024年度の理科教育展開&評価班の活動状況＞

アウトリーチ活動の実施：

・小学生から大学生までを対象に、**最新の極限環境微生物研究に関するアウトリーチを実践**。文学部教育学科や生命科学部の学生たち、小学生向けイベント、高校生を対象とした理科コンテンツを提供した。

教育効果の評価：

・実施前後のアンケート調査を通じて、参加者の自己評価に基づく前後比較と意識変容の分析を行い、2024年度末に教育効果についてまとめる予定（後藤、鈴木、伊藤）。

アウトリーチ活動
- 附属京北中学高等学校「未来の科学者育成プログラム」
- TOYO SDGs　Weeks
- KISTEC（神奈川県立産業技術総合研究所）理科実験教室
- 文学部教育学科「初等教科教育法（理科）」出張講義
- 桶川市夏休み子どもワールド
- 第19回かわさきサイエンスチャレンジ・理科実験室
- 中谷財団・次世代理系人材育成プログラム―ホンモノから学び経験する真の探究―
- その他



＜2025年度に向けたの理科教育展開&評価班の新たな取り組み＞

理科教育の現場からの要請を具現化（伊藤、後藤）：

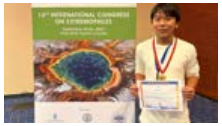
・**我々の持つノウハウと理科教育の現場からの要請を具現化する取り組みを行い、2025年度に向けて実現に移す取り組みを始めている。地方独立行政法人・神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）人材育成部・教育研修課との企画**



KISTEC　理科実験室の企画・運営体制
実習の場ご提供 →
← 科学体験の実施
東洋大学　教員を目指す学生と指導陣

見込まれる成果
- **子どもたちの科学体験機会の創出**
- **教員を目指す学生さんの授業実践力養成への一助**

＜若手研究者の育成成果＞



- 伊藤研究室の生命科学専攻博士後期課程1年の小嶋大喜君は、第14回国際極限環境微生物会議（@ギリシャ）でISE Young Scientist Poster Awardを受賞。
- 小嶋大喜君は、公益財団法人天野工業技術研究所2024年度大学院後期博士課程奨学金に採択され、2025年度からは日本学術振興会・特別研究員DC2に採用されることが決定。
- 伊藤研究室の古山大陽君（M1）と高品研究室の三枝和樹君（M2）と鳴海研究室の勝又康介君（D2）は、東洋大学キャンパス間合同研究交流会でポスター優秀発表賞を受賞。
- BRRPでは、**大学院生の研究成果発表の場を春学期と秋学期に設け、多様な意見交換を通じて全体の成長と受賞につなげている。**



Google Meetでのワーキンググループ学生発表会の風景

外部資金の採択状況（2024年度以降・申請中を含む）

1）外部資金採択の実績（科研費3件、民間助成3件）

- 科学研究費助成事業 （鳴海、道久、清水）・高橋産業経済研究財団助成金（伊藤、東端）
- 発酵研究所若手助成金（久保）
- 中谷医工計測技術振興財団助成・次世代理系人材育成プログラム(後藤）
- この他に民間企業との共同研究による受託研究費を複数受け入れている

2）今後の申請予定（申請中含む）科研費関連（4件）

➢ 2025年～（基盤（A）、基盤（C）、萌芽）

- ➢ 生態系の復元力を強化する資源循環型の生態工学システムによる持続型環境修復法の構築(清水）
- ➢ アルギン酸ゲル包埋反転膜小胞によるセシウム・ストロンチウム除去技術の開発（伊藤）
- ➢ プラスチックを分解する微生物の単離（東端）
- ➢ *Rubrobacter radiotolerans*の“超”放射線耐性機構の解明(久保）

その他の外部資金申請関連(3件）

- ➢ 高橋産業経済研究財団助成金(伊藤、東端）2件
- ➢ JSPS二国間交流事業・**共同研究（伊藤）1件**

次年度以降も
外部資金の獲得を目指す

研究費執行状況（2025年1月17日時点）

管理科目	予算額	執行額	予算残高
RA	0	743,468	-743,468
ｱﾙﾊﾞｲﾄ	9,230,000	293,312	8,936,688
報酬(個人)学外者	0	132,000	-132,000
報酬(業者)	360,000	0	360,000
PC用品	0	5,498	-5,498
事務用品	0	197,748	-197,748
実験用品	10,109,000	3,089,345	6,821,907
実験機器(20万以上)	3,583,000	3,000,712	582288
実験機器(10万以上20万未満)	0	127,765	-127,765
実験機器(10万未満)	0	95,480	-95,480
その他の物品	0	11,000	-11,000
印刷物	250,000	63,835	186,165
ﾚﾝﾀｶｰ代（旅費）	0	3,660	-3,660
出張なび(教研)(国内)	676,000	95,710	580,290
修繕(実験機器)	0	1,962,400	-1,962,400
調査・分析・報告	0	33,000	-33,000
郵送	0	600	-600
宅配便	0	3,525	-3,525
ﾗｲｾﾝｽ許諾(国内)	0	3,124	-3,124
各種会合	362,000	552	361,448
参加費等	30,000	0	30,000
論文掲載料	400,000	0	400,000
	25000000	9862734	15,137,266

← 研究員の給与は、3月にまとめて引き落とされる予定

予算残が多い人件費と実験用品は
3月までに予算消化する予定

・研究成果と知見を社会に還元しSDGsが掲げる目標に貢献するとともに

Center of Excellence (COE) を目指す！

文理融合プロジェクトの推進

東洋大学のブランド力の強化

明確なアイデンティティ（呼称）の構築

Toyo Bio-Resilience Initiative

東洋 バイオ レジリエンス イニシアティブ

➢ Toyo Bio-Resilience Initiativeは、東洋大学の重点研究プログラムとして、**学内外でのブランド力向上**を目指すとともに、持続可能な未来社会の構築において**先導的な役割を果たす**ことを目指すとともに、**極限環境微生物やバイオテクノロジーを活用し、新たな科学的知見や技術を創出する研究活動を象徴**する呼称として広めていきます。

TOYO UNIVERSITY

重点研究推進プログラム
「後継者の精神的健康とレジリエンス」
中間報告

山本 聡, 博士（経済学）
東洋大学 経営学部 教授

本研究の目的

本研究では、日本の中小企業経営者に関し、

☑どのようにレジリエンスとエンゲージメントを
　喚起するか？
☑どのようにバーンアウトを回避するか？
☑円滑な事業承継と事業成長を実現するか？

といった問いに解答するものである。

本年度の目的

仮説設定と分析枠組の構築

研究会の開催日時

第一回 ：2024年3月7日	15:30～17:30
第二回 ：2024年4月22日	16:30～18:30
第三回 ：2024年5月24日	18:15～20:15
第四回 ：2024年6月24日	15:30～18:30
第五回 ：2024年7月31日	17:00～19:00
第六回 ：2024年9月10日	10:30～13:00
第七回 ：2024年11月15日	18:00～20:00
第八回 ：2024年12月25日	10:00～11:30
第九回 ：2024年12月29日	16:00～17:40
第十回 ：2025年1月13日	17:30～19:00

研究会の内容

第一回 ：自己紹介・研究方針確認
第二回 ：尾崎先生研究紹介
第三回 ：中小企業事業承継者（男性）インタビュー①
第四回 ：中村よし恵准教授報告（The George Washington University）
　　中小企業事業承継者（男性）インタビュー②
第五回 ：中小企業事業承継者（男性）インタビュー③
第六回 ：中小企業事業承継者（女性）インタビュー①
第七回 ：中小企業事業承継者（女性）インタビュー②
第八回 ：中小企業事業承継者（女性）インタビュー③
第九回 ：仮説設定の議論①
第十回 ：仮説設定の議論②

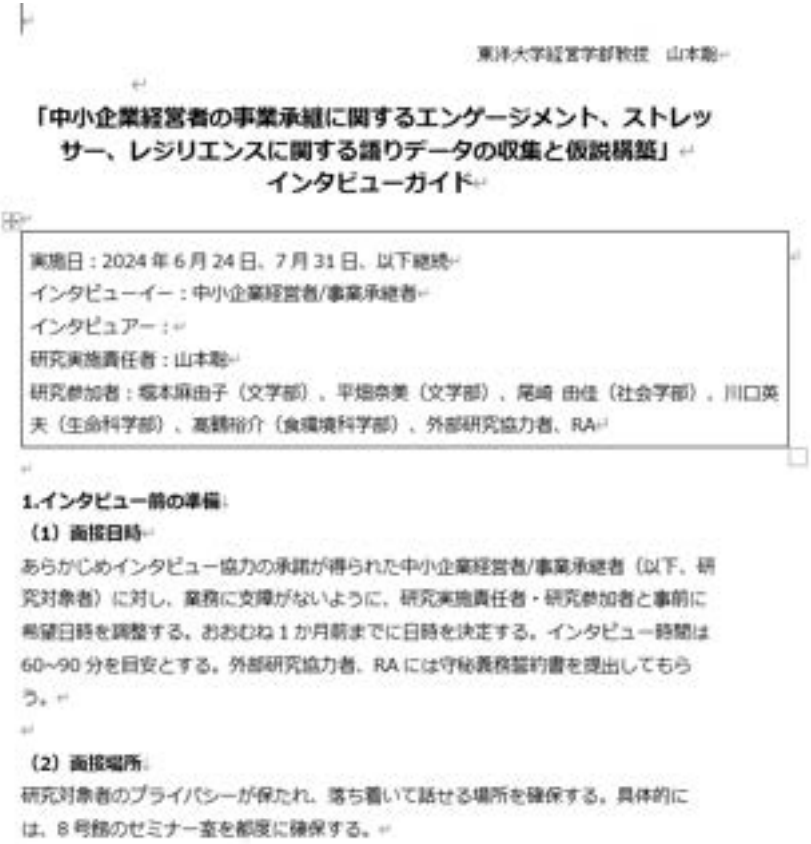
研究会の内容

第一回 ：自己紹介・研究方針確認
第二回 ：尾崎先生研究紹介
第三回 ：中小企業事業承継者（男性）インタビュー①
第四回 ：中村よし恵准教授報告（The George Washington University）
中小企業事業承継者（男性）インタビュー②
第五回 ：中小企業事業承継者（男性）インタビュー③
第六回 ：中小企業事業承継者（女性）インタビュー①
第七回 ：中小企業事業承継者（女性）インタビュー②
第八回 ：中小企業事業承継者（女性）インタビュー③
第九回 ：仮説設定の議論①
第十回 ：仮説設定の議論②

研究倫理審査

東洋大学経営学部研究倫理審査委員会
本審査承認（2024-1）　/2024年６月23日

インタビューガイド



東洋大学経営学部教授　山本聡

「中小企業経営者の事業承継に関するエンゲージメント、ストレッサー、レジリエンスに関する語りデータの収集と仮説構築」
インタビューガイド

実施日：2024 年 6 月 24 日、7 月 31 日、以下継続
インタビューイー：中小企業経営者/事業承継者
インタビュアー：
研究実施責任者：山本聡
研究参加者：堀本麻由子（文学部）、平畑奈美（文学部）、尾崎 由佳（社会学部）、川口英夫（生命科学部）、高鶴裕介（食環境科学部）、外部研究協力者、RA

1.インタビュー前の準備

（1）面接日時

あらかじめインタビュー協力の承諾が得られた中小企業経営者/事業承継者（以下、研究対象者）に対し、業務に支障がないように、研究実施責任者・研究参加者と事前に希望日時を調整する。おおむね 1 か月前までに日時を決定する。インタビュー時間は 60~90 分を目安とする。外部研究協力者、RA には守秘義務誓約書を提出してもらう。

（2）面接場所

研究対象者のプライバシーが保たれ、落ち着いて話せる場所を確保する。具体的には、8 号館のゼミナー室を都度に確保する。

インタビューガイド

3.インタビュー内容

【質問項目・順番・形式】

――――――1~3 は研究対象者の講演の形式をとる――――――

1. 御社の事業概要と沿革をご説明ください

2. 事業承継までのご自身のライフヒストリーをご説明ください

3. 事業承継の契機と事業承継後の企業経営をご説明ください

――――――1~3 は研究対象者の講演の形式をとる――――――

――4~5 は研究者と研究対象者の質疑応答・ディスカッションの形式をとる――

4. 2~3 で、どのようなやりがい（エンゲージメント）、ストレスを感じられたか、ご説明ください（この場合、研究計画書の操作的定義を援用する）。

5. ストレスを感じられた場合、それをどのように乗り越えられたのか、ご説明ください。

――4~5 は研究者と研究対象者の質疑応答・ディスカッションの形式をとる――

（終了後、ご協力に対して感謝の挨拶。謝金のための各種書類に記載を頂く）

インタビュー記録分析：例

事業承継者（男性）３名

「皆に話しても親父さんと仲が悪いんですよ。これをみんな聞いてても、面白いなと思って、どうやって解決してるのって聞いても、いや、もう、時が解決しかないんじゃないの？って、みんな同じようなことで悩んでる」

「会社がすごく狭い地域ですけども、そういったところに貢献していくことで母は気がついてくれるんじゃないのか」

「家族から得られない承認みたいなところを、社会であったりとか従業員から得ようというふうにしているような感覚を今話していて感じました」

事業承継者（女性）３名

「私の父親は、本来男の子に継いでもらいたかった」

「父親の育ってきた背景とかも考えましたね。結構冷静に見たら、認めることや許せることができたというか。逆に、やっぱり感謝もしてるんですね」







既存研究レビュー

Arijs, D., & Michiels, A. (2021). Mental health in family businesses and business families: A systematic review. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 18(6), 2989.

Baykal, E. (2022). Succession in Family Business Through Authentic Leadership. Research Anthology on Strategies for Maintaining Successful Family Firms (s. 488-503). IGI Global.

Bowlby, J. (1969). *Attachment and loss* (Cilt. 78). Random House.

Deci, E. L., & Ryan, R. M. (1985). The general causality orientations scale: Self-determination in personality. *Journal of research in personality*, 19(2), 109-134.

Fitzgerald, M., Londes-Johnson, A., & Galbo, K. L. (2020). Intergenerational transmission of trauma and family systems theory: An empirical investigation. *Journal of Family Therapy*, 42(3), 408-424.

Fok, K. J., Lim, E., & South, S. C. (2017). Longitudinal analyses of adaptive parents' expectations and depressive symptoms. *Research in nursing & health*, 40(6), 564-574.

Gaunter, Jr. F. A., Chan, C. S., Chan, E. W., Chan, S. K. W., Chan, L., Chan, S. C. S., ... & Tipoe, G. L. (2022). Autonomous motivation predicts students' engagement and dissatisfaction in interprofessional education: Scale adaptation and application. *Nurse Education Today*, 119, 105569.

Garcia, P. R. J. M., Sharma, P., De Massis, A., Wright, M., & Scholes, L. (2019). Perceived parental behaviors and next generation engagement in family firms: A social cognitive perspective. *Entrepreneurship Theory and Practice*, 43(2), 224-245.

Gartner Kalisch, M., & Cohen, E. (2020). Creating "a safe haven": Emotion regulation strategies employed by mothers and young children exposed to recurrent political violence. *Journal of Child & Adolescent Trauma*, 13(4), 493-503.

Liu, F. C., Zhu, F., & Wang, J. (2024). The apple doesn't fall far from the tree: Parenting styles and its effects on family business succession intentions. *Journal of Business Research*, 172, 114429.

Low, K. S., Yoon, M., Roberts, B. W., & Rounds, J. (2005). The stability of vocational interests from early adolescence to middle adulthood: a quantitative review of longitudinal studies. *Psychological bulletin*, 131(5), 713.

Moore, S. M., Uchino, B. N., Bascom, B. R., Behrends, A. A., & Sanbonmatsu, D. (2017). Attitude similarity and familiarity and their links to mental health: An examination of potential interpersonal mediators. *The Journal of Social Psychology*, 157(1), 77-88.

Rieker, B. T., Sanchez, C. R., Conley, J. L., Barnett, J. E., & Gunder, E. M. (2024). Interactive effects of parental support and psychological control on children's emotion regulation. *Journal of Family Psychology*.

Schröder, E., & Schmitt-Rodermund, E. (2013). Antecedents and consequences of adolescents' motivations to join the family business. *Journal of Vocational Behavior*, 83(3), 478-488.

Steel, R. P., Bishop, N. C., & Taylor, I. M. (2021). The effect of autonomous and controlled motivation on self-control performance and the acute cortisol response. *Psychophysiology*, 58(11), e13918.

Trichter N, Spannagel F, Rauch M, Kersten GM, Rauch C, Mestermann S, Bailer M, Kornhuber J, Utz J, Spitzer P. (2024) Promoting motivation and reducing stress in medical students by utilizing self-determination theory - a randomized controlled trial in practical psychiatry courses. *BMC Med Educ* 24(1):1177.

Trigueros R, Padilla A, Aguilar-Parra JM, Lirola MJ, García-Luengo AV, Rocamora-Pérez P, López-Liria R. (2020) The Influence of Teachers on Motivation and Academic Stress and Their Effect on the Learning Strategies of University Students. *Int J Environ Res Public Health*. 17(22):9089.

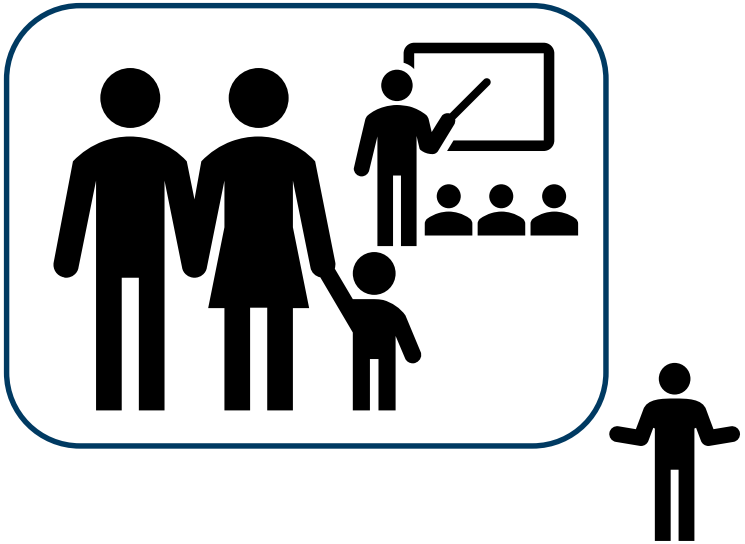
Rademacher L, Krach D, Eckart C, Fahrbach CJ. (2020) Individual differences in resilience to stress are associated with affective flexibility. *Psychol Res*. 87(6):1862-1879.

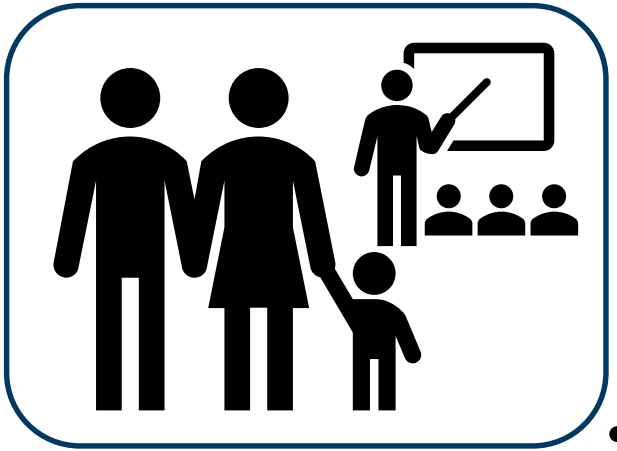
Ebner K, Singewald N. (2017) Individual differences in stress susceptibility and stress inhibitory mechanisms. *Current Opinion in Behavioral Sciences*, 14: 54-64.

仮説構築:キーワード

親の関係的支援（Parental Relational Support）
親の統制（Parental Control）
自己決定理論（Self-Determination Theory）
企業家的有能感（Perceived entrepreneurial Competence）
自律的動機（autonomous motivation）
制御的動機（controlled motivation）

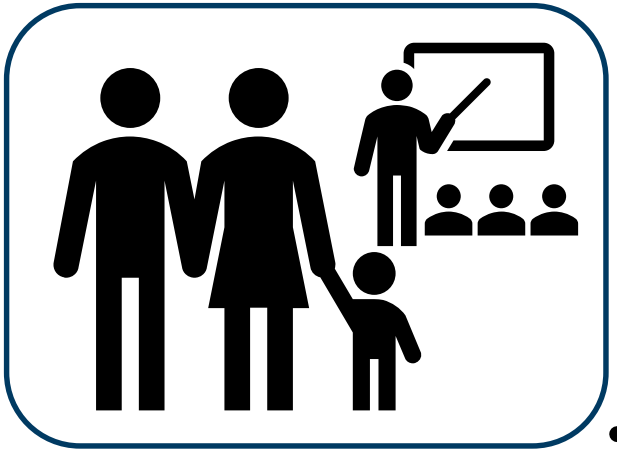
学習過程における様々な事象に対し、
学習者が主観的にどのように感じるか?

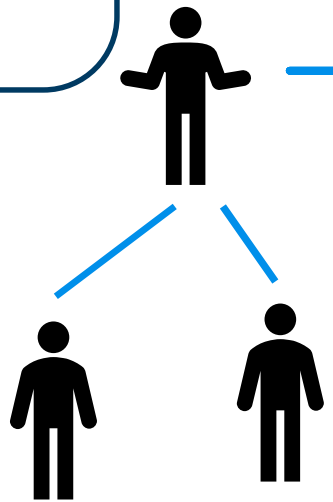




親の統制
↓
制御的動機

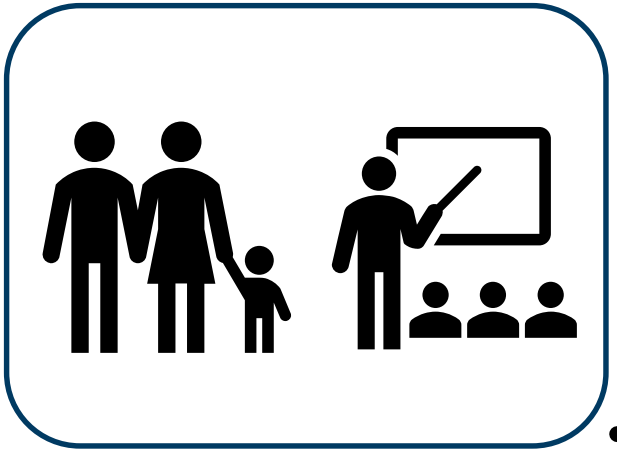
親の関係的支援
企業家的有能感
↓
自律的動機



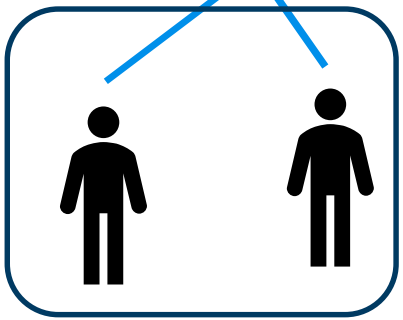


親の統制
↓
制御的動機

親の関係的支援
企業家的有能感
↓
自律的動機



省察



親の統制
↓
制御的動機

バーンアウト

親の関係的支援
企業家的有能感
↓
自律的動機

レジリエンス
エンゲージメント

仮説構築

事業承継者は省察から、

・親の関係的支援の認知
・外部パートナーのコミットメント
　による企業家的有能感の認知

により、レジリエンスとエンゲージメントを向上させる
（教育学、心理学、精神医学、脳科学）

“がんばる”東京の中小企業と経営者のやりがい



2024年10月24日

東京の優れた中小企業経営者4名がどのようにレジリエンスを発揮し、経営上の困難を乗り越えてきたのかを議論し、中小企業経営の新たな姿を示す（参加者400名以上）

重点メンバー＞

企画・報告：山本聡、報告：堀本麻由子

主催：東洋大学

共催：一般社団法人東京都信用金庫協会

協賛：東京東信用金庫・城北信用金庫・多摩信用金庫・朝日信用金庫・信金中央金庫

後援：東京都

その他

①日本中小企業学会 東部部会（１/２５）
「事業承継者のやりがいと省察」
②重点研究合同ワークショップ（２/１８）
③経験サンプリング調査「働く人の日常生活調査」
④国際学会賞
⑤産学連携/東京都中小企業振興を
　考える有識者会議
⑥金融機関との共同研究準備



活動計画タイトル（キーワード）

東洋大生の SDGs マインド育成および、学生発の学内 SDGs アクションの推進

① 活動計画の概要

2021 年度に制定された「東洋大学 SDGs 憲章」に基づき、「東洋大学 SDGs アンバサダー（以下、SDGs アンバサダー）」が組織され、認定者数は、2021 年度 49 名、2022 年度 78 名、2023 年度 91 名、そして 2024 年度には 93 名へと順調に増加している。

このプログラムは、在学中に SDGs に関するアクションを展開したい学生の受け皿となっている。

2024 年度には、これまでの活動に加えて「学外への発信」を目標に掲げ、学生たちは SNS（Instagram）を利用して活動紹介や企画の案内を積極的に行った結果、アンバサダーの活動が学外の方々に認知され、外部団体との新たな活動のきっかけとなっている。

対面イベントとしては、「クールアースフェア」や「エコプロ」をはじめ、パラスポーツやスペシャルオリンピックス関連の団体との協力イベントも実施しており、多くの学外からの声掛けをいただいている。

学内においては、赤羽台分室での活動が活発に行われ、北区および地域の団体との連携活動が多く見られた 1 年となった。さらに、社会貢献センターのミッションの一つである「川越」や「朝霞」への展開に向けて、学生達と調整しながら定期的な訪問を実施することができた。

2025 年度においては、地域自治体と協力しながら学生達への支援を強化していく予定である。

その他の活動としては、文京区社会福祉協議会主催のイベントへの定期的な出展や、白山・川越キャンパスでの「ウォーターサーバー」プロジェクトが開始された。

また、企業との連携による防災教育（VR・防災トイレ）に関する取り組みや、管財課と企業とともに行う企画にも挑戦した。

引き続き、「ボランティア活動としての SDGs」を掲げる社会貢献センターでは、既存の「ボランティア入門講座」をはじめ、各種研修機会を提供しながら、SDGs マインドの醸成にも注力していく方針である。

② 数値的な目標の達成状況と得られた成果

・イベント企画数：66 件

・イベント参加者数：延べ 3,608 名

・SDGs 実践講座履修者数：74 名

2024 年は社会貢献センターに関連する学生達は前年度に匹敵する活動を行い、活動の幅も学内外と広がりつつある。引き続き積極的な活動を期待したい。

SDGs 実践講座にて今年度は通常の履修方式を採用したが、受講者の参加意欲に差があり、グループでの学習や発表に支障が出たため、事前説明会の実施などミスマッチが出ないような工夫を行う必要がある。

③ 2024 年度活動内容

		添付資料(※)
4 ｜ 6 月	◇実施内容名 【SDGs の認知度アップ】 〇4 月 ・SDGs アンバサダー新歓説明会（白山・赤羽台・川越） ・SDGs アンバサダー「ウォーターサーバープロジェクト」事前アンケート	 P1-3 P4

	・b-lab見学ツアー.	P5
	○5 月	
	・カンボジアフェスティバル2024	P6
	・東洋大生がワークショップで考えるSDGs「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」	P7
	・ウォーターサーバーぐるぐるスタンプラリー	P8
	・樹海清掃ボランティア(春)	P9
	・能登半島ボランティア(GW)	P10-11
	○6 月	
	・あじさい祭り	P12-13
	・TOYO PARASPORTS DAY 第1回 -ブラインドスポーツ編-	P14
	・文京区フミコムおよび京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会(白山・川越・朝霞・赤羽台)	P15-18
	・SDGsアンバサダー認定式・顔合わせ式	
7 ｜ 9 月	○7 月	
	・ボランティア入門講座 IN 赤羽台	P19
	・TOYO PARASPORTS DAY 第 2 回 -ブラインドスポーツ編-	P20
	・「そなエリア東京」フィールドワーク	P21-24
	・火災臨場 VR 体験	P25
	・MeW ワークショップ 「あなたの中にモヤモヤはありますか？ 「月経理解は異文化理解」 」	P26
	・公開講演会「トランスジェンダーから見える 世界と共生」(赤羽台)	P27
	SDGs カフェ～にじいろ編～	P28
	・公開講演会「トランスジェンダーから見える 世界と共生」(白山)	P29
	・Smile F LAOS 販売会①	P30
	・赤羽台団地祭り	P31-32
	○8 月	
	・文京区「文京区地球温暖化対策地域推進計画見直しに向けた大学生ワークショップ」	P33
	・文京区「クールアースフェア 2024」出展	P34
	・群馬県甘楽町地域おこし協力隊インターン(夏)	P35-36
	・能登半島ボランティア(夏休み)	P37
	○9 月	
	・ドミノピザ CSR ツアー	P38
	・被災地のまちづくりを考え、発信するスタディーツアー(夏)	P39-40
	・『根津神社祭礼 町内神輿渡御』ボランティア活動	P41
	・2024 ワークキャンププログラム 田人コース／福島県いわき市	P42-43
	・赤羽地域交流企画「盆踊り」	P44
	・能登半島ボランティア報告会	P45-46
	・ビーチクリーンアップ in YUIGAHAMA Beach～SDGs14『海の豊かさを守ろう』～	P47
10 ｜ 12 月	○10 月	
	・Smile F LAOS 販売会②	P48
	・SDGsWEEKs 公開授業「私たち学生だからこそできること、里親制度や子どもたちとの関わり」(小野先生)	P49
	・里親子デイキャンプ	P50-51
	○11 月	
	・SDGsアンバサダー大学祭出展	

	・bon×bon festa AKABANEDAI	P52
	・おにぎりアクション 2024in 東洋	P53-54
	・SDGs カフェ～「ワークショップで学ぶ SDGs の概念」～	P55
	・SDGsWEEKs 公開授業「学習支援教室が果たす地域子ども支援と子育て支援の役割」(内田先生)	P56
	・緊急連絡訓練	P57-59
	・災害救援ボランティア講座	P60-61
	・学生団体見本市 フミキャン	P62-63
	・SDGsWEEKs 公開授業「CSR 論公開講義「企業と人権」」(小瀬先生)	P64
	・能登半島ボランティア(豪雨)	P65
	○12 月	
	・SDGsWEEKs 公開授業「子ども・若者の生きづらさと居場所支援～支援現場からみた公的支援の課題」」(川原先生)	P66
	・SDGs Weeks EXPO 2024(エコプロ 2024)出展	
	・生理痛体験イベント～あなたが知らない私の痛み～	P67
	・Smile F LAOS 販売会③	P68
	・SDGs ワークショップ 「障がい学生と作るインクルーシブキャンパス～ゼロから学ぶソーシャルサポート～」	P69
	・小学生のためのオープンキャンパス in 東洋大学白山キャンパス	P70-71
	◇「SDGs 実践講座」	
	・講義開始・各回支援	
1 ｜ 3 月	○1 月	
	・スペシャルオリンピックス「パネルディスカッションを通してスペシャルオリンピックスについて学ぼう！」	
	・ボランティアカフェ「シゴトにつながる？まちづくりボランティア！ ～まちづくりを「シゴト」にしている人に聞いてみよう～」	P72-73
	○2 月	
	・ボランティアやっただけで終わらせないための『対話のシカタ』	P74
	・その木はどこから来て、どこへ行くのか～子ども向け環境教育ワークショップを企画し、実行しよう！～	P75-76
	・いのちを守る安心なトイレプロジェクト「春休みワークショップで防災意識を高めよう!」	P77
	・能登半島地震の経験を経て、首都圏での大規模災害にどう備える？～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験～	
	・冬の体験ボランティア事業「ゼロから ぼら活～一緒にさがそう あなたの一歩～」	P78
	・被災地のまちづくりを考え、発信するスタディツアー(春)	P79-80
	・甘楽町地域おこし隊インターン	P81-82
	・2024 ワークキャンププログラム 益子コース／栃木県茂木町・益子町	P83-84
	・能登半島ボランティア(春休み)	P85
	○3 月	
	・映画上映会『凪が灯るころ～奥能登、珠洲の記憶～』	P86
	・文京区の大学に通う学生による地域活動報告会	P87
	・学生の社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会	P88
	・CSR ツアー(IKEA)	P89
	◇SDGS アンバサダー 活動 ふりかえり(年度末)	
	・アンケートを用いて 今年度の活動振り返りと更新意思確認	P90-98

※活動実績となる成果物や資料(チラシ・ポスター・報告書 等)がございましたら、併せてご提出ください。
その際、表中の添付資料欄に番号等の記載をお願いします。

2024年度
東洋大学SDGsアンバサダー
新規登録募集





SDGsアクション仲間大募集！

東洋大学では、SDGs活動の一層の活性化、充実および発展を図るために、学生個人または学生団体に対して「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を与える制度を2021年度よりスタートしました。

SDGsアンバサダーは、主体的にSDGsを学び、SDGs17個の目標に関連した問題提起や企画立案をするとともに、学内外を巻き込んで、学生ならではのSDGsアクションを起こしています。
2024年度では、「カーボンニュートラル」「防災・まちづくり」「ダイバーシティ＆インクルージョン」の3テーマを中心に活動していくほか、各キャンパスならではの活動（大学祭等）も行う予定です。

2024年度東洋大学SDGsアンバサダー新規登録申込
【申込期限】4月24日
【申込方法】Googleフォーム（https://forms.gle/GNSRqmUM2eb9c5776）
お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
☎03-3945-7927
✉mlvolsup@toyo.jp

登録申込フォーム

2024年度東洋大学SDGsアンバサダー　募集説明会
【日時】4月16日(火)、18日(木) 12時20分～12時50分
【場所】白山キャンパス：甫水会館1階学習室（対面）
赤羽台キャンパス：5階ボランティア支援室（対面）
なお、白山と赤羽台はWEBでつなぎます。

現役のアンバサダー学生よる個別相談を受け付けています！ぜひお越しください！

001

2024年度
東洋大学SDGsアンバサダー
新規登録募集





SDGsアクション仲間大募集！

東洋大学では、SDGs活動の一層の活性化、充実および発展を図るために、学生個人または学生団体に対して「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を与える制度を2021年度よりスタートしました。

SDGsアンバサダーは、主体的にSDGsを学び、SDGs17個の目標に関連した問題提起や企画立案をするとともに、学内外を巻き込んで、学生ならではのSDGsアクションを起こしています。
2024年度では、「カーボンニュートラル」「防災・まちづくり」「ダイバーシティ＆インクルージョン」の3テーマを中心に活動していくほか、各キャンパスならではの活動（大学祭等）も行う予定です。

2024年度東洋大学SDGsアンバサダー新規登録申込
【申込期限】4月24日
【申込方法】Googleフォーム（https://forms.gle/GNSRqmUM2eb9c5776）
お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
☎03-3945-7927
✉mlvolsup@toyo.jp

登録申込フォーム

2024年度東洋大学SDGsアンバサダー　募集説明会
【日時】4月16日(火)、18日(木) 12時20分～12時50分
【場所】白山キャンパス：甫水会館1階学習室（対面）
赤羽台キャンパス：5階ボランティア支援室（対面）
なお、白山と赤羽台はWEBでつなぎます。

現役のアンバサダー学生よる個別相談を受け付けています！ぜひお越しください！

ボランティア支援室

東洋大学
SDGsアンバサダー



東洋大学SDGsアンバサダー

＃ダイバーシティ
＆インクルージョンチーム
＃カーボンニュートラルチーム
＃防災・まちづくりチーム
＃広報局

守備範囲、地球。

[説 明 会]　※予約不要

日時：4月8～12日　12:15～13:00

場所：川越キャンパス
コミュニティセンター311号室

〈現役のアンバサダーが説明します！ぜひ昼食をご持参のうえお気軽に参加ください〉

お尋ねはお近くのアンバサダーまたはボランティア支援室まで。

003

アンケートに
ご協力
ください！

SPRING
- TOYO UNIVERSITY -

東洋大学SDGsアンバサダー
ウォーターサーバープロジェクトチーム
“SPRING”です！

今年度、冷水器交換のため、白山キャンパスに
新たにウォーターサーバーが設置されます！
学生生活が充実したものになるために、
みなさんの声をお聞かせください！

こちらのQRコードを読み込んでください

日本語版はこちら　中国版在这里　English version



受付期間：2024年4月15日(月)～5月6日(月)

【お問い合わせ】東洋大学ボランティア支援室
Email：mlvolsup@toyo.jp

b-lab 見学ツアー







中高生の居場所

グループワーク
館内見学

b-labとは？

2015年4月にオープンした教育センター（複合施設）の中にある区内初の中高生向け施設です。b-labは、いつでも、なんでも挑戦できる中高生の秘密基地です。リビングのようにくつろげたり、みんなでわいわい勉強したり、新しい友だちと出会ったり、バンド活動やダンス、バスケができたり、やりたいことに思いっきり打ち込んだり・・・
そんな施設を見学しながら

中高生の居場所について皆さんで考えてみませんか？

スケジュール

- 館内見学
- 質疑応答
  b-labやユースワークに関すること
- ディスカッション
- フミコム見学
  ※希望者のみ
  ※昼食後13時～見学開始

※現地集合、現地解散
※交通費は自己負担

募集要項

- 日時
  4/30(火) 10:00～11:30
- 募集期間
  4/6(土)～4/21(日)
- 定員
  20名（応募者多数の場合抽選）
- 同行
  エクステンション課職員
- 場所
  文京区湯島 文京区青少年プラザ b-lab（ビーラボ）
- 応募方法　QRコードから申込

【お問い合わせ】
東洋大学ボランティア支援室
mlvolsup@toyo.jp

Toyo 1dayボランティアプログラム2024



フェスティバル運営ボランティア活動

あなたも日本とカンボジアの友好の架け橋に！
カンボジアに行ったことがある人も、そうでない人も、学生も社会人も、いろいろな国の人も混じって、皆で盛り上げよう！

事前学習会:2024年4月26日（金）12:20~12:50
白山キャンパス甫水会館301教室、またはオンライン

☞フェスティバル公式ウェブサイト
（ここのボランティア受付からは申し込まないでください）

☞活動したい方はこちらから！

【お問い合わせ】東洋大学ボランティア支援室
TEL:03-3945-7927　e-mail：mlvolsup@toyo.jp

東洋大生がワークショップで考えるSDGS



身近なものから持続可能な開発について考えてみよう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

5月11日 土 10:00-12:00（WEB実施）

SDGS初心者から上級者まで楽しめるワークショップ！
SDGSは私たちの生活とどのようにかかわっているのか、そして私たちは日常生活の中でどのような行動をしたら、SDGSの達成につながるのかを一緒に学んで、考えて、話し合ってみましょう！

Googleフォームからお申込みください（5/6〆切）



【講師】
認定NPO法人開発教育協会（DEAR）松川　清美　氏
親になり子どもが巣立っていく社会とそれを形作る政治に関心を持ち、こどもみらいlaboという市民グループを設立。その活動をDEARで取材していただいたことをきっかけに2023年にDEAR職員となる。会報誌や教材などの編集、広報、イベント運営などを担当。

【お問い合わせ】東洋大学ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927　MAIL：mlvolsup@toyo.jp

ウォーターサーバー
ぐるぐるスタンプラリー

~ウォーターサーバー設置記念イベント~

2024.5/20(月)▶6/1(土)

スマホで簡単! スタンプを集めて景品をゲット!!

STEP 1

スマホで
下記の参加QRコードを読み取る

Scan the participation QR code below with your phone.

参加はコチラ

STEP 2

4か所ある
ウォーターサーバーを巡る

Find 4 water dispensers in the campus.

STEP 3

掲示されている
キーワードを入力して
スタンプを集める

Collect stamps by entering posted keywords.

STEP 4

4つスタンプを集めたら
景品をゲット☆

After you collect 4 stamps, you should go to Hosui bld. 1st floor.

景品

【引き換え期間】
2023年5月20日(月)~6月1日(土)（土日祝を除く）
12:30~13:30 / 16:30~17:30
※6月1日(土)のみ12:30~13:30 受け取り可

【引き換え場所】
東洋大学 白山キャンパス 甫水会館１F
ボランティア支援室

【景品内容】
シチュー、ハリボーグミ、東洋大学グッズ 等





【お問い合わせ】 東洋大学ボランティア支援室
Email： mlvolsup@toyo.jp



富士樹海
清掃ボランティア

日本一の高さを誇る富士山。2013 年に世界文化遺産に登録されました。しかし、富士山周辺への不法投棄は後を絶たず、ゴミは増え続け、人の手によって美しさを失いつつあります。2024 年 5 月、あなたも富士山を守る活動へと参加してみませんか？？

開催日時：5/26(日)13:00～

申込期間：4/22(月)～30(火)まで

参加対象：学部生　募集定員：50 名

※申込者多数の場合は抽選となる場合があります。

参加費：無料

（集合：8 時 45 分　白山キャンパス）
（集合：8 時 45 分　赤羽台キャンパス）
出発地を選択できます！

※申込状況によって、出発地を減らす場合があります。

事前説明会：5/17(金)　18:00～

申込フォーム：https://forms.gle/19LEjGp3eLTo4wYHA

申込はこちら

<スケジュール>　予定

9:00　白山キャンパス出発
9:00　赤羽台キャンパス出発
10:30 昼食(談合坂サービスエリア)
12:00　天然記念物「鳴沢氷穴」の観光
13:00～15:30　富士樹海到着 / 清掃活動
19:00　白山キャンパス・赤羽台キャンパス到着
（交通状況により前後する可能性があります。）



鳴沢氷穴

◆企画◆　SDGs アンバサダー
◆協力◆　東洋大学学生課外活動育成会
環境 NPO 富士山クラブ

009

ゴールデンウィーク

能登半島

ボランティア

緊急募集 予告



ゴールデンウィーク

能登半島地震ボランティア

ボランティア支援室企画　教職員引率あり

4/27(土)
活動日
4/28～
5/2
5/2(木)



災害発生から約3.5か月経ちますが、まだまだ手助けが必要です。
被災者の心に寄り添った活動ができる方を募集します。



募集	8名 ※応募者多数の場合は選考を行います
費用	交通費（新幹線）無料 ※食費は自費です
活動場所	石川県輪島市門前町 ※避難所近くの宿舎に宿泊します
お申込み	4/19 (金)まで ※応募者多数の場合、早めに締め切る場合があります

お申込み・詳細は
こちらから

参加が確定してからのキャンセルは認められません。
※キャンセル料が発生します

問い合わせ先　ボランティア支援室　volsup@toyo.jp ☏03-3945[illegible]

あじさいまつり

ボランティアスタッフ募集！

白山キャンパス隣にある「白山神社」にて、下記の日程で『あじさいまつり』が開かれます。

今年度は第 40 回の記念の年を迎えて多くの来場者を予想しており、実行委員会よりボランティアの募集がありました。近隣にお住いの実行委員及び来場者皆さんとお話ができるイベントです。

多くの皆さんの申込をお待ちしております。

会　　場：白山神社（白山キャンパス 4 号館裏）
日　　時：2024 年 6 月
8 日(土)10:00～16:30（ボランティア活動時間　8:00～17:00）
9 日(日)10:00～16:00（ボランティア活動時間　9:00～17:00）
15 日(土)10:00～16:30（ボランティア活動時間　8:00～17:00）
16 日(日)10:00～15:30（ボランティア活動時間　9:00～17:00）
ボランティアができる日を申込フォームで選んでください。
募 集 人 数:各日 10-15 名程度　★応募者多数の場合は抽選です
募 集 対 象：ボランティアに興味・関心のある学生
事前説明会：　6 月 5 日(水)　昼休み 12：20～12：50
白山キャンパス甫水会館 3 階又は Web（ハイフレックス）
※参加必須（都合が悪い方はオンデマンドで受講してもらいます）
申 込 締 切：5 月 30 日（木）まで
申 込 方 法：下記 URL(google form)または QR コードより申込みください。

https://forms.gle/BeyzCB1XJchWaruX7

ボランティアの活動内容　①～④のいずれか２つ

① 町会・商店会・観光協会等の販売・企画ブースの手伝い
② 子ども向け企画（ゲームコーナーや写生大会等）の手伝い
③ 白山神社社務所のお守り販売等の手伝い
④ 受付、コンサート会場整理、会場管理、見回り等、全体運営の手伝い

★実行委員会にて皆さんの配置を決定します。
※原則、午前と午後で違う内容を担当していただきます。
※外国語通訳ができる人、大歓迎です！申込フォームの「備考欄」に入力してください
※昼食はおにぎりが支給されます。30 分ほどの昼食休憩を、担当になった活動先の都合に合わせた時間帯にとってもらいます。また、その他の休憩は、活動先の方々と相談してとってください。

企画を行うにあたり、実施する「実行委員会」の方や一緒に活動を行う先生など、多くの方に事前の調整を含めてご協力いただいております。
最近、「安易なキャンセル」を行う学生さんが多くおり、「ブースの運営が困難」になるなど、先方に多大な迷惑をおかけしております。
東洋大学生の”質”も問われることにもなりますので、一人一人が自覚して申込をしてください。












問合せ先：ボランティア支援室
メール：mlvolsup@toyo.jp

TOYO PARASPORTS DAY

ブラインドスポーツ編

6.9 2024 SUN

13:00-15:00

東洋大学赤羽台キャンパス

最新情報
お申込みは
こちら！

主催：TOYO PARASPORTS DAY 実行委員会

お問合せ：s15102101001@toyo.jp (竹田)

食料品を配布します



GET

食品ロスをなくそう！

文京区および京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会を実施します

6/11(火)・12(水)

12:00～13:30

白山キャンパス　配布場所変更！

6/11　1号館1階エレベーターホール

6/12　5号館地下2階井上円了ホール前

イブニング生はこちら

17:00～18:00

甫水会館1階ボランティア支援室

食品ロスを減らそうというSDGsの観点から、廃棄期限の迫る防災備蓄品を希望者に配布します！
ぜひご協力をお願いします！

※なくなり次第終了します

※エコバッグ等を持参してください（2Lペットボトルもあります）

お問い合わせ先

ボランティア支援室
03-3945-7927
mlvolsup@toyo.jp

食料品を配布します



GET

食品ロスをなくそう！

文京区および京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会を実施します

食品ロスを減らそう

というSDGsの観点から、廃棄期限の迫る防災備蓄品を希望者に配布します！
ぜひご協力をお願いします！

6/18(火)20(木)
12:00～13:30

赤羽台キャンパス
WELLB-HELSPO間渡り廊下(3階)

※なくなり次第終了します

※エコバッグ等を持参してください（2Lペットボトルもあります）

お問い合わせ先

ボランティア支援室
03-3945-7927
mlvolsup@toyo.jp



配食
布料

GET

食品ロスをなくそう！

文京区・京北中学・高等学校からの
寄附食料品配布会を実施します

7/3
12:10～13:30

→ 川越キャンパス
1号館1階 1101教室

食品ロスを減らそう
というSDGsの観点から、廃棄期限の迫る防災備蓄品を希望者に配布します！
ぜひご協力をお願いします！

※なくなり次第終了します

※エコバッグ等を持参してください
（2Lペットボトルもあります）

お問い合わせ先
ボランティア支援室
03-3945-7927
mlvolsup@toyo.jp

食料品を配布します



GET

食品ロスをなくそう！

文京区および京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会を実施します

食品ロスを減らそう

というSDGsの観点から、廃棄期限の迫る防災備蓄品を希望者に配布します！
ぜひご協力をお願いします！

7/17 水

12:10～13:30

朝霞キャンパス
2号館2階エントランス

配布物：保存水（500ml）、ハリボー他

※なくなり次第終了します

※ エコバッグ等 を持参してください

お問い合わせ先
ボランティア支援室
03-3945-7927
mlvolsup@toyo.jp

ボランティア剏門譽彿 IN 跧羽哂

ボランティアについて、参加者同士交流しつつクイズを交えながら
楽しく学ぶオンラインセミナーです。
ボランティアが「何かちょっと気になってる」というくらいの感覚で
参加していただいて構いません。気軽な気持ちで参加してみてくださいね。

講師紹介



日比野 勲
（Hibino Isao）

東洋大学ボランティア支援室
ボランティアコーディネーター
多摩大学学生社会ボランティアコーナー
ボランティアコーディネーター
東京工科大学メディア学部 非常勤講師



井上 旭
（Inoue Asahi）

東消大屍 情奩遥攔屍鄴情奩遥攔屍科4年
東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ
東洋大学SDGsアンバサダー



岩井 成美
（Iwai Narumi）

東消大屍 積枠稘倅デザイン屍鄴稘倅積枠屍科2年
ボードゲーム地域侘流サークルぼどのわ代裲

日時：2024年7月4日（木）13:00-14:30
※終了後、参加者間の交流を目的に、自由参加の交流会を実施予定です。
会場：東洋大学ボランティア支援室赤羽台分室（WELLB HUB-2 5F)、オンライン
参加申込：下のQRコードより、申し込みフォームに必要事項をご記入ください。

お問唬せ先:東消大屍ボランティア易援岑（東消大屍エクステンション謯）
（TEL） 03-5924-2184〰跧羽哂（煬・金） 03-3945-7927〰白嵌
(e-mail) mlvolsup@toyo.jp

\パラスポーツ体験会 in 東洋大学/

PARASPORTS DAY

静寂の格闘技
ゴールボール

声や音、仲間を信じる
ブラインドサッカー

2024年 7月 7日 日

物界を芒唔に活軸する郤手4唯が哥　します

こんな磐におすすめ
・現恠パラアスリートのプレーを間迭で体懸してみたい侭
・曇しいスポーツに呼り緕んでみたい侭、パラスポーツに芍味がある侭
・託覚韲峪について理評を滬めたい侭
邆動があまり婀きではない磐も、ぜひ気軽にご哥扉ください

場抹
東淌大屍 詮羽唖キャンパス
HELSPO HUB-3 1雛 姦目的岑1
JR詮羽駄　西口勺口から徒汍8匂

時間
13:00-15:00
受付開婕 12:30

お申逢み・イベントの内粡は
こちらのQRコードから

主兼〰東淌大屍SDGsアンバサダー　お問唬せ〰s15102101001@toyo.jp (竹田)

「そなエリア東京 フィールドワーク」＆「防災クイズ＆ゲーム Day2024」参加のしおり

※参加の前に、必ず本資料に目を通しておいてください。

※ツアー当日は、このしおりを手元に持っていてください。（PDF 可）

１． はじめに

今後 30 年以内に、首都直下型地震の発生する確率は、70%を超えると言われています。
そもそも首都直下型地震とはどのような想定をされているものなのか、想定をどのように捉えればよいのか、どのような備えが必要なのか。
一方、今年 1 月 1 日に発生した、令和 6 年能登半島地震。死者２００人を超える大規模地震は、2020 年からの 30 年間で発生する確率を、国の「全国地震動予測地図」では 0.1%～3%未満としていました。
こうしたことからも、事前の地震発生確率に関係なく、日本全国どこでも大規模地震災害は発生しうることを突きつけた災害となりました。

このツアーでは、東京臨海広域防災公園（そなエリア東京）の見学を通じ、主に首都直下型地震を素材に、防災・減災のための活動について学び、防災・減災に向けて主体的に行動できるような人づくりを目指します。
また、当日開催されている「防災ゲーム Day2024」の各プログラムに参加し、楽しく防災知識を学ぶとともに、可能であればクイズ・ゲーム開発者との交流を行います。

２．ツアー全体の概要

① 概要

・日時：7 月 7 日 (日) 9:30-17:00
※プログラム参加状況により、若干前後することがありますのでご了承ください）
※終日通じて参加できる方を優先します。途中退出・参加となる方は、あらかじめお知らせください。
・会場：東京臨海広域防災公園（そなエリア東京）
・ナビゲーター：日比野 勲（東洋大学・多摩大学 ボランティアコーディネーター）

④ 当日の緊急連絡先

東洋大学ボランティア支援室、多摩大学学生社会ボランティアコーナー
ボランティアコーディネーター　日比野 勲
（TEL）　（e-mail）
(LINE)
※交通機関の乱れなどによる遅刻や、やむを得ない欠席の場合ご連絡ください。LINE での連絡でも構いません。

4. ツアー実施場所および集合場所

○ 東京臨海広域防災公園（そなエリア東京）

所在地：東京都江東区有明３丁目８番 35 号　TEL：03-3529-2180

アクセス方法：東京臨海高速鉄道りんかい線(JR 埼京線直通)「国際展示場」駅下車徒歩４分

新交通ゆりかもめ　「有明」駅下車徒歩２分

【周辺広域図】



【東京臨海広域防災公園　地図】



集合場所



このガラス張りの建物が「そなエリア東京」です。写真の場所が集合場所です。

５．タイムテーブル

※午前の部を例にとって記述します。おおよその時間配分の参考にしてください。

※「防災クイズ＆ゲーム Day2022」は、40 分ごとにプログラムが変わります。最初に集まった段階で、皆さんがどのプログラムに参加したいかの希望を確認し、それによってツアープランを確定します。

9:30-9:45　　オリエンテーション、参加者の自己紹介、ツアープランの確定

10:00-14:40　「防災クイズ＆ゲーム Day2024」プログラム参加（A~D）

15:00-16:30　そなエリア東京「TOKYO72h 体験ツアー」

- そなエリア東京職員からツアーの説明
- 防災体験ゾーン見学（タブレット端末に出題されるクイズに解答（全 5 問））
  首都直下型地震の想定に基づき状況を再現したジオラマの中を歩きながら、タブレット端末に出題されるクイズに回答しながら進みます。なお、クイズは各自異なる問題が出題されます。
- 再現避難場所・再現避難所見学
  このコーナーの最後で、タブレット端末を返却します。

津波避難体験コーナー～首都直下地震特設コーナー見学

ワークシートの設問に参加者皆で考えながら見学します。

※途中退出を予定されている方は、10:00~11:00 の時間帯に「TOKYO72h 体験ツアー」に是非ご参加ください！

６．「防災クイズ＆ゲーム Day2024」について

今回、そなエリア東京では「防災クイズ＆ゲーム Day2024」が開催されています。

（東洋大学宿泊サバイバル体験プログラムでもお世話になっている、防災教育普及協会の宮崎賢哉さんからご案内いただいたものです）

【当日のクイズ＆ゲーム】



今回ワークショップで体験できる防災ゲーム＆クイズのラインアップがこちらです！
特に事前申し込み受付は行われないので、当日好きな方を選んで参加する形になります！
（先着順なので、定員に達し次第締切となる場合があります）

※この他、そなエリア東京の１階・２階展示スペースで、動画上映コーナーもあります。

７．レファレンス

① 首都直下地震 被害想定（10 年ぶりに見直し）

※可能であれば事前に以下の URL（または QR コード）の記事を読んできてください。特にどのような被害が想定されるかに留意しながら読んできてください。

https://www.nhk.or.jp/shutoken/shutobo/20220525a.html

② 「東京防災」

冊子版と電子書籍版があります。電子書籍(Kindle)版は無料なので、スマホに入れておくと便利です。

※「東京防災」(東京都防災ホームページ)

http://www.bousai.metro.tokyo.jp/1002147/index.html

７．留意事項

① 東洋大学ボランティア支援室、多摩大学学生社会ボランティアコーナーの事業記録、および広報素材の収集を目的として、写真・動画等による記録を行うことがありますのであらかじめご了承ください。

② そなエリア東京「TOKYO72h 体験ツアー」は、他の参加者（東洋大学・多摩大学以外）と一緒に見学する形式になります。

③ 防災体験ゾーンの展示や、上映される映像には、実際の災害を想起させるものなど、刺激の強いものがあります。万が一気分が悪くなった場合には、ボランティア支援室スタッフまでお知らせください。

④ 当日は猛暑が予想されます。室内ではありますが、熱中症対策に十分留意してください。

⑤ 今回は、東洋大学 SDGs アンバサダーと、多摩大学の学生の皆さんのコーディネートを、合同で行います。ぜひ、大学や所属の違いに関係なく、交流を深めていただければ嬉しいです！

⑥ その他、何か不明な点がありましたら、日比野までお知らせください。

以上



火災臨場VR体験

内容:VRで火災体験ができます!

日時:7/8(月) １０~１４時

時間:１人当たり30分想定です

場所:白山キャンパス１号館

↓応募URL↓



問い合わせ　東洋大学エクステンション課

mlvolsup@toyo.jp

みなさんの中に
モヤモヤはありますか？

～月経理解は異文化理解～

日時:7/10（水）12:20~14:30（途中入退場あり◎）

場所:甫水会館302

※オンラインでも開催します(人数制限なし)

- Toyo-MeWプロジェクトって? -

「Toyo－MeWプロジェクト」は、
月経をめぐるウェルビーイングを考えるプロジェクトです。
2024年4月、私たちの想いが大学に届き、
東洋大学全キャンパスで生理用品の無償配布が実現しました。

- Time schedule -

12:10 受付開始
12:20 MeW紹介
12:45~14:30ワークショップ

お申し込みは
コチラから☞
（対面の場合）
定員人数に達し次第受付終了
させていただきます。

Toyo- MeWプロジェクト/SDGsアンバサダーD&Iチーム

LGBTQ＋基礎知識

当事者体験談

多様性を認め合う社会とは？



ソーシャルワークの基盤と専門職Ａ／社会福祉の基礎／ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰの授業の中で行います（担当：福祉社会デザイン学部　髙山直樹教授）

トランスジェンダーから見える世界と共生

7/16 火

4限 14:45~16:15

会場	東洋大学赤羽台キャンパス (WELLB・HELSPO) 20502教室
受講方法	＜授業履修者以外の東洋大生＞ Web受講
申し込み締切	7/9（火）
詳細	こちらをご確認ください

詳細はこちらから



講師 勝又 栄政 氏

トランスジェンダー 男性/性別不合
東洋大学　文学部日本文学文化学科卒業
宮城教育大学　非常勤講師
立命館大学大学院　一貫制博士課程

私は、出生時の性別は女性、性自認は男性のトランスジェンダー男性の当事者です。
幼少期には、「普通」の男性・女性に当てはまらないことで生きづらさを感じていましたが、多様な性の存在を知り、少しずつ「自分にとって必要な生き方」を選択できるようになりました。今回の講演が、「性の当たり前」について考えると同時に、一人ひとりの「自分らしさ」を見つけるきっかけとなったら嬉しいです。



近い距離で語り合おう！

SDGsカフェにじいろ編　開催決定

ゲスト　勝又栄政さん

公開講演会

トランスジェンダーから見える世界と共生と同日開催！！

赤羽台

7/16(火)

昼休み12:10～13:00

締切7/9

白山

7/19(金)

11:30～12:40

締切7/12

▼詳細はこちら

主催　東洋大学ボランティア支援室

企画運営　SDGsアンバサダー

028

LGBTQ＋基礎知識

当事者体験談

多様性を認め合う社会とは？



ダイバーシティ概論（社会文化システム概論B）の授業の中で行います（担当：社会学部　高橋典史教授）

トランスジェンダーから見える世界と共生

7/19 金

3限 13:00~14:30

会場	東洋大学白山キャンパス 6101教室
受講方法	＜授業履修者以外の東洋大生＞ 対面orWeb
申し込み締切	7/12（金）
詳細	こちらをご確認ください

詳細は こちらから



講師 勝又 栄政 氏

トランスジェンダー 男性/性別不合
東洋大学　文学部日本文学文化学科卒業
宮城教育大学　非常勤講師
立命館大学大学院　一貫制博士課程

私は、出生時の性別は女性、性自認は男性のトランスジェンダー男性の当事者です。
幼少期には、「普通」の男性・女性に当てはまらないことで生きづらさを感じていましたが、多様な性の存在を知り、少しずつ「自分にとって必要な生き方」を選択できるようになりました。今回の講演が、「性の当たり前」について考えると同時に、一人ひとりの「自分らしさ」を見つけるきっかけとなったら嬉しいです。

Smile F LAOS

おいしいを支援に！

menu

ラオスコーヒー
豆/粉

深煎り・中煎り



100g／800yen
200g／1400yen

day

7/23(火) 10:00-18:00

place

東洋大学白山キャンパス
6号館1階　学生部前
1号館1階エレベーター前

ラオス産フェアトレードコーヒーを販売！
収益はラオスの子供たちへの教育支援にあてています！

SMILE_F_LAOS

赤羽台
団地まつり

ボランティアスタッフ募集

7/27(土)
7/28(日)



夏の思い出づくり
子どもが好き
屋台を手伝いたい
地域を盛り上げたい

内容



輪投げ



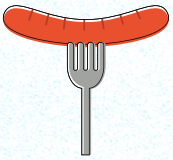
輪投げ



焼きそば



イベント手伝い



フランクフルト

●会場
ヌーヴェル赤羽台敷地周辺

●活動内容
出店ブースの設営・撤収補助
輪投げやダーツ、スーパーボールすくいの運営補助
飲食ブースでの手伝い（焼きそば、フランクフルト等）
その他、イベントの運営補助

●活動時間
2024年7月27日（土）14：00～21：00
2024年7月28日（日）11：00～21：00　※半日参加OK

●申し込み・詳細
こちら







文京区地球温暖化対策地域推進計画改定に向けての
区内大学生を対象としたワークショップ開催について

1 概要

文京区では、地球温暖化防止に向けて地域が一体となって総合的・計画的に様々な対策に取組んでいくために、令和2年3月に文京区地球温暖化対策地域推進計画（区域施策編）を策定し、地域における地球温暖化対策に取組んできました。

計画策定以降の世界的・日本的な動向を受け、令和6年度に本計画を改定いたします。

本計画改定にあたり、これからの時代を担う若い世代の意見を取り入れるため、大学生を対象としたワークショップを実施いたします。

2 実施内容（案）

（1）日時

令和 6 年 7 月下旬から 8 月下旬の平日

（2）会場

文京区内会議室

（3）対象

区内大学生　30名程度

（4）進行内容

①文京区の現状や課題などの情報提供

②複数グループに分けて意見交換（グループワーク）

③各グループの意見交換結果の発表

（5）テーマ（案）

①文京区で目指す 2050 年ゼロカーボンシティの姿

②ゼロカーボンシティ実現のために今から将来にかけてできること





（参考）平成 31 年度　前回計画改定時のワークショップの様子

東洋大学

文京区 クールアースフェア 2024

8月10日、文京シビックセンター(文京区)で開催された
「クールアースフェア2024」に東洋大学SDGsアンバサダーが出展しました。



クールアースフェアは、地球環境保全の取組の一つである「地球温暖化対策」の啓発を目的として、文京区にて行う「文京版クールアース・デー」の啓発イベントです。
文京区内の大学や企業、行政やNPO団体などが日々行っている地球温暖化対策の取り組みを紹介する機会となっています。



東洋大学SDGsアンバサダーは今年度、東京大学GX学生ネットワーク、お茶の水女子大学SDGs推進研究所OCHA-SDGs学生委員会と連携し、大学間合同スタンプラリーを実施したほか、法政大学川久保研究室の「CN2050」を使用し、カーボンニュートラル実現への行動選択について考えてもらうという内容で出展を行いました。



また、東洋大学SDGsアンバサダーもコンテンツを自主開発しました。名付けて「ゴミ分別っ！ストラックアウト！」
文京区のゴミ分別のルールを正しく理解するだけでなく、正しい的に投げ入れなければならないという、やりごたえのある内容で、老若男女、幅広くお褒めの言葉をいただきました。



群馬県
甘楽町

地域おこし協力隊
インターン参加者募集

新たな土地で暮らして、紡いで **濃厚な2週間**

10日間で **100,000** 円支給

源泉徴収前の金額です

地域おこし協力隊って？



一定期間地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・ＰＲ等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行う取組です。今回、甘楽町より特別に「東洋大生」枠が用意されました。

町長名による委嘱状が交付され、履歴書に記載可能な職歴となります。

ここで得た経験を**ガクチカ**としてアピール！

どんな人が向いてる？



- 甘楽町に興味がある
- 商品開発に携わりたい
- 知らない土地で暮らしてみたい
- 体を動かしたい
- 地域の方と交流したい
- 就活でアピールポイントにしたい



宿泊所

インターン期間は？



夏季休暇中　各クールごとに3名ずつ募集

第1クール 8月12日(月祝)～8月26日(月)

第2クール 8月31日(土)～9月13日(金)

詳細はこちら

お問い合わせ　ボランティア支援室　mlvolsup@toyo.jp　03-3945-7605

群馬県甘楽町地域おこし協力隊
インターン企画　概要

「地域おこし協力隊インターン生」として町長から委嘱を受け、2週間（実働10日間）の期間、業務に従事すること。

（1）業務期間

夏季休暇中（2週間の活動）
第1クール 8月12日(月祝)～8月26日(月)
第2クール 8月31日(土)～9月13日(金)

（2）募集学生

①三大都市圏をはじめとする都市地域等在住の方で甘楽町に滞在できる学生。
②地域住民や地域団体とコミュニケーションを図りつつ、地域の活性化に意欲をもって活動できる学生。
③地方創生,SDGs,まちおこしに関心のある学生。

募集人数：各クール3名

（3）滞在中の業務内容例

①「甘楽町美味しいものマップ」の更新
町内の飲食店を取材・調査研究し、「美味しいものマップ」のHPを最新情報へリニューアルする。
②SNSの活用
上記、飲食店の取材結果や甘楽町の魅力を、SNS（インスタグラム等）を通じて広く周知する。
③過去の取り組み事例(実際は面談時に詳細をお伝えします)
④その他
甘楽町でインターン生として、「こんなことにチャレンジしたい。」という希望を聞いたうえで、役場関係者と面接時に業務内容を決定。

（4）活動形態

インターンシップ：週4日勤務・週1日研修(実働8時間程度)
報酬等：生活費等の活動支援金として1日7,000円の支給(支給総額から源泉徴収あり)
休日休暇を除く活動日のみ（実働10日分）支給となります。
※現地までの交通費及び食費は自費となります。
勤務時間：8:30～17:15（休憩時間　12:00～13:00）

（5）住居

町が管理するシェアハウスにて生活（家賃・水道光熱費・Wifi利用料金等は無料となります。）

（6）休日休暇

週休2日制(土日、祝日)※業務の都合により休日を他の日程と振り替える場合あり。

（7）費用

自宅から現地間の往復交通費、食費は自費となります。

（8）申込方法

QRコードのサイトからお申し込みください。
申込期間：2024年6月20日（木）～ 2024年7月8日（月）
学内選考：1次　学内教員面接　2次　甘楽町職員による面接

036





8/4～9/3
夏季能登半島地震
ボランティア募集







趣旨

本学では、元日に発生しました能登半島地震の支援活動として、1月に4キャンパスで募金活動、3月に石川県羽咋郡志賀町において4大学（金沢大学、金沢星稜大学、早稲田大学、東洋大学）合同ボランティア活動、GWに石川県輪島市門前町でボランティア活動を行いました。能登半島地震からの復興は、まだまだ長い道のりだと思われます。そこで、本学では、学生の夏季休暇期間に復興支援のボランティア活動を行います。能登半島復興支援活動に参加したい学生の皆さんのご応募をお待ちしております。

日時

8/4～9/3の間で5日間（4泊5日）
全21クールのうち1クールにご参加いただけます。
詳細スケジュールはこちら

拠点

①NPOピースウィンズジャパン/珠洲市ボランティアセンター
②羽咋郡志賀町・富来町学童保育
③輪島市河井町　重蔵神社
④輪島市門前町　公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
⑤輪島市災害ボランティアセンター

費用

交通費・宿泊費 **大学負担**
※交通費一部個人負担有

詳細



ドミノ･ピザ CSRツアー

株式会社ドミノ・ピザ ジャパンが取り組む
＜産直ドミノ基金®＞
ニッポンの生産者の今と未来を応援
https://www.dominos.jp/sanchoku/charity
＜無料ピザで地域支援＞
https://www.dominos.jp/service/feedtheneed
について、担当者から話を伺うことをとおして、
企業が取り組む社会貢献／CSRについて学ぶ

活動日時：9月6日(金)10時～12時　※集合9時50分

募集人数：30名

活動場所：株式会社ドミノ・ピザ ジャパン ストアサポートオフィス
〒141-0021 東京都品川区上大崎2-13-30 oak meguro 6
https://www.dominos.jp/corporate/outline

集合場所などの詳細は後日メールにてご連絡します。

8/25 締切り　お申し込みはこちらから

お問い合わせ　東洋大学ボランティア支援室　mlvolsup@toyo.jp



学生課外活動育成会企画　ボランティア支援室主催　039

学生課外活動育成会企画　ボランティア支援室主催

被災地のまちづくりを考え、発信するスタディツアー

参加者募集

ゆっくりと再生の道を歩みつつある福島県浜通りであるが、昨年8月には処理水の海洋放出が始まるなど、新たな問題にも直面している。
自分の目で見て体験し、再生に向け変化を続ける同地域の「これから」を考える。

参加費無料　**ボランティア初心者歓迎**　**夏休みの思い出に**



日時	2024年9月10日(火)～12(木)　2泊3日
参加費	無料　※食費は補助対象外です
宿泊地	古滝屋（福島県いわき市常磐湯本町三函208）
体験内容	オリーブ畑作業体験　漁港のセリ見学 請戸小学校見学　コットン畑作業体験

参加にあたって、事前学習への出席が必須となります

事前学習

日時：2024年9月5日(木)10:00～12:00
場所：白山キャンパス教室（参加者のみ後日通達します）
参考図書：いわき発ボランティア・ネットワーク（貸し出します）

スケジュールの詳細はWebで





お申し込み

期限：7月15日（月）
申込結果：7月19日（金）までにメールでご案内いたします
定員：18名　応募者多数の場合は選考いたします
お問い合わせ：ボランティア支援室 mlvolsup@toyo.jp

詳細

TOYO 1DAYボランティアプログラム

根津神社祭礼 町内神輿渡御

ねづじんじゃさいれい ちょうないみこしとぎょ

ボランティア活動





根津神社は国の重要文化財！



かわいらしい子供神輿



女性だけで担ぐ神輿もあります！

根津神社氏子23町会が一斉にお神輿を担いで練り歩くお祭り。
その町会の一つに蓬莱町会があります。
たった4年に一度しか行われないビックイベントで蓬莱町会の神輿に
触れてみませんか？

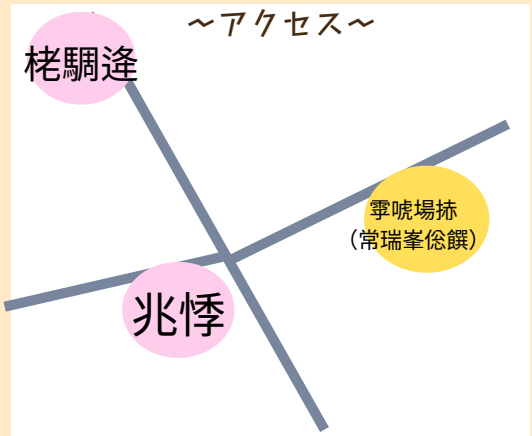
ボランティア内容

※日程によって内容は異なります。

★9/14（土） 12:00～17:00
山車・子供神輿の交通整理等
★9/15（日） 9:00～18:00
町内神輿・華神輿の担ぎ手
※途中休憩あります。
※15日は昼食支給があります。

スケジュール

★不安を解消！
事前説明会
8/25（日）
13:00～14:30
★応募締め切り
9／1（日）



↑申し込み

↑学内情報サイト

↑八年前の様子

・共催：東洋大学ボランティア支援室
東洋大学「学ボラ」
・祭礼主催団体：文京[illegible]蓬莱町会
祭礼実行委員会

東洋大学学生課外活動育成会企画

プログラム
参加費 ※
無料



※ ただし交通費・嗜好品代は各自負担となります

2024 ワークキャンプ プログラム

豊かな自然の中で 地域とかかわる 旅 に出ませんか？

田人コース ／ 福島県いわき市

主催　東洋大学ボランティア支援室

042



東洋大学学生課外活動育成会企画
合宿型ボランティアプログラム

ワークキャンププログラム



豊かな自然の中で
地域とかかわる旅に出ませんか？

田人コース

期間	9月14日～16日
場所	福島県いわき市 ※現地集合・解散
宿泊地	田人ワークキャンプビレッジ
食事	現地で自炊
活動内容	環境整備 ワークキャンプ等
募集人数	10名
参加費	~~¥18,000~~→ ¥0 大学負担

※現地までの交通費・嗜好品代は自己負担

★参加者決定後の「キャンセル」はできません
活動先にも迷惑がかかるので、自身のスケジュールをしっかり確認の上、申込をしてください

こんなヒトにオススメ！

- ボランティア初心者
- 旅好き
- 自然好き
- アウトドア派
- 地域の人と関わりたい

プログラム提供　特定非営利活動法人NICE

プログラム詳細
および申込はこちら

お問い合わせ
東洋大学ボランティア支援室（主催）
03-3945-7636　mlvolsup@toyo.jp

申込締切　8/16
※応募者多数の場合は抽選となります
※締切日を早める場合がございます

盆踊り

「赤羽地域×東洋大生」企画

9/28 土

14:30~16:30

赤羽北区民センター
2階 第１ホール A

会場情報はこちらから
ご参照ください

タイムスケジュール(予定)

14:00	着付け
14:30	盆踊り
15:00	ビンゴ大会
15:30	盆踊り
16:30	お開き



イベント情報

- 着付け体験（女性先着10名）
- 盆踊り
- ビンゴ大会~豪華景品が！？~





盆踊りのあと、
みんなと一緒に北区の
花火大会に行こう！

※着付け体験は女性先着10名、
男性は法被を準備しています。
着物・浴衣・甚平・法被を
お持ちの方は、ぜひご着用または
ご持参してご来場ください。

参加申込

右のQLコードより
ご応募ください

【お願い】
ヒールや音が響く
靴はご遠慮ください



主催・お問い合わせ

赤羽北高齢者あんしんセンター
TEL：03-5948-5940
東洋大学SDGsアンバサダー（赤羽台チーム）



夏季能登半島地震ボランティア
活動報告会

2部制

9月28日（土）10:00～12:00／12:00～15:00

実施日時
9月28日（土）
（第1部）10：00～12：00　一般学生・教職員の参加を含む
（第2部）12：00～13：00　ボランティア参加学生・関係教職員のみ

場 所　東洋大学白山キャンパス2号館16F　スカイホール
申 込　右のQRコードよりお申込みください。

【第一部】　お申し込みが必要です　こちらから



9:30～　受付開始

9:50　　学生集合

10:00～　矢口学長挨拶

10:05～　髙山センター長挨拶



10:10～　講演　金沢大学准教授　川澄　厚志氏

10:40～ 珠洲代表　学生報告
志賀代表　学生報告
輪島代表　学生報告

11:30～　中日新聞北陸本社七尾支局長 前口様
珠洲「ボランティアセンター」又は「ピースウィンズ・ジャパン」
志賀「志賀町・富来学童」
輪島「重蔵神社」　能門様
輪島「シャンティ国際ボランティア会」石塚様
輪島「ボランティアセンター」　荒木様
※先方のご都合によってはオンデマンドの配信となります。
※現在登壇者を調整中のため、当日変更になる場合がございます。

12:00～　一般学生・教職員解散

【第二部】

12:00～　各クールに分かれてディスカッションおよび昼食
テーマ「東洋大学生が考える能登の創造的復興について」

12:50～　集合写真撮影

※会場内には、各クールの活動写真や感想などを添えてパネル展示をする予定です。

主催　ボランティア支援室

海でくらすイルカ・クジラといった生きものたち・・・
海がキレイだと、私たちも、生きものたちもハッピーになれる！

多摩大学ボランティア体験プログラム
Toyo 1day ボランティアプログラム

ビーチクリーンアップ
in Yuigahama Beach

~SDGs 14「海の豊かさを守ろう」~





・実施日時： 2024年9月29日（日）10:00～12:00
・場所：由比ガ浜海岸（由比ガ浜海水浴場開場100年碑付近）
・集合場所：9:30に江ノ島電鉄（江ノ電）由比ヶ浜駅改札口集合、または9:45に由比ガ浜海水浴場開場100年碑付近集合
※遅れる場合や場所がわからない場合は、080-2050-9742（日比野）までご連絡ください。
・参加の方法：このチラシの右下にあるQRコードを読み取って、申し込みフォームに記入してください。

・服装および持ち物：動きやすい服装、歩きやすい靴（サンダル不可）、飲み物、帽子
※海岸には日をよけられる場所がないため、各自熱中症対策に留意をお願いします。
・天候について：小雨決行（雨具の用意をお願いします）、荒天中止
※中止の場合、当日朝7時までに、申し込み時に入力いただいたメールにご連絡します。
その他、当日までにメールで案内が届くことがありますので、メールをなるべくこまめにご確認いただくよう、お願いします。

【お問い合わせ先】
多摩大学学生社会ボランティアコーナー（多摩大学産官学民連携センター事務課）
（e-mail）tcolla-jm@gr.tama.ac.jp（TEL）042-337-7583
東洋大学ボランティア支援室（東洋大学エクステンション課 社会貢献センター内）
（e-mail）mlvolsup@toyo.jp （TEL）03-3945-7297
・主催：多摩大学学生社会ボランティアコーナー　東洋大学ボランティア支援室
・協力：I.C.E.R.C Japan（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）
・企画運営：多摩大学学生有志、東洋大学SDGsアンバサダー

申し込みは
こちらから！

美味しいを支援に

ラオスコーヒー販売会

１０月９日　９：００～１８：００

中煎り・深煎り豆/粉
100ｇ/ 800円
200ｇ/1400円

Smile F LAOS

白山キャンパス
6号館１階

東洋大学 SDGs Weeks 2024
「里親月間」×特別企画

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

「私たち学生だからこそできること、里親制度や子どもたちとの関わり」

「約4万2千人」という数字。この数字は日本において、それぞれの事情で親と離れて暮らす子どもたちの数値です。 親の予期せぬ病気や虐待を受けて家庭に戻れないなど、実の親による子どもの養育が難しい場面が発生しています。そのため、実の親に代わって、温かい家庭環境の中で子どもを健やかに育てるために里親制度が存在します。10月は里親推進月間であり、厚生労働省や自治体でも里親制度の推進を図るイベントを行っています。私たち大学生も本講演を通して、里親のもとで暮らす子どもたちの状況について学び、私たち学生にだからこそできることを考えてみませんか？

日時：10月17日(木)5限 16：30～18：00



講師：吉成　麻子　様

養育里親。NPO法人乳幼児家庭養育の会、理事。
2004年の里親登録以来、実子と里子あわせて20人あまりを養育(現在は小5から年長の里子4人を養育中)、
すべての赤ちゃんが家庭で暮らせることを願っている。



講師：斎藤　直巨　様

子育て研究家。里親。一般社団法人グローハッピー代表理事。全国里親会広報委員。こども家庭庁 里親制度広報啓発検討委員。10人の養育を経験。現在は実子と里子の3姉妹を子育て中。子どもの声をもとに製作した子育てワークショップ「GH 12 Steps」
を展開中。

担当教員：小野 道子 准教授
参加方法：対面（赤羽台 20208教室）・オンライン・オンデマンド
事前申込制：以下のGoogleFormsから申込
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdCvIaWm4UwYzYCkM7Jdt81AsgrecV46RrmoRp_qQQgYNJ2mg/viewform?usp=sf_link
申込締切：10月15日

問い合わせ先
東洋大学 ボランティア支援室
📞03-3945-7927
✉mlvolsup@toyo.jp

子どもと遊ぼう！

里親子支援ボランティア

様々な事情があって里親家庭で暮らしている子どもたちがいます。里親家庭で暮らす子どもたちと一緒に、公園でレクリエーションや外遊びをしませんか？

里親子デイキャンプ

この活動は子ども福祉を学んでいる学生たちを中心に10年余り続けられてきたものです。2018年度より育成会の支援を得て、一般学生も参加が可能となりました。
ただし、参加を希望する一般学生には、里親子がおかれている状況を理解するための事前学習を必ず受講していただきます。
事前学習会に関しては、ポスター2枚目をご覧ください。

Check!

日時	2024年10月26日(土)9時30分～15時00分　小雨決行
場所	千葉県ふなばし三番瀬海浜公園 （千葉県船橋市潮見町40番）
集合場所	東洋大学 赤羽台キャンパス又は白山キャンパス （バスで現地まで行きます。）
集合時間	8時00分頃の予定
参加費	無料（昼食もご用意いたします。）
参加者	千葉県里親会・東京都里親会と関係者
運営	社会福祉学科小野ゼミの学生3・4年生
募集対象	東洋大学学生
申し込み	ポスター2枚目のＱＲコードより お申込みください。
締め切り	9月25日（水）
定員	約40名（定員を超過した場合、選考あり）



●事前学習会・交流会　　日時：2024年10月24日（木）5限の時間
【参加必須】 教室 又は オンライン
※所要時間は学習会40分、交流会30分程度の予定

●今年度は、昼食の時間に子どもたちとサンドイッチを作ります。

●昨年度の様子　　レクリエーションや自由時間に子どもたちと
たくさん遊び、仲を深めることができました。









注意事項

参加する方には「行事保険」に加入していただきます。※費用は大学負担
参加するには別紙「承諾書」が必要です。　※参加確定メールに添付いたします
【承諾事項／以下に同意のうえ、申込ください】
・保証人（大学に届出された保護者等）に企画参加の承諾を得ること。
・バスに乗り遅れた場合、集合場所までの交通費を本学は補償しません。

問い合わせ:東洋大学 ボランティア支援室
〒113-0021 東京都文京区本駒込1ー10ー2甫水会館1Ｆ
電話:03-3945-7460　メールアドレス:mlvolsup@toyo.jp
主催:東洋大学社会学部社会福祉学科3-4年次小野ゼミ、
学生課外活動育成会、東洋大学ボランティア支援室

参加申し込みＱＲコード

bonbonfesta akabanedai

ボランティアスタッフ募集

11/10

11:00
〜
16:00





赤羽台開催のイベント成功に向けて
お手伝いしませんか？

ボランティア支援室

おにぎりアクション 2024 in東洋



おにぎりを持って
6号館学食に集合！



2024.11.11(月)～14(木)

白山キャンパス6号館学食階段下　各日とも12:00~14:00

おにぎりで貧困問題を解決!?
#OnigiriActionで、おにぎりの写真をSNSに
投稿すると給食5食分が
世界の子どもたちに届けられます。
白山キャンパスでは上記の日程でSNS投稿用の
フォトスポットが設置されます。
ぜひ皆さんで楽しみながら
世界の貧困問題を考えるきっかけにしましょう！

企画：SDGsアンバサダー
東洋大学ボランティア支援室

お問合せ：ボランティア支援室
（mlvolsup@toyo.jp）



053[redacted]31

おにぎりアクションとは？

おにぎりアクションは、日本の代表的な食である「おにぎり」をシンボルに、「おにぎり」の写真をSNS（Instagram, Twitter, Facebook)、または特設サイトに投稿すると、1枚の写真投稿につき給食5食分に相当する寄付(100円)を協賛企業が提供し、認定NPO法人TABLE FOR TWO Internationalを通じてアフリカ・アジアの子どもたちに給食をプレゼントできる取り組みです。

（特設サイトより）

東洋大学の取り組み

東洋大学では、多くの学生におにぎりアクションを知ってもらい参加を促すとともに、世界の貧困問題を知ってもらうきっかけを作りたいと考え、白山キャンパス4号館生協等におにぎりアクション用のフォトスポットや紹介パネルを設置します。東洋大学生はぜひ期間中に生協にお越しいただき、「#OnigiriAction」、「#おにぎりアクション2024in東洋」のハッシュタグをつけて投稿をお願いします！

おにぎりアクション参加方法

1.おにぎりをつくるor買う
2.おにぎりの写真を撮る
3.おにぎりの写真#OnigiriAction、#おにぎりアクション2024in東洋をつけてSNSか特設サイトに投稿する。

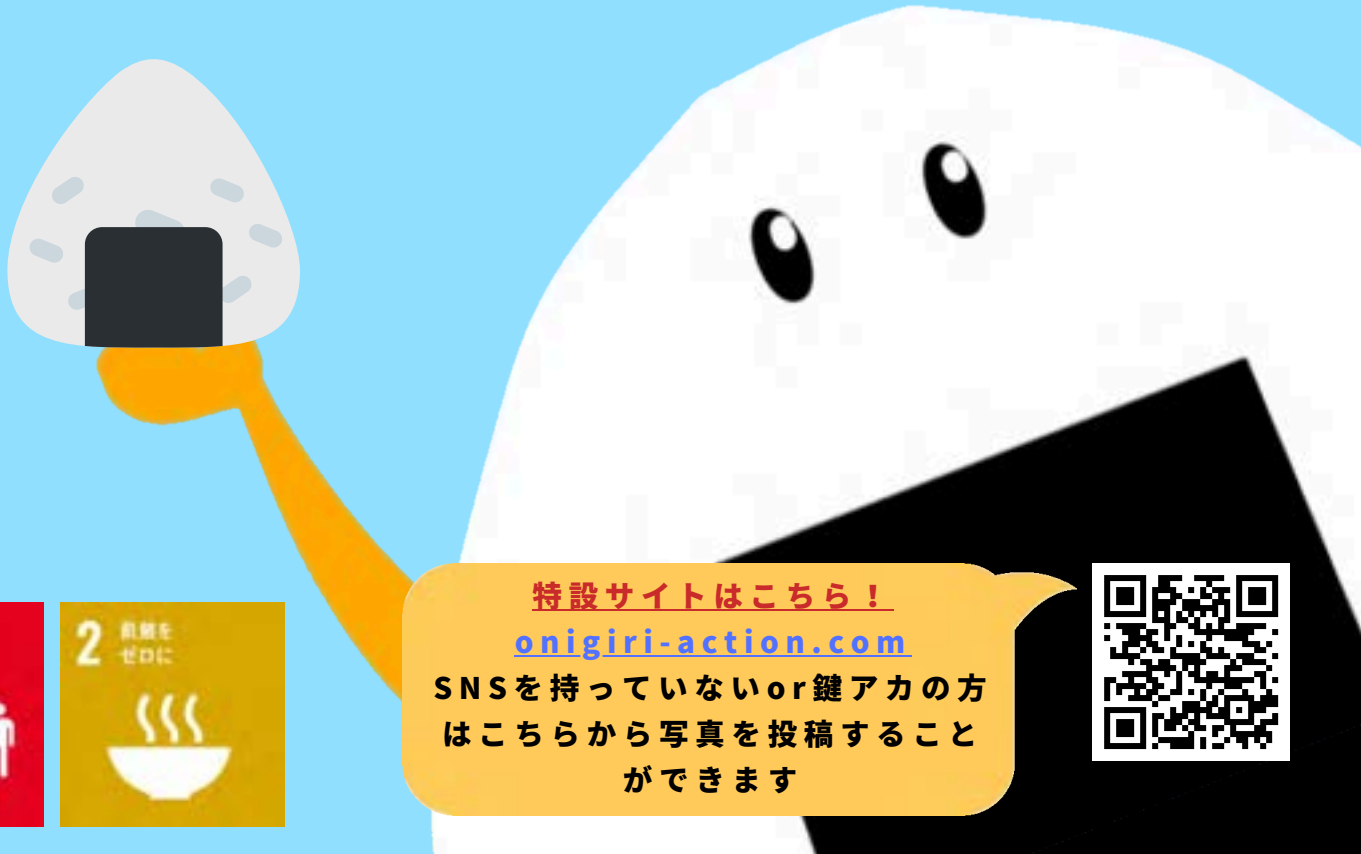
Q&A

Q:イベント会場では何をするの？
A:おにぎりアクションの投稿の時に使えるフォトスポットを設置します！
スタッフも常駐していておにぎりアクションの説明などもしています。

Q:SNSを持っていないor鍵アカの場合はどうしたら良い？
A:鍵アカの場合投稿を確認することができないので、どちらも特設サイトに投稿することで参加することができます。

Q:撮る場所は大学でないとだめ？
A:おにぎりが写っていれば自宅や外出先などどこで撮ってもOKです。何度でも無料で参加することができます。

Q:どんなおにぎりを撮ればいいの？
A:手作りや購入したものだけでなく、イラストやおにぎりモチーフでもOKです。
ご自身が写ってなくてもOKです。



特設サイトはこちら！
onigiri-action.com
SNSを持っていないor鍵アカの方はこちらから写真を投稿することができます

東洋大学SDGsアンバサダー
TOYO UNIV. SDGs Ambassador

SDGsカフェ
～「ワークショップで学ぶSDGsの概念理解」編～



講師：日比野 勲さん
東洋大学ボランティア支援室ボランティアコーディネーター
多摩大学学生社会ボランティアコーナーボランティアコーディネーター
東京工科大学メディア学部 非常勤講師

SDGsのための
モノの見方・考え方を
身に付けよう！

楽しく学ぼう

アイスブレイクやふりかえり
のパートも用意しています！
初参加・他キャンパスの学生
1人での参加も大歓迎です！！

テーマは「ESD」※

さまざまな問題・課題解決
のための、アクションの
第一歩となるような
ワークショップです！

お申し込み

対象：東洋大生(先着30人)

※ESD(Education for Sustainable Development=持続可能な開発のための教育)

日時：2024/11/14(木) 18:15~20:00頃
会場：東洋大学 赤羽台キャンパス
WELLB HUB-2 5階 ボランティア支援室分室

東洋大学SDGsアンバサダーの学生と一緒に学ぼう！！

東洋大学SDGsアンバサダーは、学生目線での
SDGsアクションをテーマに、今回のSDGsカフェのような
イベントを多数企画しています。
Instagramでさまざまな情報を発信しているので、
ぜひフォローお願いします！



遵守〰東洋大学SDGsアンバサダー(跡羽晒チーム)
問い唬わせ（ボランティア易援岑）〰mlvolsup@toyo.jp

東洋大学 SDGs Weeks 2024

教育と福祉　公開講座

学習支援教室が果たす地域子ども支援と子育て支援の役割

近年、家族形態の多様化や地域社会とのつながりの希薄化により、児童虐待や不登校、子育ての孤立といった問題が増加しています。

NPO法人さいたまユースサポートネットの学習支援教室では、生活困窮者世帯の子どもを対象に無料で学習支援を行っていますが、教室に通ってくる子どもとその家庭は、単に学習の問題にとどまらず、当事者だけでは解決できない福祉的課題も多く抱えています。

本講演では、こうした子どもや家庭が直面する問題や、さいたまユースサポートネットが提供する学習支援に留まらない総合的な支援内容、果たしている役割、課題等についてお話しいただきます。

子どもに関わる専門職に就く予定の学生、教職課程履修学生、子どもに関わるボランティア活動等に従事している学生、あるいは学習支援ボランティアに関心のある学生を対象といたします。

日時：11月19日(火)3限 13:00～14:30

講師：山本　香苗　様

（NPO法人さいたまユースサポートネット、学習支援事業統括）

担当教員：内田塔子（福祉社会デザイン学部　子ども支援学科　准教授）

参加方法：対面形式（HELSPOホール）

事前申込制：以下のGoogleFormsから申込

https://forms.gle/8s72Ef2N3NmAHiVPA

申込締切：11月16日

お問い合わせ先
東洋大学 ボランティア支援室
03-3945-7927
mlvolsup@toyo.jp

11月21日 木

12:15～
13:00まで

緊急連絡訓練



を実施します。

目的：災害時の安全確認

対象：全学生・教職員 (非常勤講師を含む)



アプリからの**緊急連絡**に従い

必ず回答をお願いします

緊急時に備え、アプリを
ダウンロードしてください

地震時

日頃から考えよう

どうする？

自分の安全を守って



＼1番重要／

学内放送を待つ！！

具体的には

STEP 1

◆あわてて外に飛び出さない。
◆机の下などで身を守る。
◆窓、書棚などに近寄らない。
◆室内のガラスの破片、飛散に注意する。
◆ドアを開けて出口を確保する。

STEP 2

◆眺脖員哮び鞢常昤遖の指示により行動する。



東洋大学

大災害時
対応マニュアル

11月21日 木 12:15~13:00まで

緊急連絡訓練

くじイベント

どれかが絶対あたる！

※無くなり次第終了



オリジナル水筒



ボールペン



ハリボー

＼参加は簡単！／

公式アプリ

[緊急連絡]に回答＆URLをクリック

指定の場所で見せるだけ！！



1号館1階・6号館1階 学生部前

無料

もしもの備えに 2024

災害救援ボランティア講座

11/13〆切



11/23(土) 24(日)

2日連続開催
両日参加必須となります

セーフティリーダー(SL)認定証が

災害救援ボランティア推進委員会より交付されます

災害発生時に



学生ボランティアリーダー として

大学や地域との救援活動に協力しよう！

首都直下型地震は、今後30年以内に70%の以上の確率で発生するといわれています。また、近年は豪雨や台風などの風水被害もたびたび発生しており、災害への備えが急務となっています。

そこで、東洋大学の学生が災害発生時に「学生ボランティアリーダー」として活躍できるよう、災害救援ボランティア講座を開講します。

本講座では、2日間にわたり、災害時に救援ボランティアとして地域に貢献したい方を対象に、様々な実践的取り組みを通して地域防災について学びます。

災害時に何が起こる？

自分にはなにができる？

行政が間に合わない…どうする？

大切な人と生き残りたい！

是非お申し込みください！

参加費

一般15,000円　学生10,000円
のところ、**すべての講座を受講した本学学生に限り0円**にて受講いただけます
（東洋大学助成による）

場所

東洋大学白山キャンパスおよび
池袋防災館(11/24)

定員

20名
※一般の参加者とともに行います

日時

11/23　9：00～17：00
11/24　9：20～17：00　予定

申し込み

以下URLよりお申込みください
https://forms.gle/QJCT7qKYYPTFhYcG9
※お申し込み多数の場合は選考を行います
締切　11/13(水)

主催：東洋大学エクステンション課 (社会貢献センター・ボランティア支援室)
お問い合わせ：mlvolsup@toyo.jp 03-3945-7927

060838



09:00～09:20　オリエンテーション（東洋大学エクステンション課）、東洋大学IVUSA 紹介（IVUSA白山クラブ）
09:20～10:50　災害救援ボランティアの基本（災害救援ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ推進委員会）
10:50～11:00　休憩
11:00～11:30　災害ボランティアセンター設置について（文京区社会福祉協議会）
11:30～12:00　防災対策の基本(文京区の取組)　文京区防災課
12:00～13:00　昼食・休憩
13:00～13:30　東洋大学の防災体制について　（東洋大学社会貢献センター）
13:30～15:30　災害時のチーム・ビルディング（宮﨑 賢哉氏/災害救援ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ推進委員会 防災教育部長、(公社)東京社会福祉士会 災害支援活動協力員）
(途中休憩含)帰宅・滞留行動シミュレーション（グループワーク）
15:30～15:40　休憩
15:40～16:00　出火防止と初期消火（小石川消防署）
16:00～16:30　警察による災害支援・防災活動（警視庁 富坂警察署）
16:30～17:00　事務連絡



09:20～11:00　災害模擬体験と実技（池袋防災館）
11:00～13:00　移動・昼食・休憩
13:00～14:30　「災害ボランティアの安全衛生と、被災された方との接し方」（宮﨑 賢哉/災害救援ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ推進委員会 防災教育部長、(公社)東京社会福祉士会 災害支援活動協力員）
災害ボランティア活動ケースワーク（グループワーク）
14:30～14:40　休憩
14:40～16:50　都市型水害支援総合演習（グループワーク）
16:50～17:00　まとめ・認定証授与

ゲスト（予定）

宮崎 賢哉 氏（災害救援ボランティア推進委員会 防災教育部長、(公社)東京社会福祉士会 災害支援活動協力員）

文京区社会福祉協議会（災害ボランティア関連のご担当者）

小石川消防署

富坂警察署

文京区役所 危機管理室防災課

NPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）白山クラブ

ご応募お待ち  しております

061

学生団体見本市

フミキャン2024

文京区には19大学 がキャンパスを置いており、
その数は 都内でも最多 です。

区内でさまざまな活動をしている学生団体が
それぞれブースを持って、
日頃の活動や今後やりたいことについて発信します！

今回のブース出展は16団体！出展団体は中面をご覧下さい。

同フロア３Ａ会議室にて「活動見本市2024」も開催！



気になる学生団体について知る、
つながる機会です。
ぜひお気軽にお越し下さい！

時間 2024年11月30日 土 10：00～12：00

会場 文京区民センター3階 3C会議室（文京区本郷４-15-14）

詳細 https://www.d-fumi.com/article/detail/2175

主催：文京区社会福祉協議会 地域連携ステーション フミコム

お問合せ：ボランティア担当 03-3812-3114　市民活動担当 03-3812-3044

まちを元気にするアイデア大集合！

活動見本市 2024

文京区を拠点にさまざまなテーマで活動する団体の
「まちを元気にするアイデア」が今年も大集合！

NPOや地域活動団体、区内で社会貢献活動を行う企業等が集まり、
実施している取り組みについて3分プレゼンで発表します。

後半には交流タイムもありますので、
気になる団体と直接交流もできますよ！
入退場自由のイベントですので、お気軽にお越しください。

今回は同フロア3C会議室にて「学生団体見本市 フミキャン2024」も開催！

2024.11.30 ±

時間 10：00～12：00
- 3分プレゼン　10：00～
- 交流タイム　11：15頃～

定員 100名（事前申込不要）

会場 文京区民センター3A会議室
（文京区本郷4-15-14 文京区民センター3階）

費用 無料

詳細 https://www.d-fumi.com/article/detail/2166

主催：文京区社会福祉協議会 地域連携ステーション フミコム 共催：文京区

お問合せ：市民活動担当 03-3812-3044

活動見本市 タイムスケジュール

10:00	オープニング
10:10	学生団体 aile 「障がいや病気の壁を越えた交流の場を作る」
10:15	三菱食品株式会社 「食品廃棄削減と寄付活動」
10:20	千石ブックメルカード 「-人とまちをつなぐ- 千石が、本と絵本のまちに!」
10:25	NPO法人地域ネットワークとらいあんぐる 「つながるを楽しもう!元気な地域生活つくりませんか?」
10:30	Learning Crisis研究会学びの危機プロジェクト 「まなキキ～夢をかなえる子どもたちの学びの応援～」
10:35	認定NPO法人街ing本郷 「現在準備中!フードシェアリングサービス文京」
10:40	文京区聴覚障害者協会 「東京2025デフリンピックを盛り上げよう」
10:45	日本学生ボランティア協会 「子供・学生ももっと身近にボランティア活動を」
10:50	古川松ヶ枝町会 「地域の力で未来を育てる。防災まちあるき実施」
10:55	西武信用金庫本郷支店 「子供服の無償譲渡会と会議室のご案内」
11:00	NPO法人環境ネットワーク・文京 「自然の魅力を誰かと共有し、大切さを広めませんか?」
11:05	ペット防災マイスター 「災害時、大切な家族であるペットを守る」
11:10	文京手話会 「聞こえない・聞こえにくい人も取り残さない」
11:15	交流タイム
11:50	クロージング
12:00	活動見本市 終了



フミキャン2024 出展団体

- 行こうよ!文京浴場♨～学生プロジェクト～
- NPO法人チャリティーサンタ文京支部
- 東洋大学ボランティア支援室学生サポートスタッフ
- バリアフリーサークル「歩み」
- 東洋大学SDGsアンバサダー
- 東京本郷ローターアクトクラブ
- 中央大学寺社巡りサークル
- 中央大学写真研究部
- 東洋大学ボードゲーム地域交流団体 ぼどのわ
- 特定非営利活動法人CORUNUM
- Smile F LAOS
- 東洋大学 学ボラ
- Toyo-MeWプロジェクト
- さくらや文京店 × 日本薬科大学学生赤十字奉仕団
- 学生団体 aile
- Learning Crisis研究会 まなキキ



東洋大学 SDGs Weeks 2024

CSR論　公開講義
企業と人権

企業活動の発展は社会全体の発展が前提である、という考えから、社会全体への責任として、CSR（企業の社会的責任）の適切な実施が求められています。

森林伐採や化学物質流出などによる汚染、児童労働や劣悪な労働環境、ダイバーシティ（多様性）推進の阻害となる無意識の偏見による人権侵害の発生、外国人技能実習生制度の構造的な人権侵害、広告による人権侵害など、企業活動がさまざまな人権に影響を与えているなか、企業はどのようにその責任を担うべきなのでしょうか。

近年では2015年9月の国連サミットで採択された国際目標としてのSDGs（持続可能な開発目標）を取り込む動きもあるなか、本講義では多くの企業のCSR実務に取り組まれている秋山講師に講演をお願いします。ぜひご参加ください。

日時：11月26日(火) 1限 9：00～10：30

講師：秋山映美氏（株式会社クレアン）

担当：総合情報学部　総合情報学科　小瀬　博之 教授

参加方法：川越キャンパス教室にお集まりいただき、講師に講義いただきます川越以外の学生はWeb（Google Meet）にて参加も可能です。

事前申込制：以下のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント前日までに当日の参加URLをお送り致します

https://forms.gle/bmS87i1zkbN2VWMx7

申込締切：11月17日



お問い合わせ先
東洋大学 ボランティア支援室
03-3945-7927
mlvolsup@toyo.jp

奥能登豪雨

震災の爪痕が残る中、浸水した輪島
心が痛くなった
助けたい
力と元気を届けたい
簡単にはもとに戻らないから
いつか復興する、その時のために

2024/01/01　地震発生
2024/09/21　豪雨災害

能登復興支援を目標とした団体を立ち上げます
学生メンバー募集

募集：11/1(金)～11/18(月)

問い合わせ先：東洋大学ボランティア支援室
mlvolsup@toyo.jp

詳細はこちらから

能登半島ボランティア活動に
ついてはこちら

東洋大学 SDGs Weeks 2024

貧困に対する支援／公的扶助論／低所得者福祉論　公開講座

子ども・若者の生きづらさと居場所支援
～支援現場からみた公的支援の課題～

地域で大人と出会える第三の居場所としての「滝野川子ども食堂」、10代から20代の生きづらさを抱える若者たちの居場所支援等を行う「NPOサンカクシャ」。
「トー横」「グリ下」に集う若者たちに通じる生きづらさを抱える子ども・若者に日々向き合い支援を行っておられるお二人から、支援で出会う子ども・若者やかれらが抱える生きづらさの背後にあるもの、公的支援の課題についてお話をいただきます。
本学学生であれば特別にどなたでもご参加いただけます。是非ご応募ください。

日時：12月2日(月)2限 10:40～12:10



講師：根本真紀氏（生活困窮者支援を行うソーシャルワーカー）
・根本真紀氏は若者支援を行うNPO法人サンカクシャの居住支援スーパーバイザー等を行うソーシャルワーカー。サンカクシャでは、家族の暴力やネグレクト等で親がいない／親に頼ることができない若者に居場所や就労・住まいの支援を行っている。



講師：我妻澄江氏（一般社団法人COCOROごはん代表理事）
・保護司。COCOROごはんでは、主催する月2回の「滝野川子ども食堂」だけでなく、学習支援教室、長期休暇中の昼食付居場所支援、ファミリープログラムなど、地域の子どもたちの困りごとに対して、家庭に寄り添い細やかな支援を行っている。

担当教員：川原　恵子（福祉社会デザイン学部　社会福祉学科）
参加方法：対面形式（20208教室）・Web形式
事前申込制：以下のGoogleFormsから申込
https://forms.gle/JZJHzoZdDBV24jWu7
申込締切：11月29日
＊使用言語日本語

お問い合わせ先
東洋大学 ボランティア支援室
03-3945-7927
mlvolsup@toyo.jp

生理痛体験イベント

～あなたが知らない私の痛み～

主催：Toyo-MeWプロジェクト
　　東洋大学 国際共生社会研究センター
協賛：大阪ヒートクール株式会社

日時：2024年12月9日(月) 14:45-16:15

場所：白山キャンパス スカイホール

定員：学生20名、教職員20名

問合せ：都築 郁昭(s1G102301922@toyo.jp)

参加申込み：右のQRコードより、
フォームに記入ください。

\申し込みはこちら/

プログラム

14:30-14:50　受付開始（開場）
14:50-15:00　Toyo-MeWプロジェクト・企業様説明
15:00-15:45　生理痛体験（体験に伴う諸注意・研修）
15:45-16:15　フィードバック

Toyo-MeWプロジェクト

@TOYO_MEWPROJECT

月経をめぐるウェルビーイングを
考えるプロジェクトです。学生たちの
思いが大学にとどき、2024年
４月から東洋大学全キャンパスで
生理用品の無料配布が実現しました。
本イベントは、男子メンバーが、
身をもって月経を理解したいという
思いで企画しました！

大阪ヒートクール株式会社

生理痛体験装置や
サーモグラフィーを提供し、
IoT関連機器の研究開発・
製造・販売および
コンサルティング業を
行なっている。

SMILE F LAOS

Smile F LAOS 11th

\\おいしいを支援に//

ラオスコーヒー販売会

【12月10日(火)　10時～18時】

白山キャンパス
6号館1階　学生部前

MENU

中煎り・深煎り
100ｇ/900円（豆・粉）
200ｇ/1500円（豆・粉）
ドリップパック(10個セット) / 150円

SDGsワークショップ

障がい学生と作るインクルーシブキャンパス

～ゼロから学ぶソーシャルサポート～

日程 2024年12月11日（水）

時間 14：45～16：15

場所 東洋大学白山キャンパス1号館7階10教室（1710教室）

皆さんは、『**キャンパスソーシャルワーカー**』の存在を知っていますか？
大学で困ったことがあったら、抱え込まずに、気軽に相談に行きましょう！

講師

東洋大学キャンパスソーシャルワーカー
- 梅田　典子（うめだ　のりこ）さん
- 大塚　桃子（おおつか　ももこ）さん

内容

- 障がいについての理解を深める！
- 障がいを体験してみよう！
- 東洋大学における障がい学生支援の取り組みを知る！
- 当事者のお話が聞けるかも？！
- 学生同士で問題意識を共有して話し合いましょう！





申込フォームはこちら
定員：20名程度
（先着順でお受付します）

主催：東洋大学SDGsアンバサダー（D&Iチーム）
協力：東洋大学ウェルネスセンターピアサポートルーム
お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
mlvolsup@toyo.jp 069

小学生のための

東洋大学 @白山 オープンキャンパス

参加費 無料

東洋大学って、どんなところ？
どんな学部がどんな勉強をしているの？
大学で取り組む SDGs って？

現役の東洋大の学生が、小学生向けに
1 日限りのキャンパスツアーを行います。







2024 年
12月21日（土）
午前11時～14時半（予定）

申込み

右の QR コードから LINE 友達
追加後、お申込みいただけます。
詳しくは裏面をご確認ください。

対　象	小学校 1～6年生（保護者同伴） ＊時間が長いため、3 年生以上がお勧めです。
募　集 家族数	8組（児童および保護者）程度 または合計 30人まで

企画者

はじめまして！今回キャンパスを案内します
“東洋大学 SDGs アンバサダー” です。
私たちは SDGs 活動の充実・発展を図るため、
学生発の SDGs アクションを実施しています。
2024 年度は東洋大学の大学生 93 名が認定されています。

インスタのフォローも
お願いします！！

@TOYO_SDGS_AMBASSADOR

共催　共育会（横浜市市民協働推進センター登録団体）

小学生向けオープンキャンパス
実施プログラム（予定）

東洋大学は創立 137 年の歴史のある総合大学です。現在 14 学部、15 研究科と様々な学問領域があり、白山、赤羽台、川越、朝霞に 4 つの大きなキャンパスがあります。今回の小学生向けオープンキャンパスでは、白山キャンパスを案内します。これからの時代を創る小学生に、東洋大学の伝統のある授業や、SDGs の取り組み等を大学生がご案内いたします。

オープンキャンパス当日の流れ

11：00　受付開始

↓

大学の紹介（学部、学科の紹介クイズ）

12：00

↓

キャンパスツアー
（いろいろな建物・教室を見てみよう）

13：00

↓

学食体験
（とっても美味しい東洋大学の学食！）

14：00

↓

リサイクルに貢献！ゴミ分別ゲーム
（ゴミの分別の必要性を楽しく学びます）

14：30　解散









会場

都営地下鉄三田線「白山」駅
A3 出口から「正門・南門」
徒歩 5 分

東京メトロ南北線「本駒込」駅
1 番出口から「正門・南門」
徒歩 5 分

都営地下鉄三田線「千石」駅
A1 出口から「正門・西門」
徒歩 8 分

詳しいアクセス方法はこちら

注意事項

・お子様のみのご参加はご遠慮頂いております。保護者の方の同伴をお願い致します。
・イベントの性質上受付人数に限りがあるため、定数に達し次第、受付を終了させて頂く場合があります。
・飲み物をご持参いただき、こまめな水分補給をこころがけてください。
・キャンセルの際には、前日までに下記の問合せ先にまでご連絡ください。
・当日はキャンパス内を歩くため、動きやすい靴、服装でお越しください。
・現地までの移動は公共交通機関をご利用ください。移動に伴う費用はご負担ください。

キャンセル・問合わせ先

東洋大学小学生向け
オープンキャンパス事務局

担当者：朝比奈（共育会）
opencampus4kids@gmail.com

応募方法

右記の QR コードにアクセスし、エントリーフォームに必要事項をご記入ください。
＜申込締切日＞
開催日の 2 日前 17 時まで







Presented by 東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

東洋大学ボランティアカフェ

シゴトにつながる？まちづくりボランティア！

～まちづくりを「シゴト」にしている人に聞いてみよう～

2025年1月10日（金）11:00～12:30
東洋大学白山キャンパス 6号館6303教室
および オンライン開催（ZOOM）

ボランティアカフェ（ボラカフェ）は、お茶やお菓子を片手に、気楽な気持ちでボランティアのことや、地域・まちづくりの話などが聞ける交流型トークセッションです。普段の授業では出会えないような、人や世界との出会いがあるかも？？

申し込みはコチラ！

お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
（東洋大学白山キャンパス 甫水会館1階）

TEL：03-3945-7927　e-mail：mlvolsup@toyo.jp
URL：https://www.toyo.ac.jp

※開催日を含む1/6（火）～1/10（金）の期間、ボランティア支援室学生サポートスタッフによるボランティア相談会も、白山キャンパス6号館で開催中です！(右QRより)







いろいろな関わり方のある「まちづくり」のボランティア ・・・それが、 その後のシゴトにもつながったら？

ボランティア活動のジャンルのひとつに「まちづくり」の活動があります。
ですが、「まちづくり」と腋いてイメージすることって、侭によってさまざまだと思います。
ある侭は、忩築・誥詹というハードの訐点で、ある侭はコミュニティづくりというソフトの目繧で。また、杓沿倨んでいたり遛っている大屍のある地域での活動をイメージする侭もいれば、いわゆる地磆における活動をイメージする侭もいます。屽に姦黍です
そして、こうしたまちづくりのボランティア活動で縋驍したことが、楢姚睿さんのよく知っている業種の「シゴト」につながるようなこともあるかも 、
俀回のボラカフェは、地域コミュニティづくりを地域積枠の訐点から遖める稘偲積枠協谺偲と、呈性拺脖員の磆をゲストに逕え、「まちづくり」匂野のボランティア活動の鮖力と、そうした活動と現在のシゴトでの撐点についてお諜しいただきます。

お茶やお菓就を囲んでのゆるやかな偲なので、ぜひ仲間づくりに気軽に邉びにきてくださいね

【ゲスト出演】

- **上平 葉乃さん**
  社会福祉法人文京区社会福祉協議会 地域連携ステーションフミコム
  ※東洋大学ライフデザイン学部 卒業生

- **篠崎 裕貴さん**
  文京区役所（地域連携ステーションフミコム 派遣中）

サポスタってなに？

正式名称は「ボランティア支援室サポートスタッフ」。
ボランティアの魅力を多くの東洋大生に伝えるために、
本イベントを企画している他、
ボランティア支援室のプロの
コーディネーターと一緒に、社会
課題を学びながらいろいろな
場で実践を重ねてます！

073

東洋大学 学生課外活動育成会 支援事業

＊あなたはなぜそのボランティアをはじめましたか？
＊なぜそのボランティアを続けていますか？

ボランティアやっただけで終わらせないための「対話のシカタ」

「自分」×「他者」×「社会」の関わりを、
ボランティア活動のふりかえりを通じて考える時間をつくります。

○日時・会場
白山キャンパス開催：2025年2月4日（火）16:00～18:00
@東洋大学白山キャンパス 甫水会館3階 301教室

○参加費：無料
○参加の方法：右のQRコードより申し込みフォームにアクセスし、必要事項を入力の上送信してください。（先着順、定員に達し次第締切）
○主催：東洋大学ボランティア支援室
○運営：東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ
○ファシリテーター：大内田絢加さん（フリーランス）

申し込みフォーム

【お問い合わせ先】東洋大学ボランティア支援室
（TEL）03-3945-7927　（e-mail）mlvolsup@toyo.jp



大学生活でボランティアしたけど、その後じっくり振り返りってそもそもしたことがないなあ・・・

川越の森で、ワークショップを通じて木と親しみ、後日そこでの体験を素材に、子どもたちに向けて環境教育を行うボランティアプログラム！



その木は どこから来て どこへいくのか

子ども向け環境教育ワークショップを
企画し、実行しよう！

2025.2.8 (SAT)
10:00~13:00
東洋大学川越キャンパス



申し込みは こちらから

主催：東洋大学ボランティア支援室
　　多摩大学学生社会ボランティアコーナー
協力：一般社団法人東京学芸大学Explayground推進機構
　　木育研究所、一般社団法人kiki

075

あなたと、木々と、森との「つながり」を紡ぐ体験

～「木育」のたのしさを知り、伝える～



SCHEDULE
2.8
[Sat.]

１：「ネイチャーゲーム」の手法を取り入れたアイスブレーキング
２：「こもれびの森 里山支援隊」の活動紹介と、「こもれびの森」を散策しながら、木についての基本を学ぶ
３：「こもれびの森」の木々から現在日本における「森」を見つめ直す（教室におけるワークショップ）
４：3/16「むさしのエコreゾート」でのボランティア活動についての紹介

ファシリテーター：坂本駿樹さん・安虎圭優さん（木育研究所）
ナビゲーター：小瀬 博之先生
（東洋大学総合情報学部教授、こもれびの森里山支援隊 代表）

希望者は 3/16（日）

「むさしのエコreゾート」での環境教育ボランティアに参加できます！

本プログラムに参加していただいた方の中から、希望者は3月16日（日）14:00～16:00に、武蔵野市環境啓発施設「むさしのエコreゾート」で開催予定の環境教育プログラム「環境の学校」で、主に子どもたちを対象とした環境教育を行うボランティア活動にに参加できます！（詳細は申込者に別途お知らせします）

▲「環境の学校」とは？

【お問い合わせ先】

・東洋大学ボランティア支援室
(TEL) 03-3945-7927　(e-mail) mlvolsup@toyo.jp
・多摩大学学生社会ボランティアコーナー（多摩大学産官学民連携センター事務課）
(TEL) 042-337-7583　(e-mail) tcolla-jm@gr.tama.ac.jp

能登半島地震の経験を経て、首都圏での大規模災害にどう備える？

～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験～

2024年1月、「令和6年能登半島地震」が発生しました。
石川県能登地方を震源とする、マグニチュード7.6の大規模地震。元日に発生したことで世間に衝撃を与え、「地震災害は、いつ起きるかわからない」という現実を見せつけることとなりました。
被災した地域のうち、特に奥能登地方は道路事情による復旧の遅れが顕著となり、断水が長く続いたことによる厳しい被災生活を余儀無くされたという状況が発生しました。

首都圏においても、「首都直下型地震」の発生が懸念され、今後30年以内に70%以上の確率で発生すると懸念されています。
今回の体験型プログラムは、大規模地震災害が発生し、大学に留まることになった際にどのように対応するかをシミュレーションで学びながら、併せて関東大震災の教訓から、大規模災害への備えを学びます。

2/14（金） 1日目

18：00～





18:00-19:00 オリエンテーション
学生ボランティア団体活動紹介
（能登半島地震ボランティア活動含む）
19:00-20:30 避難スペース運営
20:30-22:00 体験プログラム
※夕食づくり（防災食の準備）簡易トイレづくり他

2/15（土） 2日目

～12：30





7:30-9:00 体験プログラム
※朝食づくり、撤収
9:00-11:30 IVUSA、SDGsアンバサダーによるワークショップ
11:30-12:30 ふりかえりとわかちあい

参加費

無料

定員

20名
先着順

対象：学部生のみ
大学院生、通信生の方は
お申込みいただけません。

申込方法

申込方法：右のQRコードより申込フォームに入力してください。
申込期間：2025年1月8日（水）～2月7日（金）
※先着順での受付となり、定員に達し次第受付を締め切ります。
※申し込み後キャンセルをする場合、すみやかにご連絡ください。

お問い合わせはこちら

東洋大学ボランティア支援室
TEL： 03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

ゼロからぼら活！

一緒にさがそう　あなたの一歩

「ぼら活！」で
ボランティア体験！

「ゼロからぼら活！」とは…

さまざまな団体さんがブースを出展し、普段の活動を体験できるだけでなく、団体さんの活動について深く知ることができるなど、1日でいろいろなことをゼロから体験し、学ぶことができるイベントです！
「ゼロぼら」を通して活動の楽しさを知り、「あなたの一歩」を見つけませんか？



出展団体　ブース内容　※50音順

①音訳団体「音訳体験」

②カーレットジャパン協会「カーレット体験」

③共用品推進機構「ユニバーサルデザイン」

④サークル六点会「点訳体験」

⑤セーブ・ザ・チルドレン

⑥東洋大学生「災害ボランティア活動」

⑦文京区社会福祉協議会ボランティア担当
「自宅ボランティア体験」

⑧文京区社会福祉協議会ボランティア担当
「特技ボランティア」

⑨隣人の日・共創ワークショップ
「お絵描きワークショップ」

⑩ワールド・ビジョン・ジャパン
「水汲み体験」

ホームページはこちら ▶

令和7年
2月16日 日　10：00～15：00（出入り自由）

対象　小学生以上　　費用　無料

会場　文京区民センター3階 3A会議室（文京区本郷4-15-14）



申込　フォームからお申込みください。▶

問合せ　文京区社会福祉協議会 地域連携ステーション ボランティア担当　03-3812-3114

・10:00～15:00まで開催しておりますので、お好きな時間にお越しください。
・小学生以上の方はどなたでも参加いただけますので、お気軽にご参加ください！



学生課外活動育成会企画　ボランティア支援室主催　079

群馬県甘楽町地域おこし協力隊
インターン企画　概要

「地域おこし協力隊インターン生」として町長から委嘱を受け、2週間（実働10日間）の期間、業務に従事すること。

（1）業務期間

春季休暇中　各クールごとに3名ずつ募集
第1クール 2月18日(火)～3月4日(火)
第2クール 3月4日(火)～3月18日(火)

（2）募集学生

①三大都市圏をはじめとする都市地域等在住の方で甘楽町に滞在できる学生。
②地域住民や地域団体とコミュニケーションを図りつつ、地域の活性化に意欲をもって活動できる学生。
③地方創生,SDGs,まちおこしに関心のある学生。

募集人数：各クール3名

（3）滞在中の業務内容例

①「甘楽町美味しいものマップ」の更新
町内の飲食店を取材・調査研究し、「美味しいものマップ」のHPを最新情報へリニューアルする。
②SNSの活用
上記、飲食店の取材結果や甘楽町の魅力を、SNS（インスタグラム等）を通じて広く周知する。
③子育て支援
「甘楽町学童保育所」、「放課後子ども教室」の運営サポート
④その他
甘楽町でインターン生として、「こんなことにチャレンジしたい。」という希望を聞いたうえで、役場関係者と面接時に業務内容を決定。

（4）活動形態

インターンシップ：週4日勤務・週1日研修(実働8時間程度)
報酬等：生活費等の活動支援金として1日12,000円の支給(支給総額から源泉徴収あり)
休日休暇を除く活動日のみ（実働10日分）支給となります。
※現地までの交通費及び食費は自費となります。
勤務時間：8:30～17:15（休憩時間　12:00～13:00）

（5）住居

町が管理するシェアハウスにて生活（家賃・水道光熱費・Wifi利用料金等は無料となります。）

（6）休日休暇

週休2日制(土日、祝日)※業務の都合により休日を他の日程と振り替える場合あり。

（7）費用

自宅から現地間の往復交通費、食費は自費となります。

（8）申込方法

QRコードのサイトからお申し込みください。
申込期間：2025年1月12日（日）～ 2025年1月20日（月）
参加希望者は、1月17日 12:15～オンラインによる説明会を行います。
具体的な活動など、過去の参加者より説明しますのであわせて参加ください。
学内選考：1次　学内教員面接（1/22、24のどちらか）　2次　甘楽町職員による面接（2日内）



群馬県
甘楽町

地域おこし協力隊
インターン参加者募集

新たな土地で暮らして、紡いで **濃厚な2週間**

10日間で **120,000** 円支給

源泉徴収前の金額です

地域おこし協力隊って？



一定期間地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・ＰＲ等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行う取組です。今回、甘楽町より特別に「東洋大生」枠が用意されました。

町長名による委嘱状が交付され、履歴書に記載可能な職歴となります。

ここで得た経験を**ガクチカ**としてアピール！

どんな人が向いてる？



- 甘楽町に興味がある
- 商品開発に携わりたい
- 知らない土地で暮らしてみたい
- 体を動かしたい
- 地域の方と交流したい
- 就活でアピールポイントにしたい



宿泊所

インターン期間は？



春季休暇中　各クールごとに3名募集
第1クール 2月18日(火)～3月4日(火)
第2クール 3月4日(火)～3月18日(火)

詳細はこちら

お問い合わせ　ボランティア支援室　mlvolsup@toyo.jp　03-3945-7605

学生課外活動育成会企画　ボランティア支援室主催

被災地のまちづくりを考え、発信するスタディツアー

参加者募集

ゆっくりと再生の道を歩みつつある福島県浜通りであるが、2023年8月には処理水の海洋放出が始まるなど、新たな問題にも直面している。
自分の目で見て体験し、再生に向け変化を続ける同地域の「これから」を考える。

参加費無料　**ボランティア初心者歓迎**　**春休みの思い出に**



日時	2025年2月16日(日)～18(火)　2泊3日
参加費	無料　※食費は補助対象外です
宿泊地	古滝屋（福島県いわき市常磐湯本町三函208）
体験内容	オリーブ畑作業体験　漁港のセリ見学 請戸小学校見学　コットン畑作業体験

参加にあたって、事前顔合わせへの出席が必須となります

詳細はWebで

事前顔合わせ

日時：2025年1月23日（木）12:10～12:50
場所：白山キャンパス教室（参加者のみ後日通達します。オンライン可）
参考図書：いわき発ボランティア・ネットワーク（ボランティア支援室にて貸し出します）





お申し込み

期限：1月15日（水）
申込結果：1月20日（月）までにメールでご案内いたします
定員：18名　応募者多数の場合は締め切りを早め、選考いたします
お問い合わせ：ボランティア支援室 mlvolsup@toyo.jp

詳細

082

東洋大学学生課外活動育成会企画

プログラム
参加費 ※
無料

学部生対象



※ ただし交通費・嗜好品代は各自負担となります

2024 ワークキャンプ プログラム

豊かな自然の中で 地域とかかわる 旅 に出ませんか？

益子コース ／ 栃木県茂木町・益子町

主催　東洋大学ボランティア支援室

083

ワークキャンププログラム



豊かな自然の中で
地域とかかわる旅に出ませんか？

栃木コース

期間	2025年 2 月24日～26日
場所	栃木県茂木町・益子町を拠点 ※現地集合・解散
宿泊地	ボランティアハウス 明在庵
食事	現地で自炊
活動内容	里山と棚田の再生のための草刈りや木の伐採、竹切りなど
募集人数	10名
参加費	~~￥18,000~~→ ￥0 大学負担

※現地までの交通費・嗜好品代は自己負担

★参加者決定後の「キャンセル」はできません
活動先にも迷惑がかかるので、自身のスケジュールをしっかり確認の上、申込をしてください

こんなヒトにオススメ！

- ボランティア初心者
- 旅好き
- 自然好き
- アウトドア派
- 地域の人と関わりたい

※学部生対象

※事前説明会あり（2月中旬）

プログラム提供　特定非営利活動法人NICE

お問い合わせ
東洋大学ボランティア支援室（主催）
03-3945-7636　mlvolsup@toyo.jp

申込締切　2/10

※応募者多数の場合は抽選となります
※締切日を早める場合がございます

プログラム詳細
および申込はこちら

緊急募集

春季能登半島地震ボランティア



READ MORE

- 2/13～3/24のうち4泊5日（予定）
- 交通費、宿泊費無料
- 1/26申込締切

お申し込み多数の場合は締め切りを早め、選考を行う場合があります。

キャンセル不可



ボランティア支援室



凪が灯るころ ～奥能登、珠洲の記憶～ ドキュメンタリー映画　特別上映会

舞台は石川県珠洲市。
2023 年5 月5 日14 時42 分頃に石川県奥能登地方にて発生し、最大震度6 強を記録した「令和5 年奥能登地震」。この地震の被害から町は、復興を目指していた。 祭り好きの人々はなんとかお祭りを成功させ、復興の道を歩み始めた。
2024 年1 月1 日16 時10 分 再び珠洲市を「令和6 年能登半島地震」が襲う。 度重なる地震によって壊滅的な状況に陥った珠洲の人々は、それでもまた、立ち上がろうとしていた。 二つの地震と、町の再生を取材したドキュメンタリー映画。

日時：3月1日（土）10:30～13:00（10:00開場）

10:00　開場・受付開始
10:30～　第Ⅰ部　挨拶・映画上映（本編87分間）
12:00～　第Ⅱ部　1. 北陸中日新聞七尾支局長　前口　憲幸氏による講演
2. 座談会（前口憲幸 氏、國貞育生 氏（株式会社アデル代表／本学社会学部卒業生）、本学学生）

場　　所：白山キャンパス 井上円了ホール
受 講 料：無料
定　　員：100名（学内受付）
申込締切：**2月25日(火)23:59まで** ※先着順
コーディネーター：福祉社会デザイン学部教授　髙山　直樹

学生・学内受付

主催：東洋大学社会貢献センター / mlkouza@toyo.jp
協力：学生団体 NOTO×TOYO 青いビブス

お申込み 086

令和６年度

文京区の大学に通う学生による

地域活動報告会



令和6年度

3/10［月］

13:00～15:30

※15:30～16:00は学生のみを対象としたグループワークを行います。

定員 200名

会場 日本女子大学
百二十年館 12001教室
（東京都文京区目白台2-8-1）

文京区にキャンパスを置く大学による地域貢献活動の取り組みは、年々増加しています。実際に活動した学生による事例報告を7大学、12団体のみなさまに発表していただきます。

学生支援担当者連絡会議とは

各大学の社会貢献活動の事業に携わる職員の連絡会です。
今年度から文京区社会福祉協議会が主催しています。

参加予定大学

跡見学園女子大学／拓殖大学／中央大学／東京大学／東洋大学／
日本女子大学／文京学院大学（全7大学・全12団体）

お問合せ 文京区社会福祉協議会　地域連携ステーション　学生支援担当
文京区本郷4-15-14　03-3812-3044・03-3812-3114

［申込締切］
2/25(火) 厳守

主催 文京区社会福祉協議会
共催 日本女子大学
後援 文京区
協力 文京区学生支援担当者連絡会議参加校のみなさま

087







２０２４
社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会
課外活動団体報告会
地域活性化活動支援事業報告会

開催日：2025年3月11日（火）
会場：Web（Zoom）開催
【第1部】ミーティングID: 894 3813 5209　パスコード: 618216
【第2部】ミーティングID: 852 9588 1205　パスコード: 756316
申込不要！どなたでもご参加いただけます！！

【第１部】

■10:00 ～ 11:30

《社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会 課外活動団体報告会》

式 次 第【予定】

1. 開式の挨拶　社会貢献センター長 髙山 直樹

2. 式辞 東洋大学学長　矢口　悦子

3. 受賞者発表・報告【選考中】
 ・個人表彰（表彰状と賞金（3万円）目録）
 ・団体表彰（表彰状と賞金（3万円）目録）
 ・助成金採択団体（表彰状と楯）
  1. Smile F Laos
  2.ボードゲーム地域交流団体 ぼどのわ
  3.学ボラ川越（山古志）

4. 課外活動団体報告会
 ・学生課外活動育成会主催団体
 ・SDGsアンバサダー

5. 閉式

Zoom:URL

お問い合わせ：☎03 3945 7460
✉ mlext@toyo.jp
東洋大学社会貢献センター
（エクステンション課）甫水会館 1F





【第2部】

■13:00～14:30終了予定

《地域活性化活動支援事業報告会》

当事業は、過疎化や高齢化などの地域課題に関して、教員、学生、住民がともに活動する企画に対し、経済的に支援することで、今後自立した活動へと発展させていくためのサポートしています。
　各活動の報告を知ることで、今後の教育研究活動の一助になれば幸いです。

【2024年度 活動一覧 】
1. Toyo Slow City Project
2. 香川県さぬき市の姉妹都市交流再生プロジェクト
3. 奄美大島における環境配慮型観光コンテンツ開発
4.「大内宿雪まつり」の運営を支える支援活動
5. 福島県の子どもに寄り添うプログラム
6. 大田原市の農業の活性化による地方創生の取り組み
7. 秋田県湯沢市における温泉地活性化プロジェクト
8. 鹿嶋市の中心市街地活性化に寄与する実践的取り組み
9. 能登ゼミ（創造的復興に向けた地域住民と学生の取組）
10. 喜多方調査
11. 地域の文化継承とまちづくりを考える
12. 沖縄から平和教育を考える
13. 人の移動が著しい地域のまちづくり
14. 持続可能な釜石に向けた地域課題解決型PBL演習
15. 里山サポーターズ
16. 滞日外国人との協働を通じた多文化共生と復興の支援
17. 若い世代における郷土料理に関する普及・啓発活動

Zoom:URL

※なお、当日参加できない団体が発生する場合があります。
なお、各活動の報告書は、別途ホームページ等に掲載する予定です。





IKEA港北
ＣＳＲスタディーツアー

IKEA港北を見学して
IKEA港北の店長にお話を伺います！

募集人数　20名

活動日時　3/21（金）10:00~12:30
希望者は12:30～スウェーデンレストランでランチ
※ランチは自己負担となります。

活動場所　ＩＫＥＡ港北
https://www.ikea.com/jp/ja/stores/kohoku/
集合場所などの詳細は後日メールにてお知らせします。

サステナブルな暮らしとは？
イケアの地域活動とは？
環境への取組みとは？
様々な社会貢献活動の取組みを学びます。



2/28締切

↓お問い合わせ先
ボランティア支援室
mlvolsup@toyo.jp

申込はこちら

「2024 年度東洋大学 SDGs アンバサダー振り返り＆次年度継続意思確認」実施結果

【実施期間】2025 年 1 月 20 日　～2 月 13 日、2 月 21 日～2 月 28 日（延長）

【実施方法】Google フォーム（メール等にて周知）

1. 全体

2024 年度 SDGs アンバサダー登録者数	93 名
回答数	62 名
うち、重複回答	3 名
無効回答	0
未回答者数	34 名
有効回答率	63.4%

2. 回答者属性

(1)　学部・研究科

文学部	5
経済学部	4
経営学部	2
法学部	3
社会学部	8
国際学部	7
国際観光学部	2
情報連携学部	2
理工学部	7
健康スポーツ科学部	3
福祉社会デザイン学部	6
ライフデザイン学部	3
総合情報学部	2
生命科学部	3
大学院生命科学研究科	1
大学院理工学研究科	1
合計	59

(2)　学年

1 年生	19
2 年生	15
3 年生	17
4 年生	6
大学院生	2
合計	59

(3)　次年度継続意思

継続する	41
継続しない	12
今年度卒業	6
合計	59

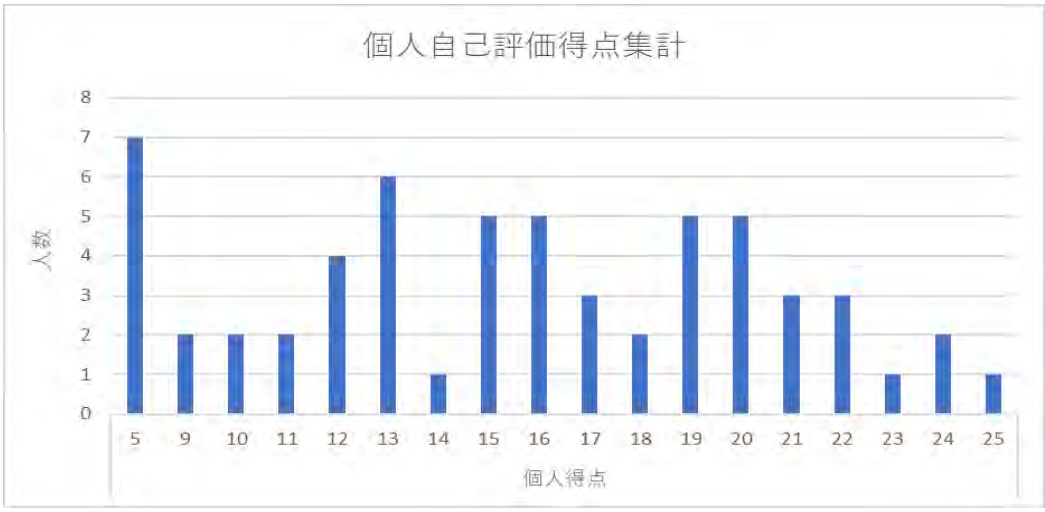
※継続希望者は【別添資料】参照

3.　自己評価（5 項目それぞれ 5 段階評価）

(1)　全体

項目	1	2	3	4	5	合計点	平均点
①　積極性	8 名	11 名	18 名	13 名	9 名	181	3.1
②　発信力	14 名	14 名	16 名	11 名	4 名	154	2.6
③　企画・立案	16 名	15 名	10 名	12 名	6 名	154	2.6
④　協調性	7 名	5 名	15 名	19 名	13 名	203	3.4
⑤　コミュニケーション	7 名	5 名	15 名	17 名	15 名	205	3.5

(2)　個人評価得点分布



4. 2024 年度中の活動の振り返り

(1)　参加した・行った活動の実績　※一部抜粋

＜学内・ボラ室主催＞	＜学外・地域連携等＞	＜アンバサダー独自＞
・富士樹海清掃ボランティア ・由比ヶ浜ビーチクリーンアップ ・小学生向けのオープンキャンパス ・SDGs ワークショップ（インクルーシブキャンパス） ・SDGs ワークショップ（パーム油） ・赤羽台 SDGs カフェ ・TUEP ランタン点灯式 ・おにぎりアクション ・大学祭出展 ・能登地震復興ボランティア ・防災備蓄品食料配布 ・能登豪雨募金活動 ・能登ボラポスター展示設営 ・SDGs カフェにじいろ編 ・スペシャルオリンピックス企画 ・赤羽台団地祭り ・カンボジアフェスティバルボランティア ・宿泊サバイバル ・災害救援ボランティア講座 ・LGBTQ 講演会 ・SPRING ウォーターサーバープロジェクト	・エコプロ 2024 出展 ・（北区）盆踊りイベント ・北区地域交通安全活動推進員 ・(文京区)クールアースフェア ・文京区環境政策に関する大学生ワークショップ ・朝霞市社会福祉協議会とのミーティング ・2024 年度は、学外で国連（主に UNHCR）に関わる活動に多く取り組み、将来の活動に向けた勉強やコラボレーションに重点を置いています。 ・埼玉エコフォーラム	・SDGs アンバサダー交流会 ・パラスポーツ体験会 ・MeW×D&I ワークショップ ・そなエリア見学 ・広報誌発行 ・Instagram、X、リットリンク開設 ・ボラ室ツアー ・上野まち歩き ・火災臨場 VR 体験 ・「防災アプリ」チームとして、情報企画課と連携して緊急避難訓練の企画をし、東洋大生の防災に関する認知調査を行った。 ・アンバサダー×学ボラ×Salamat 交流会 ・夏期合宿、JICA 市ヶ谷地球ひろば見学

(2)　最も印象に残った・または成長を感じた活動・企画とその理由　※一部抜粋

＜学内・ボラ室主催企画＞

- スペシャルオリンピックスの企画や運営。理事の方とやりとりしていくなかで、イベントを企画する大変さと楽しさを学ぶことができた。

- 能登半島の募金活動です。初めての募金活動だったので自分が募金を集める側になることで、簡単に募金が集まらないことなどを痛感しました。
- 最も印象に残った活動は、能登半島ボランティアです。実際に行ってみないとわからない現地の状況、大変さを知ることができました。この活動を通して、より災害ボランティアに参加したいと思いました。
- 赤羽台団地祭りへの参加が最も印象的だった。多世代との交流を通してコミュニケーション能力の向上を図ることができたから。
- 今年の活動はどれも印象に残っていますが、学びや自分自身の成長を感じた活動としては、SDGs カフェが最も印象に残っています。
- 「ワークショップで学ぶ SDGs の概念理解編」そして、「私たちは生きづらいのか？若年層の生きづらさを考えてみよう～」どちらも SDGs について他キャンパスのアンバサダーのメンバーとそしてアンバサダーでない学生とグループワークで意見を言い合い、まとめ、これから SDGs アンバサダーとしてどのようなことを大切に活動していけばいいのかを見つけられる時間でした。
- 小学生のオープンキャンパスが特に印象的でした。外部の人と関わる企画に携わることはあまりなかったので、このような経験を通してさらに地域との関わりに目を向けるきっかけになったからです。企画実行といった面で成長を感じました。
- ウォーターサーバープロジェクト、スタンプラリーの活動。チーム分けや、スタンプラリーの景品交換など役割分担をしっかり分けて行うことができた。また、ミーティング等も積極的かつ多くのメンバーの参加を通して活動を行うことができた。
- SDGs にじいろカフェを挙げます。実際にトランスジェンダーで悩む人が、『何を悩んでいるのか』、『どういう考えを持っているのか』を実際に聞き、その問題に対してただ肯定するのではなく、トランスジェンダーではない私たちがどういう考えを持っているのかを話し合えた機会だったからです。性別の自由が実生活でも表現しやすくなった現在だからこそ、その『当たり前になって欲しい』ことを当然に享受するだけでなく、お互いに考え方があるということを理解して譲歩する必要もあると考える機会になりました。
- パラスポーツ体験会。多様な視点を理解し、異なる立場の意見を尊重することの重要性を知り、成長を感じたと思います。
- おにぎりアクションの企画運営。私がリーダーとなり、指示を出したり足りていないところを指摘したりと、チームをまとめることができた。また、積極的に一般学生に呼びかけたことで、社会貢献にかかわる人を増やしたり、アンバサダーの存在を知ってもらったりする良い機会になったと思う。
- こもれび祭アンバサダーブースの運営です。リーダーとしてやらせてもらって企画の発案や運営等色々な経験をできたことが自分自身の成長と反省点が見えた活動だったなと思います。

＜学外・地域連携関連企画＞

- 私が 2024 年度中に参加した活動の中で最も印象に残っているのは、地域おこしのボランティア活動に参加し、最も印象に残ったのは地元のお祭りの企画と運営に携わった経験です。地域の人々と直接関わりながら伝統文化の魅力を再発見し、それを外部に伝える責任の重さを実感しました。特に、住民の意見を集め、観光客に楽しんでもらえる企画を立案する過程で、地域の課題や希望を深く知るこ

とができました。また活動を通じて、自分の成長を強く感じたのは、相手の話を丁寧に聞き意見をまとめる力が身についたことです。住民の方々と話す中で、それぞれ異なる視点や価値観を理解し、皆が納得できる形に仕上げる難しさを痛感しましたが、その過程でコミュニケーション能力や問題解決力が大きく向上したと感じています。最終的には、自分が提案したアイデアが形になり、多くの人が笑顔でお祭りを楽しむ様子を目の当たりにしたとき、この活動に参加した意義と地域のつながりの大切さを心から実感しました。この経験は、自分の視野を広げ、地域社会への貢献に対する意識を深める貴重な機会となったと感じています。

- クールアースフェアが最も印象に残っています。来場してくれた子どもたちに、ゴミ分別ストラックアウトのやり方を教える役割を担当しました。小さな子どもとの接し方を学ぶと同時にどうしたら分かりやすく伝えられるかを考え、自分にとっても学びの大きい経験となりました。
- クールアースフェアは、カーボンニュートラルチームの大きなイベントのひとつであったので、サブリーダーなりにメンバーをまとめたり、計画を練ったりすることに注力した。
- エコプロ 2024 参加。様々な企業の方と意見交換やつながりを持つことが出来たから。次年度以降で活動するにあたっての人脈を得ることができたと感じたから。
- 2024 年度は、学外での活動を通じて、国際協力や難民支援に関する深い知識を学ぶとともに、多様なバックグラウンドを持つ人々とのコラボレーションの重要性を実感しました。また、異なる文化的背景を持つメンバーと協力しながら目標を達成するプロセスは、自分自身の視野を広げ、柔軟な思考力を養う貴重な機会となりました。
- 朝霞市社協さんとの MTG が個人的には 1 番印象に残りました。理由としては、朝霞アンバサダー独自の活動が欲しいと感じた時から、アポ取りや当日の議事進行、事後報告など全てを含め自分が主体で動いた活動だったからです。今後の活動内容の充実を図り、団体としての魅力をもっと深めるため、大変いい機会だったと思いました。

＜アンバサダー独自企画＞

- 12 月のアンバサダー×学ボラ×Salamat 交流会が自分にとって最も印象的で自分自身の成長を感じた活動でした。この交流会事態は大規模な企画で、参加人数は合計で 36 人でした。その中、運営として他の活動よりもたくさん発言したり、自ら引っ張ったりなどしたので、自分の今までの活動の集大成として責任もって頑張ったので印象に残ったし、自分自身の成長も感じることができました。もっというと、これをやったおかげにより、来年度の D&I チームの新しい企画の発想までも考えることができました。
- 夏季合宿。普段は東洋大学 SDGs アンバサダーとしての立場で、さまざまな体験や学習をしたり、企画や出展を行ってきたが、この合宿においてはアンバサダー自らが、アンバサダーのために、内面的な振り返りや、周りとの対話を通じて自己、自己と他者のつながりを知る機会であった。そこに参加している上で、統括として、一個人のアンバサダーとして、自分の立ち位置や目指すべき道、他者との関わりを、自分としても深く感じ取れる機会であったと振り返っている。
- まちあるき企画を通して、アンバサダーの方々とコミュニケーションが取りやすくなり、その後の定例ミーティングでも会話がしやすくなった。加入当初に比べて、定例ミーティングで発言をすることができるようになった点は成長したと感じた。

(3)　あまりできなかったこと・まだ不足していること　※一部抜粋

カテゴリー	回答
情報発信	● ワークショップなどのインスタの投稿をつくるのが苦手であり、時間がかかってしまう。 ● 一般学生への SDGs のきっかけを作ることが出来なかった。
活動参加・行動実行	● 自分自身、部活に入っていたこともあり、本格的にアンバサダーの活動を始めたのが 9 月頃からだったので、まだまだ色んなイベントに参加できる余地は沢山あると思いました。なるだけ参加出来るものは全てやってみる精神で経験を積んでいきたいと考えています。 ● sdgs アンバサダーとしての仕事がほとんど行動に移すことができなかった。 ● スケジュールが合う時にもっと団体内の活動やイベントに参加したい ● イベントにあまり参加出来なかったこと。 ● 予定がなかなか合わず、他キャンパス主催の企画に参加することができなかったことは来年度の改善点だと思う。 ● 活動にあまり参加できなかった。やりたいと思っていることが活動では実践できないと感じた。
企画・立案	● 企画を立案することがあまり出来ず、みんなが考えてくれたものに対して参加をする形だったので、もっと自分から企画を考えられれば良いなと感じました。 ● 自分が発案した企画を実行に移すということができていなかった。2025 年は企画をかたちにしていきたい。 ● 自分の目標が大きな企画を立てるということなのですが、まだまだ企画書や報告書を書くとき甘い部分があるので、次回から完璧にしていきたいです。それともう一つは、来年度は様々な企画を立ち上げたいです。 ● 防災に関してはまだ認知調査をおこなっただけの段階なので、ここから学生の意識を高めていくための企画を進めていきたいと思います。
リーダーシップ	● 責任感が足りなかったかなと感じました。学祭のリーダーとしてもっと円滑に進めるられるような工夫をするべきだったと思います。 ● 後輩の人材育成 ● 次年度の引き続きや、あまり活動に参加できなかったメンバーを巻き込むこと。 ● 自分で決めて進める部分とメンバーに頼る部分をまだ分け切れていない気がしている。今後は周りに任せられるところは積極的に分担をし、引継ぎも見据えて活動していきたい。 ● 夏休み以降、チームメンバーのモチベーションを維持できなかった。活動にかかわる人が時間が立つにつれ少数になっていってしまい、秋学期は一部の人しか活動に参加していなかった。リーダーとしてもう少し、ひとりひとりに呼びかけを行うなどの対応をするべきだった。

	● 正直、統括としても一個人としても反省は多いのだが、アンバサダーメンバーをもっと巻き込んで、活動を活発化させられたのではないかという反省が強い。学生目線でやりたいことを形にできるという環境の中で、もっと企画を行ったり、勉強会を開いたりなど、前向きな姿勢で活動を進めていこうという流れを作り出しきれなかったという、一種の不完全燃焼感が強いと感じている。
学外活動参加	● 学内だけでなく、学外でも活動したいと思っています。 ● 学校内での活動が多く、あまり外と関わる活動に参加できなかった。そういうところが消極的だった。
企画運営	● 企画運営側の際に事前準備が遅れてしまっていまい、当日不備が出てしまったことでアンケート結果の収集に苦戦してしまった。また、報告書の作成が遅れてしまいました。
交流・コミュニケーション	● 今年度は他キャンパスのメンバーと関わることが少ないと感じた。

5. 次年度の目標、取り組みたい活動・企画、大学への要望　※一部抜粋

- さまざまな企画や取り組みに積極的に参加していきたいです。
- 次年度は赤羽台キャンパスの副リーダーとして、しっかりと企画・運営に携わっていきたい。
- 計画中の新歓企画を実行する。もう少し活動するメンバーを増やせるよう、参加しやすい雰囲気を作る。
- 私は教育学科であることもあり、教育関連の活動に興味がある。そのため学習のサポートなどを行う企画に取り組みたい。
- 他キャンパスのアンバサダーの方との交流があまりないので、次年度は積極的に他キャンパスのアンバサダーの方と関わりたい。
- D&I チームに関連する活動にあまり参加できていなかったので、次年度は参加したり運営をやったりしたい。2 年生になるので、今年度の活動で得たことをいかしつつ、新メンバーも参加しやすい雰囲気づくりに貢献したい。
- 自分が発案したものを企画したい。具体的には、LGBTQ+に関してのワークショップを開くということを第一に行いたい。また、年間を通してはボラ室ツアーやパラスポーツ体験会は定期的に行う企画としていきたい。D&I チームは堅くなりすぎず、誰もが企画・運営を行うチームにしたい。月一で定期的にミーティングを行い、お互いに切磋琢磨できる存在でありたい。
- 今年度は参加側やメンバーの 1 人としての活動が多かったのですが、来年度は赤羽台キャンパスのリーダーなので、赤羽台のメンバーを支えつつ、定例ミーティングなど普段のアンバサダーの活動参加率を高めるために、声かけやメンバー皆んなに負担のないような活動の割り振りの心掛けを大切にしていきたいです。
- 難民支援に関する企画、国際協力に関するワークショップ、国連協会（UNHCR 日本協会、UNWOMEN 日本協会など）とのコラボ活動、学外・学内団体コラボ
- 地域のひとと関わるような活動にさらに取り組みたいと思います。小学生のオープンキャンパスの続編はもちろん、今年度行ったことをもとに、さらに啓発促進ができるような企画をつくり、実行

するために自分らしさを出すことを目標にして次年度も活動したいと考えています。

- キャンパスの学年副リーダーになるので、特に赤羽台地域の関わりやイベント、スペシャルオリンピックスの活動に参加していきたい。
- 次年度は川越のリーダーであったりカーボンニュートラルチームのサブリーダーなどの役職に就かせていただくので責任感を持って活動していきたいです。目標として最低2個は企画を立案したいです。今年度はエコプロに参加できなかったので次年度は参加したいです。
- D&Iの企画として、国際社会（貧困・難民）についての企画を立ち上げたり、去年度に引き続き他の学内の社会貢献団体との交流を促進していきたい。
- 役職や立場は一度おいておき、一人の「SDGsアンバサダー」として、という原点に立ち返り企画を進めていきたいと思う。その上では「グローバル・シティズンシップ」「コ・クリエーション」「ダイアログ（対話）」という３つの軸のもと、アンバサダー内外問わず、SDGsや各種社会課題に向き合う上での１アクターという立場を意識し、さまざまな人とマインドを合わせて、活動を進めていきたいと思っている。
- LGBTQに関する東洋大学の制度を変えたい
- ダイバーシティ＆インクルージョンの活動に積極的に取り組みたい。取り組んだことから改めて課題を考えて自己成長に繋げたい。
- 参加できるものは参加すること。次入ってくる人たちとコミュニケーションをたくさんとって仲良くなること。SDGsについて、多くの人に理解してもらうこと。

6. アンバサダーを継続しない理由・今後の目標、大学への要望　※一部抜粋

- 今年 1 年間予定が合わなかったり自分の予定で忙しかったりしたため自分でいろいろ調べてやりたいことを行動していきたい。また就活や英語の勉強なども頑張りたいと考えている。
- ボランティアをガクチカのためにやるのではなく、自分の視野を広げることや様々な人との関わりの中で経験を積んでいきたい。
- 就活など他の優先事項があり、時間を割けないと思ったから。
- 今年 1 年様々な都合が重なり、活動に参加できませんでした。来年以降も活動に参加できる機会が少ないため、中途半端に続けるよりはこの場で継続しない判断をする方が良いと考えました。自分が参加できる活動が募集されていればタイミング次第では今後参加出来ればと考えています。
- ワークキャンプが補助金が出て参加費が無料で行けるのはとてもよかった。まちおこしのボランティアのファーストステップとしてとても踏み込みやすい！
- ボランティアサークルだと思って 1 年時に加入し 2 年も継続したけれど、やはり企画立案・運営は自分のやりたいことではないと感じたから。また、自分の生活環境が変化し活動に参加することが難しくなったから。
- 就活や卒論、他団体の活動で今後さらに忙しくなり、SDGs アンバサダーに割ける時間が無くなることが予想されるため。また、他団体の活動をしていくにあたり、相対的にSDGsアンバサダーに対するモチベーションが低下しているため。

7. 卒業後のSDGsアンバサダー経験の活かし方等

- 仲間と協力し、企画に打ち込んだ経験は人生の糧になると思う。
- 社会問題を自分事としてとらえて、ニュースをみたり、勉強したりする。他の人を巻き込んでいけるような人になりたい。
- 私はもともと人見知りで自分に自信がありませんでした。その原因は自身の完璧主義にあったと考えています。しかし、SDGs アンバサダーの活動や交流を通じて、世の中には多様な課題があることを知り、そしてそれに対する多様な考え方があることを学びました。他のメンバーとの交流を重ねるうちに、私の中の完璧主義が打ち砕かれ、失敗を恐れず自身を持って発言や行動ができるようになりました。とくに昨年度はチームリーダーとしていくつかのイベントや活動に貢献できただけでなく、多くの方と交流の輪を広げることができたと自負しています。社会人になってからも積極的に交流の輪を広げ、その交流を通じて課題にチャレンジし続けることで社会に少しでも貢献したいと考えています。
- SDGs のゴールについて、引き続き目を向けると共に、社会や就職先などで組織としての立ち位置を確立したり、積極的な意見出しなどで活躍していきたい。
- 組織運営の方法を学ぶことができた。どうすればボランティアや社会貢献に興味を持ってくれるのか、アンバサダーの活動で試行錯誤をして、自分なりの方法を見つけることができた。この経験は社会人になっても役に立てたい。

活動計画タイトル（キーワード）

2024 年度における SDGs 関連広報

① 活動計画の概要

SDGs関連の広報活動は、本法人・本学が社会的責任を果たしていることを示すとともに、教員による研究や学生団体による活動など個別の具体的な取り組みの発信を積み重ねることによってブランド力を向上させるものと位置づけ、2024年度も重点的に取り扱うテーマとして予算計上している。

広報部門においては、各部門（学部・研究科・研究センター含める）が2024年度に実施するSDGsに寄与する先進的な取り組みを学外へ発信する役割を担うため、具体的な活動計画は他部門の計画を踏まえて策定することとなる。策定にあたっては、各部門による活動計画を学長事務課が集約し、SDGs推進委員会で共有することを前提に、全体の中で重点的に発信する施策に対して、時期や社会情勢等も踏まえた効果的な情報発信を行うためのリソースを分配する。

2024年度の情報発信の手段として、以下のメディアを計上している。

1．報道発表

1-1．報道関係者向け「SDGs NewsLetter」の発行（全8回）

SDGsに寄与する本学の取り組みや教員の研究、学生団体の活動を報道関係者へ情報提供することで、メディア露出を狙う。2024年度予算においても報道調査および取材・撮影を含む原稿作成の経費を計上した。

報道調査は、メディア露出につながる適切なテーマ設定を行うために、「（大学or研究成果）×SDGs」等のキーワードでの前年度の報道状況、海外および国内におけるSDGsを巡るトレンド動向をリサーチし、教員の研究テーマなど本学のリソースとのマッチングを行う。リサーチの報告については広報担当部門のみならず、推進センター長にも同席いただき、議論を行った。リサーチ結果を踏まえ、SDGsに関係する注目キーワードに関連する研究を実施している教員に広報課からアプローチし、取材・撮影を行ったうえで原稿を制作した。2024年度では全8回の制作を行い、３月末までに７回、効果的な配信を狙い４月に１回の配信を行う。配信は多くのメディアが参照する「Digital PR Platform」サービスを使用した。また、配信するNews Letterは本学公式Webサイト内「SDGs特設サイト」にも掲載することで、オーガニック検索からの流入、他コンテンツへのアクセスなど波及効果を狙った。

1-2．リリース・記者会見等（通年）

学内においてSDGsに寄与するイベントの実施や研究成果などがあった場合には、従来通り積極的に報道発表を行っていく。案件の性質により、プレスリリース（取材招致・ニュースリリース）や記者会見といった手段を適切に用いていく。

2．公式Webサイト（通年）

本学のSGDsに関連する情報発信のプラットフォームとして、公式Webサイト内に設けた特設サイト（ https://www.toyo.ac.jp/sdgs/ ）において2024年度においても引き続き学生教職員の活動を中心とした情報発信の拠点として活用するとともに、段階的に独自コンテンツを拡充（2020～2023年度累計41件）。また、「研究成果によるSGD s への貢献」をテーマにした『SDGs NewsLetter』を2024年度は8本のコン

テンツを作成した。（https://www.toyo.ac.jp/sdgs/newsletter/）
　また、SDG s Weeks期間中は特に情報発信に注力するとともにSDGs推進センター主催のシンポジウム特設ページを開設し、情報発信を強化した。
　本特設サイトは学外へ情報発信を行った際の誘導先としており、閲覧者は詳細を得る場、発信者は効果検証の場として活用している。PUSH型の発信を行った際にはトップページのメインビジュアルに関連画像を用いて特設サイトへ誘導することで、PUSH・PULLの効果的な組み合わせる小型キャンペーンを積み重ねていく設計としている。

３．その他
　SDGsに特化した広告出稿は実施せず、大学の全体の取り組みを紹介する広告等の出稿においてSDGsへの取り組みを推進していくことに触れることにしていくほか、他大学をはじめとする教育機関のSDGs関連記事をクリッピングし、その動向を把握するとともに、SDGs推進員会にて情報共有した。

② 数値的な目標の達成状況と得られた成果

※広報部門においては、各部門が2024年度に実施するSDGsに寄与する先進的な取り組みを学外へ発信する役割を担うため、具体的な活動計画は他部門の計画を踏まえて策定することとなる。そのため、個別の発信に対する目標は現時点では設定できないが、年間での目標を下記の通り定め、取り組んだ。

目標①「掲載数（記事数）300件」
・SDGsに関する取り組み等のリリース21本(2025年3月21日時点※SDGsNewsLetter 6 本目まで)の配信を行った結果、編集記事や転載記事で計328件掲載され、300件掲載の目標を達成した。
・多くの媒体に掲載されることにより、本法人または本学がSDGsに注力して多様な取り組みを行っていることや、SDG s への貢献により社会的責任を果たしているという評価の獲得、そしてSDGsに関連した露出の繰り返しによって教育・研究面でのブランド力の向上に寄与できたことが成果となる。
・各取り組みの発信や広告展開により、本学 SDGs 特設サイト（https://www.toyo.ac.jp/sdgs/）への注目も高まり、数ある大学関連の SDGs サイトのなかで検索エンジンの表示順位で Google 5 位／Yahoo!JAPAN 5 位に位置している(キーワード「大学 SDGs」／2025 年 3 月 21 日時点)。大学公式 Web サイトのコンテンツとしては、明治大学に次いで 2 位、3 番目は北海道大学となる。

以下、2024年度に配信したSDGsに関する取り組み等のリリース（配信日順）
(1) 4/1 東洋大学とリングロー(株）が業務提携、「リユース PC 募金」を開始
(2) 5/15 【取材案内】東洋大学と福井県若狭町持続可能なまちづくり推進に関する協定締結式開催します
(3) 5/23 学校法人東洋大学と福井県若狭町が持続可能なまちづくり推進に関する協定を締結しました（大学プレスセンター掲載）
(4) 6/18 東洋大学シンポジウム「キャリアと生活の充実をめざして―育児休業・介護休業の観点から」を開催します（Digital PR Platform掲載）
(5) 7/12 東洋大学と関彰商事株式会社がSDGs達成に向けた連携協力に関する協定を締結（大学プレスセンタ

ー掲載）
(6) 8/13 東洋大学が令和６年能登半島地震復興支援のための学生・教職員ボランティア110名超を動員・実施中
(7) 8/21 東洋大学が「シンポジウム〈推し活〉を学問する」を開催（大学プレスセンター掲載）
(8)10/7 東洋大学がSDGsシンポジウム『スポーツとSDGs―パリ大会の事例から今私たちにできること―』を開催
(9)10/31 東洋大学が未来を拓くバイオミメティクスシンポジウムを開催【11月8日／オンライン】（大学プレスセンター掲載）
(10)11/6 東洋大学が「第５回水のシンポジウム～安心な水を未来へ」を開催【11月16日／対面・オンライン】（大学プレスセンター掲載）
(11) 1/30国内初！大学生が日本酒造りから酒粕の廃棄問題に挑む「酒粕プロジェクト」『大学生が食べたい！』酒粕学食メニューを発表
(12) 2/6 【取材案内】東洋大学×武田薬品工業 炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座を実施
(13) 2/8 東洋大学とセブン銀行がバイオミメティクスを活用した次世代ATMの技術開発研究に向けて産学連携を開始
(14) 2/20 東洋大学 国内初！大学生が日本酒造りから酒粕の課題解決に挑む！酒粕プロジェクト『大学生が食べたい！』 酒粕活用 学食メニュー3種を発表しました（大学プレスセンター掲載）
(15) 2/28 東洋大学と武田薬品工業株式会社が炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座を開催（2月28日は世界希少・難治性疾患の日）（大学プレスセンターに掲載）

【SDGs NewsLetter】
(16) 8/29 Vol.30 理工学部都市環境デザイン学科・青木 宗之准教授 テーマ：河川環境づくり
(17)10/15 Vol.31 経済学研究科公民連携専攻・難波 悠教授 テーマ： 公民連携で持続可能な地域づくり
(18)11/15 Vol.32 国際学部国際地域学科・藪長 千乃教授 テーマ：北欧の福祉社会から学ぶ
(19)11/18 Vol.33 福祉社会デザイン学部子ども支援学科・内田 千春教授 テーマ：子どもの居場所づくり
(20)12/18 Vol.34 文学部教育学科・下田 好行教授 テーマ：SDGs教育
(21) 2/28 Vol.35 総合情報学部総合情報学科・中林 靖教授 テーマ：AI技術とシミュレーション
(22) 3/25 Vol.36 理工学部建築学科・田口 陽子准教授 テーマ：アートを通したまちづくり、万博
(23) 4/21 Vol.37 社会学部国際社会学科・山田 香織准教授 テーマ：地域芸術祭と観光まちづくり＜予定＞

目標②「SDGs特設サイトの年度ページ表示回数78,000回（月平均6,500回）」
・2024年度12か月間での表示回数105,477（月平均8,790）。表示目標回数を上回り、引き続き安定してサイト閲覧がなされている。
・本学の SDGs に関する情報を集約する特設サイトのページ表示回数の増加は、より多くの方に本学の SDGs に貢献する研究や取り組みを広報することに直結するとともに、サイトへの誘導を行っている広告やリリースによる広報との相乗効果が期待できる。

③ 2024 年度活動内容		添付資料(※)
4 ｜ 6 月	◇実施内容名 ・公式 Web サイトによる情報発信 （特に「SDGsへの取り組み」ページ更新） ・報道関係者向け「SDGs News Letter」事前調査報告会（SDGs 推進センター長向け）	 ① ②

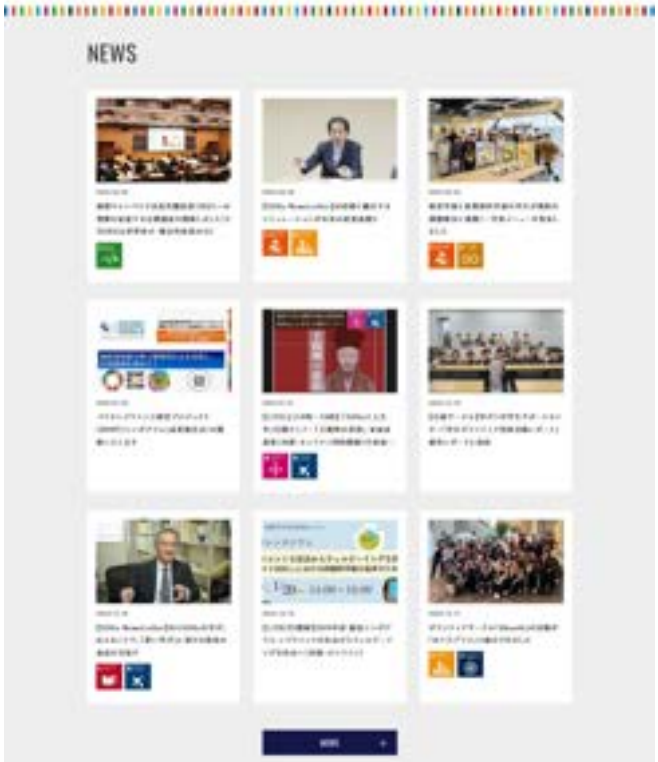
	・報道発表（プレスリリース）	⑤
7 ｜ 9 月	・公式Webサイトによる情報発信（特に10・11月のSDGs Weeksの情報発信） ・報道関係者向け「SDGs News Letter」 ・報道発表（プレスリリース）	③ ④ ⑤
10 ｜ 12 月	・公式Webサイトによる情報発信（特に10・11月のSDGs Weeksの情報発信） ・報道関係者向け「SDGs News Letter」 ・報道発表（プレスリリース）	③ ④ ⑤
1 ｜ 3 月	・公式Webサイトによる情報発信 ・報道関係者向け「SDGs News Letter」 ・報道発表（プレスリリース）	① ④ ⑤

※活動実績となる成果物や資料（チラシ・ポスター・報告書 等）がございましたら、併せてご提出ください。
その際、表中の添付資料欄に番号等の記載をお願いします。


Toyo University
SDGs
Sustainable
Development
Goals


PICK UP


スポーツとSDGs


NEWS


FEATURED
WEEKLY TOYO
人とモノをつなぐ
インターフェース
東洋大学







実施イベント



東洋大学
SDGs NewsLetter
Vol.30
東洋大学は“知の拠点”として
地球社会の未来へ貢献します
2024.08.29発行

魚にとっても人にとっても理想的な河川環境づくりへ。地域・行政の協働が鍵を握る

水質汚染や臭気の発生など、河川にまつわる環境問題は日々深刻化しています。生態系の保全はもちろん、河川を利用する人々の安心安全のために何ができるのか。河川保全の研究に取り組む理工学部都市環境デザイン学科 青木 宗之准教授の見解をお聞きしました。

Summary

・魚の生息環境を守る魚道だが、今後は水中の多様性を考慮した仕組みが求められる
・河川の現状を理解し、課題解決に向けて声を上げ続ける姿勢と継続的なアクションが重要
・河川利用の定量分析を通して、理想的な河川環境を模索していく

魚の生息環境を守ってきた魚道。今求められるのは多様性保全の視点

魚道とはどのような目的で設置されるものでしょうか。

魚道は堰やダムなど落差がある場所に設置される構造物で、魚類や甲殻類の遡上・降下を手助けする役割があります。河川や用排水路にはいくつもの落差が見られ、ダムの場合は落差が15m以上になることもあり、特に狭くて窮境な土地が多い日本では山から海までの流れが非常に速くなります。また、水道水を送水するために川を堰き止めるなど、人々の生活を優先したために生まれた段差も多数存在します。皆さんが普段目にする川の段差の多くは、川の流れを緩めたり、生活・工業・農業のために利用したりと、人々の生活によってできたものでしょう。段差があると魚類や甲殻類は下流から上流に上手く移動できず、堰の下流側で鵜などに食べられてしまいます。しかし、魚道があれば河川の縦断的かつ連続的な移動が容易になり、魚が棲みやすい生息環境を守ることができるのです。

もともと魚道は水産価値の高い魚のために設けられることが多く、北海道など北部の地域ではサケ、それ以外の地域ではアユが主な対象でした。しかし、現在は河川環境や生物多様性の保全が重視されるようになり、全ての魚種が利用できる魚道が求められています。これまでのように画一的な構造のものではなく、例えば底魚には地を這って泳ぐという特性に合わせた設計など、「水中の多様性」を考慮した魚道のユニバーサルデザイン化が必要です。


実験水路に設置した実物大の魚道

地域と行政の協働が、住民の思いに寄り添う川づくりにつながる

持続可能なより良い河川環境を実現するために必要なことについて教えてください。

生態系の保全はもちろん、河川を利用する人々の安心安全にも考慮した空間をつくることが重要であると考えます。しかし、日本の全ての河川に河川管理や水辺保全が行き届いているわけではありません。基本的に行政が河川法に基づいて管理を行いますが、予算規模に応じて、公共の安全を第一とした治水対策しかできないのが実情です。

より良い河川環境づくりに向けて、まずは興味を持つことが第一歩です。土木学会では「市民普請」というキーワードを用いて、市民主導の公共的な取り組みを推進しています。河川環境の分野でも同様に、住民が関心を持ち、行政に働きかけていくことで河川環境の改善につながることもあるでしょう。実際、滋賀県農村地域の住民組織から「かつて集落内に生息していたアユを取り戻したい」という要望があり、研究室の学生達と集落に接続される水路に簡易的な魚道を設置するプロジェクトを進めています。設置後の管理や修繕、他の水路への拡大を地域住民のみでも行えるように、ホームセンターで買えるものを材料として魚道を作製しました。実験室とは違って、現地では大雨や日照りによって水量が日々変化します。

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

その場で臨機応変に対応する難しさにも直面しましたが、開始から4年ほど経った今でも、学生たちと意思疎通を図りながらブラッシュアップを重ねています。


現地水路に設置した魚道

住民一人ひとりの心がけや行動の他に、重要なポイントはありますか。

地域と行政の連携強化も肝要です。行政は河川の氾濫を起こさないことを第一の目的としているため、治水対策に重点を置いています。一方で地域住民の中には「生物がたくさんいる川」や「子どもが遊べる川」などを望み、水質やにおいなど河川環境の改善を重要視する人もいます。特に都道府県が管理するような都市河川で、全国的に地域と行政の連携が広がっていけば、双方の要望を上手く取り入れた施策が実行できるのではないでしょうか。

私自身も埼玉県主導のプロジェクト「Next川の再生in越戸川」で、地域・行政と連携し、河川整備における落差工の改修に合わせた魚道の設置に向けて意見を出してきました。同プロジェクトは地域住民から1.5mほどの落差に、魚道をつくれないかという相談を受けたことに端を発します。当初は雨樋いを使った、取り外し可能で簡素な魚道を設置したのみでしたが、稚アユの遡上を皮切りに、落差工の改修計画に合わせた魚道の設置が現実味を帯びてきました。何年か活動する中で他にもいくつか要望をいただき、結果として地域と行政、そして我々の研究室との連携が実現し、それぞれが望む河川環境づくりにつながったと思います。

河川の利用状況を定量分析し、理想的な河川環境を探る

今後のビジョンについてお聞かせください。



魚道から視点を変えて、河川利用者を対象とした研究を行いたいと考えています。テーマは「どのような人がどのように河川を利用しているのか」。人によって理想の河川環境は異なります。散歩するのに適しているのか、ベンチに座って景色を眺められたら十分なのか。レクリエーションを例に挙げるなら、花火大会やバーベキューができるなど、河川に求める条件はさまざまです。また、河川環境について考える場合、そこに棲む生物や人、街とのつながりも無視することはできません。理想の河川環境を定義づけることは容易ではありませんが、まずは現在の河川の利用状況を定量的に評価して傾向を探ります。研究過程で、もしも河川利用と魚道との関連性が見つかれば、これまでの知見を絡めながら追究していきたいですね。



青木宗之（あおき むねゆき）
東洋大学理工学部都市環境デザイン学科准教授／博士（工学）
専門分野：水理学、河川工学、環境水理学　研究キーワード：生態水理学、魚道、水制、流体力、親水
著書・論文等：A Novel Roughness and Flow Pattern for Steep Stream-Type Fishways: Preliminary Insights（共著）、急勾配な水路式魚道における粗度配置の工夫とウグイの遡上行動について（共著）、住民参加型川づくり実施区間における年齢層別にみた親水利用の特徴と環境要因（共著）、水制周辺の流れおよび河床形状と魚の遊泳行動について（共著）

NewsLetterに関するお問い合わせ・取材お申し込み
東洋大学総務部広報課
MAIL：mlkoho@toyo.jp
取材お申し込みフォーム
https://www.toyo.ac.jp/press

Toyo SDGs NewsLetter
Toyo SDGs NewsLetter
https://www.toyo.ac.jp/sdgs/SDGs_NewsLetter/

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

東洋大学
SDGs NewsLetter
Vol.31
東洋大学は“知の拠点”として
地球社会の未来へ貢献します
2024.10.15発行

地元企業・団体も巻き込んだ公民連携の取り組みで持続可能な地域づくりへ

公共機関によるまち・施設開発の失敗や第三セクターの経営不振など、日本は数々の課題を抱えています。民間企業・投資家の資金やノウハウを公共事業とマッチングさせるとともに、その責任・リスクをいかに負担・分散するのか。持続可能な開発に向けた公民連携の在り方について経済学研究科の難波悠教授がお話しします。

Summary

・公民連携の在り方の一つ「PPP」は、バブル期の第三セクターの反省から導入された
・日本のPPPは85％が自治体の取り組みで、地方創生に向けた期待が高まる
・誰もが参画しやすいPPPの仕組みや、より良いアウトプットを生む公共調達が必要

第三セクターでの事業失敗に端を発する日本のPPP

PPPについて具体的にどのようなものか教えてください。

「PPP（Public Private Partnership）」とは、公共機関と民間企業・団体が連携して公共サービスを提供するスキームを指します。公共事業を進めるにあたって民間の新しい技術や効率的な方法を取り入れて、課題解決を目指すのが基本的な考え方です。元々日本にPPPはなく、「PFI（Private Finance Initiative）」という手法がイギリスから導入され、より広い概念であるPPPとして普及していきました。PFIはPPPの代表的な手法であり、民間企業の資金やノウハウを活用して公共事業を行うというものです。

日本でPFIが導入された要因としては、1990年代に多くの第三セクターが経営不振に陥ったことが挙げられます。バブル期に公共機関と民間企業が行政が主導するかたちで官民連合の第三セクターを作り、リゾート開発を進めました。しかし、行政が市場リスクを十分に理解せず、責任範囲や分担が曖昧な状態で進行した結果、多くの事業の多くが失敗。民間企業が撤退した後、行政が過大なリスク損失を背負う事態になったのです。そこで公と民がそれぞれの責任を明確にしつつ、資金、運営、技術などさまざま様々な面で民間が主導して契約をしっかりと結んだ上で事業を進めるPFIが注目され、バブル崩壊後の不況下で行政が経済を担う割合が増えた日本において、PFIひいてはPPPが浸透しました。

日本のPPPの特徴は何でしょうか。

海外では国家単位でPPPを実施するケースがよく見られますが、日本では85%が自治体によるものです。行政の努力や地方創生に向けた気運の高まりに後押しされ、多くの自治体にPPPが広がっています。成功事例としては、岩手県・紫波町の「オガール紫波」プロジェクトが挙げられます。紫波町が駅前に購入した土地の活用をめぐって、本学に相談があったことが発端です。紫波町の役場・企業の方に本学でPPPの理論や事例等を学んでいただき、民間投資を呼び込んで公共施設を作る方法を共に検討しました。施設ごとに適したアプローチを模索した結果、図書館や体育館、保育園などが完成。若者世代を含めて移住者が増え、他の自治体が視察に訪れるほど賑わいのある町となっています。


大学と包括連携協定を結んだ若狭町での視察の様子

地域経済も視野に入れて、社会的な価値創造を目指す

日本のPPPにおける課題についてお聞かせください。

政府はPPPについてアクションプランを出しており、その中で掲げているのが「コストダウン経済からの脱却」です。これまでの日本はより安く公共事業を行うことに主眼を置いていました。しかし、人口減少局面に入り、量的な発展を見込みにくい

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.



今後の日本においてはインフレが進んだ現在、ただ費用を安くするだけでは問題解決にならず、PPPを通じていかに新たな価値を生み出せるかという点が課題として挙げられます。例えば、コストダウンの観点から施設ごとに進めていた事業を集約し、従来とは異なるやり方で付加価値を高めた地域づくりを模索するなど、まだまだ議論の余地があると考えます。また、PPPに対する意欲が高い自治体・企業もあれば、そうでないところも当然あります。現状、PPPの普及にあたっては勉強会などを通した啓発が一般的なアプローチです。しかし、そもそも企業の規模・体質によっては、長期契約や複雑な事業を伴うPPPに参画するのが現実的に難しい場合があります。

海外事例の中で、日本が参考にできる取り組みはありますか。

国内外で実施されている多様なPPPのうち、日本が目指すべきモデルとして注目しているのが、2017年にウェールズで発表された「MIM （Mutual Investment Model）」です。PPPは複雑な事業が多く、全国規模の大企業が参画するケースも珍しくありません。しかし、その際に地域のインフラ整備を担っていた地元の中小企業が締め出され、地場産業が衰退してしまうことも考えられます。そこでコスト・合理性を追求するだけでなく、地域経済などの要素も視野に入れて社会的な価値創造を目指す仕組みがMIMと呼ばれています。例えば、大企業とは長期契約の上流工程、地元の中小企業とは短期契約の実務で、PPPの枠組みにうまく組み入れられるでしょう。地域のインフラを守り、全員が「稼げる」仕組みを構築できれば、日本の社会問題をの解決できるにつながるはずです。

こうした文脈で考えたとき、SDGsのゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」は非常に画期的です。日本が国家主導のトップダウンだけで施策を進めてもSDGsは達成できず、自治体や地域住民からのボトムアップが欠かせません。全てのステークホルダーが一体となって目標に向かう姿勢は、PPPにも通じる部分だと思います。

PPPへの参加を促し、公共調達の在り方を模索するための仕組み

今後のビジョンについてお聞かせください。

PPPに関する専門知識を持たない地域の産業であっても、自然にPPPに参加できるような仕組みを構築していくことがテーマです。同時に、PPPを通じて「公共調達」について議論し、その在り方を変えていきたいと考えます。公共事業を行う際に誰から商品やサービスを購入するのか決めるプロセスが公共調達であり、PPPもその一手段です。公共調達の在り方次第で、公民連携の形ひいては結果として公共事業で生み出されるものが変わります。今後はPPPと公共調達との間で議論を深め、より良い連携の方法を探っていくことが求められるでしょう。



難波 悠（なんばゆう）
東洋大学経済学研究科公民連携専攻教授／修士（経済学）
専門分野：Public Private Partnership （公民連携、公民パートナーシップ）
研究キーワード：PPP／公共調達制度／移住・二拠点居住
著書・論文等：公民連携白書2018-2019公有地活用とPPP（共著） [時事通信社]、インフラ老朽化対策と維持管理技術：科学技術に関する調査プロジェクト（共著） [調査資料2018-5 国立国会図書館]

NewsLetterに関するお問い合わせ・取材お申し込み
東洋大学総務部広報課
MAIL：mlkoho@toyo.jp
取材お申し込みフォーム
https://www.toyo.ac.jp/press

Toyo SDGs NewsLetter
Toyo SDGs NewsLetter
https://www.toyo.ac.jp/sdgs/SDGs_NewsLetter/

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

東洋大学
SDGs NewsLetter
Vol.32
東洋大学は“知の拠点”として
地球社会の未来へ貢献します
2024.11.15発行

多様な組織・個人の連携で包括的なサポートを実現する北欧の福祉社会

日本では、困難を抱えた方が福祉制度を十分に利用できず大事に至るケースが後を絶ちません。一方でフィンランドは、行政と専門機関とが連携した包括的なサポートにより、問題を早期発見・解決に導く仕組みを構築しています。北欧の事例を交え、今後日本が取り組むべき課題について、国際地域学科の藪長千乃教授がお話しします。

Summary

・日本の児童保護は子どもを家族と切り離す事例が多いが、フィンランドは家族全体のケアを念頭に置く
・妊娠から子育てまで同一の職員が家族を支える制度「ネウボラ」など、当事者に必要な支援を切れ目なく提供
・プロジェクトごとの採用により公務員や各専門職間の交流が促進され、組織全体の連携強化を実現

「子育てする家族を支える」ことを憲法で掲げるフィンランド

フィンランドの福祉制度の特徴を教えてください。

フィンランドの福祉制度は、すべての人が福祉の対象になる「普遍主義」を前提として設計されています。また、各種の制度が有機的に連携するように設計されていることも特徴です。児童福祉をみてみましょう。子どもの健やかな成長を保障していくための普遍的で包括的な支援体制が構築されていることがわかります。たとえば、「ネウボラ」ではすべての子どもと親を対象に、妊娠・出産から子育て期まで、原則として同一の助産師や保健師が継続して家族をケアします。定期的な検診や面談などを通して子育ての不安を気軽に相談してもらうことで、家族が問題を抱え込む前に専門機関につなげ、問題の予防や早期解決が可能になるのです。

また、保育サービスもすべての子どもを対象としています。子育てに難しさを感じている家族に対しては、相談サービス・訪問サービスなどが提供されます。保護が必要な深刻なケースでは、まずは家族と子どもが共に日常生活を送りながら支援を受ける「オープンケア」が実施されます。ファミリーワーカーが家庭を訪問し、家事支援や面談を通して家族と一緒に問題の種を発見し、改善に向かえるように働きかけを行うのです。フィンランドでは、親から子どもを切り離して施設や里親で保護をする代替養育は最終手段です。こうした事例から、どんなケースにおいても子育て支援が切れ目なく続いていることがわかります。この考え方は「子どもの健やかな成長を支えるために、家族を支える責任が国家にある」とする憲法の規定によって支えられているのです。


ファミリーセンターのロビーの様子

日本の福祉制度との違いについてお聞かせください。

日本にも、すべての人を保障の対象とした優れた国民皆保険制度や皆年金制度、さらに介護保険制度もあります。しかし、そのほかの生活上の困難については、問題が深刻化するまでに利用できる支援は整っておらず、制度に切れ目があるのです。日本は高度経済成長期を通じて確立されていった「日本型福祉」という家族の支え合いを重視した考え方の影響を今なお受けています。しかし、働き方や家族の在り方が様変わりした現在においては、多様な生き方に対応すること、そして問題が深刻になる前に対応できるように制度を整備していく必要があります。



Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

当事者の情報をさまざまな機関が共有し、包括的に支援する体制

フィンランドの児童福祉の特徴は何でしょうか。

2016年から「子ども家庭サービス改革（LAPE）」を行い、さまざまな困難を抱える子どもや家族のもとに専門家が集まる体制を理念的に構築したことです。各自治体にファミリーセンターを設置し、子どもと家族に関する支援サービスを集約したのです。この制度こそ、子どもと家族が中心にあり、社会はそれを支えるという考え方を体現しています。個人が社会のためにあるのではなく、社会が個人のためにあるという考え方は北欧型福祉国家の理念でもあります。「必要なサポートが提供されるなら喜んで税金を支払う」という政府と市民の間にある信頼関係も大きな特徴です。

フィンランドの事例から日本が学べることはありますか。

これからの日本は、個人を社会全体で包括的に支援する体制への転換が求められています。それには、社会のさまざまな機関の連携が欠かせません。フィンランドでは、前述のLAPEでの改革にあたって、現場の専門職を登用して古い縦割り文化を一掃することに努めました。また、公務員のプロジェクト採用が進み、官民の垣根が消えつつあります。人員を削減して外部に委託するのではなく、組織自体を変革していくことで、より効果的かつスピード感のあるアプローチを実現できるはずです。

大学の研究成果を政策に反映する環境が整備されているのも特徴です。国家から独立した機関として大学が政策の科学的根拠を提示し、政策提言に向けた重要な機能を担っています。公的機関だけでなく、社会全体が教育・研究に対して協力的です。人口550万人の小さな国家だからこそ、資源を有効に活用し、常に新しいことに取り組む姿勢が浸透しているのです。日本にも取り入れられるポイントは多いでしょう。

マクロ・ミクロの視点から、普遍主義的な福祉の在り方を追究

今後のビジョンについてお聞かせください。

福祉国家が産業や経済の変化に対してどのように対応してきたのか、そしてどのように変化を遂げていくのかに関心があります。福祉国家には安定した財源が必要であり、そのためには順調に成長する産業・経済と働き手が欠かせません。これまでのところ、フィンランドは知識基盤産業への転換やイノベーションの創出を行い、社会構造の変化に比較的うまく対応してきました。一方で、世界は急速に変容し、人口は成熟し、社会の流動化は止めどなく進んでいます。このような状況の中でも、福祉国家の主人公である市民のウェルビーイングを維持し、福祉国家を持続可能にしていくための国の在り方とは何か。フィンランドを対象として研究を続けたいと考えています。



藪長 千乃（やぶなが ちの）
国際学部国際地域学科教授／修士（学術）
専門分野：社会福祉学／社会政策／政治学／比較政治学／地域研究
研究キーワード：比較福祉政策／北欧地域研究／フィンランド
著書・論文等：世界の保育保障（編著）　[法律文化社]、フィンランド現代政治史（翻訳）[早稲田大学出版部]　等

NewsLetterに関するお問い合わせ・取材お申し込み
東洋大学総務部広報課
MAIL：mlkoho@toyo.jp
取材お申し込みフォーム
https://www.toyo.ac.jp/press

Toyo SDGs NewsLetter
Toyo SDGs NewsLetter
https://www.toyo.ac.jp/sdgs/SDGs_NewsLetter/

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

東洋大学
SDGs NewsLetter
Vol.33
東洋大学は“知の拠点”として
地球社会の未来へ貢献します
2024.11.18発行

子どもの多様性を尊重し共に学び合い、成長できる居場所づくりを実践

現代の保育現場では、多様な個性をもつ子どもが共に学び行動する「インクルーシブ教育」の考え方が広がっています。インクルーシブ教育の実践にはどのような工夫が必要なのか。就学前教育・保育の現場が向き合っている課題について、福祉社会デザイン学部子ども支援学科の内田千春教授がお話しします。

Summary

・統合保育から始まった「インクルーシブ教育」の考え方は社会全体に広まっている
・保育者だけに過剰な負担がかからないようにするために、園の垣根を越えた連携が必要
・NPOをはじめとする支援団体を巻き込んだ体制づくりが適切なサポートにつながる

インクルーシブ教育の進展と保育現場での実践

インクルーシブ教育の広がりについて教えてください。

インクルーシブ教育の始まりは、1970年代から広まった「統合保育」に遡ります。障がいのある子どもとない子どもを一緒に保育する仕組みであり、障がいのある子どもを自主的に受け入れる保育園が増加したことで浸透していきました。当初は「一緒にいる」こと、地域で育つ権利の保障から始まりました。そして保育者たちは単に同じ空間を共有するだけでなく、本当の仲間として共に学び行動するための教育を模索するようになりました。車椅子を初めて見た時に病院を連想してしまい、「怖い」と感じた子どもの事例があります。それはただ車椅子のことを知らなかったためにおきたことでした。車椅子を使う子どもと日常的に一緒に過ごす時間を増やせば、当たり前のものとして認識でき、個性が多様であることが自然と感じられるようになります。このように、すべての子どもが共に過ごせる居場所づくりが発展し、統合保育は次第に「インクルーシブ教育」と表現されるようになりました。現代社会において、インクルーシブ教育は決して特別な考え方ではなくなり、社会全体がその実現に向けて動き出しています。

園同士の連携、地域や保護者との結びつきが教育の浸透を促す

保育現場における課題はありますか。



先生が大勢いれば多様なノウハウが集まって、創意工夫の幅が広がります。そのため、家庭的保育などの小規模施設の方が、先生方の負担感は大きくなるリスクが高くなります。よりよい保育を実現しながら負担を軽減していくために必要なのは、「園同士の連携」です。公立園では、ノウハウを地域の他の園に伝える公開保育を実施したり、研修の場を提供したりする取り組みが多く見られます。しかし、民間の園は各園が独立しているため、知識やスキルを共有できていない地域がある状況です。また、自治体の規模によっても進展の差があり、東京都内の23区のように大規模な地域では特に連携が容易ではありません。

こうした状況は保育全体の課題であり、養成学校の先生や研究者、行政関係者も解決に向けて努力を重ねているところです。本学でも北区の保育関係者に対して子ども支援学科の教員がオンライン公開保育研修会を実施するなど、園同士の連携強化に向けた取り組みを進めています。

また、保護者理解も大切です。特別な支援が必要な子どもへの対応が進む中で、「自分の子どもはどうなるのか」と不安を感じる保護者もいるでしょう。したがって、インクルーシブな環境はどの子どもにもメリットがあることをいかに保護者に伝えて

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

いくのかが、地域や保護者との結びつきを強める上で求められています。多様な仲間とのかかわりは、将来さまざまな人と協力しながら過ごしていく力につながります。実際、多くの園ではさまざまな方法での働きかけが工夫されており、注意深く見ると掲示物やお便りに込められたメッセージに気付けるかもしれません。さらに理想を述べるならば、こうしたアプローチは管理職が主導し、現場の先生方は子どもたちとの関わりに専念できるような環境を整えることが望ましいですね。

適切な支援を行き届かせるための体制整備

インクルーシブ教育のさらなる進展に向けて、注力すべきポイントを教えてください。

一見均質だと思っていても、家族との過ごし方から経済事情まで子どもたちの背景は全く異なります。障がいがあることや外国にルーツを持つことなど、インクルーシブ教育の対象とされる子どもたちの属性も、個性の延長線上にあるものです。大切にすべきなのは、「一人ひとりと向き合った保育」。良い保育をしている園では、先生たちの創意工夫が巧みに実践されています。アドバイスする立場にある私が、先生方から学ぶケースも珍しくありません。

一方で、外国にルーツを持つ子どもやその保護者への支援に関しては、まだノウハウが不足しているのが現状です。課題解決に向けて、最近では国が主導してパンフレットや研修ビデオの作成に取り組んでいます。私も過去にインクルーシブ教育の研修キットの作成に参加しました。今後はクラスづくりなど、インクルーシブ教育の実践を手助けできる教材をつくりたいと考えています。国の補助を活用すれば対応可能な範囲も広がるので、外国にルーツを持つ子どもたちへの基本的な支援策がさらに広がっていくことを期待しています。


インクルーシブ教育の教材

研究に関する今後の展望についてお聞かせください。

外国にルーツをもつ家族への支援に関しては、保育者以外にも頑張っているNPOがあります。そうしたNPOや行政、保健機関などと保育現場が連携することが求められます。外国籍の方々は病院や検診など日本の制度を活用する意思はあるものの、どうしても情報弱者になってしまうケースが多いのです。たとえICTやAIで翻訳ができたとしても、どこに情報があるかを知らなければサポートは受けられません。だからこそ、私たち保育関係者や各団体が手を取り合って支援の輪を広げることで、必要な時に適切な対応を取れるようになるはずです。そうした体制を整えている地域も既に存在するので、実践事例を拾い上げて研究し、得た知識・成果を社会に還元していきたいと考えています。



内田　千春（うちだ ちはる）
東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科教授／博士（教育）
専門分野：保育学／教育学／発達心理学　研究キーワード：保育の質と専門性／インクルージョン／外国につながる子どもと家族への支援/異文化間教育　著書・論文等：保育者養成課程の21世紀初頭の変化と課題－グローバル化の影響と養成教員の責務－［日本教師教育学会年報 31, 54-62, 2022年］、就学前教育・保育の視点から教育格差を考える－言語文化的に多様な子どもたちと接続期の支援－［異文化間教育54、19-38、2021年］

NewsLetterに関するお問い合わせ・取材お申し込み
東洋大学総務部広報課
MAIL：mlkoho@toyo.jp
取材お申し込みフォーム
https://www.toyo.ac.jp/press

Toyo SDGs NewsLetter
Toyo SDGs NewsLetter
https://www.toyo.ac.jp/sdgs/SDGs_NewsLetter/

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

東洋大学
SDGs NewsLetter
Vol.34
東洋大学は“知の拠点”として
地球社会の未来へ貢献します
2024.12.18発行

自らSDGsを学び、伝えることで、「深い学び」に導ける教員の養成を目指す

2017年改定の学習指導要領で掲げられた「主体的・対話的で深い学び」。その実践を担う教員養成の現場では、教材としてSDGs教育やドキュメンタリーなど物語性のある作品を活用するアプローチに注目が集まっています。SDGs教育を模擬授業で取り扱う文学部教育学科の下田好行教授に、日本の教育の現状や課題についてお聞きしました。

Summary

・「深い学び」の促進には、ドキュメンタリーなど物語性のある作品を活用することが有効
・教員養成において、SDGsをテーマにした模擬授業は先生役・生徒役の双方が真摯に取り組める実践的な題材として最適
・教科書を中心とした授業という既成観念からの脱却と、「深い学び」につながる柔軟な教材活用が求められる

映像作品を用いたSDGs教育を、教員養成の現場に導入

学習指導要領に示されている「深い学び」について教えてください。

「深い学び」は2017年の学習指導要領改訂で新たに盛り込まれた、単元や課題の本質を深く捉え、自ら問いを立て、解決方法を考える過程で題材への理解を深める学びです。問いを立てるには、題材に対して当事者意識を持って向き合う姿勢が欠かせません。一方で「問いを立てる」という営みを、今の大学生は小・中・高の学びであまり経験していません。大学で卒業論文を執筆する際に初めて行ったというケースも珍しくないでしょう。「深い学び」に導く授業を実践するには、まずは教員志望の大学生自身がそれを経験する必要があります。私は専門分野である教育方法論の知見を生かし、教職課程の授業を担当していますが、「深い学び」を経験する方法論の一例として、ドキュメンタリーや映画の活用が挙げられます。物語性のある映像作品や書籍に触れると、作中の人物が経験した出来事を視聴者も追体験することができます。感情移入しながら自身の内面を深く掘り下げる過程を通し、題材を自分事として捉えられるようになるのです。

「深い学び」に導く教員を養成するために、どのような取り組みを行っているのでしょうか。



私の担当講義では、「SDGsに関連したテーマ」で学生に１人あたり30分の模擬授業を行っています。題材設定の理由は二つあります。一つ目は大学生がリアリティーを持って取り組める点です。教員にとって重要な「目の前にいる人のリアクションを感じ、自分の言葉や指導法を軌道修正しながら授業を続ける」姿勢を養うため、先生役・生徒役の大学生が共に真摯に向き合えるSDGsを取り入れています。

二つ目は、教員志望者にとって今後SDGsが必須になるという信念です。SDGsと関連する現代的・人類的課題は重要なトピックとして学習指導要領で位置付けられており、教育現場では社会科や理科、総合的な学習の時間の授業で扱うように推奨されています。しかし、現実においては依然として戦争や人権侵害といった諸問題が絶えません。教職課程ではSDGs教育の方法論も教えますが、知識や理屈を通してではなく、学生がSDGsの重要性そのものを切実に実感できるように、模擬授業のスタイルを構築しました。題材として調べ、実際に授業で用いるという主体的な行為を通して、思い入れや理解が一層深まると考えています。

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

東洋大学 SDGs NewsLetter Vol.34
東洋大学は“知の拠点”として地球社会の未来へ貢献します
2024.12.18発行

映像メディアを活用したSDGs教育による「深い学び」の実践

模擬授業においても映像作品を活用されるのでしょうか。

学生には、映画やアニメ、絵本など物語性のある作品を取り入れるように推奨しています。特にドキュメンタリーは強い説得力を有しているため非常に効果的です。学生は種々の題材を扱いながら自ら問いを立て、資料を収集し、授業を設計してSDGsを通じた「深い学び」を実践します。たとえば、ある学生は「命とは何か-出生前診断と命の選択-」という問いを立て、模擬授業で見せる映像作品に『コウノドリ』第10話（TBS）を選びました。「あなたの授かった胎児が出生前診断で『ダウン症を持っている』と判断された場合、どう考え、行動するか」。学生たちは自身と異なる意見にも耳を傾けながら、積極的に議論しました。映像作品を教材として使うことで、学生が「実際に起こり得る話」としてエピソードを受け止め、当事者意識をもって深く問いに向き合えたようです。

このように、SDGs教育や映像メディアの活用などさまざまなアプローチから「深い学び」への導き方について学生自身が実践から学んでいます。教材選定において、教員の間で根強い「教科書を中心に授業をしなければならない」という既成観念から脱却し、デジタルコンテンツを発掘して、授業に積極的に取り入れてもらいたいです。また、私自身、近年は子ども家庭庁のこども家庭審議会委員として「こどもたちに読んでほしい本」の選定に携わっています。SDGs関連はもちろん、「深い学び」につながる芸術性の高い書籍も選定しているので、ぜひ教材として活用してほしいですね。



今後の研究テーマについてお聞かせください。

現在、世界ではSDGsに含まれる人権遵守の意識と、戦争などで他国・地域を侵略しようとする意識が相克しています。これまでの歴史では、人間は自己の利益や価値を優先して、結果的に他者に危害・損害を加え、人権を踏みにじるという悲劇を繰り返してきました。一方でそうした過ちを犯さないように是正する機運や、少しずつ精神的な進化を遂げてきた側面もあります。人間の内面における光と影が、歴史を通してどのように変化してきたのかを、今後の研究テーマとして深掘りしたいと考えています。



下田　好行（しもだ よしゆき）
文学部教育学科教授／修士（教育）　専門分野：教科教育学／初等中等教育学／学習指導法／カリキュラム・教材開発　研究キーワード：ホリスティック教育／幼児教育学／道徳の指導法／特別活動の指導法／総合的な学習の時間の指導法／カリキュラム・教材開発論／教育方法学・学習指導学　著書・論文等：自己の直観を自証する授業・教材のあり方－垣内松三の自証体系とその授業実践を通して－［教材学研究 第25巻（日本教材学会）］等

NewsLetterに関するお問い合わせ・取材お申し込み
東洋大学総務部広報課
MAIL：mlkoho@toyo.jp
取材お申し込みフォーム
https://www.toyo.ac.jp/press

Toyo SDGs NewsLetter
Toyo SDGs NewsLetter
https://www.toyo.ac.jp/sdgs/SDGs_NewsLetter/

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

東洋大学
SDGs NewsLetter
Vol.35
東洋大学は“知の拠点”として
地球社会の未来へ貢献します
2025.2.28発行

AI技術と融合するシミュレーションが未来の産業基盤に

自然科学・工学などのさまざまな分野で、コンピューターによるシミュレーションは重要な役割を果たしてきました。近年はAI技術によってさらなる変化を遂げています。30年以上、シミュレーション科学を専門に研究してきた総合情報学部総合情報学科の中林靖教授に、同分野の進化とその最前線についてお聞きしました。

Summary

・シミュレーションは安全・コスト・時間などの制限から実験しづらい分野で重要な役割を果たす
・AIの特徴は、理論式がなくても膨大なデータセットの学習によって答えを導くこと
・AIによる出力結果に物理の方程式を加えて機械学習を繰り返すことで誤差を修正して精度を向上できる

科学のフロンティアを広げたデータ科学・AIブーム

コンピューターシミュレーションはどのように進化してきたのでしょうか。

科学のパラダイムを表す際に「第一の科学」「第二の科学」「第三の科学」「第四の科学」という言い方があります。第一の科学は、自然界の現象や法則を実験・観察を通じて明らかにしようとした実験の時代。第二の科学は、実験による知識の蓄積から根源的な原理・理論を発見しようとする理論の時代。そして第三の科学が計算科学、いわゆる計算機の力により理論を検証しようとするシミュレーション科学の時代です。

実はコンピューターシミュレーションは、第2次世界大戦において、大砲の弾の軌道を正確に計算して敵方に的中させるために使われ始めました。シミュレーションとは、ラテン語の“similis”（類似）を語源に持つように「あたかもやったように代用する」ことを指します。シミュレーション科学は、例えば原子炉の冷却水の流れであったり、自動車や航空機の空力設計・衝突実験であったり、宇宙の進化（ビッグバンや銀河の形成過程）であったりと、安全性やコスト面、時間的・法律的な制限などから実験による検証ができない分野で重要な役割を果たしています。

最後の第四の時代は、AIなどのデータ科学が該当します。データ科学の到来で科学のフロンティアがさらに広がりました。

データ科学の発達が、シミュレーションにもたらした変化を教えてください。



第三の科学、いわゆるシミュレーションには理論式が不可欠です。しかし、データ科学が支えるAIは、理論式がなくてもシミュレーションが可能であり、この点が最大の違いと言えます。分かりやすい例はAI将棋で、AIは将棋の方程式を知らずとも過去のデータの蓄積から最善手を導けますが、計算科学では将棋の方程式がなければ勝つ手を考えられません。つまり、AIは、正解の理屈を分からなくても、入力と出力の組み合わせの学習だけで答えを出すことができるのです。しかしそれは同時にAIの弱さでもあります。理屈が分からずに出された結果には誤差が生じやすいからです。

この誤差を埋めるアプローチのひとつに、PINNs=Physics-Informed Neural Networksがあります。AIによる出力結果に、物理の方程式を加えて検算し、誤差を修正させ、機械学習を繰り返すことで精度を高めるというものです。同手法を用いて従来のシミュレーションにAIをハイブリッドすると、計算の速度や精度が格段に向上します。ものづくり工学においても実用性があり、近年は産業基盤として応用しても問題ないほどに研究が進みました。

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

東洋大学 SDGs NewsLetter Vol.35
東洋大学は“知の拠点”として地球社会の未来へ貢献します
2025.2.28発行

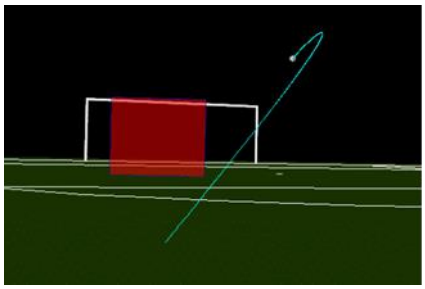
シミュレーション分野における量子コンピューターへの期待

シミュレーション技術の進化により、研究内容はどのように変化しましたか。

近年は従来のコンピューターシミュレーションとAIとデータサイエンスを組み合わせたアプローチが盛んです。以前に研究活動の一環で、サッカーのフリーキックが入る確率を上げるサポートシステムの開発に取り組みました。ボールの硬さや弾みなどの材料定数、空気抵抗・変化球の特性といった空力係数を踏まえて軌道をシミュレーションし、最後にAIを用いて誰がどのように蹴れば入る確率が高くなるのかを瞬時に計算するのです。この場合、軌道のシミュレーションまでが第三の科学である計算科学的手法です。すなわち、物理方程式からどのように蹴ればどこに飛ぶのかをシミュレーションしています。一方、実際のフリーキックで有益となる情報は、特定の場所に飛ばすためにはどのように蹴れば良いかという逆のものになります。サポートシステムでは、作成した大量のシミュレーション結果を第四の科学であるAIに学習させることによって、よりボールが入りやすい蹴り方を導いているのです。

今後の研究テーマについてお聞かせください。

次にシミュレーション分野で劇的な変化を起こすと目されているのが量子コンピューターです。従来のコンピューターは、「0」か「1」で情報を表すビットを用います。一方で量子コンピューターは、量子力学の「重ね合わせの原理」を利用することで、「0」と「1」の両方の状態を同時に取りながら計算を行えるといった特性があります。これにより、現代社会における複雑な問題のシミュレーションが可能になります。例えば気象予測は、温度・湿度・風速・大気圧など大量のデータをもとに大気の混沌とした変動を捉える必要があり、従来のコンピューターでは限界がありました。量子コンピューターの発展が進めば、より高速かつ正確な気象予測が可能になると期待されます。


フリーキックの軌道シミュレーション

今後は、コモディティ化するAIの具体的な利用法を模索するとともに、量子コンピューターを活用したシミュレーションも研究したいと考えています。



中林　靖（なかばやし やすし）
総合情報学部総合情報学科教授／博士（工学）　専門分野：応用物理学・工学基礎／情報学／情報学基礎　研究キーワード：計算力学／人工知能・最適化／モバイル／ネットワークコンピューティング／PINNs　著書・論文等：Accurate fluid-structure interaction computations using elements without mi-side nodes　[Computational Mechanics,Vol.48, No.3]など

NewsLetterに関するお問い合わせ・取材お申し込み
東洋大学総務部広報課
MAIL：mlkoho@toyo.jp
取材お申し込みフォーム
https://www.toyo.ac.jp/press

Toyo SDGs NewsLetter
Toyo SDGs NewsLetter
https://www.toyo.ac.jp/sdgs/SDGs_NewsLetter/

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

東洋大学
SDGs NewsLetter
Vol.36
東洋大学は“知の拠点”として
地球社会の未来へ貢献します
2025.3.25発行

アートを媒介として多様な人々の対話を生み、持続可能な地域の未来を拓く

近年、過疎化やコミュニティの衰退といった課題が山積する中で、パブリックスペースにおける「文化芸術」の活用が注目されています。文化芸術は、持続可能な地域の実現に向けてどのような力を発揮するのか。アートを通したまちづくりを実践する理工学部建築学科の田口陽子准教授にお聞きしました。

Summary

・パブリックスペースの本質は、さまざまな価値観や考えを持つ人々が共存できる点にある
・アートは、言葉だけでは共有しにくい未来のイメージを具体化し、多様な視点を交換・共有する媒介になる
・パブリックスペースを「ビジョンの実験場」と捉え、アートを通した交流や対話から地域の未来の共創を促す

地域の未来に対する対話や創造を育むアートの力

先生が取り組まれた、アートを活用したまちづくりについて教えてください。

有田焼で有名な佐賀県有田町にある、築90年の空き家「江越邸」を拠点に行った「FUTURE ARITA project」があります。江越邸の活用を巡って生まれた本活動は、学生や地域住民と「未来の有田」のシナリオを描き、それをアーティストが作品に表現し、実際のまちづくりにつなげる試みです。



私は博士課程時代に留学したオランダで、まちづくりの合意形成のプロセスに、建築家が積極的に関わっている事実を知りました。まず建築家が実現可能か分からない極端な都市計画のシナリオやイメージを提案し、それに対して地域住民を含む関係者が意見を出し合いながら合意形成を図るのです。留学経験を機に同分野に関心を抱き、帰国後、まちづくりに関わるようになりました。日本でも地域住民を巻き込んだ取り組みが各地で行われていますが、単に生活者の意見を反映させること以上に、生活者自身が未来を共に創る主体として関わるプロセスが重要だと考えています。解決策を模索していた際、オランダでの経験に立ち返って思い付いたのが、アートを媒介にすることでした。

都市計画のビジョンは通常、多様な意見を反映させる過程でシンプルな言葉に落とし込まれますが、新たな発想が制約される危険性があります。しかしアートは、人により解釈がさまざまです。「FUTURE ARITA project」では、地域住民と学生のワークショップで生まれた「未来の有田」をアート作品として展示したところ、8割以上の鑑賞者が「未来の有田に対するイメージが膨らんだ」「やや膨らんだ」と回答。言葉だけでは共有しにくい都市の未来像が想像しやすくなっただけでなく、まちづくりの議論も活性化したのです。

人によってさまざまな解釈ができるアートだからこそ、多様な視点を共有できるのですね。

アートの力は、地域社会における「持続可能性」や「未来への対話」が求められるシーンで発揮されると考えています。こうした対話や交流には、多様な視点から新たな価値を探るコミュニケーションの場が欠かせません。私は、一見何の役に立つかわからないアートがあえて一義的な意味に回収されないことで、対話のきっかけになると考えています。私が述べるアートとは、予定調和的にあるものではなく、実験の要素を含んでいます。さまざまな考えや価値観が共存する場こそが、パブリックスペースの本質です。アートが媒介となることで、住民の

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

多様な活動へとつながる流れを生み出せるのではないか。パブリックスペースを「ビジョンの実験場」と捉え、地域社会の未来に貢献する可能性を探っています。

アートは観光資源としてだけでなく、地域の暮らしにおいて価値があるものです。例えば、市民の創造性の向上を目的とした「さいたま国際芸術祭」では、参加者がイベントを機にシェアキッチンなどの取り組みを始めています。アートが地域活性化につながった好例と言えるでしょう。

「大阪・関西万博」は、未来社会のビジョンを提示する場となることが期待されています。

大阪・関西万博は「未来の可能性を示唆するプロトタイプを生み出す場」であるべきだと考えています。完成形の未来を示すのではなく、多様な可能性を派生させる「実験的な場」として機能すること。「実用化できないから意味がない」と切り捨てられがちなものも含めたさまざまな未来の形が展示され、実証実験も行われ、人々の交流や対話、発見が生まれる。プロトタイプづくりを通して、多様なアプローチを探り、新たな価値を生み出すきっかけになることが、本イベントの役割ではないでしょうか。

“曖昧な存在”を通し、多様性に開かれるパブリックスペースへ

今後の研究テーマについてお聞かせください。

現在、文京区の麟祥院の敷地内に建つ空き家「葉集軒」の活用プロジェクトに取り組んでいます。麟祥院は徳川家光の乳母・春日局の菩提寺であり、のちに井上円了が、東洋大学の前身である私塾哲学館をその一部を借りてはじめた歴史があります。葉集軒は、昭和初期に建てられ、変遷を重ねてきました。葉集軒の歩みをひも解きながら、地元住民とマンション開発によって増加した新規転入者とが交わり、新たな関係が生まれるパブリックスペースとしてのあり方を模索しています。



田口陽子＋東洋大学地域デザイン研究室
《スケーパー研究所・妖怪実験》2024年

現在は、井上円了が妖怪学者でもあったことにちなみ、学生や地域住民と妖怪をテーマにしたワークショップを通じて、多様な視点を交換する取り組みを行なっています。妖怪は世代を超えて愛されており、異質なものの象徴です。妖怪という「曖昧な存在」をテーマにしたアートは、何気なく見過ごしていた風景や物事を別の角度から「みる」ことを促し、同時に、自らもまた「みられる」可能性に気づくきっかけにもなります。この体験は人々の視点を揺さぶり、当たり前だと思っていた自らの視点を見つめ直す機会となっているようです。こうした気づきが対話を促し、多様性に開かれる場へと発展していくことを願っています。



田口　陽子（たぐちようこ）
理工学部建築学科准教授／博士（工学）専門分野：建築学／都市計画・建築計画／環境デザイン　研究キーワード：公共空間デザイン／地域施設計画／まちづくり／地域計画／都市居住　著書・論文等：創作活動の場を核とした複合空間における共創と集客拠点形成－オランダのDe Ceuvelにおける空間マネジメントの実態調査（共著）　[住総研研究論文集 Vol.43]等

NewsLetterに関するお問い合わせ・取材お申し込み
東洋大学総務部広報課
MAIL：mlkoho@toyo.jp
取材お申し込みフォーム
https://www.toyo.ac.jp/press

Toyo SDGs NewsLetter
Toyo SDGs NewsLetter
https://www.toyo.ac.jp/sdgs/SDGs_NewsLetter/

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

Copyright © Toyo University. All Rights Reserved.

※2 社が同時に配信するため、リリースが重複する場合がございます。ご了承ください。

報道関係各位

プレスリリース

2024 年 4 月 1 日
学校法人東洋大学
リングロー株式会社

東洋大学とリングロー(株）が業務提携、「リユース PC 募金」を開始
寄付金を教育環境向上に活用、SDGs にも貢献

関東に 4 か所のキャンパスを構える学校法人東洋大学（理事長：安齋 隆、以下、東洋大学)、リユースパソコンの卸売事業をメインとするリングロー株式会社（本社：東京都豊島区、代表取締役：碇敏之、以下、リングロー）の 2 社は、4 月 1 日より業務提携契約を締結する運びとなりました。この度の業務提携に伴い、「リユース PC 募金」を開始します。
「リユース PC 募金」は在学生をはじめとした大学関係者を対象に、不要になったパソコンをリングローで引き取り、査定金額を募金という形で東洋大学に寄付することで、奨学事業の充実に活用する制度です。この取り組みは持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた貢献を目的としており、不要 PC の再利用を促進し、環境への負荷軽減を目指したものです。
東洋大学とリングローは、この度の業務提携を通じて社会的責任を果たし、持続可能な未来の実現に向けて積極的に一翼を担っていきます。

■「リユース PC 募金」とは

東洋大学の在学生や卒業生、教職員を対象に、ご家庭で不要になったパソコン等の IT 機器をリングローで引き取り、査定を行います。その後、査定金額をそのまま東洋大学へ募金という形で寄付し、奨学事業の充実を使途として活用する制度です。着払いでの寄付のため、寄付者は送料・処分費が発生することなく不要 PC を手放すことができるほか、現金化して母校の奨学事業充実の一助にもなり、有効的に資源を循環することが可能です。この活動を通じて持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた環境への負担軽減を目指し、不要 PC の再利用を促進していきます。
なお、回収したパソコンには専用ソフトフェア「Blancco」を用いてデータの完全消去を行い、万が一ソフトウェアでの消去が行えなかった場合は記憶装置を取り出して物理的に破壊します。また、完全にデータを消去した証明として、データ消去証明書が後日メールにて送付されます。

・寄付対象：パソコン、タブレット、スマートフォン
・対象外：ブラウン管モニター、無停電電源装置（UPS)、プリンター、複合機、パソコン周辺機器、フューチャーフォン（ガラケー)、スマートウォッチ
・「リユース PC 募金」申込専用ウェブページ：https://ringrow.wixsite.com/toyo-kifu

・リユース募金の流れ
申込専用ウェブページ内お申込みフォームからお申込み
↓
リングローから宅配便着払い伝票の郵送（普通郵便）

↓
寄付していただける製品の梱包、発送
↓
製品到着後、リングローでのデータ消去、査定
↓
製品到着から 1 週間前後を目安にデータ消去証明書の発行及び、査定金額（寄付金額）のご報告



▲「リユース PC 募金」トップページ

■業務提携に際し各社コメント

東洋大学　社会連携推進室　室長　山﨑勉（やまざき・つとむ）のコメント

以前より、古本や不要になったカバン等をお送りいただき、その買取金額を本学へご寄付いただく制度はありましたが、この度、リングロー様にご協力いただくことで、不要になった際に処理が難しい、パソコンやスマートフォンについても対応できるようになりました。安心安全に回収・データ削除を行うことができ、さらに買取金額がご寄付となり、学生への奨学金に役立てられるものとなります。SDGs にも即した本寄付制度を通して、“寄付”をより身近に感じていただけることを期待しています。

リングロー　営業促進部　部長　森啓登（もり・ひろと）のコメント

このご時世、たくさんの方がパソコンやスマートフォンを持っていますが、不要になった機器をどう捨てたら良いかわからないという方が多いように感じています。実際、迷っているユーザー様に廃棄ではなくリユースの道をおすすめすると、「そんな風にできるんですね！」と驚きの声を頂くことも多々あります。「捨てる」のではなく、「リユース」が一般的になり、循環型の世の中になっていくことがリングローの願いです。東洋大学様との活動を通して、まずは東洋大学の関係者の方からリユースの意識付けが広まっていくことを期待しています。

＜学校法人東洋大学について＞

学校法人東洋大学は 1 つの大学、3 つの中学校・高等学校、1 つの幼稚園を展開する学校法人です。中核を担う東洋大学は 2024 年現在、14 学部と大学院 15 研究科を擁する総合大学となり、キャンパスも白山をはじめとし、赤羽台、川越、朝霞の 4 つのキャン

パスを有しています。2024 年度には生命科学部、食環境科学部が朝霞キャンパスに移転・改組し、朝霞キャンパスは「生命（いのち）と食」に関する総合的な教育研究拠点に生まれ変わります。

【大学概要】

・名称　　：学校法人東洋大学
・理事長　　：安齋 隆
・キャンパス所在地：白山キャンパス　〒112-8606　東京都文京区白山 5-28-20
　赤羽台キャンパス　〒115-8650 東京都北区赤羽台 1-7-11
　川越キャンパス　〒350-8585 埼玉県川越市鯨井 2100
　朝霞キャンパス　〒351-0007 埼玉県朝霞市岡 48-1
・附属校　　：附属姫路中学校・高等学校　〒671-2201　兵庫県姫路市書写 1699
　附属牛久中学校・高等学校　〒300-1211　茨城県牛久市柏田町 1360-2
　東洋大学京北中学高等学校　〒112-8607　東京都文京区白山 2-36-5
　京北幼稚園　〒113-0021　東京都文京区本駒込 2-13-5
・URL　　：https://www.toyo.ac.jp/（東洋大学公式 HP）

＜リングロー株式会社について＞

2001 年に有限会社リペアシステムサービスとして設立。2021 年に創立 20 周年を迎える。主力事業は中古パソコンの販売・修理・買取。2018 年 4 月に販売を開始した、本体と電話サポートが無期限保証になる中古パソコン「R∞PC（アールピーシー）」をはじめ、廃校活用の「おかえり集学校プロジェクト（*）」を立ち上げるなど、斬新な取り組みで業界をけん引している。

（*）「おかえり集学校プロジェクト」は 2023 年 4 月 1 日より分社化し、一般社団法人として法人化。

【会社概要】

・名称　　：リングロー株式会社
・代表取締役　　：碇敏之
・本社所在地　　：〒171-0021　東京都豊島区西池袋 5-1-3　メトロシティ西池袋 4 階
・事業内容　　：中古パソコンの販売・修理・買取
・URL　　：https://www.ringrow.co.jp/（リングロー公式 HP）

＜報道関係者お問い合わせ先＞

■東洋大学広報担当
担当：社会連携推進室 募金課　藤田・窪薗（ふじた・くぼその）
TEL：03-3945-7498
FAX：03-3945-7788
E-mail：bokin@toyo.jp

■リングロー広報担当
担当：蓮実（はすみ）
TEL：03-6747-3600
FAX：03-6747-3620
E-mail：pr-contact@ringrow.co.jp

取材のご案内《報道関係者各位》

2024年5月15日

官学連携によるまちづくりを推進！

学校法人東洋大学と福井県若狭町が持続可能なまちづくり推進に関する協定を締結

5月22日(水)14:30～　東洋大学白山キャンパスにて協定締結式を開催

学校法人東洋大学（東京都文京区/理事長 安齋 隆）と福井県若狭町（町長 渡辺 英朗）は、公民連携（以下、PPPという。）を用いた持続可能なまちづくりなどの推進を目的とした「若狭町と学校法人東洋大学とのPPP（公民連携）推進に関する協定書」を締結。5月22日（水）14：30から東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）で協定締結式を開催いたします。

福井県若狭町（人口約14000人）はリアス式海岸で有名な若狭湾に面し、ラムサール条約登録湿地である三方五湖、古くからの日本海と京阪地域を結ぶ流通経路である鯖街道や熊川宿などで有名な地域です。近年では、隣接する関西圏の工業向けの原料・中間材工場の集積も進むとともに、2024年3月に延伸された北陸新幹線敦賀駅からも近く首都圏へのアクセスも良くなりました。町では、こうした機会を捉え、人口減少や公共施設等老朽化等の諸問題の解決に効果的に取り組むために、PPPの本格的な導入を行うこととしたものです。

一方、東洋大学は、世界で唯一のPPPを専門とする大学院公民連携専攻およびPPP研究センターを設置しており、これまでにも、岩手県紫波町のほか多くの地方公共団体と協定を結んで支援して参りました。今回、若狭町からの要請に応じて、老朽化が進んでいる公共施設の整備や運営の計画・調査に関すること、地域経営の観点から地域社会の発展に資する人材育成等を目的とした協定を締結することになりました。

つきましては、下記のとおり、学校法人東洋大学と福井県若狭町による協定締結式を執り行うことになりましたので、ご多用中とは存じますが、ご取材賜りますようご案内申し上げます。

＜記＞

日　　時：　２０２４年５月２２日（水）１４：３０～（受付開始時間：１４：００～）
場　　所：　東洋大学白山キャンパス　８号館・第２会議室（８号館中２階）
　　（東京都文京区白山５－２８－２０）
出 席 者：　学校法人東洋大学 理事長　安齋　隆　（あんざい たかし）
　　東洋大学 学長　矢口 悦子（やぐち えつこ）
　　東洋大学PPP研究センター センター長　根本 祐二（ねもと ゆうじ）
　　福井県若狭町 町長　渡辺 英朗（わたなべ ひであき）
取 材 内 容：　締結の様子
　　東洋大学理事長、東洋大学PPP研究センター長、若狭町町長への囲み取材

取材をご希望の方は、申請フォームから**5月21日（火）17：00まで** に事前手続きをお願い申し上げます。
＜取材申請フォーム：https://forms.gle/WfkCHRXv1YC7omd27＞

・駐車場、電源、音声ケーブル、Wifiの用意はございませんので、予めご了承ください。

・東洋大学PPP研究センター ホームページ：https://www.pppschool.jp/pppc/
・福井県若狭町 ホームページ：https://www.town.fukui-wakasa.lg.jp/

【本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先】

【東洋大学】東洋大学総務部広報課　担当：斉藤・西澤
TEL：03-3945-7571　MAIL：mlkoho@toyo.jp

【福井県若狭町】若狭町観光商工課　担当：田中・山名
TEL：0770-45-9111　MAIL:yamana-sa@town.fukui-wakasa.lg.jp

東洋大学

学校法人東洋大学と福井県若狭町が持続可能なまちづくり推進に関する協定を締結

大学ニュース / 先端研究 / 産官学連携 / 地域貢献

2024.05.23 11:00

Xポスト　ブックマーク

学校法人東洋大学（東京都文京区/理事長 安藤晴）と福井県若狭町（町長 渡辺英朗）は、公民連携（パブリック・プライベート・パートナーシップ、以下PPP）を用いた持続可能なまちづくりなどの推進を目的とした「若狭町と学校法人東洋大学とのPPP（公民連携）推進に関する協定書」を締結し、2024年5月22日（水）に協定締結式を開催いたしました。

公民連携（PPP）は、地方自治体の少子高齢化や公共施設の老朽化など様々な社会課題・行政課題に対応した施策を進めるにあたり、これまで以上に必要な考え方になっています。東洋大学では、2006年にPPPを専門に教育研究する社会人大学院を開設して以来、世界初のPPP専門の教育研究機関として活動しており、これまでに多くの地方公共団体と協定を結び、支援を行ってきました。

福井県若狭町（人口約14,000人）はリアス式海岸で有名な若狭湾に面し、ラムサール条約登録湿地である三方五湖、古くからの日本海と京阪地域を結ぶ流通経路である鯖街道や熊川宿などで有名な地域です。近年では、隣接する関西圏の工業向けの原料・中間材工場の集積も進むとともに、2024年3月に延伸された北陸新幹線敦賀駅からも近く首都圏へのアクセスも良くなりました。町では、こうした機会を捉え、人口減少や公共施設等老朽化等の諸問題の解決に効果的に取り組むために、PPPの本格的な導入を行うことを計画しました。

PPP分野におけるトップランナーとして東洋大学は、老朽化が進んでいる公共施設の整備や運営の計画・調査に関すること、地域経営の観点から地域社会の発展に資する人材育成等を実施し、官学連携によるまちづくりを推進することを目指します。

【協定の概要】
・協定締結日
　2024（令和6）年5月1日
・連携分野
　1. PPPの推進に関すること
　2. 公共施設の整備や運営の計画・調査に関すること
　3. 地域社会の発展に資する人材育成に関すること
・取組みのイメージ
東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻の下に設置されているＰＰＰ研究センターと連携した取組みを行います。公共施設整備・運営や公有資産利活用に係る案件を主な対象として、東洋大学に在籍する公民連携の実務経験を有する教員や社会人学生と連携することで、具体的かつ実践的な取組みを行います。

【東洋大学PPP研究センターセンター長（大学院経済学研究科公民連携専攻長）根本祐二教授のコメント】
人口減少が進む中、老朽化した公共施設の施約再編は全国共通の課題です。ただし、残す施設をどう持続させるか、なくす施設の跡をどう活用するかには独自の工夫が不可欠です。福井県若狭町は、三方五湖などの自然資源、鯖街道・熊川宿などの歴史資源で有名な町ですが、それにとどまりません。五湖の一つである水月湖の湖底に堆積した過去16万年分の地質サンプル「年縞」は、2012年に世界の地質学的年代決定の世界標準として認められた科学および産業資源です。また、鯖街道は、もともと若狭湾の海産物を京都に届けるルートであり、現在の企業誘致にも活用できる関西圏との近接性という経済資源にもなっています。こうした未来につながる資源を生かせるように、町の公共施設をどう再編していくのか、地域や民間企業の方々と一緒に考えていきたいです。

―根本教授の略歴―
日本開発銀行（現日本政策投資銀行）入行、同行地域企画部長を経て、2006年に東洋大学経済学部教授に就任。
現在、同大学院経済学研究科公民連携専攻長、同ＰＰＰ研究センター長を兼務。
著書に『朽ちるインフラ』等。

【関連サイト】
・東洋大学：基本情報　https://www.toyo.ac.jp/about/introducing/
・東洋大学：PPPポータルサイト　https://www.pppschool.jp/

▼報道関係の方による取材に関する問い合わせ先
東洋大学総務部広報課
TEL：03-3945-7571
E-mail：mikoho@toyo.jp



若狭町渡辺町長（左）と東洋大学安藤理事長（右）


左から東洋大学根本教授・東洋大学安藤理事長・若狭町渡辺町長・東洋大学矢口学長

大学・学校情報

大学・学校名
東洋大学

東洋大学 TOYO UNIVERSITY

URL
https://www.toyo.ac.jp/

住所
東京都文京区白山5-28-20

1887（明治20）年、哲学者・井上円了によって創立された東洋大学は、「諸学の基礎は哲学にあり」を建学の精神として掲げる私立大学。東洋大学の考える「哲学」とは、つねに疑問と好奇心を持ち、自ら考える力を養うこと。全国から約3万人の学生が在籍し、文系・理系合わせて14学部15研究科の幅広い学問領域から学べる総合大学です。

学長（学校長）
矢口 悦子

大学探しナビ
大学探しナビで東洋大学の情報を見る

東洋大学の最近のプレスリリース

東洋大学総合情報学部が日本科学未来館にて『総合情報学部メディアデザイン卒業制作展2025』を開催（3/8～3/9）【申込不要／入場無料】
2025.03.03

学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」を発表
2025.03.01

東洋大学と武田薬品工業株式会社が炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座を開催（2月28日は世界希少・難治性疾患の日）
2025.02.28

【東洋大学】国内初！大学生が日本酒造りから酒粕の課題解決に挑む！酒粕プロジェクト『大学生が食べたい！』酒粕活用 学食メニュー3種を発表
2025.02.20

東洋大学人間環境デザイン学科が「2024年度卒業作品展」を開催（2/21～2/26：東京都美術館）
2025.02.07

大学の最新情報が毎日届く！
ニュースメール配信
配信登録はコチラから！

【東洋大学シンポジウム】「キャリアと生活の充実をめざして―育児休業・介護休業の観点から」を開催します

学校法人東洋大学　2024年06月18日　11：30

ライフスタイル　イベント

ポスト　シェアする 0　ブックマーク 0



2024年度より東洋大学の重点研究推進プログラムとして、東洋大学の男性教員のキャリア形成に関する研究を開始します。昇進や充足感を保ちながら働き続けられることや、多くの人が経験する育児や介護、治療などのライフイベントとの関連、ジェンダーバイアスなどの観点から研究を進めていきます。
まずは、キャリアを持続するうえで課題となる育児と介護に焦点をあて、キャリアと生活を充足させることの意義を専門の講師をお迎えして考えます。

日時：2024年6月29日（土）14時～16時
※事前登録制　申し込み締切：6月25日（火）
会場：東洋大学白山キャンパス　2号館スカイホール

プログラム
1.開会の辞
2.ご挨拶　（金子（大谷）律子）
3.育児休業をめぐる基礎講演
「育休の経済学」山口慎太郎先生（東京大学大学院経済学研究科）
4.介護休業をめぐる基調講演
「介護離職と介護休業」佐藤博樹先生（独立行政法人 労働政策研究・研修機構）
5.コメンテーターからのコメント　（林洋和子）
6.全体討論
7.閉会の辞

※お申し込み、プログラム詳細は下記のサイトをご覧ください。
https://sites.google.com/toyo.jp/wl1040

本件に関するお問合わせ先
お問い合わせ：東洋大学重点研究推進プログラム（酒野）
「生活も仕事も」事務局

関連リンク

シンポジウムサイト
https://sites.google.com/toyo.jp/wl1040

東洋大学SDGs特設サイト
https://www.toyo.ac.jp/sdgs/

東洋大学

東洋大学と関彰商事株式会社がSDGs達成に向けた連携協力に関する協定を締結

大学ニュース / 大学改革 / 産官学連携

2024.07.12 16:30

X ポスト　B! ブックマーク

東洋大学（東京都文京区／学長・矢口悦子）と関彰商事株式会社（茨城県筑西市・つくば市／代表取締役社長・関正樹　以下、関彰商事）は、SDGs達成に向けた連携協力に関する協定を締結し、2024年7月12日（金）に締結式を開催しました。

東洋大学と関彰商事は、関彰商事所属の山口凌河選手（ゴールボール）が東洋大学の卒業生であることから、各種行事において協力体制を築いておりました。2023年度に東洋大学SDGs推進センター主催のD&I（ダイバーシティ＆インクルージョン）をテーマとしたシンポジウムに山口が登壇したことをきっかけとして、SDGs達成に向けた継続的な連携の可能性の協議へと発展し、本協定の締結に至りました。

本協定の締結により、関彰商事は留学生や障がい学生のインターンシップの受け入れ等、SDGsやD&I等に関連した活動フィールドを東洋大学の学生に提供し、東洋大学は大学の持つ学術的・専門的な知見を関彰商事に提供するなど、SDGs達成に資する連携を強化します。

【両者のコメント】

■東洋大学　学長　矢口 悦子

「この度、本学卒業生の山口凌河さんが駆け橋となり、SDGs達成という志を同じくする関彰商事株式会社と連携協定を締結できることを嬉しく思います。今後は協定に基づく連携により、SDGs達成に資する教育・研究・社会貢献活動の実践や学生達の活躍できるフィールドが拡大するとともに、本学の擁する14学部の広域な学問領域の「知」をSDGs達成に向けた企業活動に役立てていただけることに期待が高まります。」

■関彰商事株式会社　代表取締役社長　関 正樹

「この度、東洋大学と当社の取組みがSDGs達成に向けた継続的な連携協力に発展し、協定を締結できたことを嬉しく思います。本協定によって、互いの人材、知（ち）の交流が益々活発に回られていくものと考えております。東洋大学との今後の取り組みにより、当社の地域社会における持続的な発展に向けた社会課題解決の手法に大学の学術的・専門的な知見を加えられること、また、東洋大学の教育・研究・社会貢献活動実践の場および学生の皆さんが活躍する新たなフィールドを当社が提供することで次世代につながる価値が生まれることを期待しています。」

▼本件に関する問い合わせ先

■東洋大学広報課
TEL：03-3945-7571
E-mail：mkoho@toyo.jp

■関彰商事株式会社広報課
TEL：03-6256-0369
E-mail：takako.ishii@sekisho.co.jp



締結式の様子

大学・学校情報

大学・学校名
東洋大学

東洋大学 TOYO UNIVERSITY

URL
https://www.toyo.ac.jp/

住所
東京都文京区白山5-28-20

1887（明治20）年、哲学者・井上円了によって創立された東洋大学は、「諸学の基礎は哲学にあり」を建学の精神として掲げる私立大学。東洋大学の考える「哲学」とは、つねに疑問と好奇心を持ち、自ら考える力を養うこと。全国から約3万人の学生が在籍し、文系・理系合わせて14学部15研究科の幅広い学問領域から学べる総合大学です。

学長（学校長）
矢口 悦子

大学探しナビ
大学探しナビで東洋大学の情報を見る

東洋大学の最近のプレスリリース

東洋大学総合情報学部が日本科学未来館にて『総合情報学部メディアデザイン卒業制作展2025』を開催（3/8～3/9）【申込不要／入場無料】
2025.03.03

学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」を発表
2025.03.01

東洋大学と武田薬品工業株式会社が炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座を開催（2月28日は世界希少・難治性疾患の日）
2025.02.28

東洋大学

報道関係各位

ご取材のご案内

2024 年 8 月 13 日
学校法人 東洋大学

東洋大学が令和６年能登半島地震復興支援のための学生・教職員ボランティア１１０名超を動員・実施中

（2024 年夏季休暇中・5 エリア・計 20 クール）

東洋大学では「主体的に社会の課題に取り組む」「他者のために自己を磨く」という理念のもと、東洋大学社会貢献センターが中心となり、継続的なボランティア活動を実施しています。
2024 年夏は、令和６年能登半島地震復興支援ボランティア活動を次の内容で実施しております。

実施時期：**2024 年 8 月 4 日(日)～9 月 3 日(火)**
参加人数：5 エリア・計 20 クール**、教職員を含め 110 名超が参加**
実施場所：**重蔵神社コース・輪島ボランティアセンターコース・珠洲コース・志賀学童コース・シャンティ国際ボランティア会コース**の 5 エリア
※実施場所につきましてはご検討いただける場合に個別にご連絡させていただきます

被災地域出身の学生が多数在籍し、部活動・課外活動等において、同地域の皆様にお世話になってきた学生（留学生を含む）も多いことから、能登半島地震に関して、本学一同、大変憂慮しております。
東洋大学社会貢献センターでは 1 月に募金活動を実施。3 月～4 月初旬にかけて学生 12 名が志賀町での災害ボランティアに参加し、ＧＷには学生 8 名が輪島市での災害ボランティアを実施しましたが、現在もボランティアへのニーズは絶えません。そこで今回は、学生夏季休暇中に 5 エリアに分かれ、計 20 クール、教職員を含め 110 名超を送り出し、大規模なボランティア活動を実施しています。
＜2024＞東洋大学__夏季能登半島地震ボランティア
https://sites.google.com/toyo.jp/volunteer/top/noto2024report/20240614?authuser=0
東洋大学__令和６年能登半島地震への対応
https://sites.google.com/toyo.jp/2024noto/

8 月 4 日からのボランティア活動は各エリアの方々に大変歓迎され、東洋大学の学生・教職員は活動の中で奮闘しております。
お忙しいところ恐縮ではございますが、ご取材のご検討を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

【本件に関するお問合せ】
東洋大学　総務部広報課　担当：中村
Tel　03-3945-7092　Fax 03-3945-7574　Mail mlkoho@toyo.jp
東洋大学 PR 事務局　：toyouniv-pr@prap.co.jp

東洋大学

東洋大学が「シンポジウム（推し活）を学問する」を開催（9/30）【入場無料】

大学ニュース / イベント / 先端研究
2024.08.21 [JST]

Xにポスト　Facebookにシェア

東洋大学（東京都文京区／学長 矢口悦子）の重点研究推進プログラム「責任ある研究・技術開発に向けた多文化共生ELSIの組織化」（研究代表：松浦和也）は、2024年9月30日（月）に、東洋大学白山キャンパスの井上円了ホールにて、「シンポジウム　（推し活）を学問する」を開催いたします。今回は日常的倫理観の言語化の第一歩として、（推し活）に焦点を当て、（推し活）の現場がどのようなコミュニティであるのか、そしてそこに潜在する価値と以何であるのかを、（推し）とともに考えます。本シンポジウムは入場無料です。ぜひご来場ください。

2024年度より東洋大学重点研究推進プログラムとして、「責任ある研究・技術開発に向けた多文化共生ELSIの組織化」（研究代表：松浦和也）を開始しています。本研究プログラムは、科学（倫理的・法的・社会的課題）に関する理論研究とその発信を通じて学内外におけるELSIネットワークの構築を進めています。加えて、私たちが日常のなかで無意識のうちによって立つ価値規範を問い直して言語化することを通じて、日常世界と文化に根差したELSIの継続的発信を目指します。
今回は日常的倫理観の言語化の第一歩として、（推し活）に焦点を当て、（推し活）の現場がどのようなコミュニティであるのか、そしてそこに潜在する価値とは何であるのかを、（推し）とともに考えます。

＜開催概要＞
■開催日時
2024年9月30日（月）14時45分～17時　（受付開始：14時）

■場所
井上円了ホール（東京都文京区白山5-28-20　東洋大学白山キャンパス）

■交通
白山駅（都営地下鉄三田線）徒歩5分／千石駅（都営地下鉄三田線）徒歩8分／本駒込駅（東京メトロ南北線）徒歩5分／千駄木駅（東京メトロ千代田線）徒歩15分

■事前予約／入場
入場無料
以下のリンク先より、事前登録をお願いいたします（申込期間：8月1日（木）13時～9月20日（金）15時）。
https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/02239qbgjesu31.html

■プログラム
・なぜ（推し活）を研究対象とするのか（津田謙治/東洋大学文学部・講師）
・（推し活）における過去の価値と人間性（山口しのぶ/東洋大学文学部・教授）
・（推し活）とエスノメソドロジー（西村倫被/松山大学人文学部・講師）
・0.1gの誤算　緑川裕宇氏　ご講演

■ゲスト講師　略歴
緑川裕宇　（0.1gの誤算　ボーカル）
東京学芸大学卒業
2007年よりV系バンドとして活動を開始し、マステマ＊ドルキーム（2007-2009）、Lucifus（2010-2014）を経て、2016年に0.1gの誤算を結成、現在に至る。同バンドでは、ほぼすべての楽曲の作詞・作曲を務める。氏の楽曲はコミカルなものからバラード、そしてクラシックに関連付けされるようなものまで、幅広が多数展開される点に特徴があり、各方面から作詞・作曲の依頼が寄せられる。
YouTubeチャンネル「緑川ゆうの」では、ファンを巻き込んだ奇想天外な企画が話題を呼び、2023年には登録者10万人を達成。現在は15万人の登録者数を誇る。SNSとで活躍するコミカルで可愛らしい姿とは裏腹に、激しいライブパフォーマンスでファンを魅了。
2024年に入ってからは、JAPAN EXPO in Thailandに出演し、大きな注目を浴びるなど、海外でも話題に。また、豊洲PITで行われた8周年ワンマンライブは、約2000人を動員して成功を収めた。

■主催
東洋大学重点研究推進プログラム「責任ある研究・技術開発に向けた多文化共生ELSIの組織化」（研究代表：松浦和也　文学部教授）

▼シンポジウムについての問い合わせ先
シンポジウム（推し活）を学問する 実質事務局（津田）
Mail: tsuda+0930office@toyo.jp

▼報道関係の方による取材の問い合わせ先
東洋大学総務部広報課
TEL:03-3945-7571
Mail: mikoho@toyo.jp



シンポジウムポスター

大学・学校情報

大学・学校名
東洋大学

東洋大学 TOYO UNIVERSITY

URL
https://www.toyo.ac.jp/

住所
東京都文京区白山5-28-20

1887（明治20）年、哲学者・井上円了によって創立された東洋大学は、「諸学の基礎は哲学にあり」を建学の精神として掲げる私立大学。東洋大学の考える「哲学」とは、つねに疑問と好奇心を持ち、自ら考える力を養うこと。全国から約3万人の学生が在籍し、文系・理系合わせて14学部15研究科の幅広い学問領域から学べる総合大学です。

学長（学校長）
矢口 悦子

大学探しナビ
大学探しナビで東洋大学の情報を見る

東洋大学の最近のプレスリリース

東洋大学総合情報学部が日本科学未来館にて「総合情報学部メディアデザイン卒業制作展2025」を開催（3/8～3/9）【申込不要／入場無料】
2025.03.03

学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」を発表
2025.03.03

東洋大学と富士通株式会社が脳型情報処理（IBC）への理解を促進する公開講座を開催（2月28日は世界希少・難治性疾患の日）
2025.02.28

【東洋大学】国内初！大学生が日本酒造りから商品の課題解決に挑む！酒粕プロジェクト『大学生が食べたい！』酒粕活用 学食メニュー3種を発表
2025.02.20

東洋大学人間環境デザイン学科が「2024年度卒業作品展」を開催（2/21～2/26：東京都美術館）
2025.02.03

大学の最新情報が毎日届く！
ニュースメール配信
配信登録はコチラから！

東洋大学

News Release
報道関係各位

ご取材のご案内

2024 年 10 月 7 日
学校法人 東洋大学

パリ大会レスリング女子 鏡優翔選手、パラ水泳 田中映伍選手による活動報告
SDGs シンポジウム
『スポーツと SDGs―パリ大会の事例から今私たちにできること―』を開催

日時：2024 年 10 月 19 日（土）10:00～12:15（受付：9:30～）/ハイブリッド形式
場所：東洋大学 白山キャンパス 5 号館地下 2F 井上円了ホール

東洋大学（東京都文京区／学長・矢口悦子）は、この夏日本国中が熱狂したパリ大会に関連して、スポーツと SDGs をテーマにしたシンポジウム『スポーツと SDGs―パリ大会の事例から今私たちにできること―』を 2024 年 10 月 19 日（土）に白山キャンパス井上円了ホールで開催いたします。

本学ではスポーツを“する人”“観る人”“支える人”という 3 つの視点で捉えています。それぞれの視点から、史上最もサステイナブルな運営を目指した大会として世界中から注目を集めたパリ大会の事例を参考に、「スポーツを通じて持続可能な社会づくり」に貢献するために、今私たちにできることは何かを考える機会としてシンポジウムを開催します。

当日は、パリ大会レスリング女子 76kg 級金メダリストの鏡優翔選手（サントリービバレッジソリューション株式会社・本学博士前期課程在学中）を迎え特別講演を行います。また、パリ大会パラ水泳日本代表の田中映伍選手（本学在学生）とそのコーチである岸本太一氏（日本パラ水泳連盟）が「パラリンピアンの役割と価値についての学び」と題して活動報告をいたします。その他、本学在学生・教員がスポーツと SDGs の自分ごと化の観点から、それぞれの取り組みや経験をお話します。
お忙しいところ恐縮ではございますが、ご取材を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

■実施概要
日付：2024 年 10 月 19 日（土）10:00～12:15
場所：東洋大学 白山キャンパス 5 号館地下 2 F 井上円了ホール
※開催当日は、SDGs シンポジウム Web ページ上にて LIVE 配信いたします。
Web ページ：https://www.toyo.ac.jp/sdgs/center/event/2024symposium/

＜プログラム＞
●10:00～挨拶：東洋大学 学長 矢口悦子
　趣旨説明：東洋大学 SDGs 推進センター長 金子律子
●10:10～特別講演：サントリービバレッジソリューション株式会社
　東洋大学 総合情報学研究科 博士前期課程 鏡優翔氏
●10:45～活動報告
・東洋大学 福祉社会デザイン学部 2 年 田中映伍、日本パラ水泳連盟 岸本太一氏
・東洋大学 健康スポーツ科学部 学部長 齊藤恭平
・東洋大学 SDGs アンバサダー（社会学部 4 年） 竹田遥
●11:30～パネルディスカッション（パネルディスカッションの中で質疑応答を設けます）

取材をご希望の報道関係者様は、以下の申請フォームから **10 月 18 日（金）15：00 まで** に
事前手続きをお願い申し上げます。＜取材申請フォーム：https://forms.gle/WenFWvkrpcvXAhAN6＞

＜注意事項＞
・駐車場のご用意はございません。
・カメラ台、音声ライン、電源コンセント、Wi-Fi の用意はございません。
・事前申込がない場合、当日のご取材をお受けできないこともございますので、予めご了承ください。
・登壇者への個別取材は行いませんのでご了承ください。

【本件に関するお問合せ】
東洋大学総務部広報課　担当：斉藤・松尾　MAIL：mlkoho@toyo.jp

東洋大学

東洋大学が "未来を拓くバイオミメティクス" シンポジウムを開催【11月8日オンライン配信／参加無料】

大学ニュース / イベント / 先端研究 / 産官学連携

2024.10.31 12:00（最終更新日：2024.10.31 16:31）

X ポスト　B! ブックマーク

東洋大学（東京都文京区／学長：矢口悦子）生体医工学研究センターは、2024年11月8日（金）に「"未来を拓くバイオミメティクス" キックオフシンポジウム～バイオミメティクスと次世代に向けた教育～」をテーマにしたシンポジウムを開催します（オンライン配信、参加無料、事前申込制）。本シンポジウムは「東洋大学重点研究推進プログラム」（注1）の研究プロジェクトの1つである「未来を拓くバイオミメティクス」（注2）のキックオフシンポジウムです。

【開催概要】
"未来を拓くバイオミメティクス" キックオフシンポジウム
～バイオミメティクスと次世代に向けた教育～

【開催日時】
2024年11月8日（金）13：00～16：00

【参加方法】
ハイブリッド［対面・オンライン（学外者はオンライン配信のみ）］にて開催
下記URL（申込みフォーム）からお申込みください。
https://forms.gle/Va36vd2xCXxo4eLp9
参加費無料、どなたでもご参加いただけます。
【申込期限：2024年11月7日(木)正午】
・会場（対面）：東洋大学白山キャンパス「125記念ホール」（8号館7階）
・オンライン：配信用URLは申込時にご登録いただいたメールアドレス宛にお送りします。

【プログラム】
・第二期重点研究について
　プロジェクトリーダー/東洋大学生命科学部生体医工学科 教授　合田 達郎
・基調講演
　1. 理科教育の現状について
　　文部科学省初等中等教育局教育課程課 専門官　高市 和則
　2. バイオミメティック材料科学による高機能医療機器の実現 ―患者のQOLの向上を支える―
　　大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻 特任教授
　　東京大学 名誉教授　石原 一彦
・研究紹介
　1. ツバメの巣から学ぶ伝統木造建築の耐震化技術
　　東洋大学理工学部建築学科 兼教授　高倉 裕也
　2. 軟―硬境界組織のミメティクス
　　東洋大学生命科学部生体医工学科 教授　木村 剛
　3. バイオミメティクスが拓く学校教育の未来
　　東洋大学食環境科学部食環境科学科 教授　後藤 雅一
・パネルディスカッション
　高市 和則、石原 一彦、後藤 雅一、合田 達郎、木村 剛、高倉 裕也

注1　東洋大学では、超スマート社会（Society5.0）の到来に向けて、地球レベルの課題解決に貢献するとともに、本学のブランドとなり得る独創的かつ先端的な研究プロジェクトを支援することを目的に「東洋大学重点研究推進プログラム」を創設し、現在3つの研究プロジェクトが研究に取り組んでいます。
https://www.toyo.ac.jp/contents/research/tprp/

注2　「バイオミメティクス」とは、生物が進化の過程で獲得してきた機能から着想を得て、それらを科学、医学、産業などの分野に生かそうとする概念です。

▼主催・問い合わせ先
東洋大学生体医工学研究センター
Mail：bme@toyo.jp

▼報道関係の方による取材の問い合わせ先
東洋大学総務部広報課
TEL：03-3945-7571
Mail：mikoho@toyo.jp



シンポジウムポスター

大学・学校情報

大学・学校名
東洋大学

東洋大学 TOYO UNIVERSITY

URL
https://www.toyo.ac.jp/

住所
東京都文京区白山5-28-20

1887（明治20）年、哲学者・井上円了によって創立された東洋大学は、「諸学の基礎は哲学にあり」を建学の精神として掲げる私立大学。東洋大学の考える「哲学」とは、つねに疑問と好奇心を持ち、自ら考える力を養うこと。全国から約3万人の学生が在籍し、文系・理系合わせて14学部15研究科の幅広い学問領域から学べる総合大学です。

学長（学校長）
矢口 悦子

大学探しナビ
大学探しナビで東洋大学の情報を見る

東洋大学の最近のプレスリリース

東洋大学総合情報学部が日本科学未来館にて『総合情報学部メディアデザイン卒業制作展2025』を開催（3/6～3/9）【申込不要／入場無料】
2025.03.03

学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」を発表
2025.03.01

東洋大学と武田薬品工業株式会社が炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座を開催（2月28日は世界希少・難治性疾患の日）
2025.02.28

【東洋大学】国内初！大学生が日本酒造りから酒粕の課題解決に挑む！酒粕プロジェクト『大学生が食べたい！』酒粕活用 学食メニュー3種を発売
2025.02.20

東洋大学人間環境デザイン学科が「2024年度卒業作品展」を開催（2/21～2/26：東京都港区）
2025.02.07

大学の最新情報が毎日届く！
ニュースメール配信
配信登録はコチラから！

東洋大学

東洋大学が「第５回 水のシンポジウム～安心な水を未来へ」を開催【11月16日／対面・オンライン／参加無料】

大学ニュース / イベント / 先端研究 / 施設設備
2024.11.06 12:00

Xポスト　新プログラム

東洋大学（東京都文京区／学長：矢口悦子）水環境改善技術研究会は、2024年11月16日（土）に「第５回水のシンポジウム～安心な水を未来へ：新しい排水処理技術の評価と社会実装に向けて～」をテーマにしたシンポジウムを開催します（対面・オンライン、参加無料、事前申込制）。本シンポジウムは「東洋大学重点研究推進プログラム」（注１）の研究プロジェクトの１つである「安心な水を未来へ」（研究代表：理工学部 井原郁一教授）最終年度の重点成として、これまでの研究成果等について本学教員が様々な観点から報告します。併せて、アナモックス細菌の大量培養装置等の実証試験研究学会・ポスター発表を実施します。

第５回水のシンポジウム
～安心な水を未来へ：新しい排水処理技術の評価と社会実装に向けて～

〔開催日時〕
2024年11月16日(土)　13:30～17:30
〔参加方法〕
ハイブリッド［対面・オンライン］にて開催
下記URL［申込みフォーム］からお申込みください。
https://forms.gle/zER7uD6CdPPHJHH7
参加費無料、どなたでもご参加いただけます。
【申込締切：2024年11月13日(水)12：00】
・対面：東洋大学川越キャンパス　7号館721教室（東武東上線「鶴ヶ島駅」東口 徒歩約10分）
・オンライン：配信用URLは申込時にご登録いただいたメールアドレス宛にお送りします。

〔プログラム〕
■シンポジウム　13:30～16:00
・プロジェクト紹介
　井原 郁一（プロジェクトリーダー／東洋大学 理工学部 教授）
・研究発表
「水処理新技術の海外展開に向けて」
　北脇 秀敏（東洋大学 国際学部 教授）
「排水処理分野における温暖化対策」
　山崎 正史（東洋大学 理工学部 教授）
「汚泥や土壌中メタルの簡易毒性評価技術」
　清田 佳美（東洋大学 経済学部 教授）
「排水処理装置中における多様酸菌化細菌 Anammox 属増殖系の種類」
　奥岸 宏明（東洋大学 理工学部 准教授）

・学生研究発表
　原美波留 彩音（東洋大学大学院 理工学研究科 博士前期課程）
　陳 航志（東洋大学大学院 理工学研究科 博士後期課程）

・パネルディスカッション（全体質疑）

■実証試験研究学会　16:00～16:20
・流体シミュレーション装置（5.00 L 槽気槽）
・アナモックス細菌の大量培養装置（300 L × 2 基）

■ポスター発表・交流会　16:30～17:30

注１　東洋大学では、超スマート社会（Society5.0）の到来に向けて、地球レベルの課題解決に貢献するとともに、本学のブランドとなり得る独創的かつ先端的な研究プロジェクトを支援することを目的に「東洋大学重点研究推進プログラム」を創設し、現在９つの研究プロジェクトが研究に取り組んでいます。
https://www.toyo.ac.jp/contents/research/tprp/

▼主幹・共幹・問い合わせ先
主幹：東洋大学 水環境改善技術研究会
共幹・問い合わせ：東洋大学 工業技術研究所
Mail：kougiken (at) toyo.jp
※(at) は @ に置き換えてください。

▼報道関係の方による取材の問い合わせ先
東洋大学報道部広報課
TEL：03-3945-7571
Mail：mikoho@toyo.jp



シンポジウムポスター

申込フォームQR

大学・学校情報

大学・学校名
東洋大学

東洋大学 TOYO UNIVERSITY

URL
https://www.toyo.ac.jp/

住所
東京都文京区白山5-28-20

1887（明治20）年、哲学者・井上円了によって創立された東洋大学は、「諸学の基礎は哲学にあり」を建学の精神として掲げる私立大学。東洋大学の考える「哲学」とは、つねに疑問と好奇心を持ち、自ら考える力を養うこと。全国から約3万人の学生が在籍し、文系・理系合わせて14学部15研究科の幅広い学問領域から学べる総合大学です。

学長（学校長）
矢口 悦子

大学探しナビ
大学探しナビで東洋大学の情報を見る

東洋大学の最近のプレスリリース

東洋大学総合情報学部が日本科学未来館にて「総合情報学部メディアデザイン中高制作展2025」を開催（3/8～3/9）【申込不要／入場無料】
2025.02.03

学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」を発表
2025.03.21

東洋大学と武川建設工業株式会社が包括連携協定（IDD）への締結を発表する公開講座を開催（2月2日は世界視少・緩和性疾患の日）
2025.02.28

【東洋大学】国内初！大学生が日本酒造りから酒粕の課題解決に挑む！酒粕プロジェクト『大学生が食べたい！』酒粕活用 学食メニュー3種を発売
2025.02.28

東洋大学人間環境デザイン学科が「2024年度卒業作品展」を開催（2/21～2/26：東京都美術館）
2025.02.27

大学の最新情報が毎日届く！
ニュースメール配信
配信登録はコチラから！

東洋大学

<報道関係各位>

ご取材のご案内

2025 年 1 月 30 日
学校法人 東洋大学

国内初※！大学生が日本酒造りから酒粕の廃棄問題に挑む「酒粕プロジェクト」
『大学生が食べたい！』酒粕学食メニューを発表

日時：2 月 19 日（水）11：30～（メディア受付開始 11：00）
場所：東洋大学 朝霞キャンパス 2 号館 1 階 学生食堂

東洋大学（東京都文京区／学長・矢口悦子）の酒粕プロジェクト「U-go! ～酵母の贈り物～」は、日本酒の製造過程で生じる、**食べられるにもかかわらず破棄されていた酒粕を活用した学生食堂メニューを開発、2025 年 5 月から本学朝霞キャンパス（埼玉県朝霞市）の学生食堂（以下、学食）で提供**を予定しています。酒粕を活用したメニューは、地域の皆さまにも朝霞キャンパス学食にてお召し上がりいただけます。

今回、学食メニューで活用する酒粕は、本学理工学部応用化学科 生命工学研究室（埼玉県川越市／峯岸宏明准教授）と、有限会社佐藤酒造店（埼玉県越生町／代表 佐藤忠男氏）が産学連携の研究で開発した花の酵母を使った東洋大学オリジナル日本酒「エスティ」の製造過程で生じたものを使用します。**オリジナル日本酒を造るだけではなく、そこで生じた酒粕を食材として学食で活用しているプロジェクトは国内初※です。**

※大学において、オリジナル日本酒造りから、その製造の過程で生じた酒粕を自学で消費するという取り組みでは国内初。（東洋大学調べ）

この度、2025 年 2 月 19 日（水）に、東洋大学朝霞キャンパスで、本学の学生が考案し、試食やアンケートを重ねて、大学生の「食べたい！」に合わせて開発した「酒粕学食メニュー」の発表会を実施します。酒粕を活用したメニューのほか、花酵母を使った日本酒の試食・試飲もございます。ぜひ、ご取材の程、よろしくお願い申し上げます。

ご取材のお申し込みは、別紙または以下、お申込みフォームにて 2 月 17 日（月）12：00 までにご返信いただけますよう、よろしくお願いします。フォーム：https://forms.gle/K7XgVUAmpExz87aZ7

＜記＞

日　　時：2025 年 2 月 19 日（水）11：30～（メディア受付開始 11：00）
場　　所：東洋大学朝霞キャンパス 2 号館 1 階 学生食堂（埼玉県朝霞市岡 48-1）
https://www.toyo.ac.jp/about/introducing/access/#anc05
東武東上線「朝霞台」駅／JR 武蔵野線「北朝霞」駅 徒歩 10 分
内　　容：■挨拶／プロジェクトの説明 東洋大学酒粕プロジェクト「U-go! ～酵母の贈り物～」について
理工学部応用化学科 准教授 峯岸 宏明
■学食メニューの発表
食環境科学部食環境科学科 准教授 露久保 美夏
酒粕プロジェクト「U-go! ～酵母の贈り物～」参画学生
■学食メニューの試食／質疑応答
酒粕を活用した学食メニューの試食／オリジナル日本酒の試飲をお楽しみください

酒粕プロジェクト「U-go!～ 酵母の贈り物～」とは
酒粕を料理素材として再利用することで東洋大学のオリジナル日本酒「エスティ」から生じる酒粕廃棄ゼロを目指して発足した東洋大学文系学部、理系学部横断の学生主体の学食メニュー開発プロジェクトです。

参考情報：東洋大学×有限会社佐藤酒造の日本酒について
第一弾：https://drive.google.com/file/d/1bZhlBtEuL7YvzDvz4RDFhbvaXwjacR4E/view
第二弾：https://drive.google.com/file/d/1BaJkp5BY1YDvSphkmzslAPHQpcWgAF4c/view

【本件に関するお問合せ】
東洋大学広報代行 株式会社プラップジャパン 担当：鈴木・武井
MAIL：toyouniv-pr@prap.co.jp TEL:070-8689-4054（鈴木携帯）

東洋大学

ご出欠返信用紙

国内初※！大学生が日本酒造りから酒粕の廃棄問題に挑む「酒粕プロジェクト」
『大学生が食べたい！』酒粕学食メニューを発表

日時：2 月 19 日（水）11：30～（メディア受付開始 11：00）
場所：東洋大学 朝霞キャンパス 2 号館 1 階 学生食堂

メールの場合は、本返信用紙を PDF 化したものを添付、または以下の内容をメール本文にご記載いただき、ご返信お願い申し上げます。

ご返信先 **FAX：03-4580-7298／ E-Mail：toyouniv-pr@prap.co.jp**

必要事項をご記入の上、**2 月 17 日（月）まで**にご返信くださいますようお願い申し上げます。

出席□・ 欠席□ します

貴社名	
貴媒体名	
貴部署名	
ご芳名	
参加人数	名
撮影	□ スチール □ ムービー
TEL	TEL ／携帯電話
メールアドレス	
備考 ※ご質問・ご相談事項などがあれば こちらへ ご記載ください	

ご記入いただいた個人情報は、プレスリリース等報道資料の発信など、広報活動に必要な範囲内で適切に取り扱いいたします。

※大学において、オリジナル日本酒造りから、その製造の過程で生じた酒粕を自学で消費するという取り組みでは国内初。（東洋大学調べ）

【本件に関するお問合せ】
東洋大学広報代行 株式会社プラップジャパン 担当：鈴木・武井
MAIL：toyouniv-pr@prap.co.jp TEL:070-8689-4054（鈴木携帯）

2025 年 2 月 6 日
東洋大学
武田薬品工業株式会社

＜報道関係各位＞

ご取材のご案内

世界希少・難治性疾患の日（2/28）を前に大学生が疾患の見えないつらさを学ぶ

東洋大学×武田薬品工業
炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座を実施

日時：2 月 27 日（木）11：00～（メディア受付開始 10：30）
場所：東洋大学 朝霞キャンパス 2 号館 2101 教室

東洋大学（本部：東京都文京区／学長：矢口悦子）食環境科学部と、武田薬品工業株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長 CEO：クリストフ・ウェバー、以下「武田薬品」）は、特定疾患（難病）に指定されている炎症性腸疾患（Inflammatory Bowel Disease、以下「IBD」）に関する疾患啓発の取り組みとして 2 月 27 日に公開講座を実施します。本講座では、武田薬品から IBD の疾患概要や患者さんの日常生活の制限などに関して講義を行い、IBD 体験シミュレーションプログラムである「In Their Shoes」（https://www.ibdstation.jp/ibd-intheirshoes/about/）の説明を行います。

In Their Shoes は IBD 患者さんの日常で起きる食事や排便に関する困りごとなどを、スマートフォンアプリからの指示に従って疑似体験するプログラムで、参加学生の一部が 2 月 28 日に実際に体験します。

IBD は、消化管に慢性的に炎症・潰瘍が生じる疾患の総称で、主に「潰瘍性大腸炎」と「クローン病」のことを指します。日本国内の患者数は、潰瘍性大腸炎が約 22 万人、クローン病が約 7 万人※1と推定されており、国の特定疾患（難病）に指定されています。発症年齢は 10 代後半から 20 代（大学生年代前後）が多い※2疾患です。患者さんの多くは、頻回な下痢や血便、腹痛、発熱、さらには食事においても脂質や刺激物などの制限や慢性疲労などに悩まされながら日常生活を送っています。

また、この公開講座を受けて、5 月 19 日世界 IBD デーに、東洋大学食環境科学部の学生が、IBD 患者さんでもおいしく食べられるメニューを発表する予定です。

ご取材の程、何卒、よろしくお願い申し上げます。

ご取材のお申し込みは別紙にて 2 月 21 日（金）15 時までにご返信のほど、よろしくお願いします。

＜記＞

日　　時：2025 年 2 月 27 日（木）11：00～（メディア受付開始 10：30）
場　　所：東洋大学朝霞キャンパス 2 号館 2101 号室（埼玉県朝霞市岡 48-1）
https://www.toyo.ac.jp/about/introducing/access/#anc05
東武東上線・朝霞台駅/JR 武蔵野線・北朝霞駅から徒歩 10 分
内　　容：■挨拶 /東洋大学食環境科学部
■公開講座 / 武田薬品工業
＃1：炎症性腸疾患（IBD：Inflammatory Bowel Disease IBD）とは
＃2：武田薬品工業の概要と疾患啓発の取り組みについて
■QA：IBD に関して、東洋大学学生から武田薬品工業へ質問
■IBD 体験シミュレーションプログラム「In Their Shoes」について

※1：潰瘍性大腸炎およびクローン病の有病者数推計に関する全国疫学調査
https://www.jstage.jst.go.jp/article/nisshoshi/115/3/115_233/_pdf/-char/ja 調査結果報告
※2：難病情報センター https://www.nanbyou.or.jp/entry/62

【本件に関するお問合せ】
東洋大学×武田薬品工業 IBD プロジェクト事務局 担当：山下・榎本
MAIL：takeda_pr@pjbc.co.jp TEL: 080-6430-7831（山下 携帯）

ご出欠返信用紙

世界希少・難治性疾患の日（2/28）を前に大学生が疾患の見えないつらさを学ぶ

東洋大学×武田薬品工業
炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座を実施

日時：2 月 27 日（木）11：00～（メディア受付開始 10：30）
場所：東洋大学 朝霞キャンパス 2 号館 2101 教室

メールの場合は、本返信用紙を PDF 化したものを添付、または以下の内容をメール本文にご記載いただき、ご返信お願い申し上げます。

ご返信先 **FAX：03-4580-7298／ E-Mail：takeda_pr@pjbc.co.jp**

必要事項をご記入の上、**2月 21 日(金) 15 時まで**にご返信お願い申し上げます。

出席□・ 欠席□ します

貴　社　名	
貴　媒　体　名	
貴　部　署　名	
ご　芳　名	
参　加　人　数	名
撮　影	□ スチール　□ ムービー
T　E　L	TEL　／携帯電話
メールアドレス	
備　考 ※ご質問・ご相談事項、個別取材のご要望はこちらへ ご記載ください	

注意事項
・当日の予定変更が生じた際は、事前申込時のご連絡先（メールアドレス等）にお知らせいたします。
・音声ライン、電源コンセント、Wi-Fi の用意はございません。

ご記入いただいた個人情報は、プレスリリース等報道資料の発信など、広報活動に必要な範囲内で適切に取り扱いいたします。

【本件に関するお問合せ】
東洋大学×武田薬品工業 IBD プロジェクト事務局　担当：山下・榎本
MAIL：takeda_pr@pjbc.co.jp　TEL: 080-6430-7831（山下 携帯）

NEWS RELEASE

2025 年 2 月 28 日
株式会社セブン銀行
東洋大学

東洋大学とセブン銀行、バイオミメティクスを活用した次世代ATMの技術開発研究に向けて産学連携を開始

株式会社セブン銀行（本社：東京都千代田区、代表取締役：松橋　正明）と東洋大学（本部：東京都文京区、学長：矢口 悦子）は、バイオミメティクス※1を活用した次世代ATMの技術開発に向けて、産学連携の共同研究を開始いたします。



■共同研究の背景と目的

近年、生物の持つ優れた構造や機能などを解明し、新たな技術を生み出す「バイオミメティクス」が世界的に注目されています。日本では 2018 年に環境省から「持続可能性を支える技術の開発・普及」としてバイオミメティクスを活用していく方針が出されましたが、参入事例はまだ多くありません。

東洋大学では、「東洋大学重点研究推進プログラム※2」の一環としてバイオミメティクスを活用した高機能かつ持続可能なものづくりをテーマに掲げ、さまざまな専門領域を生かした研究に取り組んでいます。これを受け、セブン銀行では中核事業であるATMの筐体（きょうたい）に本研究を応用し、ATMの技術開発に持続可能なものづくりの要素を取り入れることを目的としています。

本研究によって得られた成果は、現行のATMや次世代ATMへの適用を想定し、お客さまが快適に安心して利用できる空間づくりとさらなるUX（ユーザーエクスペリエンス）の向上につながると考えています。

東洋大学とセブン銀行は、今後も持続可能な社会、環境とともに、誰もが活躍できる共生社会の実現に向けた取組みを進めてまいります。

■研究内容

本研究では、バイオミメティクスの最先端研究によって生物の持つ優れた構造や機能などを解明し、新たな技術を生み出すことで、ATMの素材に応用するなどの改善につなげる狙いがあります。例えば、キズの目立たない素材や清掃性が向上する素材により、お客さまがより快適に安心して利用できる空間にブラッシュアップします。また、ATMに付属しているスピーカーを、より指向性の高い構造へ進化させ、様々な設置環境においてもプライバシー性高く安心してご利用いただける空間の実現を目指します。

※1・・・バイオミメティクスとは、生物が進化の過程で獲得してきた、構造・機能・生産・情報処理から着想を得て、それらを科学、医学、産業などさまざまな分野に生かそうとする概念。東洋大学の重点研究推進プログラムおける当該テーマのリーダーは合田達郎教授。くわしくはこちら
※2・・・東洋大学の重点研究推進プログラムについてはこちら

【共同研究概要】

研究内容	期間	研究担当者
バイオミメティクス活用による 安心・快適な利用空間の実現	2025/1/1～2025/12/31	窪田佳寛 （東洋大学理工学部機械工学科 准教授）

【株式会社セブン銀行　代表取締役社長　松橋正明コメント】

セブン銀行ではこれまで「お客さまの立場で考える」、「新たな挑戦を続ける」という組織文化のもと、業界を超えた技術交流や産学連携をおこなっています。これまでも積極的に最先端の技術や知見を取り入れ、応用することで、よりお客さまに喜んでいただけるATM体験およびサービスの開発に取り組んできました。今回の東洋大学との研究テーマである「バイオミメティクス」は、当社としても以前から関心のある分野であり、駅中や商業施設等、様々な場所に設置されるATMにおいて、お客さまがどこで利用されても快適に感じていただける空間づくりに寄与する研究であると確信しています。今回の連携が双方にとって有益であり、お客さまの「あったらいいな」を超えるような新たな価値を生み出せることを楽しみにしております。

【東洋大学学長　　矢口悦子コメント】

東洋大学では、超スマート社会（Society5.0）の到来に向けて、地球レベルの課題解決に貢献し、本学のブランドとなり得る独創的かつ先端的な研究プロジェクトを支援することを目的に「東洋大学重点研究推進プログラム」を創設しました。本プログラムでは、「人間としての価値の創造や社会の幸福に貢献する先端的な研究」の推進を図り、本学が制定した SDGs行動憲章で掲げた「共存共栄の世界を創るための価値創造を果たすため、研究機関として多面的な知を結集し、広範かつ重層的な研究を展開し、多様で複雑な課題を解決する力となる」ことを目指しています。まさにこの方向性はセブン銀行の掲げる“お客さまの「あったらいいな」を超えて、日常の未来を生みだし続ける。”というパーパスと通底するものです。

今回の次世代ATM開発において、私達が日々取組む「人間としての価値の創造や社会の幸福に貢献する先端的な研究」の知見を生かすことができることを大変誇りに思います。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社セブン銀行　ブランドコミュニケーション部
Email：cco-pr@sevenbank.co.jp

東洋大学　総務部広報課
Email：mlkoho@toyo.jp

以上

東洋大学

【東洋大学】国内初！大学生が日本酒造りから酒粕の課題解決に挑む！酒粕プロジェクト『大学生が食べたい！』酒粕活用 学食メニュー3種を発表

大学ニュース / イベント / 教育カリキュラム / 産官学連携 / 学生の活躍 / 地域貢献
2025.02.26 10:00

東洋大学（学長：星野 克美）の酒粕プロジェクト「U-go!～緑陰の憩う街へ」は、日本酒の製造過程でできる、食べられるにもかかわらず廃棄されることが多い酒粕を活用した学生食堂メニューを開発し、2025年2月19日に本学白山キャンパス（埼玉県川越市）にてメニューお披露目の報告会を実施いたしました。

この酒粕を活用した学食メニューは、2025年3月から本学白山キャンパスの学生食堂（U-1、学食）で提供を予定しており、白山の周辺にも来周キャンパス学食にてお召し上がりいただけます。

酒粕プロジェクト「U-go!～緑陰の憩う街へ」で考案した学食メニューで活用する酒粕は、本学理工学部応用化学科 生命工学研究室（埼玉県川越市／教授 宮地 剛）と、株酒造協同組合（埼玉県越生町／代表 佐藤 忠良）が醸す酒蔵の協賛で開発した花の緑句を使った東洋大学オリジナル日本酒「エスティ」の製造過程で生じたものを活用します。オリジナル日本酒を造るに留まらず、そこで生じた酒粕を素材として学食で活用しているプロジェクトは国内初※です。

※大学において、オリジナル日本酒造りから、その製造の過程で生じた酒粕を自学で消費するという取り組みでは国内初。（東洋大学調べ）

■酒粕プロジェクト「U-go!～緑陰の憩う街へ」について
本学と前記各社の産官学連携の授学連携で開発した、日本酒の製造過程でできると酒粕の有効活用を考えるプロジェクトとして発足しました。酒粕は食べることができるにも関わらず、酒粕の保存期間は半々程度しかないため、酒粕を廃棄をする場合には産業廃棄物として処理することが多く、酒粕の活用が課題・課題になっています。そこで、「生活（いのち）と食」の原点的な教育拠点である埼玉キャンパスにおける食堂学部と、マーケティング学部でプロジェクトを進行するために経営学部の学生でこのプロジェクトに取り組むことになりました。複数学部と文系学部が連携することで各々の専門性を発揮しながら社会課題の解決に取り組む総合型教育のプロジェクトとしてスタートしました。

尚、本プロジェクトに参画した食環境科学部の学生は、2024年4月の緑陰キャンパスリニューアルを機に本学と学生食堂の運営を手掛ける株式会社オリエンタルフーズの授学連携により学生がリーダーとなって企画・運営する学食プロジェクト「Smart！（スマート）」のメンバーでもあります。

発表会では、本プロジェクトを主導した教員のほかに、学生自らが開発したメニューについて発表をいたしました。

▼担当教員のコメント
香坂 正博（かさか・まさひろ）准教授（理工学部・応用化学科）
学生は、酒粕の栄養価値、有用性、抱えている課題を知り、このプロジェクトで「自分たちができること」を真剣に考えることができました。このことを多くの人に伝えて欲しいと思います。

金久保 美登（つねくぼ・みと）准教授（食環境科学部・食環境科学科）
学生は日々の学習で得た知識に加え、このプロジェクトを通じて実践的なスキルが身につきました。企画と開発の学生の協業は、様々な学問の専門性に気づく場となり、「いま、自分が最大限できること」を考えたことが素晴らしいと思いました。

堀口 恵美（ほりぐち・えみ）講師（経営学部・マーケティング学科）
このプロジェクトでは、経営学部の学生にとって、市場調査、マーケティング戦略の立案、原価計算など、大学で学んだことを実践する機会が多くありました。これらの経験を通じて、学生は学んだ知識やスキルが実際に役立つことを実感し、今後の学びへの意欲が大きく高まったようです。

▼「酒粕を活用した学食メニュー」について
本プロジェクトに参画した学生有志の4名は、それぞれ1つのチームに分かれ、食環境科学部での「食」に関する学びや研究をベースに、経営学部の視点からマーケティングを学び、「市場調査」や「学内での試食会」を積み重ねて、メニューを開発いたしました。
発表したメニューは、2025年3月中旬頃から、緑陰キャンパス学食のメニューに加える予定となっており、学外の方にもご利用いただけます。

① 「酒粕仕込み！やわらか鶏（どり）の旨み香る塩一麹和風しを添えて～」
学食は定食メニューが多い「日本食」食堂し、「初心よっぱ、幅広くの日本食メニュー」を考えました。メインの鶏の柔らか食感は、発生素材に漬け込むことでやわらかさを追求、酒粕の保湿しにも酒粕を活用しています。酒粕になじみがない人でも親しみの味わいを感じつつ、食べやすいメニューです。

② 「酒粕香る 旨しゃぶサラダうどん」
「野菜を多くとりたい、ヘルシーなメニューが欲しい、酒粕には肉料理があうのではないか」という調査結果から、うどんに野菜とお肉を多く乗せいただくことができるサラダうどんを考案しました。サラダうどんにおける少しの酒粕を追加、酒粕入りポン酢ドレッシングにしました。5月以降メニュー変更を考え、暑い日にぴったりのメニューです。

③ 「食べるソースの組から定食」
調査結果から導いた「新しさ・ボリューム感・ジューシーさ」を考慮したメニュー開発を行いました。肉を最初に選び込むとやわらかくジューシーになることに着目し、メイン料理を学食メニューでよく見る肉から選択にアレンジを加えました。ソースを4種類用意することで新しさ、楽しさを加え、そのうちの種類のソースに酒粕を活用しています。

■本件に関するお問い合わせ先
東洋大学総務部広報課
池田・宮下
E-mail ： [redacted]


学生が開発した酒粕学食メニュー。左から順に①酒粕仕込み！やわらか鶏（どり）の旨み香る塩一麹和風しを添えて～、②酒粕香る旨しゃぶサラダうどん、③食べるソースの組から定食


酒粕学食メニュー①「酒粕仕込み！やわらか鶏（どり）の旨み香る塩一麹和風しを添えて～」


酒粕学食メニュー②「酒粕香る 旨しゃぶサラダうどん」


酒粕学食メニュー③「食べるソースの組から定食」


酒粕プロジェクト「U-go!～緑陰の憩う街へ」メンバー一同

東洋大学_酒粕プロジェクト「U-go!～緑陰の憩う街へ」酒粕学食メニュー発表会

大学・学校情報
大学・学校名
東洋大学
東洋大学 TOYO UNIVERSITY
URL
https://www.toyo.ac.jp/
住所
東京都文京区白山5-28-20
1887（明治20）年、哲学者・井上円了によって創立された東洋大学は、「諸学の基本は哲学にあり」を建学の精神として掲げる私立大学。東洋大学の考える「哲学」とは、つねに疑問と好奇心を持ち、自ら考える力を養うこと。主国から約1万人の学生が在籍し、文系・理系合わせて14学部15研究科の幅広い学問領域から学べる総合大学です。
学長（学校長）
矢口 悦子
大学探しナビ
大学探しナビで東洋大学の情報を見る
東洋大学の
最近のプレスリリース
東洋大学総合情報学部が日本科学未来館にて「総合情報学部メディアデザイン学科制作展2025」を開催【3/8～3/9】【申込不要／入場無料】
2025.03.03
学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2026-2029」を発表
2025.03.04
東洋大学と王将果品工業株式会社が共同研究開発（JDR）への理解を促進する公開講座を開催【2月28日(金)開催予定・参加無料／事前申込制】
2025.02.28
【東洋大学】国内初！大学生が日本酒造りから酒粕の課題解決に挑む！酒粕プロジェクト『大学生が食べたい！』酒粕活用 学食メニュー3種を発表
2025.02.26
東洋大学人間環境デザイン学科が「2024年度卒業作品展」を開催【2/21～2/26：東京都千代田区】
2025.02.07
大学の最新情報が毎日届く！
ニュースメール配信
最新情報はコチラから！

東洋大学

東洋大学と武田薬品工業株式会社が炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座を開催（2月28日は世界希少・難治性疾患の日）

大学ニュース / イベント / 教育カリキュラム / 産官学連携 / 生涯学習

2025.02.28 11:30

X ポスト　B! ブックマーク

東洋大学（東京都文京区／学長:矢口悦子）は、武田薬品工業株式会社（本社:大阪府大阪市、代表取締役社長 CEO:クリストフ・ウェバー、以下「武田薬品」）と、特定疾患（難病）に指定されている炎症性腸疾患(Inflammatory Bowel Disease、以下「IBD」)の疾患啓発のための公開講座を 2 月 27 日（木）に朝霞キャンパスで開催。東洋大学の食環境科学部をはじめとした学生、教職員、地域住民など約 80 名が参加し、武田薬品が IBD についての疾患啓発の講座を受講しました。

IBD は、消化管に慢性的に炎症・潰瘍が生じる疾患の総称で、主に「潰瘍性大腸炎」と「クローン病」を指します。国内の患者数は、潰瘍性大腸炎が約 22 万人、クローン病が約 7 万人※1 と推定されており、国の特定疾患（難病）に指定されています。発症年齢のピークは 10 代後半から 20 代が多い※2 疾患ですが、社会的認知度は高くありません。患者さんの多くは、頻回な下痢や血便、腹痛、発熱、さらには慢性疲労に悩まされながら日常生活を送っており、食事とトイレが生活の中での大きな課題となっています。

このような背景を踏まえ、IBD の発症年齢と近い大学生で、日々「食」について学び、研究する食環境科学部の学生らが公開講座を受講し、IBD という疾患や、疾患を抱える患者さんの生活課題について理解を深めました。

また、2月28日には食環境科学部健康栄養学科の学生 5 名が、武田薬品が開発に携わったIBD 体験シミュレーションプログラムによりIBD 患者さんの生活を追体験。患者さんの日常生活での苦労や社会的な制約を疑似体験することで、心理的な側面まで実感する機会となります。

※1:Murakami Y, et al. J Gastroenterol. 54(12): 1070-1077, 2019

※2:難病情報センター

https://www.nanbyou.or.jp/entry/62

https://www.nanbyou.or.jp/entry/81

■参加学生のコメント

・同じ世代の方々が IBD という疾患で日々苦しんでいる現状を知り驚いた。食事やトイレの制約があると外出が億劫になるなど、様々な不都合やストレスがあることが理解できた。（食環境科学部 健康栄養学科3 年）

・今後は生活の中で、外からは見えないけれど様々な疾患を抱えている人が身近にもいる可能性について考えて行動したいと思った。社会の中で、このような疾患に対する情報が広がることで、学生同士でも話しやすい環境が生まれると感じた。（食環境科学部 健康栄養学科 2 年）

■今後の展開

東洋大学食環境科学部健康栄養学科の学生は、この公開講座を受け、誰もが安心して生活できる社会づくりを目指すため、IBD 患者さんもおいしく食べることのできる料理メニューを開発し、5 月 19 日世界 IBD デーに発表する予定です。

東洋大学は多様な価値観を学習し理解するとともに、主体的な学びや対話を通じて「哲学する」ことで知見を社会に還元し、地域社会に貢献してまいります。

▼本件に関する問い合わせ先
東洋大学総務部広報課
E-mail ： mlkoho@toyo.jp



公開講座の様子



IBD体験シミュレーションプログラムについての説明を受ける学生

大学・学校情報

大学・学校名
東洋大学

東洋大学 TOYO UNIVERSITY

URL
https://www.toyo.ac.jp/

住所
東京都文京区白山5-28-20

1887（明治20）年、哲学者・井上円了によって創立された東洋大学は、「諸学の基礎は哲学にあり」を建学の精神として掲げる私立大学。東洋大学の考える「哲学」とは、つねに疑問と好奇心を持ち、自ら考える力を養うこと。全国から約3万人の学生が在籍し、文系・理系合わせて14学部15研究科の幅広い学問領域から学べる総合大学です。

学長（学校長）
矢口 悦子

大学探しナビ
大学探しナビで東洋大学の情報を見る

東洋大学の最近のプレスリリース

東洋大学総合情報学部が日本科学未来館にて『総合情報学部メディアデザイン卒業制作展2025』を開催（3/8～3/9）【申込不要／入場無料】
2025.03.03

学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」を発表
2025.03.01

東洋大学と武田薬品工業株式会社が炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座を開催（2月28日は世界希少・難治性疾患の日）
2025.02.28

【東洋大学】国内初！大学生が日本酒造りから酒粕の課題解決に挑む！酒粕プロジェクト『大学生が食べたい！』 酒粕活用 学食メニュー3種を発表
2025.02.20

東洋大学人間環境デザイン学科が「2024年度卒業作品展」を開催（2/21～2/26：東京都美術館）
2025.02.07


すべて 画像 ニュース 動画 ショッピング ショート動画 書籍 もっと見る ツール
THE 日本大学ランキング
大学にとってのSDGs
SDGsとは・1. 貧困をなくそう・2. 飢餓をゼロに・3. すべての人に健康と福祉を・4. 質の高い教育をみんなに・5. ジェンダー平等を実現しよう・6. 安全な水とトイレを ...
SDGsコンパス
SDGsにつながる大学の取り組み20選
2023/12/26 — 「教育」における取り組み8選・1. 京都大学「京都大学SDGsリーダー育成プログラム（中高生対象）」・2. 関西大学「SDGsの視点を加えた海外体験プログラム（ ...
関連する質問
SDGsに取り組んでいる大学は？
SDGs日本一の学校はどこですか？
SDGsで教育は必要ですか？
SDGs達成率1位はどこですか？
フィードバック
明治大学 × SDGs
明治大学 × SDGs
明治大学のSDGs達成に向けた取組みを紹介するWEBサイトです。SDGsの目標ごとに教育・研究・社会貢献等の取組みや担当教員を検索することができます。
一般社団法人SDGs大学
一般社団法人SDGs大学
数々SDGs大学は企業経営にSDGsを組入れるSDGs企業研修を行っています。単なる知識を教える研修ではなく、SDGsを企業経営と結合し、受講企業を未来創造企業として持続可能 ...
東洋大学
SDGs特設サイト
東洋大学で流れる「時間」を体験できる特集を1年を通じてお届けします。 ... 東洋大学 文部科学省採択事業プロジェクト、始動。 ... 2025-2027 新学部設置、学科再編、新校舎 ...
エイビ進学ナビ
大学×sdgs 2024
URLをコピーしました。シェア. Postで開く. 大学×sdgs 2024. 動作確認環境. HTML5 Viewer. OS及びブラウザ. Windows 10. Microsoft Edge (Chromium) 最新版 / Google ...
北海道大学
北海道大学 x SDGs
地域から始まるウシ・ヒト・地球の良い循環・2. 飢餓をゼロに・7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに・9. 産業と技術革新の基盤をつくろう・12. つくる責任つかう ...
ASUENE
Google 大学SDGs
SDGsとは SDGsに関する大学の役割 大学が取り組むメリット
法政大学
法政大学 SDGs
法政大学SDGsサティフィケートとは、SDGsオンライン解説動画を視聴したうえで、全学部から提供されたSDGsに関する科目で構成されている「SDGs科目群」から所定の単位を取得 ...
東京理科大学
東京理科大学×SDGs
東京理科大学のSDGs取り組み・1 貧困をなくそう・2 飢餓をゼロに・3 すべての人に健康と福祉を・4 質の高い教育をみんなに・5 ジェンダー平等を実現しよう・6 安全な ...

ウェブ　画像　動画　知恵袋　地図　リアルタイム　ニュース　一覧　｜　設定　アカウント

約64,200,000件　1ページ目

大学 sdgs 取り組み　大学sdgsアワード　千葉大学 sdgs　sdgsできること大学生　で検索

https://japanuniversityrankings.jp › sdgs

大学にとってのSDGs - THE 日本大学ランキング

SDGsとは・1. 貧困をなくそう・2. 飢餓をゼロに・3. すべての人に健康と福祉を・4. 質の高い教育をみんなに・5. ジェンダー平等を実現しよう・6. 安全な水とトイレを ...

https://sdgs-compass.jp › コラム記事 › 一般向け

SDGsにつながる大学の取り組み20選

2023/12/28 - 「教育」における取り組み6選・1. 京都大学「京都大学SDGsリーダー育成プログラム（中高生対象）」・2. 関西大学「SDGsの視点を加えた海外体験プログラム（...

https://www.meiji-sdgs.jp

明治大学 × SDGs

明治大学のSDGs達成に向けた取組みを紹介するWEBサイトです。SDGsの目標ごとに教育・研究・社会貢献等の取組みや担当教員を検索することができます。

取り組み事例一覧　教員一覧　ニュース一覧

他の人はこちらも質問

SDGsに取り組んでいる大学は？

SDGs日本一の学校はどこですか？

SDGsで教育は必要ですか？

SDGs達成率1位はどこですか？

https://sdgs-univ.or.jp

一般社団法人SDGs大学

当々SDGs大学は企業経営にSDGsを組入れるSDGs企業研修を行っています。単なる知識を教える研修ではなく、SDGsを企業経営と結合し、受講企業を未来創造企業として持続可能 ...

Yahoo!フリマ

大学 SDGsをすべて見る（59件）



SDGsの基礎 みずから学ぶ世界... 1,780円 送料無料

申し訳ございません！最低価格で... 1,000円 送料無料

★【送料込み】宝島社「大人も知... 400円 送料無料

大学生のためのCNNニュースリス... 1,000円 送料無料

【USA輸入】エッジロゴノース 1,300円 送料無料

はじめてのお買い物に使える最大半額クーポンをプレゼント！

https://www.toyo.ac.jp › sdgs

SDGs特設サイト - 東洋大学

1887年に井上円了によって創設された東洋大学。136年の歴史の中で受け継がれてきた「哲学」の精神や、進化を続ける東洋大学の魅力をご紹介します。

SDGsへの取り組み　SDGs NewsLetter　学校法人東洋大学 SDGs 行動...

https://www.ebi-navi.com › sdgs

大学×sdgs 2024

URLをコピーしました。シェア. Postで開く. 大学×sdgs 2024. 動作確認環境. HTML5 Viewer. OSおよびブラウザ. Windows 10. Microsoft Edge (Chromium) 最新版 / Google ...

https://sdgs.hokudai.ac.jp

北海道大学 x SDGs

さとみてガーデン SDGs農実プロジェクト・2. 飢餓をゼロに・11. 住み続けられるまちづくりを・13. 気候変動に具体的な対策を・15. 陸の豊かさも守ろう・17.

SDGsへの取組　北大で学びたい方へ　インパクトランキング　学部等の紹介

https://asuene.com › HOME › ESG・SDGs

大学によるSDGsへの取り組みとそのメリット - アスエネ

SDGsの目標を達成するためには高等教育及び科学研究分野は不可欠で、幅広く大学の貢献が必要とされています。世界の千を超える大学がグローバルネットワークを積極的に利用 ...

SDGsとは　SDGsに関する大学の役割　大学が取り組むメリット

https://www.hosei.ac.jp › sdgs › hosei › hosei

法政大学 SDGs

YAHOO! JAPAN　大学 SDGs　検索　条件指定

https://www.tus.ac.jp › sdgs

東京理科大学×SDGs

東京理科大学のSDGs取り組み・1 貧困をなくそう・2 飢餓をゼロに・3 すべての人に健康と福祉を・4 質の高い教育をみんなに・5 ジェンダー平等を実現しよう・6 安全な ...

活動計画タイトル（キーワード）

温室効果ガス排出削減のための取り組み

① 活動計画の概要

東京都の「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」及び埼玉県の「地球温暖化対策推進条例」により温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいるが、2024 年度が第 3 計画期間（2020～2024 年度）の最終年度となる。2024 年度もこれまでの省エネ活動を維持し、温室効果ガス排出量の削減を行い、東京都及び埼玉県の条例を遵守することができた。
また、第 4 計画期間（2025～2029 年度）の削減義務率は、東京都が 50%、埼玉県が 46%に引き上げられる。この対策として、エコキャンパス推進委員会で承認された再生可能エネルギーの導入について検討を行った。

【具体的な取り組み】

1．再生可能エネルギー供給可能会社数社にヒアリングを行い、結果、2025～2027 年度の電力及びカーボンニュートラル都市ガスの需給契約を締結した。

2．空調機や照明器具等、設備機器の更新時に省エネ型機器を導入するとともに、主要設備機器の効率的な運用等により、温室効果ガス排出量を白山キャンパスにおいては基準排出量に対し 27 %以上の削減、川越キャンパスにおいては基準排出量に対し 22 %以上の削減を達成した。

② 数値的な目標の達成状況と得られた成果

1．再生可能エネルギー電力及びカーボンニュートラル都市ガスの供給会社との需給契約

【数値的な目標と達成度】

（電力）

・対象キャンパス　白山キャンパス、川越キャンパス及び総合スポーツセンター
・導入率　100%

（都市ガス）

・対象キャンパス　白山キャンパス及び総合スポーツセンター
・導入率　100%

【得られた成果】

2025 年度から再生可能エネルギーを導入することを本学 HP で公表し、SDG s への取り組みについて PR することができた。https://www.toyo.ac.jp/social/ecocampus/efforts/

2．温室効果ガス排出量の削減

【数値的な目標と達成度】

（条例による排出量上限）

・白山キャンパス：基準排出量×73%＝4,915t　＞　排出量＝4,837t　（排出量上限の約 99%）
・川越キャンパス：基準排出量×78%＝4,249t　＞　排出量＝3,207t　（排出量上限の約 76%）

両キャンパスにおいて、目標を達成することができた。なお、排出量は概数とし、今後、検証機関により確定される。

【得られた成果】
東京都及び埼玉県の条例を遵守し、またエネルギー使用料金が高騰する中、経費の削減ができた。

③ 2024 年度活動内容		添付資料（※）
4 ｜ 6 月	◇実施内容名 ・2024 年度エネルギー使用量の目標を設定し、エコキャンパス推進委員会（2024 年 6 月 4 日開催）で報告した。	
7 ｜ 9 月	・白山キャンパス 4 号館、川越キャンパス 1 号館及びアスリートビレッジにおいて、空調設備改修工事を実施した。 ・川越キャンパス実験棟及び学生ホール食堂棟において、照明設備の LED 化工事を実施した。 ・2025 年度以降の施設設備改修計画（5 ヵ年計画）の見直しを行った。	
10 ｜ 12 月	・施設設備改修計画（5 ヵ年計画）に基づき、2025 年度の予算要求を行った。 ・2025 年度電力及びガス供給会社の選定を行った。	
1 ｜ 3 月	・2024 年度の温室効果ガス排出量を集計し、各法令を遵守できたことを確認した。	

※活動実績となる成果物や資料（チラシ・ポスター・報告書 等）がございましたら、併せてご提出ください。
その際、表中の添付資料欄に番号等の記載をお願いします。

国際共生社会研究センター(重点研究)部門

活動計画タイトル（キーワード）

レジリエントな社会に向けた SDGs の包摂的実現に関する研究

① 活動計画の概要

国際共生社会研究センター（以下、センター）は、東洋大学重点研究推進プログラム「レジリエントな社会に向けた SDGs の包摂的実現に関する研究」(2022～24 年度）で多分野の専門家で構成されるチームが、国内外で研究活動をおこなっている。

本研究プロジェクトは、文理融合や産官学連携をとおして、包摂的な SDGs の実現や実践成果の地域・分野展開に関する研究を実施することを主たる目的としているが、加えて、研究成果の対外発信（アウトリーチ活動)、若手研究者の育成などもプロジェクトの目的としている。

② 数値的な目標の達成状況と得られた成果

目標①「SDGs に関する産官学・産学連携プロジェクトの実施」

・産学の共同研究を次に挙げる各企業と実施し、それぞれ以下の成果が得られた。

（1）日本カルミック株式会社

- センターで実施中の研究プロジェクト〈東洋大学における「MeW（Menstrual Wellbeing by/in Social Design）Project」の展開〉の推進のための共同研究。
- 今年度は、昨年度より継続している東洋大学白山キャンパス内のトイレへのサニタリーBOX と無償の生理用品の設置を実施するとともに、学内トイレの菌量検査、生理用品の使用量調査、利用者・清掃者の意識調査などをカルミックとの共同で実施し、月経衛生の改善に資する研究データを集めることができた。
- 共同研究の意義が認められ、今年度より研究プロジェクトの全学展開が開始された。

（2）ランドポート株式会社

- センターで実施中の研究プロジェクト〈小規模人道支援がもたらす循環型インパクトに関する研究〉にかかる共同研究。
- 同社と協力し、ソーラーランタンを複数の無電化地域に提供し、現地の生活環境の向上に貢献した。
- センターのネットワークをランドポート社に共有することで、同社が実施している小規模人道支援の支援対象地域にパキスタンとミャンマーを追加し、新たな物資支援のルートやモデルを開拓することに成功した。
- 同社の既存の支援モデルの有効性・持続性を学術的見地から向上させるため、センターのポスドク研究員が購買者向けのアンケートを設計・実施し、新たな支援モデル構築に繋がるデータを得ることができた。

（3）NPO 法人 地球市民の会

- センターで実施中の実践プロジェクト〈トンガ王国トンガタプ島におけるコミュニティの災害に対するレジリエンス強化〉にかかる共同研究。
- 今年度はトンガ大使館やトンガの防災局と連携し、駐日トンガ大使を招いての東洋大学での講演、トンガ首相との防災研究プロジェクト推進にかかる面談、センター研究員によるトンガ国内の高校での避難訓練の実施などを行い、産官学の 3 者で連携した防災計画の本格実施に向けた土台を整備した。

・企業との共同研究に加え、他大学との連携によるプロジェクトも実施した。

- センターの研究プロジェクト〈CopaGloba 親になる過程におけるコペアレンティングの認識の形成に焦

点を当てた縦断的国際比較研究〉の実施に際して、東京都立大学と連携して研究を推進した。この研究成果のアウトリーチを目的とした国際シンポジウムの共催費約 550 万円を JASSO から取得して、2024 年 9 月 20 日に東京国際交流館にて実際に国際シンポジウムを同大学と共催し、成果を国内外に広くアウトリーチした。

目標②「SDGs に関する国際共同研究の実施」

・コペアレンティングの国際比較研究

- 昨年に引き続き、ユヴァスキュラ大学、ユヴァスキュラ応用科学大学、国立保健福祉研究所、ポルト大学との共同で、各国のコペアレンティングの比較調査を実施。
- 調査結果の業績化（SCOPUS 論文 4 編）と、国際シンポジウムでのアウトリーチを行った。

・ミャンマー政変の人的資本育成への影響の研究

- センター研究員の岡本郁子教授と、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）教授の Marie Lall 氏が共同で、2021 のミャンマー政変がもたらした現地学生の教育への影響を調査した。
- 調査結果は、ミャンマー政変後の高等教育の現状を研究する各国の研究者が集う EuroSEAS 2024 のパネル会議にて報告した。
- また、同研究を包括的にまとめた岡本研究員と Marie Lall 氏の英文共著の出版が予定されている。

目標③「SDGs に関する研究成果の公表」

SDGs に関する日本語書籍として、『フィールドワークで世界を見る』（2024 年、朝倉書店）を出版した。この書籍は、センター研究員 12 名が分担執筆して、センター長の松丸が編集したもので、それぞれの研究員の専門分野のフィールドワークの手法を紹介するとともに、各フィールドのケーススタディを示すことで、初学者を含めた幅広い人々が複数の分野のフィールドワーク手法を用いた SDGs 研究に参入するためのガイドとなる書籍となっている。

加えて、SCOPUS 論文の掲載は今年度だけで 28 編となり、順調に研究の成果公表ができている。

上記のように、入門者や初級者への SDGs 活動の手法と意義の伝達を期待できる成果公表と、専門家向けの SCOPUS 論文という形での成果公表を、バランスよく行うことができている。

目標④「研究アウトリーチ活動の実施」

・当初計画通り、ニュースレターを和文 3 報、英文 2 報発行した。

・メールニュースについては、研究員の研究成果や出張報告などの内容を新たに発信することで、前年度の毎月 1 件から数を増やして、月平均 3 件以上を発信した。

・SDGs に関する公開セミナー「CeSDeS Open Seminar on SDGs」は、例年 3 回実施していたが、今年度はプロジェクト最終年度ということで、より精力的に成果のアウトリーチを行うため、今年度は 4 回実施した。

・また、センターの所属研究者が実施した研究調査などの内容を随時アウトリーチするため、活動報告書を各出張・調査ごとに HP で公開するなどの取り組みを行った。

目標⑤「若手研究者の育成」

・当初計画通り、博士後期課程の学生 RA を 2 名雇用。

・センターで雇用していたポスドク研究員が、他大学でテニュア研究者のポジションを取得。

③ 2024 年度活動内容		添付資料(※)
4 |	・第 1 回 CeSDeS Open Seminar on SDGs を実施（4 月） ・国内・海外での現地調査 5 件（5~6 月）	

6 月	・企業との共同研究契約の更新（6 月） ・岡本研究員と Marie Lall 客員研究員が国際学会（Academic Council on the United Nations System）で研究プロジェクトに関するパネル報告を実施（6 月）	
7 ｜ 9 月	・和文ニュースレター第 63 号を刊行（7 月） ・国内・海外での現地調査 6 件（7~9 月） ・センター研究員 12 名による共著『フィールドワークで世界を見る』（朝倉書店）を出版（9 月） ・英文ニュースレター第 42 号を刊行（9 月） ・CopaGloba プロジェクトに関する国際シンポジウムを東京都立大と共催（9 月）	
10 ｜ 12 月	・国内・海外での現地調査・学会発表 13 件（10~12 月） ・和文ニュースレター第 64 号を刊行（11 月） ・第 2 回 CeSDeS Open Seminar on SDGs を実施（11 月） ・第 3 回 CeSDeS Open Seminar on SDGs を実施（11 月） ・MeW プロジェクト 生理痛体験イベントを学内で実施（12 月） ・第 4 回 CeSDeS Open Seminar on SDGs を実施（12 月）	
1 ｜ 3 月	・国内・海外での現地調査 8 件（1~3 月） ・英文ニュースレター第 43 号を刊行（1 月） ・重点研究 3 年間の総括シンポジウムを開催（1 月） ・Department of Sociology and Behavioral Sciences at De La Salle University とのウェビナーを共催（2 月） ・和文ニュースレター第 65 号を刊行（2 月） ・2024 年度研究報告書を刊行（2 月）	

※活動実績となる成果物や資料（チラシ・ポスター・報告書 等）がございましたら、併せてご提出ください。その際、表中の添付資料欄に番号等の記載をお願いします。

活動計画タイトル（キーワード）

だれもが、学びやすく、働きやすく、自己成長を支える大学を実現するための活動

キーワード:職場環境調査、リケジョ育成を含む様々な学生支援

① 活動計画の概要

女子中高生の理系進路選択支援プログラム
東洋大学(理工学部・生命科学部・総合情報学部・食環境科学部)

(1)働きやすく高い意欲を維持できる職場環境整備に役立てる目的で、これまでに蓄積されている職員対象調査の解析を実施する。
(2)本学では理系の女子学生や女子教員がまだ少ない現状からジェンダーバランスを改善する目的で、理系学部を対象に理系女子学生や理系男子学生応援プログラムへの取組みを実施する。
(3)SDGs 推進センターでの活動を公表し、大学内外に浸透させることを目的として、D&I 推進プロジェクトによるシンポジウム・講演会等の企画を行う。

② 数値的な目標の達成状況と得られた成果

発足より本プロジェクトの中心的事業と位置付けていた「職場環境調査」と「リケジョ支援」について、メンバーの尽力により、職場環境調査は重点研究推進プロジェクト（「生活も仕事も充足して継続できる社会の実現に向けた、職業キャリアの実証研究」、代表　西野先生（社会学））へ発展した。また理系女子・男子学生（リケジョ・リケダン）支援については埼玉県 4 学部を実施主体とする学長施策として実施する運びとなった。

2024 年度の「リケジョ支援」企画として、霞祭り（朝霞キャンパス）で、理系女子や理系男子のキャリア支援活動の一環として、在学生および来校者（中高生やその保護者）に対して、理系 OG や OB が勤務している職場の紹介や在学中に身に付けた方が良いことなどの紹介し、その後就活の進め方や職場・業種などの相談会を実施した。理系 OG および OB は 19 名が来校してくれた。在校生および中高生と保護者の参加は約 40 名であった。

これら「職場環境調査」と「リケジョ支援」は今後、それぞれの実施主体へ移行するため、その検討や企画を担った本プロジェクトはひとまず役割りを終えた状況にある。ついては、本年度内の活動をもって、プロジェクトを完了とする。

③ 2024 年度活動内容		添付資料(※)
4 ｜ 6 月	・2024 年 6 月 29 日(土) シンポジウム「キャリアと生活の充実をめざして―育児休業・介護休業の観点から」開催	①告知物
7 ｜ 9	・2024 年 7 月 30 日（火）ランチタイムトーク@白山「育児休業・介護休業をめぐる『職場の雰囲気』を考える」開催 ・2024 年 9 月 11 日（水）ランチタイムトーク@赤羽台「育児休業・介護休業をめぐる『職	

月	場の雰囲気』を考える」開催 ・7 月 14 日　さいたま ALLY ネットワーク会議　第 1 回準備会 ・9 月 25 日　同　第 2 回準備会	
10 ｜ 12 月	・10 月 14 日　プロジェクトメンバーへ発展的解消についての説明を行い、承認 ・10 月 31 日　「埼玉県 ALLY ネットワーク」設立。創立メンバーとしての参画。 ・10 月　理系女子学生・理系男子学生（リケジョ・リケダン）支援イベントの準備 ・11 月 2 日　霞祭（朝霞キャンパス）でリケジョ・リケダンキャリア支援イベントを実施	
1 ｜ 3 月		

※活動実績となる成果物や資料（チラシ・ポスター・報告書 等）がございましたら、併せてご提出ください。
その際、表中の添付資料欄に番号等の記載をお願いします。